

1995年度

# 法学部シラバス

獨協大学

---

---

## 「法学部シラバス」について

法学部長 金子 正史

シラバスとは、各講義科目の担当教員が自らの研究・教育理念にもとづいて作成したものであり、それぞれをみれば若干の相違はあるが、基本的には講義科目の年間の講義計画を週単位で説明したものである。

シラバスの作成目的は、教員自らがその講義内容をあらかじめ学生に提示することにより講義内容をより充実せしめるという点にあるが、学生にとっては次のような意味をもつものである。すなわち、学期始めの講義の選択の際に学生がシラバスに示された各々の講義内容を比較検討し、講義の選択が的確になされうるようにすることである。

学期始めに学生に配布される「履修の手引」とともに、このシラバスを熟読玩味したうえで、慎重な判断にもとづいた講義の選択が望まれる。

---

---

---

# 目 次

新カリキュラム (1994年度以降入学者に適用)

## 基礎科目

I 群 法学入門	平井 一雄	1
	森 勇	1
政治学入門	柴田 平三郎	3
	星野 昭吉	5
国際関係論入門	萩原 宜之	7
	宮里 政玄	9
III 群 社会科学概論	堅田 剛	11
経済学	安藤 登	13
	岡田 博	15
社会学	有吉 広介	17
社会思想史	市川 達人	19
	谷口 郁夫	21
IV 群 歴史学概論 (日本史)	新井 孝重	23
(日本史)	齊藤 博	25
(東洋史)	熊谷 哲也	27
(東洋史)	西嶋 定生	29
(西洋史)	高橋 正男	31
(西洋史)	古川 堅治	33
文学概論 (日本)	北村 進	35
(外国)	北澤 滋久	37
(外国)	松山 恒見	39
(外国)	宮澤 康造	41
(外国)	山路 朝彦	43
国語表現法	新里 博樹	45
	飯島 一彦	47
	北村 進	49
	福沢 健	51
	宮澤 康造	53
文化人類学	井上 兼行	55
V 群 自然科学概論	福井 尚生	57

---

地球環境論	加藤 僖重	59
情報処理	各担当教員	61
統計学	冨田 幸弘	63
	本田 勝	65
	松井 敬	67
健康学	久松 一恵	69
VI群 体育Ⅰ・体育Ⅱ		
(アウトドアトレーニング・アウトドアレクリエーション山岳型(集中))	和田 智	71
(インラインスケート)	加藤 雅子	73
(インラインスケート)	和田 智	75
(インラインスケート・アウトドアレクリエーション海浜型(集中))	和田 智	77
(インラインスケート・スケート(集中))	和田 智	79
(硬式テニス)	小俣 充	81
(硬式テニス)	小俣 充	83
(硬式テニス)	田中 茂宏	85
(硬式テニス)	土井 浩信	87
(硬式テニス)	中沢 克江	89
(硬式テニス)	松原 裕	91
(硬式テニス)	和気 秀文	93
(硬式テニス・スキー(集中))	松原 裕	95
(ゴルフ)	野口 昭彦	97
(ゴルフ)	山中 邦夫	99
(ゴルフ)	吉田 卓司	101
(サッカー)	田代 力也	103
(サッカー)	田中 茂宏	105
(サッカー)	福井 真司	107
(サッカー)	松本 光弘	109
(サッカー)	松原 裕	111
(スキー検定トレーニング・スキー検定(集中))	松原 裕	113
(スキートレーニング・スキー(集中))	松原 裕	115
(ソーシャルダンス)	青柳 多恵子	117
(ソフトボール)	池 垣 功 一	119
(ソフトボール)	太 田 朝 博	121
(ソフトボール)	小 川 又 八 郎	123
(ソフトボール)	荻 野 元 祐	125
(ソフトボール)	田 代 力 也	127
(ソフトボール)	檜 山 康	129
(ソフトボール・スキー(集中))	田 代 力 也	131
(卓球)	天 野 和 彦	133



---

(卓球)	奥野忠枝	135
(卓球)	中川昭	137
(卓球)	本田稔祐	139
(軟式野球)	太田朝博	141
(軟式野球)	荻野元祐	143
(バスケットボール)	小川又八郎	145
(バスケットボール)	勝瀬武	147
(バスケットボール)	檜山康	149
(バドミントン)	梶野克之	151
(バドミントンⅡ)	梶野克之	153
(バレーボール)	小俣充	155
(バレーボール)	中沢克江	157
(フリースポーツ)	土井浩信	159
(フリースポーツ)	檜山康	161
(フリスビー・ウィンドサーフィン (集中))	和田智	163
(ラグビー)	天野和彦	165
(ラグビー)	中川昭	167

---

## 専門科目

外国法文献研究	市川 須美子 .....	169
憲法 I	古関 彰一 .....	171
	山内 敏弘 .....	173
憲法 II	右崎 正博 .....	175
	古関 彰一 .....	177
行政法 I	荒 秀 .....	179
民法 I	後藤 卷則 .....	181
	花本 広志 .....	183
民法 II	平井 一雄 .....	185
民法 III	辻 伸行 .....	187
商法 II	坂本 延夫 .....	189
刑法 I	鈴木 彰雄 .....	191
	奈良 俊夫 .....	193
刑法 II	奈良 俊夫 .....	195
	野村 稔 .....	197
国際法 I	松田 幹夫 .....	199
国際政治学	星野 昭吉 .....	201
日本外交史	森山 茂徳 .....	203
国際関係文献研究	白井 久和 .....	205
政治学原論	森山 茂徳 .....	207
政治学文献研究	深澤 民司 .....	209
経済原論	西村 允克 .....	211
総合講座	柴田 平三郎 .....	213

旧カリキュラム (1993年度以前入学者に適用)

専門科目

法 哲 学	堅 田 剛	215
西洋法制史	竹 本 健	217
法 社 会 学	森 謙 二	219
英米法 I	早 坂 禧 子	221
ドイツ法 I	中 山 幸 二	223
憲 法 I	古 関 彰 一	171
	山 内 敏 弘	173
憲 法 II	右 崎 正 博	175
	古 関 彰 一	177
比較憲法	加 藤 一 彦	225
行政法 I	荒 秀	179
行政法 II	金 子 正 史	227
税 法	北 野 弘 久	229
教 育 法	市 川 須美子	231
公法特講 I (後期完結)	加 藤 一 彦	233
民 法 I	後 藤 卷 則	181
	花 本 広 志	183
民 法 II	花 本 広 志	235
民 法 III	椿 久美子	237
民 法 IV	松 嶋 由紀子	239
商 法 II	坂 本 延 夫	189
商 法 III	明田川 昌 幸	241
商 法 I	青 木 英 夫	243
商 法 IV	青 木 英 夫	245
民事訴訟法 I	森 勇	247
民事訴訟法 II	中 山 幸 二	249
破 産 法	櫻 井 孝 一	251
国際私法	横 山 潤	253
借地・借家法 (後期完結)	平 井 一 雄	255
銀行取引法 (後期完結)	川 村 正 幸	257
民事法特講 1 (前期完結)	森 勇	259
2 (後期完結)	森 勇	261

3 (前期完結)	小柳春一郎	263
4 (後期完結)	小柳春一郎	265
刑法 I	鈴木彰雄	191
刑法 II	奈良俊夫	193
刑事訴訟法	奈良俊夫	195
刑事政策	野村稔	197
犯罪心理学 (後期完結)	牧田有信	267
法医学 (前期完結)	大芝靖郎	269
労働法	小田晋	271
工業所有権法	齋藤一之	273
社会保障法	土田道夫	275
経済法	古沢博	277
著作権法 (前期完結)	矢島里絵	279
国際法 I	古沢博	281
国際法 II	古沢博	283
国際政治学	寺澤一	285
比較政治	松田幹夫	287
国際取引法	星野昭吉	201
日本外交史	萩原宜之	289
西洋外交史	山本孝夫	291
国際経済論	森山茂徳	203
外国法政研究 1	滝田賢治	293
2	益山光央	295
3	市川須美子	169
国際関係特講 1 (前期完結)	臼井久和	205
2 (前期完結)	深澤民司	209
3 (後期完結)	今井圭子	297
4 (前期完結)	志摩園子	299
政治学原論	志摩園子	301
行政学	堀江浩一郎	303
政治思想史	森山茂徳	207
政治史	中村陽一	305
政治学特講 1 (前期完結)	柴田平三郎	307
2 (後期完結)	井上スズ	309
3 (前期完結)	宮里政玄	311
4 (前期完結)	宮里政玄	313
5 (後期完結)	小林正弥	315
	小林正弥	317
	堀江浩一郎	319

---

6 (前期完結)	柴 田 平三郎	213
7 (後期完結)	柴 田 平三郎	213
經濟原論	西 村 允 克	211
會 計 学	宮 澤 清	321
簿 記	中 村 泰 将	323
	細 田 哲	325
	福 島 寿	327
	百 瀬 房 德	329
	湯 田 雅 夫	331

---

科目名	法学入門	担当者名	平井 一雄 森 勇
-----	------	------	--------------

講義の目標	<p>法学部の学生として、専門科目の勉強をするに際して必要な基礎的知識を修得させること。専任教員が、かなり多くの法分野について、それらがどのようなものであるのかの概説を行うので、コースの選択あるいは専門ゼミの選択にも役立ちうるであろうこと。</p>	
講義概要	<p>詳しくはレジュメ集を見られたい。法令の常識、判例の常識、文献検索法などに立ち入ることは、従来の「法学」の講義では不十分ではなかったかと思われ、これらの点も特色とあってよいであろう。</p>	
使用教材	テキスト	各授業内容の概要を示したレジュメ集を配布する。
	参考文献	各教員ごとに、指示がある。
評価方法	<p>年二回の学期末定試による。担当教員が各自出題し、そのなかから選択し解答させる。採点は出題者が行う。</p>	
受講者に対する要望など	<p>独立した内容の講義が続くので、欠席すると全体像が把握し難くなる。止むを得ない事情の他は欠席しないこと。</p>	

# 年 間 講 義 予 定

## 前 期

週	主 要 テ ー マ
1	学部長挨拶 開講にあたって
2	法令の常識
3	判例の常識
4	判例の常識
5	民法の世界①
6	民法の世界②
7	労働法の世界①
8	労働法の世界②
9	文献検索法
10	商法の世界①
11	商法の世界②
12	基礎法の世界
備考	

## 後 期

週	主 要 テ ー マ
1	知的所有権法の世界
2	民事手続法の世界
3	国際法の世界
4	国際法の世界
5	行政法の世界
6	行政法の世界
7	刑法の世界 犯罪と刑事裁判
8	刑事手続法の世界
9	憲法の世界
10	憲法の世界
11	法哲学の世界
12	
備考	

科目名	政治学入門	担当者名	柴田平三郎
-----	-------	------	-------

講義の目標	<p>現代の政治は国の内側においても外側においても複雑をきわめている。簡単に理解しうるなどと夢々思わないほうがよいと思う。マックス・ウェバーは政治を理解するには年をとらねばならないと言ったが、けだし至言である。この政治学入門は、文字通り政治を学ぶ入口の役目が課されていると思うが、その政治は結局人間によって営まれているので、政治と人間のかかわり合いの姿を注目していくことに力点が置かれると思っている。</p>		
講義概要	<p>単なる時事問題の解説とか制度の仕組みの解説とかではなく、政治の原理を学ぶ場所にしたいたいと考えている。</p>		
使用教材	テキスト	<p>この原稿を書いている時点では未定。</p>	
	参考文献	<p>政治学の基礎文献は無数にある。講義のなかでできるだけ多く紹介するつもりである。この講義が終ったあとにおいてもじっくり読み続けてほしいと思っている。</p>	
評価方法	<p>前期・後期の2回のテキストを基本に評価を決定する。その間、レポートを課す場合もありうる。</p>		
受講者に対する要望など	<p>言わずもがなのことであるが、学びたい意欲のある者だけが講義への真の参加者である。そのことをよく弁まえてほしい。</p>		



## 年 間 講 義 予 定

### 前 期

週	主 要 テ ー マ
1	〔以下は、あくまでも当初の予定である。型通りに進まない可能性のあることを断っておく。〕 政治学入門を始めるにあたって。
2	政治とは何か。政治の定義の多様性。その語源的意味と歴史の変容。
3	政治の構造的理解——力・倫理・技——について論じる。
4	同つづき。
5	政治と人間のかかわり合いについて論じる。
6	同つづき。
7	政治学の学問的性格——哲学と科学。
8	同つづき。
9	政治を動かすもの——力と思想の二契機。
10	(1)力〔権力〕の理解。
11	同つづき。
12	前期のまとめ。
備考	

### 後 期

週	主 要 テ ー マ
1	(2)〔思想〕の理解。
2	同つづき。
3	近代国家とは何か——歴史・思想・制度。
4	同つづき。
5	近代を動かした三つの政治的イデオロギ——保守主義・自由主義・社会主義。
6	同つづき。
7	同つづき。
8	民主主義とは何か——歴史・思想・制度。
9	同つづき。
10	現代日本の政治。
11	同つづき。
12	後期のまとめ。
備考	

科目名	政治学入門	担当者名	星野昭吉
-----	-------	------	------

講義の目標	<p>今日、われわれは、その日常生活が政治によって大きく左右される「政治化の時代」に生存している。巨大で、複雑で、流動的で、不透明な政治の世界の全体像を再構成して、政治とは何か、われわれにとって政治の意義とは何か、政治はどのようにわれわれの日常生活に入り込を、影響を及ぼしているのか、どのような政治問題が存在しているのか、その問題を解決するのにわれわれはどう対応すべきか、などを解明したい。また、そのため必要な政治学の理論や基本的概念を検討し、政治に対する見方、考え方、政治のあり方を模索する。</p>		
講義概要	<p>政治の実像を統治・権力と参加・運動という二本の軸の弁証法的展開運動として捉え、その中でわれわれの日常生活・社会とのかかわりを見ていく。そのために、政治概念の歴史性を検討し、その上で、政治と統合、政治権力概念の本質・意味・構造・手段・変動を究明し、国家の存在とその意義、政治指導のあり方を問う。また、政治を動かしていく体制や政治の仕組みを解明し、政治がどのように具体的に変動していくのか、政治が政党、利益集団、大衆、世論によってどのように形成・展開されていくのかの政治過程の分析を通して、大衆が政治にどのように参加し、かかわりをもっているかを考察する。最後に、日本の政治文化を問いながら、現代日本の政治の実態と問題点を把握し、その対応を考える。</p>		
使用教材	テキスト	特に使用しない。	
	参考文献	講義開始後に参考文献リストを配布する。	
評価方法	前期にはレポートを提出してもらい、後期にはテストを受けてもらい、総合して評価する。		
受講者に対する要望など	テキストを使用しないので、必ずノートを作ってほしい。		

## 年 間 講 義 予 定

### 前 期

週	主 要 テ ー マ
1	現代政治の本質と問題、政治学の課題。
2	政治と人間。
3	政治概念と思想の歴史性－1：近代。
4	政治概念と思想の歴史性－2：現代。
5	政治と統合。
6	政治権力概念－1：権力の本質とその意味。
7	政治権力概念－2：権力の二重構造。
8	政治権力概念－3：権力的手段。
9	政治権力概念－4：権力の変動。
10	政治と国家。
11	政治と社会。
12	政治指導とエリート論。
備考	

### 後 期

週	主 要 テ ー マ
1	政治体制－1：民主主義。
2	政治体制－2：社会主義。
3	政治と大衆参加。
4	政治制度－1：議会主義。
5	政治制度－2：官僚制。
6	政治変動。
7	政治過程－1：政党と選挙。
8	政治過程－2：利益集団。
9	政治過程－3：大衆と世論。
10	国内政治と国際政治の連動性。
11	日本の政治文化。
12	現代日本の政治の現状と課題。
備考	

科目名	国際関係論入門	担当者名	萩原宜之
-----	---------	------	------

講義の目標	第1次世界大戦、ロシア革命、第2次世界大戦、米ソ冷戦、東西対立、南北問題、そして米ソ冷戦の終結に至る激動の20世紀の国際関係をふり返り、そのなかで日本の歩みを考える。とくに、日本は台湾、朝鮮の植民地化から中国、東南アジアへの侵略を行ない、敗戦後は、アメリカのアジア戦略に従属しながら経済大国をめざしてきた近現代史について考える。
講義概要	19世紀後半からの帝国主義、植民地支配、これら帝国の間の第1次世界大戦、この戦争のなかから生れたロシア革命、両大戦間の民主主義国家と全体主義国家の対立、全世界をまきこんだ第2次世界大戦、戦後の米ソ冷戦、冷戦下の紛争、対立、協調、南北問題の展開、米ソ冷戦の終結とソ連・東欧の社会主義体制の変容、ヨーロッパとアジア・太平洋における地域協力の発展など一世紀にわたる変動について考える。とくに、朝鮮戦争、ベトナム戦争、カンボジア戦争と戦乱の続いたアジアの戦後史についても考える。
使用教材	<p>テキスト</p> <p>百瀬宏『国際関係学』東京大学出版会 1993年</p> <p>参考文献</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・衛藤藩吉ほか『国際関係論』上・下 東京大学出版会 1991年</li> <li>・岡部達味『国際政治の分析枠組』東京大学出版会 1992年</li> <li>・初瀬龍平『国際政治学 理論の射程』同文館 1993年</li> <li>・川田 侃『国際政治経済学をめざして』お茶の水書房 1988年</li> <li>・嶋 武彦『世界政治をどう見るか』岩波新書 1993年</li> </ul> <p>(各講義ごとの参考文献はその都度紹介する)</p>
評価方法	前期、後期の筆記試験で評価する。
受講者に対する要望など	

## 年 間 講 義 予 定

### 前 期

週	主 要 テ ー マ
1	テキストや参考文献を使って国際関係の理論について考える。
2	テキストや参考文献を使って国際関係の理論について考える。
3	テキストや参考文献を使って国際関係の理論について考える。
4	民族国家の成立とバランス・オブ・パワーについて考える。
5	帝国主義と植民地支配について考える。
6	ロシア革命と民族独立運動について考える。
7	第1次世界大戦と两大戦間の国際政治について考える。
8	第2次世界大戦について考える。
9	アジア・アフリカの独立について考える。
10	米ソ冷戦と東西対立について考える。
11	南北問題について考える。
12	戦争と平和について考える。
備考	

### 後 期

週	主 要 テ ー マ
1	宇宙と環境の問題について考える。
2	人口、食料、貧困の問題について考える。
3	ODA, NGO, 多国籍企業について考える。
4	民族、国家、地域について考える。
5	核、軍拡、軍縮について考える。
6	湾岸戦争とは何であったのか？
7	アジアの安全保障と地域協力について考える。
8	アジアの多様性と共通性について考える。
9	東アジアの国際関係について考える。
10	東南アジアの国際関係について考える。
11	南アジアの国際関係について考える。
12	世界、そして、アジアの中の日本について考える。
備考	

科目名	国際関係論入門	担当者名	宮里政玄
-----	---------	------	------

講義の目標	国際関係について基礎的な理論、知識、判断力を与えること。		
講義概要	前期では第二次世界大戦後の国際関係史を講義する。とくに冷戦の歴史、冷戦終結後の国際情勢などを扱う。また、発生する国際的な事件についてもその都度、新聞などを用いて取り上げる。後期では、国際関係の理論を紹介する。そして学生の判断能力を高めるための政策決定理論も取り上げたい。また、冷戦終結後のさまざまな問題も討議する。		
使用教材	テキスト	百瀬宏『国際関係学』東京大学出版会、1994年。中嶋嶺雄『国際関係論』中公新書。	
	参考文献	国際関係史や理論について適宜指定する。	
評価方法	期末筆記試験を行う。原則として追試は行わない。		
受講者に対する要望など			

## 年 間 講 義 予 定

### 前 期

週	主 要 テ ー マ
1	講義の全体の内容、テキスト、参考文献などについての紹介。
2	第二次大戦中の米ソ関係
3	トルーマン、スターリンと冷戦の始まり。
4	中国革命、朝鮮戦争など。
5	1950年代前半の国際関係—ベトナム戦争、ジュネーブ会議など。
6	1950年代後半の国際関係
7	キューバ・ミサイル危機
8	米ソの緊張緩和（デタント）
9	ベトナム戦争
10	冷戦の終結
11	冷戦後の世界
12	まとめ
備考	

### 後 期

週	主 要 テ ー マ
1	国際関係とは何か。
2	国際関係の理論の歴史—第一次世界大戦後の「思想主義」
3	1930年代—冷戦期のリアリズム（現実主義）
4	リベラリズムからの批判
5	リアリズムとリベラル制度論の論争
6	国際関係理論の現状
7	対外政策決定理論の紹介
8	同上
9	現代の国際問題
10	同上
11	同上
12	総まとめ
備考	

科目名	社会科学概論	担当者名	堅田 剛
-----	--------	------	------

講義の目標	<p>社会科学の古典を読むことをとおして、法学・政治学・経済学等に分化する以前の総合的な社会理論のありかたを探る。「古典」とは有名なわりに誰も読まない本のことだとされるが、講義およびレポート作成をつうじて、学生諸君には「強制的に」読んでいただく。</p> <p>まずは名のみ知られている本を自力で読んでみることに、つぎにその結果を文章に表現すること、これさえできれば何もいうことはない。年間10冊程度の文庫本を「読破」するだけの、ごく控えめな目標である。社会科学的素養のない「法学」などありえないことを確認しておきたい。</p>		
講義概要	<p>したがって、教室での講義は、学生諸君の主体的な読書のためのささやかなお手伝いと考えている。講義という形式上、教員としては何事かを語らざるをえないが、それはあくまでも私個人の読み方であって、学生諸君の読み方を拘束するものではない。</p> <p>テキストとしては、近代以降の著作であって文庫本で手に入れやすいものを選択する。翻訳ものがほとんどだが、日本の社会科学の現状からしてやむをえない。おおむね岩波文庫の白帯を基準とするが、例外もある。具体的には年間講義予定欄を参照のこと。</p> <p>テキストの素読というわけにもいかないだろうから、毎時間レジュメを配布し、実際の講義はこれに即しておこなう。</p>		
使用教材	テキスト	年間講義予定欄を参照されたい。	
	参考文献	『岩波講座 社会科学の方法』全12巻、岩波書店、1993-94年。その他の文献については、テーマごとに紹介する。	
評価方法	<p>前期はレポートの提出を求める。あらかじめ細かい条件をつけるので、これに反するものは「レポート」とは認めない。後期は筆記試験をおこなう。年間の成績評価には、レポートと試験の点数に出席状況を加味する。平凡な見解よりは独自の見解のほうを評価する。</p>		
受講者に対する要望など	<p>実際に文献を買って読まなければ授業が成立しないので、本を買うのも読むのも嫌だという学生は受講を遠慮してほしい。読めない漢字については国語辞典を引く習慣を身につけること。</p>		



年 間 講 義 予 定

前 期

週	主 要 テ ー マ
1	社会科学の方法 (ガイダンス、社会科学の成立、社会科学の構造、etc.)
2	ロック『市民政府論』鶴銅信成訳、岩波文庫 (自然状態、所有権、市民社会、国家)
3	同上 (立法権、執行権・連合権、政府の解体)
4	ルソー『社会契約論』桑原武夫・前川貞次郎訳、岩波文庫 (奴隷状態、社会契約、社会状態、主権、一般意志、立法)
5	同上 (統治形態、代議士、政府、選挙、独裁、市民宗教)
6	ヘーゲル『法の哲学』藤野渉・赤沢正敏訳、中公バックス・世界の名著 (序文、抽象的な権利ないし法、道徳)
7	同上 (家族、市民社会、国家)
8	マルクス、エンゲルス『共産党宣言』大内兵衛・向坂逸郎訳、岩波文庫 (ブルジョアとプロレタリア、プロレタリアと共産主義者)
9	同上 (社会主義と共産主義、共産主義者の立場)
10	ミル『自由論』塩尻公明・木村健康訳、岩波文庫 (思想の自由、言論の自由)
11	同上 (幸福と個性、社会の権威)
12	まとめ
備考	

後 期

週	主 要 テ ー マ
1	イェーリング『権利のための闘争』村上淳一訳、岩波文庫 (ローマ法とゲルマン法、中世の裁判、倫理的人格)
2	同上 (国家共同体、団体的秩序、概念法学批判)
3	ヴェーバー『社会科学の方法』祇園寺信彦・祇園寺則夫訳、講談社学術文庫 (科学と実践、社会科学と価値)
4	同上 (経験的知識と価値判断、社会科学的認識の「客観性」)
5	ヴィノグラドフ『法における常識』末延三次・伊藤正己訳、岩波文庫 (社会規範、法規範、権利と義務、事実と行為)
6	同上 (立法、慣習、判決例、衡平、自然法)
7	中江兆民『三酔人経綸問答』桑原武夫・島田虔次訳、岩波文庫 (南海先生は現実世界の地理をご存知ない、民主主義者と侵略主義者の南海先生訪問、国防はヤボの骨頂、アジアの小島から、……)
8	同上 (法律の大議論、豪傑君はすこし時代おくれた、何らかの実際的な経済政策がそのうちきっとここから生まれるにちがいない、……)
9	穂積陳重『統法窓夜話』岩波文庫 (憲法という語、最も条数の多い法典、主観的死刑廃止論者、板倉裁判、三百代言、加藤弘之博士の人権新説、法学通論、諺に関する疑、……)
10	同上 (「君意即法」の法諺、比喩諧謔式諺句法、ドイツ法諺集、剣と紡錘、詩の法律、絵の法律、イグノランシア・ユリス、法律語の国語化、……)
11	予備
12	まとめ
備考	

科目名	経済学	担当者名	安藤 登
-----	-----	------	------

講義の目標	<p>いろいろのメディアを通じて時々刻々、内外経済のトピックが報道され、議論されている。しかも、円レート、株価のほか、石油、金融など国際商品価格や利率も、定時のニュースとして茶の間に届けられている。経済の動きは、政治や社会の物質的基礎を形成し、その活動は不断に続いており、われわれの生活に大きく影響している。</p> <p>「経済学入門」にあたる本講義では、経済現象の観察と情報収集に努めるとともに、分析と理解のために先人たちの理論を学ぶことから始める。究極的には各人の経済理解力と分析力を養うことを目標とする。</p>		
講義概要	<p>経済および経済問題の基礎に横たわる「稀少性」の概念から始める。時代背景と経済学・経済体制・政策の必要性と政策目標、さらに市場経済と需要・供給の法則を学ぶことにする。</p> <p>つぎに国民経済全体、すなわちマクロの経済については、相対的に多くの時間を割り当て、GDPを中心とする国民所得勘定と国民経済計算の概要、つまり、国民経済を種々の角度から把握する枠組に関する知識も身につけてもらう。そして経済活動水準の決定や財政金融政策について論ずる。石油危機を境として経済の成長や各種の動向が大きく変ってきた状況と経済学の基本的考え方の変化、論争についても講義するつもりである。</p>		
使用教材	テキスト	幸村千佳良『経済学事始』第3版 多賀出版	
	参考文献	必要に応じて板書する。	
評価方法	前・後期の定試による成績ならびに学習態度（出欠席を含む）によって評価する。		
受講者に対する要望など			

## 年 間 講 義 予 定

### 前 期

週	主 要 テ ー マ
1	経済と経済学の課題—レファレンスを兼ねて
2	生産可能性曲線
3	需要の法則
4	同上
5	供給の法則
6	市場機構
7	国民経済計算
8	同上
9	消費関数
10	国民所得決定理論
11	同上
12	財政々策と乗数
備考	

### 後 期

週	主 要 テ ー マ
1	金融政策
2	同上
3	景気循環
4	投資理論
5	景気安定化政策
6	ケインジアン対マネタリスト論争
7	総供給曲線と総需要曲線
8	同上
9	バブルとその崩壊
10	同上
11	国際貿易
12	国際通貨体制
備考	

科目名	経済学	担当者名	岡田 博
-----	-----	------	------

講義の目標	<p>経済学の入門書をテキストに使用して、経済学の基礎理論を講義する。講義では経済学の基礎知識の修得とともに、現実の経済にも関心を深めその動きを洞察する力が少しでも涵養されるように意を用いたい。</p>		
講義概要	<p>経済学の基礎理論をできるだけ理解し易いように講ずる。講義の主内容は、経済学の方法、経済体制、経済循環、国民所得、貨幣と金融、財政と財政政策、消費の理論、生産の理論、市場理論、等々。</p>		
使用教材	テキスト	<p>未定、最初の講義のときに指示する。</p>	
	参考文献	<p>川口他：『経済学入門』有斐閣、他。</p>	
評価方法	<p>学年末の定期試験の成績で評価する。場合によっては前期末の定期試験も行う。また出席も時々とり、これも評価の参考に加える。</p>		
受講者に対する要望など	<p>授業に欠席しないこと。</p>		

## 年 間 講 義 予 定

### 前 期

週	主 要 テ ー マ
1	経済学とはどんな学問か：経済問題の根源、経済学の定義、ミクロ経済学、マクロ経済学
2	経済体制についてⅠ：経済体制とは、経済体制の共通課題
3	経済体制についてⅡ：体制分類の視点、資産の所有制度、経営管理のあり方、経済活動の調整機構、経済的成果の比較
4	資本主義市場経済の特徴：経済主体とその行動、市場の役割
5	混合資本主義体制における政府の役割：所有権と契約の保護、経済政策
6	経済循環：生産から消費への財・サービスの流れの概観
7	国民所得の概念：GNP, NNP 等々、わが国の国民所得
8	国民所得の決定：有効需要の原理、消費関数と乗数理論
9	国民所得の変動：景気循環、インフレーション
10	貨幣と金融Ⅰ：貨幣の形態・機能、資金と金融市場
11	貨幣と金融Ⅱ：貨幣創出の機構、信用創造
12	貨幣と金融Ⅲ：金融政策
備考	

### 後 期

週	主 要 テ ー マ
1	財政Ⅰ：政府の経済的機能の拡大、予算制度、わが国の予算
2	財政Ⅱ：租税、わが国の税制
3	財政政策Ⅰ：財政政策の目標
4	財政政策Ⅱ：資源配分と財政政策、所得再分配と財政政策、経済安定と財政政策
5	消費の理論Ⅰ：消費者と効用、消費者の合理的選択
6	消費者の理論Ⅱ：序数的効用理論と消費者均衡
7	生産の理論Ⅰ：供給と費用
8	生産の理論Ⅱ：利潤極大の条件、生産関数
9	市場価格の決定Ⅰ：需要と供給
10	市場価格の決定Ⅱ：市場構造
11	国際経済：国際収支、為替相場、貿易と開発
12	おわりに
備考	

科目名	社会学	担当者名	有吉広介
-----	-----	------	------

講義の目標	<p>現代社会の諸問題は、近代に起こり、現在も進行している産業化、これに引き続いて起こりつゝある脱産業化、そしてこれらが引き起こした社会構造の変化とおおに関係がある。本講義では、この視点から、現代のわれわれの日常生活にみられる諸変化と、そこにあるさまざまな社会問題とを考えてみたい。</p>		
講義概要	<p>豊かで、ゆとりある生活の実現とか、余暇の確保とかがテーマになる時代に、現実には、企業では能率主義的管理体制のもとにサービス残業が求められたり、過労死までもがみられる。その背景には、日本社会の特殊性もあるが、市場原理に結びついた産業化の論理が社会や文化に浸透し、それらを変化させてきた事情がある。核家族化、組織の官僚制化、都市化、流動社会化、学歴主義化、高齢化と少子化、福祉化などもそうした流れのなかに起こる。産業化が職業生活を含めてわれわれの日常生活のなかで社会問題をどのように生みだしているのかを講義の論旨にして、前記の諸現象の源をも説明していく。講義の進行は、講義メモを配布して理解を深めることによる。</p>		
使用教材	テキスト		
	参考文献	随時紹介。	
評価方法	<p>評価は、前・後期の定期試験期間中に各一回おこなう試験の成績による。</p>		
受講者に対する要望など	<p>講義に出席し、そこで要点を把握すること</p>		

## 年 間 講 義 予 定

### 前 期

週	主 要 テ ー マ
1	社会学の先駆者サン・シモンやオーギュスト・コントなどにおける社会学のテーマ
2	古典的社会学者F・テンニース、G・ジンメル、E・デュルケム、M・ウエーバーなどにおける近代社会の理解
3	古典的社会学者F・テンニース、G・ジンメル、E・デュルケム、M・ウエーバーなどにおける近代社会の理解
4	古典的社会学者F・テンニース、G・ジンメル、E・デュルケム、M・ウエーバーなどにおける近代社会の理解
5	社会学における産業社会および脱産業社会のとらえ方
6	社会学における産業社会および脱産業社会のとらえ方
7	現代の職業構造の分析
8	雇用社会と職業的キャリア
9	産業社会における知識の性格と教育
10	日本の近代化、教育システム、および学歴社会
11	社会的不平等の諸次元
12	不平等の構造化
備考	

### 後 期

週	主 要 テ ー マ
1	社会移動の現実
2	日本の階層社会と社会移動
3	管理社会の中核としての近代官僚制
4	近代的経営の社会構造
5	日本的組織構造
6	都市化と地域社会
7	家族の定義・類型、そして核家族化・少子化
8	家族のライフサイクルの変化
9	高齢化社会の人口学的および社会学的分析
10	高齢化社会における社会問題
11	生活の質を考える。
12	まとめ
備考	

科目名	社会思想史	担当者名	市川 達人
-----	-------	------	-------

講義の目標	私たちの政治や経済に対する見方・考え方を支配している近代的社会観の生成を、その誕生の地にまでさかのぼって理解することを目的とする。		
講義概要	ルネッサンスを起点として19Cあたりまでの社会思想の歴史を概観する。近代市民社会の成立・成熟を支えた政治思想、経済思想、哲学などの流れをたどることとなるが、それぞれの時代と社会を代表する人物の思想を振り下げての講義となる。現在、リベラリズムが一つのスポットをあびているが、その形成と限界というのが隠れたテーマとなる。		
使用教材	テキスト	渋谷一郎編『社会思想の歴史』八千代出版社	
	参考文献	講義で適宜指示	
評価方法	後期の一括試験で評価を与える。場合によっては前期末にレポートの提出を要求する。		
受講者に対する要望など	私語厳禁		



## 年 間 講 義 予 定

### 前 期

週	主 要 テ ー マ
1	年間予定。講義の目的と課題、講師の問題意識。
2	思想史の方法。社会とは？社会思想の諸類型。
3	近代市民社会について（西欧的社会観の原型と展開）
4	ルネッサンスと都市。
5	マキャヴェリズムとマキャヴェリ評価の歴史。
6	マキャヴェリと『君主論』。
7	ユートピア思想とは？
8	トマス・モアの『ユートピア』。
9	中世の教会改革運動。千年王国説。後期スコラ学派。
10	ルターの改革運動。神学と政治思想。
11	ルターの職業倫理。カルヴィニズムの二重予定説。
12	カルヴィニズムと近代合理主義。
備考	

### 後 期

週	主 要 テ ー マ
1	ヨーロッパにおける自然思想の歴史（古代ギリシャから中世、そして近代へ）
2	ホッブズの人間観と自然権思想。
3	ホッブズの国家論。
4	ロックの市民政府論。
5	ロックの所有権理論とリベラリズムへの道。
6	フランス啓蒙思想（ヴォルテール、ディドロ、モンテスキュー）
7	ルソーの啓蒙批判と社会批判(1)
8	ルソーの啓蒙批判と社会批判(2)
9	マダム・スミスと経済的自由主義、市民社会の交通理論。
10	社会主義思想の諸潮流。
11	マルクスの社会主義と現代への影響。
12	まとめ。
備考	

科目名	社会思想史	担当者名	谷口郁夫
-----	-------	------	------

講義の目標	<p>論争的な取り上げ方を試みる。すなわち、単に歴史をなぞるのではなく、今日的な問題として取り上げることを通じて、歴史観の構築を目指す。</p>	
講義概要	<p>前後期でそれぞれ異なったテーマを取り上げる。前期は西欧における宗教寛容の歴史を、ルネッサンス・宗教改革以後のイギリス、フランス、ドイツを中心に考察することを通じて、人間の自由について考える。後期は日本における西洋近代思想の受容の過程を取り上げる。急速な近代化政策のもとで、近代科学のみならず、西欧の近代思想も性急に明治の知識階級の人々は取り込もうとして来た。それが行われてきた過程、弊害を見ることを通じて、日本人としての自己同一性の問題をも考える。</p>	
使用教材	テキスト	特に用いない
	参考文献	講義の中で指示する
評価方法	<p>前後期にそれぞれ試験を行う。試験内容については、講義の中で指示する。</p>	
受講者に対する要望など	<p>批判的な態度で臨むこと。</p>	

## 年 間 講 義 予 定

### 前 期

週	主 要 テ ー マ
1	中世カトリック教会と民衆の生活
2	ルネッサンス
3	ドイツにおける宗教改革とその歴史的背景
4	イギリスにおける宗教改革とその歴史的背景
5	トマス・モアとエラスムス
6	名誉革命とジョン・ロックの宗教寛容論
7	モーテューニュとパスカル
8	ピエール・ベールとルソー
9	レッシングとカント
10	ダーウィンとニーチェ
11	マルクス主義
12	宗教と民族闘争 (パレスティナ、旧ユーゴ、トルコなどの状況)
備考	

### 後 期

週	主 要 テ ー マ
1	明治維新以前における日本と西洋とのかかわり
2	六合雑誌
3	近代科学の受容 特に、東洋学芸雑誌について
4	加藤弘之の人為淘汰論をめぐって キリスト教と国体論との関係について
5	キリスト教と進化論論争 (1)
6	キリスト教と進化論論争 (2)
7	ニーチェとトルストイ
8	イブセンと女性の権利
9	ベルグソン・コント・ジェイムズ
10	マルクス主義
11	予備
12	予備
備考	

科目名	歴史学概論（日本史）	担当者名	新井孝重
-----	------------	------	------

講義の目標	13世紀の中頃から畿内を中心にあらわれる盗賊武士団＝悪党を、鎌倉時代の体制がもつ矛盾と関連づけて観察し、彼らの活動が客観的にはたした歴史的意味をさぐる。		
講義概要	鎌倉体制の崩壊とそれにつづく建武政権・南北朝の内乱の過程を民衆の視点から詳論する。北条得宗専制の体制は、地方農村にいかなる重圧を加えていたのか、その体制に反抗する悪党と呼ばれる集団は、いかなる人びとであったのか、建武政権はどのような政策をとったのか、そしてこの政権の政策に対する武士の対応はどのようなものであったか、さらに南北朝内乱期の民衆の武力がいかなる特質をもっていたのか、などのことがらをみる。		
使用教材	テキスト	・新井孝重『中世悪党の研究』吉川弘文館	
	参考文献	・網野善彦『蒙古襲来』（小学館、日本の歴史） ・佐藤進一『南北朝の動乱』（中央公論、日本の歴史）（中公文庫にあり）	
評価方法	評価は、後期の試験成績をもってする。		
受講者に対する要望など	紳士的な態度でリラックスして聴いていただければよい。		

年 間 講 義 予 定

前 期

週	主 要 テ ー マ
1	寺社に現われる悪党。これまで荘園を支配し、悪党に対峙する存在として考えられてきた寺院や神社内部から、実は悪党が発生している事実注目する。
2	なぜ寺社の内部が悪党武士を培養したか。(1)寺院内部の構造としくみを観る。とくに僧房という私的空間に僧の武装慣行のはじまった事実を注目。
3	なぜ寺社の内部が悪党武士を培養したか。(2)寺院の全体意志の形成原理、実現の様式を注目し、それとの対抗的存在と行動を「悪僧」にみる。
4	なぜ寺社の内部が悪党武士を培養したか。(3)寺院「悪僧」と農村武士悪党とのつながりを観察する。
5	荘園制下の在地構造はいかなるものか。(1)中世成立期荘園制の概容をながめる。
6	荘園制下の在地構造はいかなるものか。(2)鎌倉時代荘園制の概容をながめる。とくに名主と名田に対する権力の統制装置を「没官」を通じて考える。
7	荘園制下の在地構造はいかなるものか。(2)鎌倉時代荘園制の概容をながめる。とくに下司・公文など荘官層のかかえもつ矛盾を剔出する。
8	荘園制下の在地構造はいかなるものか。(2)鎌倉時代荘園制の概容をながめる。とくに〈荘園〉を構成する寺院権力の在地とのかかわり方をみる。
9	幕府権力の動態(1)鎌倉幕府の成立と将軍専制のありようを概観する。また、地方の行政権力としての守護、地頭を発生経路と役割の面からみる。
10	幕府権力の動態(2)鎌倉幕府の内部における執権と評定制にみられる権力の安定性と、武家政治の充実をみる。
11	幕府権力の動態(3)鎌倉幕府の得宗家の専制化と権力の不安定化を、モンゴル襲来、御家人窮乏、霜月騒動を通じてながめる。
12	悪党の跳梁は、鎌倉時代政治史に何をもたらしたか。前期授業の総括を兼ねて北条得宗専制と公家、寺社の伝統的・門閥的支配に反抗する悪党を観る。
備考	

後 期

週	主 要 テ ー マ
1	南北朝内乱期悪党の群像(1)伊賀国黒田荘悪党金王兵衛盛俊の動きを追う。
2	南北朝内乱期悪党の群像(2)伯者の土豪・武装商人であった名和長年の動きを追う。
3	南北朝内乱期悪党の群像(3)河内の土豪武装芸能民であった楠木正成の動きを追う。
4	建武政権の崩壊(1)後醍醐天皇はいかなる権力の樹立をめざしたか、理念と現実をみる。
5	建武政権の崩壊(2)政権を崩壊にみちびいた足利尊氏・直義の動きを観察する東国足利荘を基盤として成長した豪族領主足利氏を観る。
6	建武政権の崩壊(3)南北両朝の大分裂、足利族内抗争(観応の擾乱)の政治過程を通観する。
7	内乱を通じて何が変わったか。(1)変わる戦争の形態、騎馬から徒歩立の戦闘、悪党の傭兵化、足軽の発生。
8	内乱を通じて何が変わったか。(2)変わる村の生活、旧名体制がくずれて、新たな小百姓らをふくむ惣村が形成された。
9	内乱を通じて何が変わったか。(3)民衆の発言力の増大。荘園にくらす農民たちは、みずからの結合組織をバックに、さまざまな戦いを開始する
10	バサラと芸能(1) 内乱期の文化表現にバサラというのがある。バサラ大名の佐々木道誉、土岐頼遠の行動様式を通じてバサラについて考える。
11	バサラと芸能(2) 中世を貫徹する「狂」の表現(バサラをも通底する)を、“悪”なるものを基礎にして考える。寺院大衆の延年、猿楽などを観察。
12	中世の終焉。中世的世界を、地侍の一揆体制という形で実現していたかつての悪党の巢窟伊賀国は、近世の先駆的権力織田信長に滅ぼされた。
備考	

科目名	歴史学概論（日本史）	担当者名	齊藤 博
-----	------------	------	------

講義の目標	<p>地域民衆史や全体史としての社会史の立場から、日本および日本人のトータルな課題に迫る。思想・人物・地域の三視点から日本人像に照射を加えたい。</p>	
講義概要	<p>読書を通じての思索によってしか、歴史的なものの見方は身につかない。「若者の感性」やマスメディアの多数派思考やCM的流行ムード、あるいは国民的多数のマインドによって、歴史学を水に薄めるわけにはいかないのである。きちんとした専門書、あるいはしっかりした啓蒙書を読むことが、歴史学の学習には求められている。</p> <p>レポートは、「我が家の歴史」である。夏期休業中に祖父母、家業、家系についての聴き取り調査、文献文書の報告書（400字詰縦書き5枚以上）を提出（後期第1回目授業まで）する。</p>	
使用教材	テキスト	<ul style="list-style-type: none"> <li>・齊藤 博『歴史の精神』学文社</li> <li>・齊藤 博『民衆史の構造』新評論</li> </ul>
	参考文献	<p>講義の間に、12冊以上を紹介する。そのうち2～3冊は是非とも通読してもらいたい。</p>
評価方法	<p>前期と後期にペーパーテスト（論文形式）がある。</p>	
受講者に対する要望など	<p>出席が良好でないとう理解しにくい内容・傾向・水準にある。日本史だから日本人にはよくわかる、ということはない。</p>	

## 年 間 講 義 予 定

### 前 期

週	主 要 テ ー マ
1	日本および日本人について。日本史の特徴Ⅰ、日本人が日本史を学ぶ困難性
2	日本史の特徴Ⅱ、風土と歴史、日本史研究者像Ⅰ、新井白石、本居宣長、伴信友
3	日本史研究者像Ⅱ、津田左右吉、和辻哲郎、柳田国男、喜田貞吉、服部之総、羽仁五郎
4	日本史研究者像Ⅲ、瀧川政次郎
5	日本史研究者像Ⅳ、芳賀登、色川大吉、井上幸治
6	地域民衆史の視座と方法
7	「日本的なもの」を考える
8	「天への想い」Ⅰ、日中歴史学の比較と対照、東洋的歴史像の構築
9	「天への想い」Ⅱ
10	アジア的共同体論についてⅠ
11	アジア的共同体論についてⅡ
12	「我が家の歴史」をどう記録するか
備考	

### 後 期

週	主 要 テ ー マ
1	近世史と近代史の問題点Ⅰ
2	近世史と近代史の問題点Ⅱ
3	明治維新論Ⅰ
4	明治維新論Ⅱ
5	高杉晋作の漢詩集を読む、教育精神の系譜から（獨協精神）、吉田松陰論、品川弥二郎論
6	同上Ⅱ、幕末維新論Ⅰ（日本資本主義発展史の視座から）
7	同上Ⅲ、幕末維新論Ⅱ
8	同上Ⅳ、幕末維新論Ⅲ
9	同上Ⅴ、幕末維新論Ⅳ
10	同上Ⅵ、幕末維新論Ⅴ
11	同上Ⅶ、近代化論をどう考えるか。
12	まとめ（総括）—日本および日本人論をめぐって
備考	

科目名	歴史学概論（東洋史）	担当者名	熊谷哲也
-----	------------	------	------

講義の目標	<p>イスラーム世界の歴史について知識と理解を深める。今日の国際情勢を読みとるうえでイスラームは重要なキーワードの一つとなっているが、これを理解するためには、そこに生きる人々の宗教や思想、生活、文化にかんする基本的な知識が必要である。</p> <p>イスラーム教の成立以降の西アジア史の流れを、現代的な問題関心を交えながら学びとり、社会的な視野を広げることを目標とする。</p>	
講義概要	<p>前期はイスラームについての基本的な知識を学んだうえで、預言者ムハンマドとその時代から16世紀にいたるまでの西アジア史を概観し、宗教の成立とその拡大によって広大なイスラーム世界が形成されるまでの様相を理解する。同時に中世イスラーム世界の社会や文化についての基本的な知識を学ぶ。</p> <p>後期はイスラーム世界の近代化の歴史を地域別に概観しながら、さらに宗教・文化にかんするテーマをトピック形式で加える。これによって今回イスラームが関係するさまざまな問題について、理解が深められるよう留意する。</p>	
使用教材	テキスト	特に定めない。
	参考文献	夏休みあけに自由課題の読書レポートを提出するが、そのためにイスラームにかんする新書程度の本を用意してもらおう。詳しくは授業で指示する。
評価方法	試験とレポート。発想のオリジナリティーを重視する。	
受講者に対する要望など		



## 年 間 講 義 予 定

### 前 期

週	主 要 テ ー マ
1	イスラームにかんする基本事項について説明する。オリエンテーションをかねる。
2	イスラーム教誕生以前の世界について考える。ユダヤ教やキリスト教に関する知識が必要である。以上三つの宗教はともにセム的一神教として多くの共通点を持つ。
3	預言者ムハンマド（マホメット）の出現とその時代背景について考える。彼がアラ神の啓示を受け、イスラーム教を創始し、それがアラビア半島内に広まる経過を理解する。
4	預言者の死後、その代理人としてのカリフ（ハリーフ）たちが君臨した正統カリフ時代について考える。この時期に早くも第一次内乱がおこり、シーア派が出現する。
5	ウマイヤ朝の歴史について考える。ヴェルハウゼンによる古典理論における「アラブ帝国」の意味を検討する。
6	アッバース朝の歴史について考える。古典理論にみられる「アラブ帝国」から「イスラーム帝国」への変化の意味を検討する。
7	イスラーム教の聖典であるコーラン（クルマーン）と預言者の言行録であるハディース、それらの解釈をめぐって成立・発展した初期思想と学問の展開について学ぶ。
8	アッバース朝時代に発展したアラビア科学とその内容について、また中世イスラーム社会において民衆教化の役割をはたしたイスラーム神秘主義について考察する。
9	アッバース朝の弱体化に伴い、各地に出現しはじめた軍事政権とその展開について概述する。
10	エジプトのマムルーク朝について学ぶ。マムルーク軍人による支配は奴隷王朝と表現されるが、とくにイクター制と呼ばれる制度が西ヨーロッパの封建制と比較される点を検討する。
11	オスマン朝の成立と発展について考察する。この王朝が「完成されたイスラーム国家」と呼ばれる点について検討する。また、カピトレーションの問題をとりあげる。
12	ヨーロッパ世界とイスラーム世界との関係について考察する。レコンキスタ、十字軍、大航海時代、これらが作り上げたヨーロッパの人々の歴史観について検討する。
備考	

### 後 期

週	主 要 テ ー マ
1	イスラーム世界の文化的な影響がヨーロッパの近代化にはたした役割について再考する。いわゆる「十二世紀ルネサンス」の問題にもふれる。
2	ヨーロッパ世界における帝国主義とアジア、とくにイスラーム世界とのさまざまな関係について概述し、アジアの近代化をまず一般論として把握する。
3	イスラーム世界における知識人階層であるウラマーについて、政治権力との関係、社会的な役割について考える。
4	オスマン帝国の近代化の問題について考える。帝国の解体、トルコ・ナショナリズム、パン・イスラミズムを理解する。
5	西洋の衝撃によって西アジア世界の内部にあらわれたさまざまな改革運動とその内容を考察する。欧化主義や復興主義（あるいは原理主義）の芽生える様子を理解する。
6	エジプトの近代化とその過程について考える。前回の改革運動についての理解をさらに深めることになる。
7	トルコの近代化とその過程について考える。すでにオスマン帝国の近代化を学んだが、その続きとしてトルコ共和国の成立に至るまでを考える。
8	その他のイスラーム諸国の近代化についてさまざまな問題について考える。
9	イスラーム法（シャリーア）について、また人々の生活と信仰についての現代における諸問題を取りあげ、近代化のもつ意味を探る。
10	今世紀のイスラーム世界について考える。民族主義とそのゆくえ、マイノリティーの問題を中心にとりあげる。
11	パレスチナ問題について考え、現代のアラブ諸国のかかえる問題を検討する。ヨーロッパ世界との関係を再考する。
12	まとめをおこなう。
備考	

科目名	歴史学概論（東洋史）	担当者名	西嶋定生
-----	------------	------	------

講義の目標	日本の歴史を東アジア世界の中に位置づけて理解することを目的とする。これは日本歴史を世界史の中に位置づけるということである。その位置づけ方として、世界史の新らしい構想が必要となる。東アジア世界とは近代的世界、すなわち19世紀において完成する全地球的世界が形成される以前の複数の世界のうちのひとつであり、その中で日本の歴史は育成された。このような観点から東アジア世界の形成とその構造を解説し、その中に日本の歴史の展開を位置づけてみたい。	
講義概要	まず東アジア世界とはいかなる歴史的世界であるかを説明する。そして東アジア世界が漢字文化圏であり、中国文化圏であることを説き、この文化圏が成立するためには、冊封体制という中国王朝を中心とする国際的政治関係が形成されることが必要であることを説明する。これによって価値体系を共有する領域が形成され、その領域が東アジア世界にほかならぬことを説明する。そしてこの東アジア世界が10世紀にひとたび崩壊すると、各地域にそれぞれ独自の民族文化が形成される。そしてそれ以後、東アジア世界は独自の交易圏として復活し、19世紀にいたって近代的汎地球的世界の中に吸収されることを説明する。	
使用教材	テキスト	<ul style="list-style-type: none"> <li>・西嶋定生『中国史を学ぶということ』（吉川弘文館）</li> <li>・西嶋定生『日本歴史の国際環境』（東京大学出版会）</li> </ul>
	参考文献	<ul style="list-style-type: none"> <li>・西嶋定生『中国古代国家と東アジア世界』（東京大学出版会）</li> <li>・西嶋定生『倭国と邪馬台国』（吉川弘文館）</li> </ul>
評価方法	学年末に常時出席者を対象として筆記試験を行う。出席していなかったものは原則として受験資格が認められない。	
受講者に対する要望など	講義中の私語は厳禁する。違犯者は退室してもらう。	

## 年 間 講 義 予 定

### 前 期

週	主 要 テ ー マ
1	世界史とは何か。世界史の構造。世界とは何か。
2	東アジア世界とは何か。東アジア世界と日本。
3	漢字文化圏の成立。漢字はいかにして中国の周辺地域に伝えられたか。
4	冊封体制とは何か。中国王朝と周辺地域との関係がなぜ冊封体制をつくるか。
5	冊封体制と文書外交。文書作成と印章制度。
6	冊封体制と中国文化圏の形成。
7	邪馬台国をめぐる東アジア状勢。
8	南北朝の分裂と日本。倭の五王の問題。
9	日本における治天下大王の出現と東アジア。
10	遣隋使外交の意味するもの。
11	遣唐使外交の意味するもの。
12	遣唐使停止の背景。古代東アジア世界の崩壊。
備考	

### 後 期

週	主 要 テ ー マ
1	東アジア交易圏の成立。宋代における社会経済の発展。日宋貿易の発展。
2	モンゴル帝国の出現と東アジア。蒙古襲来の事情とその背景。
3	明王朝の成立と東アジア世界の再現。勘合貿易の意味。倭寇の活躍とその対策。
4	秀吉の朝鮮侵略とその失敗。
5	江戸時代における鎖国政策と東アジア世界。
6	江戸時代の日本文化と中国文化。
7	東アジア世界と大清帝国。
8	大清帝国の文化。
9	ヨーロッパ世界のアジア進出。
10	東アジア世界と近代世界との相克。
11	近代世界と日本。日本と東アジア世界。
12	汎地球的全世界の中における東アジア世界その他の旧世界の残滓。
備考	

科目名	歴史学概論（西洋史）	担当者名	高橋正男
-----	------------	------	------

講義の目標	<p>近年我々はユーラシア大陸の大半を占める西欧、東欧・ロシア、中東で起こった政治情勢の変転に際し、人間生活の過去を構築する歴史学への興味をかきたてられている。本年度は文明の発生から現代に至るまでの政治・社会史に重点をおいた西洋史の大勢をエルサレムを基点に世界史的な連関のもとに多面的・立体的に理解させることを主眼とし、受講生とともに日本人の視点から西洋史を現代国際関係から見直し21世紀を展望してみたい。</p>		
講義概要	<p>講義は平明・概説的であるが、重要事項は詳述し、あわせて学界の研究状況も織り込んで紹介する。講義内容は別紙シラバスを参照されたい。</p>		
使用教材	テキスト	<ul style="list-style-type: none"> <li>・高橋正男著『旧約聖書の世界』（第4刷）時事通信社、1994年</li> <li>・高橋正男著『年表 古代オリエン特史』（第2刷）時事通信社、1994年</li> <li>・D=バハト著（高橋正男訳）『図説 エルサレムの歴史』（第2刷）東京書籍、1994年</li> </ul>	
	参考文献	<p>その都度紹介する。</p>	
評価方法	<p>前期・後期の筆記試験による。 講義資料等は出席者のみに配布する。</p>		
受講者に対する要望など	<p>*在外研修のため5月第2週から開講</p>		

## 年 間 講 義 予 定

### 前 期

週	主 要 テ ー マ
1	歴史とは何か
2	先史時代・歴史時代
3	文明の発生
4	古代オリエント史の推移(1)
5	古代オリエント史の推移(2)
6	族長時代から王国成立まで(1)
7	族長時代から王国成立まで(2)
8	第一神殿時代 —前586年まで— (1)
9	第一神殿時代(2)
10	バビロニア捕囚時代
11	第二神殿時代 —前538～後70年—
12	第二神殿時代(2) まとめ・VIDEO
備考	

### 後 期

週	主 要 テ ー マ
1	ローマ時代 —70～330年—
2	ビザンツ時代 —330～638年—
3	初期ムスリム時代 —638～1099年—
4	十字軍時代 —1099～1187年—
5	アイユーブ朝およびマムルーク朝時代 —1187～1517年—
6	オスマン・トルコ時代 —1517～1917年—
7	イギリス委任統治時代 —1917～1948年—
8	エルサレムの東西分断 —1948～1967年—
9	エルサレム再統合 —1967年以降
10	第二次世界大戦後の中東情勢
11	現代歴史学の諸問題
12	後期のまとめ・VIDEO
備考	

科目名	歴史学概論（西洋史）	担当者名	古川 堅治
-----	------------	------	-------

講義の目標	<p>——ヨーロッパの歴史——</p> <p>今、ヨーロッパにはEUを中心としての総合の道を歩もうとしている。今世紀に加盟諸国が経済統合・通貨統合のみではなくへ外交・防衛の点でも共同歩調をとろうという固い意志表明がそこには見られる。このような動きの中で12ヶ国の研究者たちが、ヨーロッパについての共通の歴史認識を得ようとして1つの通史を作り上げた。この通史を通して、ヨーロッパ人の歴史意識とかれらの抱く新しい「ヨーロッパ像」を考察する。</p>	
講義概要	<p>講義は平易で、わかりやすい形の説明を中心に進めていくが、必要に応じて、ビデオなどを使って理解を深めて行きたい。</p>	
使用教材	テキスト	特に使用しない。
	参考文献	フレデリック・ドルーシュ編/花上克己訳『ヨーロッパの歴史：欧州共通教科書』（東京書館、1994年）
評価方法	<p>前・後期各1回ずつのレポート提出により判断。テーマ、メ切日、枚数等は授業中に提示する。</p>	
受講者に対する要望など	<p>受身ではなく、積極的に討論・考察する学生を期待する。</p>	

## 年 間 講 義 予 定

### 前 期

週	主 要 テ ー マ
1	「ヨーロッパとは何か」 ①地理的特徴②多様な言語③「文明」と「文化」④経済と社会の結合性
2	「ツンドラから神殿へ」(先史時代—A. D. 4世紀) ①ヨーロッパ最初の人類と耕作民②金属時代と地中海交易③地中海世界におけるギリシアの発展④ヨーロッパの新しい勢力
3	「ツンドラから神殿へ」(先史時代—A. D. 4世紀) ⑤古典文明・最盛期⑥再統一か分裂か?
4	「ローマ帝国の威光」(B. C. 6—A. A. 5世紀) ①ローマ：都市国家から世界帝国へ
5	「ローマ帝国の威光」(B. C. 6—A. A. 5世紀) ②ローマ帝国のヨーロッパ③侵入と変動：新しいヨーロッパの成立に向けて
6	「ビザンツ帝国と西欧世界」(6—11世紀) ①ユスティニアヌス帝とビザンツ帝国〈6—7世紀〉②ビザンツ帝国とヨーロッパの新興諸国〈8—9世紀〉
7	「ビザンツ帝国と西欧世界」(6—11世紀) ③ビザンツ帝国の最盛期〈10—11世紀〉④西欧世界〈10—11世紀〉⑤東西世界の宗教生活〈6—11世紀〉
8	「中世のキリスト教世界」(11—13世紀) ①中世ヨーロッパとキリスト教②ヨーロッパの封建制③帝国と教会領
9	「中世のキリスト教世界」(11—13世紀) ④都市と交通⑤ヨーロッパの拡大⑥文化的統一と政治的分裂
10	「危機とルネッサンス」(14—15世紀) ①経済②社会③政治と行政
11	「危機とルネッサンス」(14—15世紀) ④宗教と精神生活⑤変わりゆく文化
12	「小括」
備考	

### 後 期

週	主 要 テ ー マ
1	「新世界との出会い」(15—18世紀) ①ヨーロッパの膨張②大発見の時代Ⅰ③大発見の時代Ⅱ
2	「新世界との出会い」(15—18世紀) ④植民地帝国の形成⑤世界経済⑥異文化との出会い
3	「宗教改革と絶対主義」(16—17世紀) ①ルネッサンス②宗教革命③反宗教改革とカトリックの改革
4	「宗教改革と絶対主義」(16—17世紀) ④宗教戦争によるヨーロッパ分裂⑤絶対主義のヨーロッパ
5	「啓蒙時代と自由の思想」(1760—1815年) ①グランドツアー：ヨーロッパの教育②王朝と戦争③社会生活と経済
6	「啓蒙時代と自由の思想」(1760—1815年) ④啓蒙の時代⑤アメリカ独立戦争からフランス大革命へ⑥ナポレオン帝国とその崩壊
7	「ヨーロッパの近代化」(19世紀) ①自由主義と民族主義②人口増加と都市化③農業の改革
8	「ヨーロッパの近代化」(19世紀) ④ヨーロッパの工業化⑤政治構造と社会改革⑥19世紀の文化運動
9	「自己破壊へ向って」(1900—45年) ①1900年のヨーロッパに②第一次世界大戦③ヨーロッパの新体制
10	「自己破壊へ向って」(1900—45年) ④再度の危機⑤戦争準備⑥第二次世界大戦
11	「分裂から相互理解へ」(1945—90年) ①戦後の混乱②復興③東の停滞と西の繁栄
12	「分裂から相互理解へ」(1945—90年) ①危機への対応②ヤルタ体制の再検討③「総括」
備考	

科目名	文学概論（日本）	担当者名	北村 進
-----	----------	------	------

講義の目標	<p>若者の活字離れということが言われてから久しい。その一方で書店には本があふれている。思うに、今の若者は本を読む楽しさを知らないのではないか。そこでこの講義では、なるべく多くの小説を読み、その読むという具体的な行為を通して、小説を読む楽しさがわかるようにしたい。</p>		
講義概要	<p>近代の短篇小説を読み味わうことを主眼とし、それに多少の解説を加えながら、作品の意図、作品の方法を探る。できれば作品の生まれた背景にも言及したいと思っている。指示された作品はあらかじめ読んで、講義に臨むこと。</p>		
使用教材	テキスト	『近代の短篇小説』 おうふう	
	参考文献		
評価方法	未定		
受講者に対する要望など	休まず出席すること		



## 年 間 講 義 予 定

### 前 期

週	主 要 テ ー マ
1	1年間の講義概要の説明と、近代文学の流れを概観する。
2	坂口安吾の作品を取り上げる。坂口安吾について解説し、安吾の文学史における位置づけ、及び「無頼派」について解説する。
3	坂口安吾「桜の森の満開の下」を読む。
4	「桜の森の満開の下」の作品世界について考察する。
5	太宰治の作品を取り上げる。太宰治の生涯をたどりながら、文学活動を三期に分け、それぞれの特徴について解説する。
6	太宰治の前期の作品から一つ選んで読み、解説する。
7	太宰治の中期の作品「走れメロス」を読み、話の元となったシラーの詩との比較を通して作品化の方法について考察する。
8	太宰治の後期の作品「桜桃」を読み、太宰（作家）と家庭という問題について考察する。
9	横光利一の作品を取り上げる。新感覚について文学史をたどりながら解説する。
10	横光利一「蠅」を読み、その作品世界について考察する。
11	横光利一「頭ならびに腹」を読み、新感覚派という観点から考察する。千葉亀雄の評論「新感覚派の誕生」にも触れる予定。
12	横光利一「春は馬車に乗って」を読む。
備考	

### 後 期

週	主 要 テ ー マ
1	中島敦の作品を取り上げる。中島敦の人となりについて解説する。
2	中島敦の「名人伝」を読む。
3	「名人伝」について解説し、中島敦の文学方法について考察する。
4	中島敦の「文字禍」を読み、解説する。
5	武田麟太郎の作品を取り上げる。武田麟太郎の人となりについて解説する。
6	武田麟太郎の「雪の話」を読む。
7	「雪の話」について解説する。
8	武田麟太郎の短篇を読む。
9	大江健三郎「他人の足」を読む。
10	「他人の足」について考察し、作品の意図をさぐる。
11	樋口一葉「十三夜」を読み、樋口一葉の短かかった生涯をふり返る。
12	森鷗外の「普請中」を読む。
備考	

科目名	文学概論（外国）	担当者名	北澤 滋 久
-----	----------	------	--------

講義の目標	<p>文学を味わうことの愉しさを伝え、併せて教養豊かな国際人をめざす者の人間形成の一助とすることを主たる目標とします。</p>	
講義概要	<p>—英米の文学に観る人間像—  英米の文学のなかの古典・傑作をいくつかのトピックスに大別して、1講義、1作家、1作品を原則に、定説を踏まえながらも担当者独自の観点から解説してゆきます。毎回聴いていけば「学」はつくでしょうが、文学史的な体系を覚えてもらうつもりではありません。何より受講者の感性に訴えたく思います。文学は本来楽しいものはずです。この際ちょっと読書好きになってさえもらえれば、美しく感動的に描かれた未知の人生や思想と出会えて、心地よい興奮とともに、ずっしりと重く自分の人生への指標が仄かに視えてもくることでしょう。こうした文学へのいざないに、肩のこらない楽しい授業にしたいと思います。興味ある向きは、最初のガイダンス授業を覗いてみてください。</p>	
使用教材	テキスト	<p>テキストは特に定めません。</p>
	参考文献	<p>参考文献は、2回目の授業時間に一覧表にして配布します。</p>
評価方法	<p>前期の講義で扱った作品の中から一編を読んで（翻訳可）、その感想文を夏休み後に提出してもらいます。これと後期の試験により評価します。</p>	
受講者に対する要望など	<p>毎年多数の受講者の集まるのは結構なのですが、殊に昨年は異常現象が生じ、熱心な学生から私語が多くて困るとの苦情が出ています。単に単位獲得のみを目的とする方は悪しからずご遠慮ください。因みに毎年10-20%の不合格者が出ています。</p>	

## 年 間 講 義 予 定

### 前 期

週	主 要 テ ー マ
1	登録のよすがに：本講義の内容と目標、そして受講者に願うこと
2	開講の辞：言語・文学・芸術、そして言語芸術としての文学
3	I 現代文明下のアメリカの少年たち 『ハックルベリーの冒険』：インノセントな魂 THE ADVENTURES OF HUCKLEBERRY FINN by Mark Twain
4	『ブラック・ボーイ』：人種差別に抗って BLACK BOY by Richard Wright
5	『ライ麦畑でつかまえて』：現代社会に生きることの苦悩 THE CATCHER IN THE RYE by J. D. Salinger
6	II 19世紀、イギリスの娘たち 『テス』：汚された？純潔 TESS OF THE D'URBERVILLES by Thomas Hardy
7	『フロス河畔の水車場』：新しい女性の生きざまを求めて THE MILL ON THE FLOSS by George Eliot
8	『ジェーン・エア』：自立する女性 JANE EYRE by Charlotte Brontë
9	III 19世紀、英米文学の驚異 『嵐が丘』：天国と地獄のパラドックス WUTHERING HEIGHTS By Emily Brontë
10	『白鯨』：近代的英雄の悲劇 MOBY-DICK by Herman Melville
11	IV 英雄不在の20世紀の英雄たち 『ロード・ジム』：英雄ならざる英雄の悲劇 LORD JIM by Joseph Conrad
12	『老人と海』：一老漁師にみる英雄的雄姿 THE OLD MAN AND THE SEA by Ernest Hemingway
備考	

### 後 期

週	主 要 テ ー マ
1	V 海洋(冒険)小説の諸相 『ロビンソン・クルーソー』：孤島に生きる近代人 THE ADVENTURES OF ROBINSON CRUSOE by Daniel Defoe
2	『ガリヴァ旅行記』：人間嫌悪の結晶 GULIVER'S TRAVELLS by Jonathan Swift
3	VI 近代芸術観の極致 『月の六ペンス』：芸術家の狂気 THE MOON AND SIXPENCE by William Somerset Maugham
4	『アッシュナー館の崩壊』他：至上の美を求めて THE FALL OF THE HOUSE OF USHER by Edgar Allan Poe
5	『ドリアン・グレイの肖像』：耽美の世界に踏み入って THE PICTURE OF DORIAN GRAY by Oscar Wilde
6	VII 父なるもの、母なるものの原像 『ハムレット』：青年の母への愛憎 HAMLET by William Shakespeare
7	『息子たち、恋人たち』：母と息子の絆 SONS AND LOVERS by D. H. Lawrence
8	『若い芸術家の肖像』：父なるものを求めて A PORTRAIT OF THE ARTIST AS A YOUNG MAN by James Joyce
9	VIII 倫理と欲望の狭間 『ねじの回転』：女性家庭教師のみた幻想 THE TURN OF THE SCREW by Henry James
10	『事件の核心』：信仰と不倫に揺れて THE HEART OF THE MATTAER by Graham Greene
11	『緋文字』：姦通と復讐の贖い THE SCARLET LETTER by Nathaniel Hawthorne
12	閉講の辞：芸術と人生、そして質疑・応答
備考	

科目名	文学概論（外国）	担当者名	松山恒見
-----	----------	------	------

講義の目標	読書の愉しみと、それによってもたらされる教養の基盤がいかに大きいかを知らせること。 なお、この講義は他の外国文学の講座に、英米、独があるためフランスを中心とするが、特にそれにこだわるわけではない。		
講義概要			
使用教材	テキスト	テキスト：なし。	
	参考文献	参考文献：多岐にわたるのでその都度指示する。	
評価方法	前・後期とも、課題図書を定め、その読後観を書いてもらうことで、評価の50%とする。 残る50%は、通常の試験と同様で、講義内容の理解度と、記憶とを見る出題による。		
受講者に対する要望など			

## 年 間 講 義 予 定

### 前 期

週	主 要 テ ー マ
1	読書について——文学とは何か。自国文学を知るためにも、外国文学を知ろう。
2	ヨーロッパ文学の源泉(1)古代ギリシャ・ローマ文明、とくにその文学。
3	ヨーロッパ文学の源泉(2)聖書、キリスト教。
4	中世文学——ロランの歌、トリスタンとイゾー、狐物語、ヴィヨン。
5	十六世紀（ルネッサンス）——モンテーニュとラブレー。
6	十七世紀——古典主義、コルネリュ、ラシーヌ、モリエール。
7	十七世紀(2)ラ・フォンテーヌ、デカルト、パスカル、モラリスト、ラファイエット夫人（クレヴの奥方）。
8	十八世紀——啓蒙主義、ヴォルテール、ディドロ。（課題図書発表）
9	十八世紀(2)——ルソオ、「危険な関係」、「ポールとヴィルジニー」、「マノン・レスコー」。
10	フランス革命をめぐる。アナトール・フランスの「神々は渴く」。
11	十九世紀——ロマンチズム。シャトーブリアン、スタール夫人。（附）コンスタンの「アドルフ」。
12	十九～二十世紀文学の展望。（進度調節）
備考	

### 後 期

週	主 要 テ ー マ
1	ロマンチズムの四大詩人。ユーゴー。
2	スタンダールの「ラシーヌとシェイクスピア」をめぐる。
3	ジョルジュ・サンド、バルザック。
4	スタンダール、メリメ。
5	フロベール、モーパッサン。
6	ボードレール、ヴェルレーヌ、ランボー、マラルメ。（象徴主義）
7	十九世紀のその他の作品。
8	ゾラ、自然主義。（課題図書発表）
9	アンドレ・ジイド、ヴァレリー、ブルースト。
10	コクトー、ロマン・ロラン、マルタン・デュガール、その他。
11	サルトル、ボーヴァール、カミュ、モーリャック。
12	現代文学。ルイ・アラゴンからミシェル・トゥルニエまで。
備考	

科目名	文学概論（外国）	担当者名	宮澤康造
-----	----------	------	------

講義の目標	<p>訓読漢文を通じて、中国古典の学習を身につける。特にわが国の古典に大きな影響を及ぼした唐代の詩文について学ぶ。あわせて現代に生きる漢文故事成語の原典に当り、また広く故事成語を理解する。</p>	
講義概要	<p>日本の文物制度は中国に負うところが大きい。とくに日本古典の学習には、漢文の読解力や理解を無視することはできない。</p> <p>本講座では、漢文読解の力を養い、また日本で現在も生きている故事成語を理解するため、広く中国文学の概要を学び、テキストに収めた漢詩文の読解演習に当る。</p> <p>さらに参考のプリント教材を用意して広い知識を身につけるようにし、漢詩文の碑の読解なども加えて、興味ある講座の展開を用意している。</p>	
使用教材	テキスト	詩文選・故事成語考（御牧貞風編）
	参考文献	①漢文学習のための辞典 ②漢文学習のための参考書 いずれも授業時プリントで示し、解説する。
評価方法	<p>①出席状況を重視する。日常の訓読演習への参加は学習向上の鍵。</p> <p>②前後期末実施のテストの成績。</p> <p>③学生各々の自己評価票。（参考）</p> <p>④自主レポート 以上の四点より総合評価する。</p>	
受講者に対する要望など	<p>継続は力、ねばり強い努力が大切。平気で休んだり遅刻するような学生は始めから授講しないこと。学問を通じて人間形成を望む者来れ。</p>	

## 年 間 講 義 予 定

### 前 期

週	主 要 テ ー マ
1	漢文学の学習について——日本文学と中国古典との関連にふれ、漢文学習の重要性を知る。まず身近な故事成語から学ぶ。年間講座要項の説明。
2	漢文の基礎——漢文訓読の方法について学ぶ。現代に生きる漢文故事成語にどんなものがあるか。その原典は何か。初め三回はプリントによる考究。
3	漢文の基礎——漢字の字源（成り立ち）、中国の歴史概略、中国文学の日本文学への影響、日本所在漢文・漢詩碑について。森鷗外撰文の碑の通読。
4	訓読基礎編——「他山之石」「五十歩百歩」（テキスト1頁）読解 日本のことわざとの比較
5	「矛盾」「朝三暮四」「借虎威」（テキスト2～3頁）
6	「蛇足」「四面楚歌」「塞翁馬」「推敲」（テキスト4～6頁）
7	漢文故事成語考（テキスト27～54頁）の学習。故事成語をどのように理解するか。その出典との関係を考える。
8	年令の異称・名数についての理解。（テキスト55～60頁）
9	演習編 陶潜「飲酒」の読解 陶潜の生涯とその文学について。
10	「帰園田居」の読解。古詩の押韻について。
11	「帰去来辞」「五柳先生伝」の読解。 中国の文章の種類について。
12	全国漢詩碑についての考察。 碑の採録の方法について。
備考	

### 後 期

週	主 要 テ ー マ
1	前期の答案返却と概評。王維の詩「送元二使安西」の読解。唐代の詩の概説—主なる詩人とその作品について—
2	劉希夷「代悲白頭翁」（白頭吟）の読解。 対句的表現の妙について
3	李白と杜甫について—プリントにより対比考察— 李白と「子夜呉歌」、「子夜呉歌」読解。案府についての解説。
4	李白の詩を学ぶ——テキスト六編の中から好きな一詩を考究して、暗誦できるまで学習する。六編の通解。
5	杜甫の詩を学ぶ——テキスト六編の中から好きな一詩を考究して、暗誦できるまで学習する。「貧交行」～「月夜」の五詩通解。
6	杜甫の詩「兵車行」の考究。設問（プリント）の解答。 杜甫の人と作品についてまとめる。
7	白居易について——その生涯と作品について—— 「慈烏夜啼」の読解
8	「長恨歌」を学ぶ。長編の詩の通読、表現上の特色について知る。 段落と押韻についての考究。第一段の読解。
9	「長恨歌」を学ぶ。——第二・三段の読解。 設問（プリント）の考究。
10	「長恨歌」を学ぶ。——長恨歌伝、長恨歌の背景（史実）についての解説。
11	「長恨歌」と日本古典——源氏物語をはじめ、わが国古典に及ぼした影響を考究、さらに中国古典と日本文学との関係を学ぶ。
12	故事成語学習のまとめ——故事成語の原典の通読（テキスト27～54頁） 現代の新聞にあらわれた故事成語について。
備考	

科目名	文学概論（外国）	担当者名	山路朝彦
-----	----------	------	------

講義の目標	ドイツの作家カフカの作品について論じながら、小説を読むという日常的な行為を問い直したいと思います。それを通して、自明に思われることを問題として考えていくという、大学での勉強に必要な技術を身につけましょう。	
講義概要	カフカの作品をあらかじめ紹介するとともに（映画化や演劇化されたものも使います）、その作品を読み直しながら、様々な解釈の可能性を考えていきます。	
使用教材	テキスト	カフカの作品について教室で指示します。
	参考文献	
評価方法	前・後期のレポート	
受講者に対する要望など		



## 年 間 講 義 予 定

### 前 期

週	主 要 テ ー マ
1	文学の理論へ ①感想・印象と批評、文学の理論と西欧の特質
2	カフカの作品紹介
3	カフカの作品紹介
4	カフカの作品紹介
5	カフカの作品紹介
6	文学の理論へ ②伝記・評伝と影響史、文学史と文学社会誌
7	文学の理論へ ③「小説」の誕生とその歴史
8	同上
9	文学の理論へ ④文学史と国民意識・「ドイツ学」の成立、「精神科学」の成立と文学研究
10	同上
11	文学の理論へ ⑤芸術の自律性、アヴァンギャルド
12	同上
備考	

### 後 期

週	主 要 テ ー マ
1	文学研究の立場と方法 ①精神史的方法
2	②作品内在解釈（インタープリテーション）の方法
3	カフカの解説
4	③マルクス主義の立場から
5	カフカの解説
6	④構造主義的方法
7	カフカの解説
8	⑤文学社会学的方法
9	カフカの解説
10	⑥「エッセイ」という方法
11	カフカの解説
12	⑦新たな立場と方法
備考	

科目名	国語表現法	担当者名	新里博樹
-----	-------	------	------

講義の目標	<p>コトバは、人間の内面を構成する素材である。そして、言語表現とは、その内なるコトバを様式として外に言語として実体化させることに他ならない。すなわち、言語による表現とは、単に何かを他者に伝達することのみにとどまらず、自己の内面を深化させることにもつながるのである。本講座では、そうした素材であり、手段である、“コトバ—言語”の特質を踏まえながら、言語表現の様式の諸相、およびその諸特徴を講じつつ、日本語による表現のルールと方法とを学び、国語表現（文章表現・口頭表現）の実際を体験することを目標とする。</p>	
講義概要	<p>国語表現における基礎事項に関する講義を交えつつ、講義—実作演習—添削批評という基本パターンを反復しながら、さまざまなスタイルの表現を実際に体験してもらう。講義1に対して演習3の割合で、実際の表現演習に学生自身が自分で取り組むことになる。文章表現の場合は、その場で（あるいは前以て）提示される課題・テーマに対して、その場で取り組み、基本的に授業時間内に提出する。そして、提出物は後日、添削批評を経て返却される。口頭表現の場合は、スピーチ・ディベートなどを、予め定めた手順に従って（全員が何らかの形で参加することになる）体験することになる。また時には相互批評などの討議形式の授業も実施する予定である。</p>	
使用教材	テキスト	使用せず
	参考文献	その都度、提示・紹介する。
評価方法	<p>授業時における提出物と授業に対する参加（質問や発言など）の度合いによって評価する。返却された提出物（原稿その他）はすべて保管し、最終授業時にまとめて再提出してもらい、それによって評価することになるが、基本的には平常点による評価と考えて良い。</p>	
受講者に対する要望など	<p>B5原稿用紙を各自用意して欲しい。また、小型のものでよいから、国語辞典を携帯してもらいたい。演習中心なので、自ら積極的に取り組む姿勢が望まれる。他の受講者にとって迷惑となる行為は一切厳禁する。</p>	

## 年 間 講 義 予 定

### 前 期

週	主 要 テ ー マ
1	ガイドダンスとして、年間の講義概要の解説、および、評価の方法と基準の説明などを行い、導入として、言語による表現とはどういうことか、という問題について講じる。
2	文章表現演習Ⅰ：自己紹介文 とりあえず自由に、自己紹介の文章を作成する。自分の生い立ち、趣味、特技、性質、癖、現在の状況、悩んでいること、価値観 etc.
3	講義Ⅰ：原稿用紙の歴史と使用法 原稿用紙の発達の歴史とその使用規則の基礎的な事項を講じる。その上で、実際に、特定の文章を原稿用紙に転記する演習を行う。
4	文章表現演習Ⅱ：随想文 講義Ⅰの内容に留意しながら、随想文を作成する。テーマは「日本の色」。自分の思い、価値観などを具体例を提示しながら書く。
5	文章表現演習Ⅲ：百字文 「手」というタイトルで、段落表示や句読点を含めて百字ぴったりの短文を作成し、それを起としてさらに、承転結の百字文を三編作成する。
6	講義Ⅱ：文章の構成と段落 文章構成の様相と、段落について講じる。段落はどのように設定すべきか、全体の構成はどうしたらよいかなど、文章構成の基礎を解説する。
7	文章表現演習Ⅳ：論説文 講義Ⅰ・Ⅱの内容に留意しながら論説文を作成する。テーマは「現代日本の社会状況」。自分なりにポイントを絞り、具体的に書く。
8	文章表現演習Ⅴ：推敲演習 推敲の方法とその目安についての理解を深めるため、文章表現演習Ⅳの作品の幾つかを採り挙げ、推敲の演習を行う。
9	講義Ⅲ：題材の求め方とその膨らませ方 文章表現のテーマや素材（具体例など）をどこに求め、どう膨らませていくか、という認識法や発想法について講じる。
10	文章表現演習Ⅵ：要約演習 まず自由に二百字文を作成する。その上で、できるだけ内容を変えないように、百字、五十字、二十字、十字と字数を減らしていく演習を行う。
11	文章表現演習Ⅶ：写生文 具体的事物を見ながら、それを写生した文を作成する。それを見ていない人に伝えるべく、言葉によるスケッチを行う。
12	前期の総括と夏期休暇中の課題提示 前期における提出物を全て返却し、夏期休暇中の課題を提示する。目上の人物に対する近況報告の”堅い手紙”を作成するのが課題となる。
備考	授業時間内に提出するため、比較的短い文章の演習が中心となってしまう。そこで、長文の文章の添削批評を希望する学生は、随時、自由に申し出てもらうことになるが、ただし、添削批評の時間的余裕を与えて欲しい。

### 後 期

週	主 要 テ ー マ
1	夏期休暇中の課題の提出。後期の予定の確認。
2	文章表現演習Ⅷ：報告文 夏期休暇中における自己の行動（自分で設定する）に対しての報告文を作成する。客観的事実と自己の感想を分けて書く。書式は授業時に提示。
3	文章表現演習Ⅸ：批評文 提示された現代短歌の幾つかの中から一首を選び、それに対する鑑賞批評の文章を作成する。鑑賞批評は単なる感想でないことに留意して書く。
4	講義Ⅳ：詩的表現と短歌 詩的表現としての韻文について概説し、その中でも世界に誇り得る日本の文化の一つとしての短歌の特質について講じる。
5	文章表現演習Ⅹ：短歌実作演習 十首程度の短歌を実際に作成する演習を行う。併せて、その中から一首を選び、次回の歌会の準備を行う。
6	口頭表現演習Ⅰ：歌会演習 前回の準備に従い、実際に歌会を行う。提示された各自の作品に対して相互に自由に批評しあい、討議する。
7	講義Ⅴ：口頭表現の留意点 話し言葉による伝達の構造とその特質を論じ、音声言語による表現における留意点を講じる。
8	口頭表現演習Ⅱ：スピーチの原稿作成 結婚披露宴におけるスピーチの原稿を作成する。併せて、次回実施される結婚披露宴のシュミレーションの役割分担を行う。
9	口頭表現演習Ⅲ：結婚披露宴のシュミレーション 前回の打ち合わせに従って、想定された結婚披露宴のシュミレーションを行う。各自の役割分担に従ってスピーチを行う。
10	講義Ⅵ：ディベートの方法 ディベートの方法について解説する。ディベートの進行方法、考え方、技術、評価の方法などについて講じる。併せて、次回の役割分担を行う。
11	口頭表現演習Ⅳ：ディベート演習 その場で提示される論題に対して、ディベートの対戦を行う。対戦者以外は、全員が審査員となる。
12	総括、および、提出物の再提出
備考	添削批評を経て返却された原稿に対しては、訂正・書き直しをした上で、整理しておくことが望ましい。くれぐれも、その場の”書き捨て”にせぬよう心掛けて欲しい。

科目名	国語表現法	担当者名	飯島一彦
-----	-------	------	------

講義の目標	<p>言語の表現手段には、「読む」「書く」「話す」「聞く」「考える」などの分野があるが、その中でも、現在の日本の教育課程ではほとんど省みられることのない、日本語を「話す」「聞く」ことを中心に、「考える」にまで至る、表現の基礎的なトレーニングを行なう。表現手段を獲得できなければ、十分な表現をなしえることはできず、従って他者とのコミュニケーションを完成させることも期待できない。この授業は、日本語によるコミュニケーションを、口頭表現を中心に、より完全に近づけることが目標となる。</p>	
講義概要	<p>基礎的な概念は講義するが、それをもとにした実践、つまり学生諸君の毎時間の表現の、実際のトレーニングが主体となる。毎週出される課題に一週間とりくんで、次の週の授業時にその結果をもとに実践する、といった形式が多くなる。従って、トレーニングは課題を前提になされるから、課題にとりくまなかったものは受講しても無意味である。</p>	
使用教材	テキスト	特になし
	参考文献	特になし
評価方法	<p>毎回のトレーニングに対するとりくみの深さ、その成果。夏期・冬期休業中に課するレポート他の課題の提出、後期最後に行なわれる発表の成果、等々平常点の成績が中心となる。</p>	
受講者に対する要望など	<p>膨大な課題が出されるので、覚悟して受講すること。欠席すると表現の訓練の連続性が損なわれるので、欠席しないこと。</p>	

# 年 間 講 義 予 定

## 前 期

週	主 要 テ ー マ
1	授業ガイダンス。
2	講義：国語とは、表現とは、コミュニケーションのサイクル。
3	
4	
5	
6	
7	諸君の進度に応じた、各種トレーニング・プログラム。
8	
9	
10	
11	
12	夏休み課題ガイダンス。
備考	

## 後 期

週	主 要 テ ー マ
1	夏休み課題提出。後期ガイダンス。
2	
3	
4	
5	
6	諸君の進度に応じた、各種トレーニング・プログラム。
7	
8	
9	
10	
11	
12	冬休み課題提出。年間のまとめ。
備考	

科目名	国語表現法	担当者名	北村 進
-----	-------	------	------

講義の目標	<p>和歌・短歌の表現を通して日本語の美しさを学ぶとともに、実作によって表現の仕方を身につける。多くのすぐれた作品に触れ、それらを覚えることは、教養の一つであり、美しい日本語を身につける手段でもある。</p> <p>短歌は自分の心の動き（感動）を表現する一手段であるが、散文と違って音数に制約がある。制約がある分、感情が凝縮されて言葉で表現した以上のものが生まれてくる。そこにまた魅力があると言える。定型にまとめるのは確かに難しい。その難しい作業を通して日頃おろそかにしている言葉による表現を見つめ直す。</p>		
講義概要	<p>言葉が氾濫していると言われる状況にあって、一語一語を大切に、美しい日本語による表現力を身につけたい。そのためには多くのすぐれた文学作品に接することが必要だと考えるが、本講座では特に和歌・短歌という定型にこだわって、その表現の変遷をたどりながら、言葉の大切さ、日本語の美しさを学ぶつもりである。講義は古代から現代に至る作品を読み味わうことが中心となるが、それにとどまらない。やはり実作を通して学ぶことが大切であろう。そこで毎月一首以上の短歌制作を義務づける。言葉の選択の仕方、表現の難しさを身をもって体験してもらおう。</p>		
使用教材	テキスト	『新修 日本抒情詩歌』(株)おうふう	
	参考文献	その都度指示する。	
評価方法	<p>出席を重視する。</p> <p>前期はレポート提出。</p> <p>後期については未定。</p>		
受講者に対する要望など			

## 年 間 講 義 予 定

### 前 期

週	主 要 テ ー マ
1	一年間の講義の概要を説明し、古代から現代までの和歌史を略説する。
2	『万葉集』の歌を五回にわたって取り上げる。第一回目は『万葉集』について解説し、初期万葉の歌人たちの歌を取り上げる。
3	第二回目は宮廷歌人の歌を取り上げる。具体的には柿本人麻呂・山部赤人・笠金村などの歌人の歌が中心となる。
4	第三回目は中国文学の影響を色濃く漂わせている大伴旅人・山上憶良を中心に、いわゆる貴族文人の歌を取り上げる。
5	第四回目は近代的憂愁を併せ持った大伴家持と、彼をとりまく女性たちの歌を取り上げる。
6	第五回目は東歌・防人歌・作者未詳歌・伝説歌など万葉集ならではの歌を取り上げる。万葉の歌の素朴さを味わう。
7	『古今集』の歌を取り上げる。とりわけ人口に膾炙した名歌を中心に、その技巧性について考察する。
8	小野小町・和泉式部・伊勢等の女流歌人の歌を取り上げる。
9	『新古今集』の歌を取り上げる。定家・式子内親王・俊成の女など。
10	西行・実朝の歌を取り上げ、それぞれの歌人の歌の特質について考える。
11	百人一首の歌の中から何首かを取り上げ、味わう。
12	『玉葉集』『風雅集』の中から京極為兼・永福門院等の歌人を取り上げ、その歌風について考察する。
備考	

### 後 期

週	主 要 テ ー マ
1	中世の歌謡を取り上げる。『梁塵秘抄』や『閑吟集』の中からよく知られた歌謡を取り上げ解説する。
2	近世の和歌を取り上げる。賀茂真淵は万葉調の歌を詠み、これに異を唱えた香川景樹は古今的な調べを重じた。それぞれの歌を景樹著『新学異見』を読みながら考察してみたい。
3	近世末期に登場した歌人たち、当時は景樹の桂園派が主流であったが、これに属さず独自の立場を守った良寛・大隈言道・橘曙覧の歌を取り上げる。
4	正岡子規らの和歌改良論及びその歌を取り上げ、和歌が近代的な短歌に脱皮してゆく過程について考察する。
5	明星派の歌人たちの歌を取り上げる。与謝野鉄寛・与謝野晶子・山川登美子など。
6	アララギ派の歌人たちの歌を取り上げる。伊藤左千夫・長塚節・島木赤彦・斎藤茂吉など。
7	この時期に活躍したその他の歌人たち―石川啄木・若山牧水・釈迦空などの歌を取り上げる。
8	明治・大正・昭和にわたる「恋」の歌の中から名歌を取り上げる。
9	古代から近代に至る辞世の歌を取り上げる。
10	詩を取り上げる。島崎藤村・室生犀星・佐藤春夫・立原道造など。
11	現代短歌を取り上げる。寺山修司・佐佐木幸綱といった男性歌人の歌。
12	同じく現代短歌を取り上げる。俵万智の「サラダ記念日」など女流歌人の歌。
備考	

科目名	国語表現法	担当者名	福 沢 健
-----	-------	------	-------

講義の目標	<p>本講座においては、文章表現の基礎を再確認し、自らの思考を論理的に表現できる能力を身につけることを目標とする。言語表現には「話す」「聞く」「読む」「書く」のいわゆる四技能があるが、特に後二者に力を入れたいと考える。大学生活で最も要求されるのが、「読む」能力と「書く」能力であると考えからである。具体的な文章表現の能力は実践によって培われるものであるため、授業は講義よりも演習が中心となる。</p>	
講義概要	<p>文章表現の基礎として確認する事項は次の通り。①語彙（熟語・同義語・類義語・対義語・同音異義語・同訓異義語）、②表記（用字法・句読法・原稿用紙の使い方）、③表現（一文作文・短作文・文と文とのつなぎ方）。その他、四字熟語などにも触れる。次に実際の文章を書くに当たり、必要な基本作業の確認を行う。①主題文をつくる、②構成を考える、③語句の運用、④レトリック、⑤推敲の以上の点を踏まえつつ、話題をつかみやすい文章を選び、その内容をまとめ、さらにはその話題に関する小論文を書く練習を後期では行ないたいと考えている。</p>	
使用教材	テキスト	プリント配布
	参考文献	
評価方法	<p>定期試験による評価は行なわない。授業時に行なう小テスト及び、課題として提出してもらったレポートによって評価を定める。</p>	
受講者に対する要望など	<p>国語辞典を携行のこと。</p>	



## 年 間 講 義 予 定

### 前 期

週	主 要 テ ー マ
1	授業内容の説明。
2	語彙Ⅰ（熟語・同義語・類義語・対義語）
3	語彙Ⅱ（同音異義語・同訓意義語・四字熟語）
4	表記（用字法・句読法・原稿用紙の使い方）
5	表現（一文作文・短作文・文と文とのつなぎ方）
6	主題と構成Ⅰ（主題文・構成のスタイル）
7	主題と構成Ⅱ（段落・書き出しと結び）
8	語句の運用（文法・語感）
9	レトリック（比喩表現・展開の表現技法・伝達の表現技法）
10	推敲（表現上の推敲・表記上の推敲）
11	論理的文章（立場と結論・材料と構成）
12	予備日
備考	

### 後 期

週	主 要 テ ー マ
1	文章読解と作文の実践。取り扱う文章については、日本文学、日本文化に関するものを中心にして見ていきたいと考えている。
2	同上
3	同上
4	同上
5	同上
6	同上
7	同上
8	同上
9	同上
10	同上
11	同上
12	同上
備考	

科目名	国語表現法	担当者名	宮澤康造
-----	-------	------	------

講義の目標	<p>国語表現には、音声と文字（文章）による二つがある。本講座では文字表現を主として展開し、その基本を身につけると共に、実作と作家の文章の考察により文章力を高めることを目標とする。また応用として、新聞・雑誌の編集、詩歌の創作、自分史のまとめなどについても広く学ぶ。</p>		
講義概要	<p>継続は力、とくに国語表現力の養成は、日常生活の中でのたゆまぬ努力によって培われる。書くことが習慣化され、書くことが楽しくなれば最上である。だがそんな人は多くない。</p> <p>書けるようになるには、内なるものの充実が必要である。体験を重んじ、読書を大切にすることが必須である。現代の情報氾濫の中で、いかに受容するかも大切なことである。</p> <p>本講座では、年間を通じて書くことに心を向けさせ、書くことの方法を身につけるための広い知識と習慣を用意している。手紙の書き方からはじめ漢字や仮名づかいに及び、作家の文章や文章論に学び、新聞や碑文のことばに関心を寄せ、資料の生かし方、編集の方法など多岐に及ぶ。</p>		
使用教材	テキスト	①「文章の書き方」(文化庁) ②「作家・文学碑の旅」(宮澤康造)	
	参考文献	前期の第1時間目「国語表現参考書目」(プリント)で提示。	
評価方法	<p>①出席を重視する。毎時のノート、プリント等の累加記録の状況。</p> <p>②前後期末のテスト2回の成績。</p> <p>③折々の作文のまとめと提出状況。</p> <p>④学生の自己評価も参考に総合評価。</p>		
受講者に対する要望など	<p>欠席や遅刻を平気と考える者は、初めから受講申し込みをしないこと。受講の申し込みをしたら最後まで出席の努力を重ねること。</p>		

年間講義予定

前期

週	主 要 テ ー マ
1	年間講座要項、国語表現参考書目（プリント）により、年間の講座の概要を示す。文章とは何か、文章上達のための要件について講話。
2	手紙について——文章に習熟する近道は、手紙と日記を書くことである。まず手紙についての知識・理解・書式について。実習——封筒の書き方。
3	手紙の実習と諸注意。——手紙についての留意事項を葉書・封書・往復葉書・海外郵便等で学ぶ。実習——父母への手紙
4	作家の手紙の考察——藤村、漱石はじめ作家の書簡から学ぶ。資料としての手紙——詩から散文へ（藤村の小諸時代）
5	文章の書き方——テキスト①の座談会の要約、メモのとり方を学ぶ。材料（題材）の収集メモ——記録のもつ力、継続の力の尊さを知る。
6	原稿用紙の書き方——原稿用紙の正しい表記、句読点や段落の理解。文は人なり、文章は段落なりということ。
7	文題と内容——一般題と特殊な文題の理解。段落と構成のしかた。
8	漢字の学習——漢字の字源・構成・誤り易い漢字や熟語、身につけたい160の漢字。
9	文章の書き方——望ましい文章とは？機能的な文章への関心を深める。文章の種類とそれに応じた書き方を学ぶ。
10	文章論に学ぶ——作家の文章読本・文章論を通じて、文章のあるべき姿を知る。書き出しの工夫・結びの要領を学ぶ。
11	文学碑のことば——作家の文学碑に刻まれたことばや文章を通じて、ことばの力を考える。それぞれの作家の特色の理解（テキスト②）
12	埼玉県の文学碑——文学碑一覧から、学園近辺の文学碑の理解。レポートのまとめ方——文学碑探訪等の記録・紀行文をまとめる（例）芭蕉と草加。埼玉の文学者、郷土の文学碑など。
備考	

後期

週	主 要 テ ー マ
1	前期答案の返却と概評。「ことしの夏を語る」感想発表のためのメモ。実作——「ことしの夏」
2	作家の文章の考察——短編を選び、主題、起筆、結筆の要領、構成などについて考える。
3	かな（カナ）文字について——「あいうえお」五十音、「いろは歌」四十七文字の由来、平がな、カタカナの由来、変体仮名について学ぶ。
4	作家と文章——好きな作家を選び、その文章の特色を考え、文章の道を学ぶ。作家とエッセイ、作家と題材、作家のペンネームの由来を考える。
5	外来語——新聞・雑誌に登場するカタカナ語・外来語の理解と文章中での生かし方。キーワードについて。実習——カタカナ語の収録
6	新聞に学ぶ——日刊新聞を通じて新聞のあるべき姿、その概要を知る。社説、コラムの文章、見出しと内容など実習——新聞記事の切抜き
7	新聞に学ぶ——新聞・雑誌の編集について。割付けということ。作家・文人の文章、一般人の投稿文などについて。
8	作家の文章論に学ぶ——作家の文章読本・文章論を読んで、文章のあり方を学ぶ。（例）丸谷オー「文章読本」名文を読めということ。
9	短詩型文学について——日本の韻文としての和歌・俳句・詩・川柳などさまざまな短詩型文学を理解する。実作——短歌・俳句を作る。
10	レポート・論文のまとめ方——アンケートの作り方、資料を生かしてレポートのまとめ方、論文でいかに文章を構成するかなど。実作——「大学生活とは」他
11	自分史のまとめ——現在までの年譜の作成。その中のある時代の文章化を試みる。その積み重ねで自分史をまとめる。実作——「～のころ」
12	情報や資料の生かし方——溢れる情報洪水の中から、いかに資料を選択し収集し、生かすかを学ぶ。研究論文まとめの要領。
備考	

科目名	文化人類学	担当者名	井上兼行
-----	-------	------	------

講義の目標	文化人類学は、文明社会から最も遠い位置にある未開社会の文化を、異文化として理解しようとする学問である。事例を通しつつ、そのおおよそを知る。	
講義概要	文化人類学は西欧社会に形成された。そこでその形成の歴史を通して未開社会の文化に対する態度を明らかにし、次いでその独特な研究方法を述べ、後半は、いくつかの事例を通して異文化理解の仕方を講じてゆく。	
使用教材	テキスト	なし
	参考文献	随時紹介する。
評価方法	試験を考えているが、登録人数によってはレポート等もありうる。	
受講者に対する要望など	以下に示す日程はあくまで暫定的なものである（もっとも順序はこの通りであるが）ことを念頭においてほしい。	

## 年 間 講 義 予 定

### 前 期

週	主 要 テ ー マ
1	序——体どんな学問か
2	形成の歴史—(1) スペイン人のインディオ観(1)
3	" (2) " (2)
4	" (3) 16C後半～18C後半の西欧人の未開人観
5	" (4) 18C後半～19C後半の西欧人の未開人観
6	19C後半 文化人類学の誕生
7	文化人類学の研究対象である“文化”の概念(1)
8	" (2)
9	初期の理論となった“進化”の概念
10	“進化”理論による分析例
11	19C末～20C初 現代の文化人類学へ
12	研究方法としての“実地調査”
備考	

### 後 期

週	主 要 テ ー マ
1	後半は事例研究の講ずる。そのテーマは未定である。ここまでの話の脈絡から決めてゆく。
2	
3	
4	
5	
6	
7	
8	
9	
10	
11	
12	
備考	

科目名	自然科学概論	担当者名	福井 尚生
-----	--------	------	-------

講義の目標	<p>昨年10月30日、米CBSテレビがドラマの中で『世界中に小惑星が落下』のニュースを流しました。全米は一時パニック状態になったそうです。ハロウィンのいたずらニュースでした。でも小惑星の地球衝突の可能性は天文屋も示唆していますし、ゼロではありません。そうした環境の中でのいたずらニュースは効果抜群です。人間は環境に左右され勝ちです。その中で自然科学が自然の本質をどう見ようとして来たか、又理論をどうより普遍的に改良して来たか、“地球外文明”に焦点を合わせて探ってみようと思います。</p>	
講義概要	<p>地球外文明の</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 思想 多数世界論と唯一世界論</li> <li>2. 進化 利用するエネルギーに依る文明の段階</li> <li>3. 探査哲学 平凡性の原理、人間原理</li> <li>4. 探査計画 SETI</li> <li>5. 効能</li> </ol>	
使用教材	テキスト	<p>視聴覚教材 テキスト使用は未定</p>
	参考文献	
評価方法	<p>受講者数・学習態度（出席重視）を見て決めます。</p>	
受講者に対する要望など	<p>自分の頭で、ユニークに真面目に取り組んで下さい。尚、受講希望者は、本講義の目標・概要を読み各自の決意を100字以内にまとめたメモを最初の講義の日の17時までに直接 福井（中央棟702）に提出して下さい。</p>	

## 年 間 講 義 予 定

### 前 期

週	主 要 テ ー マ
1	
2	
3	
4	
5	
6	
7	
8	
9	
10	
11	
12	
備考	前・後期とも講義は概要に沿い、環境に対応しながら進めます。

### 後 期

週	主 要 テ ー マ
1	
2	
3	
4	
5	
6	
7	
8	
9	
10	
11	
12	
備考	

科目名	地球環境論	担当者名	加藤 僖重
-----	-------	------	-------

講義の目標	<p>この科目は特に法学部学生諸君のための講義で、近年、問題になっている様々な環境問題を生物学の立場から把握することを目指す。</p> <p>なお、生物学（A、B）と重複して履習することは出来ない。</p>		
講義概要	<p>身近な生物を理解するためにも、種々の環境問題にスポットを当てて講義を進めたい。そのためにも新聞・雑誌等に目を通すことが肝要である。</p> <p>必要に応じて一定のテーマについてのレポートを提出してもらう。</p>		
使用教材	テキスト	教科書：使用しない。	
	参考文献	参考書：講義中に必要に応じてコピー配布をする。	
評価方法	出席回数、通常のレポート、夏期休暇のレポート、定期試験の結果を総合して決定する。		
受講者に対する要望など			



# 年 間 講 義 予 定

## 前 期

週	主 要 テ ー マ
1	序論 一年間の講義の進め方を説明。特に現在問題を授業に取り入れるために、各自が意識的に新聞・雑誌を読み、それについてのレポート提出が多いことを理解してもらう。
2	日本の抱える環境問題① ヒトの影響が大きくなった地球。
3	日本の抱える環境問題② 人口増加に追いつかない食糧の総量。
4	トピックス① 新聞・雑誌記事を読み、レポート提出。
5	生態系、無機物→有機物→……→……→の流れにのって。
6	同 上
7	ナショナルトラスト制度 地域文化を保存するために。
8	同 上
9	トピックス② 新聞・雑誌記事を読み、レポートを提出。
10	国立公園制度 手本はアメリカ？、ヨーロッパ？
11	同 上
12	身近な自然 夏期休暇のレポートを書くために。
備考	

## 後 期

週	主 要 テ ー マ
1	後期の序論 後期講義の進め方を説明。
2	種の多様性保全条約 なぜ他の生物を守らなければならないか。
3	ラムサール条約 日本のフライウェイを渡る鳥たち。
4	トピックス④ 新聞・雑誌記事を読み、レポート提出。
5	ワシントン条約 絶滅の危機に瀕している動植物。
6	同 上
7	同 上
8	同 上
9	同 上
10	トピックス⑤ 新聞・雑誌記事を読み、レポートを提出。
11	豊かな生活とは 地球環境を守るために。
12	まとめ 一年間のまとめと試験の説明。
備考	

科目名	情報処理	担当者名	各担当教員
-----	------	------	-------

講義の目標	<p>法学部の学生が4年間の学習・研究生活に必要な情報処理の基礎を講義およびコンピュータ実習を通して勉学、学習を行なうものである。例えばレポート、卒論において</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○文章はワープロを使用</li> <li>○文献は図書館のデータベースを使用して探す</li> <li>○データは統計計算等による処理を通してグラフ等に整理する</li> </ul> <p>等々がコンピュータを通してできることを指す</p>		
講義概要	<p>講義および実習を通して上記の目標を達成するためワープロソフト・表計算ソフトの使用方法を始め、コンピュータを中心とした情報処理全般のテーマを扱う。</p> <p>講義計画が後述してあるが、各テーマの取り扱われる順序、時間配分は各教員により異なります。またこれら以外のテーマも扱われますので担当教員に確かめて下さい。</p>		
使用教材	テキスト		
	参考文献	各教員が適宜に指定する。	
評価方法	<p>原則として試験およびレポートを中心に評価する。出席も重要な考慮ポイントである。詳しくは各教員に聞くこと。</p>		
受講者に対する要望など	<p>最初のうちは“習うより慣れる”です。くり返しの勉強（復習）が必要でしょう。</p>		

## 年 間 講 義 予 定

主 要 テ ー マ	
1	イントロダクション 情報化社会（コンピュータの歴史、情報と産業、コンピュータの将来） 情報と倫理
2	入力装置とキーボード QWERTY 配列 マウス 他
3	日本語ワードプロセッサ カナ入力、ローマ字入力 編集（複写、移動、文字サイズ等々）
4	MS-DOS ファイル管理等々
5	表計算 スプレッド・シート 統計処理 等
6	コンピュータ概説 ハードウェア・ソフトウェア コンピュータの仕組、等
7	情報の表現とコンピュータ 文字コード 等
8	ネットワーク ビットネット
9	データベース 図書検索 等
10	コンピュータ・システム オンライン、TSS、etc.
11	
12	
備考	各テーマの順序、時間配分は教員により異なる。上記以外のテーマも各教員ごと扱います。

主 要 テ ー マ	
1	
2	
3	
4	
5	
6	
7	
8	
9	
10	
11	
12	
備考	

科目名	統計学	担当者名	富田幸弘
-----	-----	------	------

講義の目標	<p>近代統計学の手法は、品質管理、種々の調査、実験データの処理などを通じて広く社会一般に受け入れられ、経済学や経営学を含む諸科学にも多くの貢献をしてきている。特に、近年のコンピュータの発達はそのデータの取り扱いと統計的方法への接近を容易にしている。こうしたことから、統計学の背景にある科学的方法としての理論の枠組とその重要性を十分に理解し、応用能力を身につけることを目標としている。</p>	
講義概要	<p>出来るだけ具体的な問題を意識しながら教科書にそって進める。その内容は以下のようなものである。</p> <p>(1)記述的な統計  (2)初歩的な確率論と確率分布  (3)統計的推定  (4)統計的仮説検定</p> <p>講義内容を良く理解してもらうために、適宜演習問題に取り組んでもらう。</p>	
使用教材	テキスト	・池田貞雄・松井敬・富田幸弘・馬場善久共著『統計学—データから現実をさぐる』内田老鶴圃
	参考文献	
評価方法	<p>前期と後期の2回の定期試験の結果により評価する。また、毎回の出席とレポートも考慮する。</p>	
受講者に対する要望など	<p>電卓が必要です。</p>	

# 年 間 講 義 予 定

前 期

※各週の〈 〉の中は、キーワードです。

週	主 要 テ ー マ
1	今年度の「統計学」の講義について 〈統計学、教科書とノート、定期試験と出欠席、評価〉
2	統計的な考え方と例 〈ゲーム、国勢調査、品質管理、コンピュータ〉
3	統計学の発達と先駆者 〈ガリレオ、コルモゴロフ、ピアソン、フィッシャー〉
4	データの整理(1) 〈尺度、平均値、分散、標準偏差〉
5	データの整理(2) 〈中央値、最頻値、範囲、四分位数〉
6	データの整理(3) 〈度数分布表、ヒストグラム、階級値、累積度数〉
7	データの整理(4) 〈簡便法、平均値、分散、標準偏差〉
8	データの整理(5) 〈散布図、共分散、相関係数、回帰直線〉
9	データの整理のまとめ
10	確率(1) 〈大数の法則、事象、順列、組み合わせ〉
11	確率(2) 〈互いに独立、条件付き確率、乗法定理、ベイズの定理〉
12	確率分布(1) 〈離散型確率変数、二項分布、漸化式、期待値〉
13	確率分布(2) 〈連続型確率変数、正規分布、標準化、二項分布の正規近似〉
14	確率と確率分布のまとめ
15	前期試験

後 期

週	主 要 テ ー マ
1	前期試験の結果と復習
2	母集団と標本(1) 〈乱数、標本調査、無作為抽出、統計的実験〉
3	母集団と標本(2) 〈母集団分布、標本分布、中心極限定理、自由度〉
4	統計的推定(1) 〈不偏推定量、推定、信頼係数、区間推定〉
5	統計的推定(2) 〈比率の推定、二項分布、信頼区間、サンプルサイズ〉
6	統計的推定(3) 〈母平均の推定、正規分布、相対効率、最尤推定〉
7	統計的推定のまとめ
8	統計的仮説検定(1) 〈帰無仮説、対立仮説、第1種の過誤、有意水準〉
9	統計的仮説検定(2) 〈比率の仮説検定、片側検定、両側検定、比率の差の仮説検定〉
10	統計的仮説検定(3) 〈 $2 \times 2$ の分割表、I型の分割表、独立性の仮説、 $r \times s$ の分割表〉
11	統計的仮説検定(4) 〈母平均の仮説検定、母平均の差の仮説検定、相関係数の検定〉
12	統計的仮説検定のまとめ
13	ノンパラメトリックな方法(1) 〈スピアマンの順位相関係数、ケンドールの順位相関係数、適合度検定〉
14	ノンパラメトリックな方法(2) 〈符号検定、順位和検定、ウイルコクソンの符号付き順位和検定〉
15	後期試験
備考	

科目名	統計学	担当者名	本田 勝
-----	-----	------	------

講義の目標	<p>我々の身の回りの様々なデータを解析し、推論していく統計学の手法は経済学や経営学の分野でもいろいろな形で応用されている。</p> <p>この講義の目的は、統計学の基本的考え方と、それを具体的に応用していく方法を習得することである。</p>		
講義概要	<p>記述統計学によって、データの整理のし方を述べる。</p> <p>確率分布の準備のために確率の概念を述べる。</p> <p>一般的な確率分布の考え方を述べる。</p> <p>いくつかの特殊な確率分布について述べる。</p> <p>標本分布の考え方について述べる。</p> <p>推定について、点推点、区間推定の順に述べる。</p> <p>統計的仮説検定について述べる。</p> <p>2変量の統計的解析について述べる。</p> <p>ノンパラメトリックな検定について述べる。</p>		
使用教材	テキスト	・拙著 『基本統計学』 産業図書	
	参考文献	・C. R. ラオ著 (藤越他訳) 『統計学とは何か』 丸善	
評価方法	前期および後期の定期試験と、レポート、出席調査による総合評価。		
受講者に対する要望など	各自、専用のノートを用意し、講義内容を記録すること。		

## 年 間 講 義 予 定

### 前 期

週	主 要 テ ー マ
1	統計的とは何かについて、統計学の導入を行なう。(母集団、標本、記述統計、推測統計)
2	標本として得られるデータの整理のし方について述べる。位置の尺度のとりえ方など。(度数分布、平均、中央値、最頻値)
3	ばらつきの尺度によるデータ特性の把握のし方について述べる。(分散、標準偏差、チェビシェフの不等式)
4	データ整理の方法を理解するための演習を行なう。
5	確率導入のための準備として、集合および事象について述べる。(和事象、積事象、順列、組み合わせ)
6	確率を導入し、加法定理、条件付確率および乗法定理について述べる。確率に関する問題演習を行なう。
7	確率度数と確率分布の考え方を述べ、離散型および連続型の例を考えてみる。
8	確率分布の数学的定義を、密度関数と分布関数を用いて説明し、分布の平均や分散などの特性値について述べる。
9	2項分布を例に、確率分布(離散型)の性質を調べる。
10	ポアソン分布の性質を調べる。問題演習。
11	連続分布とその特性について、一様分布、指数分布、正規分布を例に述べる。
12	正規分布の確率の求め方と確率度数の標準化について述べる。問題演習。(標準正規分布)
備考	

### 後 期

週	主 要 テ ー マ
1	標本分布とは何か、標本分布はどのような確率分布をするかについて述べ、中心極限定理についても言及する。
2	標本比率の分布はどのような確率分布をするかについて述べ、2項分布の正規近似についても言及する。
3	カイ2乗分布およびスチュードントのt分布を説明したあと、標本分散の確率分布について述べる。
4	母集団パラメータの推定について、点推定、区間推定の考え方を述べる。(不偏推定量、信頼係数)
5	母平均の区間推定のし方を述べる。問題演習。
6	母集団比率及び母分散の区間推定のし方を述べる。
7	統計的仮説検定の考え方と母平均の検定法について述べる。問題演習。(帰無仮説、対立仮説、検定の過誤)
8	2度数間の相関とは何かについて述べる。(共分散、正の相関、負の相関、完全相関)
9	回帰直線について述べる。(線形回帰、最小2乗法)
10	カイ2乗検定の考え方について述べる。問題演習。(適合度検定、分割表、独立性の検定)
11	ノンパラメトリック検定の考え方を述べる。(符号検定、順位和の検定)
12	一年間の総復習を行なう。
備考	

科目名	統計学	担当者名	松井 敬
-----	-----	------	------

講義の目標	<p>近代統計学の手法は、品質管理、種々の調査、実験データの処理などを通じて広く社会一般に受け入れられ、経済学、経営学を含む諸科学に大きく貢献をしてきた。近年は、コンピュータなどのデータ処理システムの目ざましい発展もあって、人間活動のあらゆる分野で広く利用されている。</p> <p>本講義は、統計学の基礎的な概念と方法について正確な知識と応用能力を身につけることを目標とするが、出来るだけ具体的な問題を意識しながら進めることにする。</p>				
講義概要	<p>前期では記述的な統計から始め、単純回帰、初歩的な確率論を経て、確率分布までを扱う。既知の内容も多いと思うが、後期で扱う応用のための方法論の基礎となるものなので、後期の内容との関連の上で体系的に説明してゆきたい。後期は、統計的方法として様々な分野で応用される内容を含んでいる。すなわち、推定、検定、ノンパラメトリック法などの理論と方法である。</p> <p>実験、観察、調査などには数量的なデータが付随するが、これらの処理にはデータの背景を十分に考えた適切な統計的方法を選択する必要がある。講義の中ではこういった点に十分配慮し、統計的応用に際して留意すべき点を明確にしてゆきたい。</p>				
使用教材	<table border="1"> <tr> <td>テキスト</td> <td>・池田貞雄、松井敬、冨田幸弘、馬場善久共著 『統計学—データから現実をさぐる』 内田老鶴圃</td> </tr> <tr> <td>参考文献</td> <td>上記テキストは入門書としてはかなり広い範囲をカバーし、しかも分かり易く説明しているので、特別に参考文献が必要とも思われない。この後で進むべき本としては、たとえば、竹村彰道『現代数理統計学』創文社などがある。洋書も数知れずある。また、応用のための各論的な本も数多い。興味のある学生は個別に相談してほしい。</td> </tr> </table>	テキスト	・池田貞雄、松井敬、冨田幸弘、馬場善久共著 『統計学—データから現実をさぐる』 内田老鶴圃	参考文献	上記テキストは入門書としてはかなり広い範囲をカバーし、しかも分かり易く説明しているので、特別に参考文献が必要とも思われない。この後で進むべき本としては、たとえば、竹村彰道『現代数理統計学』創文社などがある。洋書も数知れずある。また、応用のための各論的な本も数多い。興味のある学生は個別に相談してほしい。
テキスト	・池田貞雄、松井敬、冨田幸弘、馬場善久共著 『統計学—データから現実をさぐる』 内田老鶴圃				
参考文献	上記テキストは入門書としてはかなり広い範囲をカバーし、しかも分かり易く説明しているので、特別に参考文献が必要とも思われない。この後で進むべき本としては、たとえば、竹村彰道『現代数理統計学』創文社などがある。洋書も数知れずある。また、応用のための各論的な本も数多い。興味のある学生は個別に相談してほしい。				
評価方法	前・後期二回の期末試験による。				
受講者に対する要望など	講義内容をより良く理解してもらうために、適宜演習を取り入れている。そのために、電卓を常に持参してほしい。				



年 間 講 義 予 定

前 期

週	主 要 テ ー マ
1	統計学とは何だろうか：(1)統計学とはどんな学問か、なぜ統計学を学ぶのかについて概説する。あわせて、統計学の位置づけや統計的な考え方についても述べたい。(2)年間の授業の進め方、方針、その他。
2	統計学の考え方、データを記述する尺度：(1)統計的な見方、考え方とはどんなことか。(2)変量(変数)と尺度。(3)データを記述する尺度について。
3	データを記述する尺度：(1)位置と散らばりの尺度、(2)データを記述する様々な尺度の意味と特徴およびそれらを求める(計算する)上での注意。(3)度数分布表、ヒストグラムなど。
4	2つの変数の間の関係をさぐる-1：身長と体重、需要と供給、打率と打点といった2つの変数の間の関連性を説明する尺度について考える。相関係数と回帰。
5	2つの変数の間の関係をさぐる-2：2つないし3つ以上の変数間の“線型”な関係を調べる。回帰直線、重回帰。
6	確率-1：(1)なぜ確率を学ぶか、どんな点に注意すべきか。(2)確率を考える立場、用語、定義。
7	確率-2：(1)順列、組み合わせなど。(2)独立性など事象についての諸概念。(3)条件付き確率、ベイズの定理。(4)復元抽出、非復元抽出。
8	確率分布-1：(1)確率の考えを借りて、試行(実験)の結果を分布という概念でとらえる。(2)離散型確率分布-超幾何分布、二項分布、ポアソン分布など。
9	確率分布-2：(1)確率分布の意味を再考し、一般化する。(2)離散型確率分布の平均値と分散、期待値。
10	確率分布-3：(1)連続型確率分布-連続型確率分布の意味。(2)正規分布-分布の形状、特徴その他。
11	正規分布その他：データ処理の様々な場で見られる正規分布とその周辺のことについて考察する。(1)正規分布。(2)二項分布の正規近似。(3)その他の連続分布。(4)連続型確率分布の平均と分散(期待値)。
12	データの要約：(1)データを記述する尺度とデータの特徴づけを終えたところで、統計的な考え方を再考する。(2)前期のまとめ。
備考	

後 期

週	主 要 テ ー マ
1	無作為標本(ランダム・サンプル)、母集団と標本-1：母集団と標本の概念は、現代の統計学の枠組みを与えていて大変重要。(1)無作為標本。(2)乱数、無作為抽出法。(3)母集団と標本、統計量、標本分布。
2	母集団と標本-2：(1)標本平均の標本分布、中央値の標本分布、一般に標本分布。(2)中心極限定理。カイ2乗分布、t-分布、F-分布。
3	推定-1：標本(サンプル)にもとづいて母集団のパラメータ(母数)を推定する一方法とその意味。(1)点推定。(2)比率の区間推定。(3)サンプルの大きさについて。
4	推定-2：(1)正規分布の母平均 $\mu$ の区間推定。(2)なぜ標本平均を用いるか-推定量の意味、推定量の性質、推定量の比較。(3)最尤推定法-データから母数を探る。
5	統計的仮説検定-1：“仮説”の検定を、どんな考え方にそって行うのかを、まず、(1)手法(考え方)の理解、次に、(2)様々な場合への対応という点から理解してもらう。
6	統計的仮説検定-2：(1)比率の検定-考え方と手順。(2)2x2表-2x2表にもとづく検定の意味。
7	統計的仮説検定-3：(1)2x2表-モデルとの関連、タイプの異なる2x2表。(2)rxs表
8	統計的仮説検定-4：正規分布の母平均の検定-母集団が1つの場合、母集団が2つの場合(平均の差の検定)。それぞれの場合について、分散が既知、未知の場合にわけて検討する。
9	統計的仮説検定-5：(1)相関係数の検定、分散の検定(母集団が1つの場合、2つの場合)。(2)一般に統計的仮説検定を行う際の手続きと注意-具体例を通して、統計的仮説検定の問題を考えてみる。
10	ノンパラメトリックな方法-1：(1)ノンパラメトリックな方法とは？なぜノンパラメトリックな方法を用いるのか。(2)順位相関係数。(3)符号検定。
11	ノンパラメトリックな方法-2：(1)順位にもとづく検定。(2)適合度検定。
12	統計的推測：(1)統計的方法の枠組みの理解と様々な手法の関連を再考する。(2)後期のまとめ。
備考	

科目名	健康学	担当者名	久松一恵
-----	-----	------	------

講義の目標	<p>一般に人が幸福であるためには心身の健康を欠くことができず、社会の発展にとっても人々の健康は必要であるが、さらに近年は各国の健康水準はその社会生活の状況を統合して表わすものであると認識されるに至り、1980年代以降、国際的に健康指向の時代に入った。高度化する科学技術文明社会の中での生活、及び開発途上国の生活文化に潜在する健康危険要因を、可能な限り、回避し、あるいは克服していくためには、基本的に何を知り、心得ておくべきか、また実践すること、将来に期待することについて考える。</p>	
講義概要	<p>健康学は健康の価値を問う学問ではなく、健康であることの条件を科学的に探究し、それに基づいた生活の仕方を具体的に検討する技術の学問である。</p> <p>本講義では、まず健康及びその周辺概念を紹介する。次に現代社会における心の健康問題と物的生活環境の整備、疾病予防の諸問題を取上げる。</p> <p>適宜、視聴覚教材を使用し、環境測定の実演も予定している。</p>	
使用教材	テキスト	なし
	参考文献	厚生統計協会編集・発行『国民衛生の動向』（厚生指針臨時増刊号） 課題に応じてプリントを配布し、参考書を紹介する。
評価方法	学期末の定期試験による。授業への出席状況も考慮する。	
受講者に対する要望など	講義予定は、多少、ずれることがあるかもしれない。	

## 年 間 講 義 予 定

### 前 期

週	主 要 テ ー マ
1	健康学 (HEALTH SCIENCES) の構成と歴史
2	健康学の実践的課題と現状
3	健康概念に関連する用語 1)健康、プライマリ・ヘルス・ケア
4	2)不健康 3)疾病、疾病予防の三段階
5	4)障害、障害者対策の基本理念
6	5)リハビリテーション 6)看護・介護
7	7)死 (脳死、安楽死・尊厳死等を含む)
8	精神の健康 1)精神・心の存在 2)脳の構成と機能
9	3)精神の健康度 4)精神的不健康
10	5)精神の不調①
11	6)精神の不調②
12	7)精神障害の予防と対策
備考	

### 後 期

週	主 要 テ ー マ
1	生活環境と健康 1)病原(微)生物と健康 ①感染症予防の原則
2	②HIV 感染症の問題点
3	③食中毒の予防、下痢用経口液
4	2)化学物質の毒性と安全性
5	①その実際 (嗜好品、医薬品)
6	②その実際 (食品添加物、農薬、飲料水の問題等)
7	3)放射性物質と放射線
8	①放射線防護 ②環境汚染問題
9	4)建築物内の環境管理
10	成人病と老人保健の諸問題
11	家族と健康
12	講義のまとめ
備考	

科目名	体育Ⅰ・体育Ⅱ アウトドアトレーニング（前期） アウトドアレクリエーション山岳型（集中授業）	担当者名	和田 智
-----	--	------	------

講義の目標	山岳型野外活動の基本的な知識と技術の習得・グループワークトレーニングを前期授業の中で行い、実践の場として集中授業で山へ出かけていく。これらの活動を通して、将来個人で、また家族で、安全で快適に自然を享受できる能力を身につけることを目標とする。		
講義概要	<ul style="list-style-type: none"> <li>・志賀高原で実施する集中授業に向けて、必要な知識、技術を前期学内の授業でグループワークを中心に学ぶ。集中授業では、ホテルをベースに、毎日変化に富んだコースを歩き、志賀高原の自然を楽しむ。歩くコースはファミリー向けのハイキングコースだが、期間中歩く距離は30～40 kmに及ぶ。</li> <li>・学内の授業は、平常授業時間以外に週末を利用することもある。</li> <li>・集中授業では、日頃から歩き慣れていない者にとっては大変つらく感じるかもしれない。そのため、4泊5日を超える自信のある者、あるいは挑戦してみたい者の受講を望む。</li> <li>・集中授業は、必要経費（宿泊費・食費・保険料等）として35000円を第1週目のオリエンテーション時に獨協大学証紙にかえて持ってくること。</li> </ul> <p>集中授業は、期間：平成7年9月4日（月）～8日（木）4泊5日 場所：長野県志賀高原周辺（志賀パレスホテル泊）の予定 現地集合・現地解散とする。</p>		
使用教材	テキスト	ナシ	
	参考文献		
評価方法	出席状況（60%）、受講態度（40%）で評価する。		
受講者に対する要望など			

# 年 間 講 義 予 定

## 前 期

週	主 要 テ ー マ
1	オリエンテーション
2	グループ編成・グループゲーム
3	班別野外炊事打ち合わせ
4	班別野外炊事 その1
5	マップリーディング
6	コンパスゲーム
7	野外技術 その1
8	野外技術 その2
9	野外技術 その3
10	班別野外炊事打ち合わせ
11	班別野外炊事 その2
12	集中授業についてのオリエンテーション
備考	

## 後 期

週	主 要 テ ー マ
1	後期授業なし
2	
3	
4	
5	
6	
7	
8	
9	
10	
11	
12	
備考	

科目名	体育Ⅰ・体育Ⅱ インラインスケート	担当者名	加藤雅子
-----	----------------------	------	------

講義の目標	<p>インラインスケートに乗る感覚を覚える。</p> <p>フォアとバックのスケータリングや、ターン等、乗る位置を確認して使い分けて滑ることを学ぶ。</p> <p>一人で滑るだけでなく、二人で滑るときのポジションや、滑り方を学ぶ。</p>	
講義概要	<p>スケータリング、クロス、ステップ、ターンなど、基本的な滑り方や足の置き方、動作を学ぶ。</p> <p>パイロンを使ったスラロームや、ローラーホッケーを体験する。</p> <p>ビデオで、スケータリング等をチェックし、客観的に運動を観察することを学ぶ。</p> <p>雨天時には、3棟1階の体育掲示板で集合場所を指示する。</p>	
使用教材	テキスト	なし
	参考文献	なし
評価方法	出席状況、授業態度、レポート、技術の向上を加味して評価する。	
受講者に対する要望など	<p>交通機関及び体調等やむを得ない理由以外の遅刻は認めない。</p> <p>動きやすい服装で受講すること。</p> <p>ソックスは必ず着用すること。</p>	

# 年 間 講 義 予 定

## 前 期

週	主 要 テ ー マ
1	オリエンテーション イメージビデオの視聴
2	安全のための諸注意 靴の選び方、履き方 転び方、立ち方、歩行、ヒールストップ
3	フォア歩行 ヒールストップ フォア・スケーティング
4	パイロンを使った歩行、ひょうたん、片ひょうたん
5	パイロンを使った両足カーブ、片足カーブ T字ストップ
6	バック歩行 バックひょうたん
7	バックスケーティング
8	バックからフォアへチェンジ (踏み替え)
9	フォアからバックへチェンジ (踏み替え)
10	ターン スパイラル
11	ローラーホッケー
12	ローラーホッケー
備考	

## 後 期

週	主 要 テ ー マ
1	前期の復習
2	フォアクロスの導入
3	フォアクロス
4	バッククロス of 導入
5	バッククロス
6	パワーストップ ダンスのポジション学習
7	ダンス
8	プログラム作成
9	プログラム
10	これまでの復習
11	ローラーホッケー
12	ローラーホッケー
備考	

科目名	体育Ⅰ・体育Ⅱ インラインスケート	担当者名	和田 智
-----	----------------------	------	------

講義の目標	インラインスケート基本技術の習得	
講義概要	<p>インラインスケート初心者でも受講可能。          スケート靴、プロテクター類はすべて大学で用意している。          動きやすい服装で受講すること。          ソックスは必ず用意すること。</p>	
使用 用 教 材	テキスト	ナシ
	参考文献	
評価方法	出席状況 (60%)、受講態度 (20%)、テストの結果 (20%) で評価する。	
受講者に対する要望など		



## 年 間 講 義 予 定

### 前 期

週	主 要 テ ー マ
1	オリエンテーション・イメージビデオの視聴と理論
2	靴・プロテクター合わせ、安全のための諸注意、ストップング
3	歩行からフォアストローク・フォアひょうたん
4	パイロンを利用したフォアひょうたん
5	片ひょうたんからスネークへ
6	パイロンを使ったスネーク・バックストロークの導入
7	バックひょうたん
8	バック片ひょうたん その1
9	バック片ひょうたん その2
10	テストパターンの練習
11	テスト
12	テスト
備考	

### 後 期

週	主 要 テ ー マ
1	前期の復習
2	ターン
3	パワースライド
4	フォアクロス その1
5	フォアクロス その2
6	フォアクロス その3
7	ダンスの練習
8	ダンス
9	バッククロス
10	テストパターンの練習
11	テスト
12	テスト
備考	

科目名	体育Ⅰ・体育Ⅱ インラインスケート アウトドアレクリエーション海浜型（集中授業）	担当者名	和田 智
-----	--	------	------

講義の目標	<p>前期インラインスケートでは、基本的なスケート技術の習得を目標とする。</p> <p>集中授業アウトドアレクリエーション海浜型では、スキンドайビング、ウインドサーフィン、カヤック、フィッシングに関わる知識・技術の習得を通して、海という自然環境と関わる楽しさを追求していく。</p>	
講義概要	<ul style="list-style-type: none"> <li>・用具、施設の都合から、募集人数は男子20名、女子20名までとする。</li> <li>・インラインスケート実施時にはソックスを必ず用意すること。</li> <li>・インラインスケート、スキンドайビングは未経験者でも受講可能。ただし、海での活動に支障のある疾患を持つものは受講できない。</li> <li>・集中授業の必要経費（宿泊費・食費・保険料等）として30000円を第1週目のオリエンテーション時に獨協大学証紙にかえて持ってくること。</li> </ul> <p>集中授業は、期間：平成7年7月25（火）～29日（土）4泊5日 場所：新潟県佐渡郡赤泊村菴場（むしろば）海水浴場の予定 現地集合・現地解散とする。</p>	
使用教材	テキスト	なし
	参考文献	
評価方法	出席状況（60%）、受講態度（20%）、技術の向上度（20%）で評価する。	
受講者に対する要望など		

## 年 間 講 義 予 定

### 前 期

週	主 要 テ ー マ
1	オリエンテーション・イメージビデオの視聴と理論
2	靴・プロテクター合わせ、安全のための諸注意・ストッピング
3	歩行からフィアストロック・フォアひょうたん
4	パイロンを利用したフォアひょうたん
5	片ひょうたんからスネークへ
6	パイロンを使ったスネーク・バックストロックの導入
7	バックひょうたん
8	バック片ひょうたん その1
9	バック片ひょうたん その2
10	テストパターンの練習
11	テスト
12	テスト
備考	

### 後 期

週	主 要 テ ー マ
1	後期授業なし
2	
3	
4	
5	
6	
7	
8	
9	
10	
11	
12	
備考	

科目名	体育Ⅰ・体育Ⅱ インラインスケート スケート（集中授業）	担当者名	和田 智
-----	------------------------------------	------	------

講義の目標	<p>後期インラインスケートでは、アイススケートのための基本的なスケート技術の習得を目標にする。集中授業アイススケートでは、冬季の代表的なスポーツであるアイススケート・カーリングの実践を通して知識・技術を身につけることにより、将来に向けての余暇享受能力を開発することを目標とする。</p> <p>アイススケートでは、後期に実施してきたインラインスケートの技術を活かしながら、基本滑走、アイスフォークダンス、アイスダンス、アイスホッケー、ノルマの達成を通して、フォアクロス、バッククロスまでできることを技術的な目標に置く。</p> <p>カーリングでは、ゲームの楽しさを理解できる程度の知識、技術の習得を目標に置く。</p>	
講義概要	<ul style="list-style-type: none"> <li>・インラインスケート実施時にソックスを必ず用意すること。</li> <li>・インラインスケート、アイススケートの未経験者でも受講可能。</li> <li>・インラインスケートに関わる用具はすべて大学で用意しているが、アイススケートの靴については、自分の靴を準備することが望ましい。</li> <li>・集中授業の必要経費（宿泊費・食費・保険料等）として40000円を第1週目のオリエンテーション時に獨協大学証紙にかえて持ってくること。</li> </ul> <p>集中授業は、期間：平成7年12月18（月）～22日（金）4泊5日 場所：長野県軽井沢スケートセンター（塩壺温泉ホテル）の予定 現地集合・現地解散とする。</p>	
使用教材	テキスト	なし
	参考文献	
評価方法	出席状況（60%）、受講態度（20%）、技術の向上度（20%）で評価する。	
受講者に対する要望など		

年 間 講 義 予 定

前 期

週	主 要 テ ー マ
1	前期授業なし
2	
3	
4	
5	
6	
7	
8	
9	
10	
11	
12	
備考	

後 期

週	主 要 テ ー マ
1	オリエンテーション・イメージビデオの視聴と理論
2	靴・プロテクター合わせ、安全のための諸注意 ストップング
3	歩行からフィアストロック フォアひょうたん
4	パイロンを利用したフォアひょうたん
5	片ひょうたんからスネークへ
6	パイロンを使ったスネーク バックストロックの導入
7	バックひょうたん
8	バック片ひょうたん その1
9	バック片ひょうたん その2
10	テストパターンの練習
11	テスト
12	テスト
備考	

科目名	体育Ⅰ・体育Ⅱ 硬式テニス	担当者名	小 俣 充
-----	------------------	------	-------

講義の目標	テニスというスポーツをどのように理解し、どのような目標を設け、どのように取り組むのかを確定し、その取り組み方に必要なこと（基礎）の獲得を目指す。		
講義概要	アグレッシブ・テニスに必要な基礎（ボレー）と、それぞれの動作を確かなものにする意識の働きについて学ぶ。多岐にわたる基礎を簡潔にまとめ、個々に身についた動作の修正を含めて繰り返し練習する。		
使用教材	テキスト		
	参考文献	1 ベスト・テクニック・テニス 日本プロテニス協会編、学習研究社 2 テニスのメンタルトレーニング ロバート・S・ワインバーグ、大修館書店 3 スポーツを読む 稲垣正浩、三省堂	
評価方法	出席回数をベースにし、テニスにどれほど集中し努力したかにより評価		
受講者に対する要望など	経験者（中級以上：フォアとバックのストロークおよびボレーがひと通り打てる）のみ受講可。		

## 年 間 講 義 予 定

前・後期とも受講者の実態と進歩の状況により、次ぎのテーマを順次取り上げる。また個々のプレーを映像でとらえ、研究する。

1. 身体の構えと加重
2. 身体の動き
3. フットワーク
4. グリップ
5. ボレーの原型
6. ラケットのセット
7. ラケットの動き
8. 打点
9. 目線（バックとフォアの見分け）

科目名	体育Ⅰ・体育Ⅱ 硬式テニス	担当者名	小 俣 充
-----	------------------	------	-------

講義の目標	テニスというスポーツをどのように理解し、どのような目標を設け、どのように取り組むのかを確定し、その取り組み方に必要なこと（基礎）の獲得を目指す。		
講義概要	アグレッシブ・テニスに必要な基礎（ストローク）と、それぞれの動作を確かなものにする意識の働きについて学ぶ。多岐にわたる基礎を簡潔にまとめ、個々に身についた動作の修正を含めて繰り返し練習する。		
使用教材	テキスト		
	参考文献	1 ベスト・テクニック・テニス 日本プロテニス協会編、学習研究社 2 テニスのメンタルトレーニング ロバート・S・ワインバーグ、大修館書店 3 スポーツを読む 稲垣正浩、三省堂	
評価方法	出席回数をベースにし、テニスにどれほど集中し努力したかにより評価		
受講者に対する要望など	経験者（中級以上：フォアとバックのストロークおよびボレーがひと通り打てる）のみ受講可。		



## 年 間 講 義 予 定

前・後期とも受講者の実態と進歩の状況により、次ぎのテーマを順次取り上げる。また個々のプレーを映像でとらえ、研究する。

1. 身体の構えと加重
2. 身体の軸と身体の動き
3. フットワーク
4. グリップ
5. ストロークの原型
6. ラケットのセット
7. ラケットの動き
8. 打点
9. 目線 (バックとフォアの見分け)

科目名	体育Ⅰ・体育Ⅱ 硬式テニス	担当者名	田中茂宏
-----	------------------	------	------

講義の目標	<p>技術的には、フォア、バックの両ストロークを中心にラリーが続けられる様になり、ゲーム形式の練習時ではゲームの進め方、ルールを学んでもらう。</p>		
講義概要	<p>ストロークの練習、ボレー、サービスの練習を中心に行い、授業の後半では、ゲームの結果を記録する。</p> <p>能力別のグループ分けを行い、レベルに応じて授業を進める。</p> <p>グループ対抗のゲームを通してルール、ゲームの進め方を学ぶ。</p> <p>出欠点呼を毎回実施し、やむを得ない場合を除き遅刻を認めない。</p> <p>雨天時には3棟1階の体育掲示板で集合場所等を指示する。</p> <p>着替えを忘れた者は授業への出席を認めない。</p> <p>見学者は着替えた後に出席すること。</p> <p>授業はテニスコートで実施する。</p>		
使用教材	テキスト	なし	
	参考文献	なし	
評価方法	出欠状況、授業態度を中心として、技能の向上・リーグ戦の成績を加味して評価する。		
受講者に対する要望など	<p>クレーテニスコートを使用するので必ずテニスシューズで出席すること（他のシューズは認めない） 出欠状況は各自で覚えておくこと。</p>		

## 年 間 講 義 予 定

### 前 期

週	主 要 テ ー マ
1	授業登録の確認と授業内容の説明、個人の資料の作成。
2	準備体操各種と実施上の注意。用具の準備の仕方と片付け方。 ストロークを中心に練習し、ラリーが続けられる様にする。
3	準備体操を毎回実施する。能力別のグループ作成。
4	準備体操を毎回実施する。能力別のグループ作成。
5	準備体操を毎回実施する。能力別のグループ作成。
6	ストローク、ボレーを中心に練習する。
7	サーブを中心に練習し、ストローク・ボレーの練習を復習する。
8	サーブを中心に練習し、ストローク・ボレーの練習を復習する。
9	サーブを中心に練習し、ストローク・ボレーの練習を復習する。
10	サーブを中心に練習し、ストローク・ボレーの練習を復習する。
11	ゲームを行い、審判法、ルール、ゲームの進め方を習得する。
12	ゲームを行い、審判法、ルール、ゲームの進め方を習得する。
備考	

### 後 期

週	主 要 テ ー マ
1	夏休み明けなので準備体操を入念に行い、ゲームを記録する。
2	夏休み明けなので準備体操を入念に行い、ゲームを記録する。
3	夏休み明けなので準備体操を入念に行い、ゲームを記録する。
4	夏休み明けなので準備体操を入念に行い、ゲームを記録する。
5	グループ別の対抗戦を行い、記録する。
6	グループ別の対抗戦を行い、記録する。
7	グループ別の対抗戦を行い、記録する。
8	グループ別の対抗戦を行い、記録する。
9	グループ別の対抗戦を行い、記録する。
10	シングルスあるいはダブルスのトーナメントを実施し、記録する。
11	シングルスあるいはダブルスのトーナメントを実施し、記録する。
12	シングルスあるいはダブルスのトーナメントを実施し、記録する。
備考	

科目名	体育Ⅰ・体育Ⅱ 硬式テニス	担当者名	土井浩信
-----	------------------	------	------

講義の目標	テニスの授業を通して、体育とは何か、自分にとっての生涯スポーツの在り方とはどんなものであるかを考えていきたい。		
講義概要	テニスに関する技能学習が中心になるが、場に応じた課題を与えていく。スポーツの楽しさ、スポーツにとってのルール、他者観察力、自己観察力、自分自身の身体との対話能力、中心把握のポイント等々、授業を通して課題について考える。		
使用教材	テキスト	なし。※雨天時等に指導ビデオの教材を使用する。	
	参考文献	なし。	
評価方法	授業への出席度とレポートによる評価。		
受講者に対する要望など	テニスコート専用の運動靴（テニスシューズ）着用厳守。		

## 年 間 講 義 予 定

### 前 期

週	主 要 テ ー マ
1	授業説明と受講にあたっての諸注意。個人カード作成。
2	ラケットの基本的な持ち方握り方。グループ分け。用具の準備の仕方。フォアハンドの基本ストロークの学習。用具の片付けとコート整備の仕方。
3	フォアハンド（手なげトスのボール）。ショートラリー。バックハンド（手なげトスのボール）
4	サーブ練習の導入。球出し練習。テニス経験者、ゲーム指導（ローテーション方式）。
5	サービスとサービスレシーブ練習。連続グランドストロークのポイント式ゲーム導入。
6	ダブルスゲーム（ルールの説明、審判の仕方、ゲームケアのマナー）の導入。円滑なゲーム運営について役割確認。
7	ダブルスゲームと基本練習の場のセッティング。選択方式の練習導入。
8	ダブルスゲームと基本練習の場のセッティング。選択方式の練習導入。
9	ダブルスゲームと基本練習の場のセッティング。選択方式の練習導入。
10	ダブルスゲームのチーム戦開始。
11	ダブルスゲームのチーム戦開始。
12	ダブルスゲームのチーム戦開始。前期のまとめ
備考	

### 後 期

週	主 要 テ ー マ
1	ボレーの基本練習。ショートフライボールのボレー、ロングフライボールのボレー、ライナーボールのボレー連続。サービス、サーブレシーブの練習。
2	シングルスゲームの導入。ルールの説明、運営方法の確認。
3	シングルスゲームのチーム戦。動き方の基本、ポジショニングの学習。
4	シングルスゲーム・ダブルスゲームのチーム戦。
5	ダブルスゲームのゲーム評価の仕方。動きのチェック。
6	ダブルスゲーム（乱取り形式でのゲーム運営）。課題「全員が楽しめるテニスのプレイ」
7	ダブルスゲーム（乱取り形式） 課題「視・観・察」
8	ダブルスゲーム（乱取り形式） 課題「自分に最も適した運動リズムとフォーム」
9	ダブルスゲーム 課題「自己観察、他者観察」
10	ダブルスゲーム 課題「中心把握する能力」
11	ダブルスゲーム 課題「自分自身の身体との対話、イメージ能力」
12	一年のまとめと評価。レポート提出。
備考	

科目名	体育Ⅰ・体育Ⅱ 硬式テニス	担当者名	中 沢 克 江
-----	------------------	------	---------

講義の目標	テニスのゲームができるように基本的技術を習得し、体を動かし、楽しむ。ボールを打ち合いながら受講生同士の親睦を図る。	
講義概要	<p>基本的技術の習得</p> <p>ルール、マナーの理解</p> <p>ゲームを楽しむ</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ゲームはダブルスを行う。</li> <li>・ゲームのペアは、受講生同士の親睦を深めることを目的に組むので、教員が指示する。</li> <li>・技術レベル別リーグ戦では、受講生同士でペアを組み、レベル別を決める。</li> </ul>	
使用教材	テキスト	
	参考文献	
評価方法	<p>出席状況、受講態度、課題の理解度、技術を評価する。</p> <p>受講態度の中には、服装も対象とする。</p>	
受講者に対する要望など	<p>体育実技に適した服装で受講のこと。</p> <p>クレーコートに適するテニスシューズ必ず用意すること。</p>	

## 年 間 講 義 予 定

### 前 期

週	主 要 テ ー マ
1	オリエンテーション：授業に関する説明及び諸注意。個人資料の作成。
2	基礎練習：ラケットの使い方。ボールに慣れる。身体の使い方。等
3	基礎練習：グラウンドストローク。
4	基礎練習：グラウンドストローク。サービス。
5	基礎練習：グラウンドストローク。サービス。ボレー。 応用練習：グラウンドストローク。
6	基礎練習：グラウンドストローク。ボレー。サービス。 応用練習：簡易ゲーム＝ルール説明
7	応用練習：グラウンドストローク。ボレー。サービス。
8	応用練習：ダブルスゲーム＝ゲーム方法の説明。ルール説明。
9	ダブルスゲーム
10	ダブルスゲーム
11	ダブルスゲーム
12	ゲームを中心に、評価を行う。
備考	雨天の時は、内容を変更します。3棟の体育掲示板を見ること。

### 後 期

週	主 要 テ ー マ
1	基礎応用練習：グラウンドストローク他。
2	基礎応用練習中心で、ゲームも行う。 ゲームは男女別、男女混合でも行う。
3	ゲーム（ダブルス）中心。 応用練習：グラウンドストローク他。
4	ゲーム（ダブルス）中心。 応用練習：グラウンドストローク他。
5	ゲーム：ダブルス 第7週からの技術レベル別リーグ戦のためのダブルスペア作りの準備。
6	ゲーム：ダブルス 第7週からの技術レベル別リーグ戦のダブルスペアの決定。
7	ゲーム：技術レベル別ダブルスリーグ戦
8	ゲーム：技術レベル別ダブルスリーグ戦
9	ゲーム：技術レベル別ダブルスリーグ戦
10	ゲーム：技術レベル別ダブルスリーグ戦
11	ゲーム：技術レベル別ダブルスリーグ戦
12	評価を行う。
備考	雨天の時は、内容を変更します。3棟の体育掲示板を見ること。

科目名	体育Ⅰ・体育Ⅱ 硬式テニス	担当者名	松原 裕
-----	------------------	------	------

講義の目標	「大学は学問を通じての人間形成の場である」という建学の理念に基づき、硬式テニスを通じてフェアプレーを多角的に理解し習得する事を目標とする。		
講義概要	<p>選択の際には男女・技術のレベルは問わないが、ダブルスの試合ができるようになることを目標とする。一面6人×6面=36名を定員とし、40名以上は抽選となる。</p> <p>基本技術では、ストロークよりもサーブ、レシーブ、ボレーに中心をおいて練習する。ゲームの要素を早い時期から取り入れ、分習法よりも全習法が主体となる。コートが使用できない場合には他の場所を使用して練習するか基礎的な理論を講義する。</p>		
使用教材	テキスト	『テニス教本』 社団法人日本プロテニス協会編	
	参考文献	<ul style="list-style-type: none"> <li>・VTR「突然変わり出す覚え方」 サーブの新打法とネットダッシュ 宮村 宏</li> <li>・VTR「突然変わり出す覚え方」 ネットプレーの新技术 宮村宏</li> </ul>	
評価方法	毎時間の出欠席、受講態度、技術の進歩、テストなどを総合して評価する。服装も評価の対象となる。遅刻は認めないのでその時間の実技を受講できない場合がある。		
受講者に対する要望など	必ず、コートに適合したテニスシューズを各自で用意する事。受講生の能力によって授業内容が決定されることなく、常に工夫してレベル向上を目指す態度を持ち続ける事。		



## 年 間 講 義 予 定

### 前 期

週	主 要 テ ー マ
1	オリエンテーション ○個人票の作成(写真添付) ○授業実施上の諸注意
2	個人のビデオ撮影① ○サーブ ○ストローク ○ボレー ○スマッシュ
3	個人のビデオ撮影② ○サーブ ○ストローク ○ボレー ○スマッシュ
4	技術レベルごとに班編成をし班別に練習① ○サーブ ○ストローク ○ボレー ○スマッシュ
5	技術レベルごとに班編成をし班別に練習② ○サーブ ○ストローク ○ボレー ○スマッシュ
6	技術レベルごとに班編成をし班別に練習③ ○サーブ ○ストローク ○ボレー ○スマッシュ
7	技術レベルごとに班編成をし班別に練習④ ○サーブ ○ストローク ○ボレー ○スマッシュ
8	ダブルスの試合の進め方① ○審判法 ○ルール ○プレイヤーのマナー
9	ダブルスの試合の進め方② ○審判法 ○ルール ○プレイヤーのマナー
10	ダブルスの試合の進め方③ ○審判法 ○ルール ○プレイヤーのマナー
11	ダブルスの試合の進め方④ ○審判法 ○ルール ○プレイヤーのマナー
12	テスト ○審判法 ○ルール ○プレイヤーのマナー
備考	

### 後 期

週	主 要 テ ー マ
1	個人のビデオ撮影① ○サーブ ○ストローク ○ボレー ○スマッシュ
2	個人のビデオ撮影② ○サーブ ○ストローク ○ボレー ○スマッシュ
3	技術レベルごとに班編成をし班別に練習① ○サーブ ○ストローク ○ボレー ○スマッシュ
4	技術レベルごとに班編成をし班別に練習② ○サーブ ○ストローク ○ボレー ○スマッシュ
5	ダブルスの試合の進め方① ○プレイヤーの戦術的な動き
6	ダブルスの試合の進め方② ○プレイヤーの戦術的な動き
7	技術レベルごとに班編成をして団体戦①
8	技術レベルごとに班編成をして団体戦②
9	技術レベルごとに班編成をして団体戦③
10	技術レベルごとに班編成をして団体戦④
11	技術レベルごとに班編成をして団体戦⑤
12	総合テストまたはレポート
備考	

科目名	体育Ⅰ・体育Ⅱ 硬式テニス	担当者名	和気秀文
-----	------------------	------	------

講義の目標	主として日常生活における運動不足の解消と健康の保持、増進のために、生涯を通して運動（テニス）に親しんでもらう能力と態度を身につける。		
講義概要	前期は、個々の能力に応じた指導を行うために、初心者と経験者に分かれて練習を行う。初心者はグランドストロークの練習を中心に、経験者はアプローチショットやネットプレー等実践的な練習を中心に行う。尚、出来る限り短期間で技術の向上を図るために、ストロークやボレー等のビデオ撮影を行い、個々の欠点を細く分析してゆく予定である。後期は、初心者と経験者を合わせてグループ分けをし、グループごとの対抗戦（ダブルス）を行う。尚雨天時には、トレーニングルームおよび教室にて健康維持のため（減量、成人病予防を含む）の運動処方（運動の種類、強度、頻度等）について講義および実技指導を行う。		
使用教材	テキスト		
	参考文献		
評価方法	授業への貢献度によって決定する。		
受講者に対する要望など	必ずテニスシューズを着用すること。雨天時にも必ずトレーニングウェアを持参すること。		

## 年 間 講 義 予 定

### 前 期

週	主 要 テ ー マ
1	オリエンテーション（種目の選択、授業に関する注意事項等）。
2	テニスによる傷害（肉離れ、テニス肘等）予防と競技力向上を目的としたストレッチ等の具体的方法について学習する。
3	初心者はグリップの握り方とボールに慣れるための練習（ボールつきなど）を行う。経験者はグランドストロークの練習を中心に行う。
4	初心者はグランドストロークの練習を、経験者は主としてボレーの練習を行う。
5	初心者はグランドストロークの練習とボレーの練習を、経験者は、スマッシュの練習を中心に行う。
6	初心者、経験者に分け、6～8人のグループをつくる。そしてグループごとにストロークやボレーの練習を行う。ビデオ撮影。
7	上記に同じ。また、特に経験者のグループでは、サーブ、スマッシュやアプローチショット、ボレーの組み合わせなどの実践的な練習を中心に行う。ビデオ撮影。
8	上記に同じ。また、同じグループ内でダブルスのゲームを行う。その際、ゲームの進め方、審判の仕方も学習する。
9	上記に同じ。
10	上記に同じ。
11	上記に同じ。
12	グランドストローク、ボレーおよびルールについて簡単な試験を行う。
備考	

### 後 期

週	主 要 テ ー マ
1	前期に学んだ各技術の復習を行う。
2	初心者と経験者を合わせてグループ分けをし、同じグループ内でダブルスのゲームを行い、お互いの実力を確認しあう。
3	グループごとの対抗戦（ダブルス、4～6ゲーム先取の1セットマッチ）を行う。
4	上記に同じ。
5	"
6	"
7	"
8	"
9	"
10	"
11	"
12	サービスと試合を通して実践的技術の試験を行う。
備考	

科目名	体育Ⅰ・体育Ⅱ 硬式テニス スキー（集中授業）	担当者名	松原 裕
-----	-------------------------------	------	------

講義の目標	「大学は学問を通じての人間形成の場である」という健学の理念に基づき、硬式テニスとアルペンスキーを通じてフェアプレーを多角的に理解し習得する事を目標とする。		
講義概要	<p>選択の際には男女は問わないが、技術レベルは原則としてテニス・スキーとも経験者とする。硬式テニスはダブルスのゲームを目標とし、一面6人×6面=36名を定員とし、40名以上は抽選となる。</p> <p>スキーはアルペンスキーの基本を理解し、身に付けることを目標としスキー実習は2月下旬秋田県田沢湖スキー場を予定している。</p> <p>学内の授業でコートが使用できない場合には他の場所を使用して練習するか基礎的な理論を講義する。</p>		
使用教材	テキスト	『ベーシック・スキー・テキスト』 板垣和男/佐々木明男著	
	参考文献	<ul style="list-style-type: none"> <li>・VTR「THIS IS THE オーストリアスキー」</li> <li>・VTR「スキー王国の上達マニュアル1」</li> <li>・VTR「スキー王国の上達マニュアル2」</li> </ul>	
評価方法	毎時間の出欠席、受講態度、技術の進歩、テストなどを総合して評価する。服装も評価の対象となる。遅刻は認めないのでその時間の実技を受講できない場合がある。		
受講者に対する要望など	必ず、コートに適合したテニスシューズを各自で用意する事。受講生の能力によって授業内容が決定されることなく、常に工夫してレベル向上を目指す態度を持ち続ける事。集中授業で団体生活ができる事。		

# 年 間 講 義 予 定

## 前 期

週	主 要 テ ー マ
1	オリエンテーション ○個人票の作成(写真添付) ○授業実施上の諸注意 *第2週より前期は授業がありません。
2	
3	
4	
5	
6	
7	
8	
9	
10	
11	
12	
備考	

## 後 期

週	主 要 テ ー マ
1	個人のビデオ撮影① ○サーブ ○ストローク ○ボレー ○スマッシュ
2	個人のビデオ撮影② ○サーブ ○ストローク ○ボレー ○スマッシュ
3	技術レベルごとに班編成をし班別に練習① ○サーブ ○ストローク ○ボレー ○スマッシュ
4	技術レベルごとに班編成をし班別に練習② ○サーブ ○ストローク ○ボレー ○スマッシュ
5	ダブルスの試合の進め方① ○プレイヤーの戦術的な動き
6	ダブルスの試合の進め方② ○プレイヤーの戦術的な動き
7	技術レベルごとに班編成をして団体戦①
8	技術レベルごとに班編成をして団体戦②
9	技術レベルごとに班編成をして団体戦③
10	技術レベルごとに班編成をして団体戦④
11	技術レベルごとに班編成をして団体戦⑤
12	総合テストまたはレポート
備考	

科目名	体育Ⅰ・体育Ⅱ ゴルフ	担当者名	野口昭彦
-----	----------------	------	------

講義の目標	<p>現代社会においては、健康増進、健康維持、またはストレス解消等さまざまな目的に応じて、身体活動を行う社会へと変化してきた。それは現代の生活環境の変化や悪化等により、各自のライフスタイルや体力に応じ、自分の健康は自分で創り上げていく、ウェルネス(WELLNESS)運動として生涯必要とされている現状である。</p> <p>このことを考慮し、学生時代にゴルフを媒介としての運動の基礎を体得し、永い人生に活用できる内容を展開する。</p>	
講義概要	<p>ゴルフは生涯スポーツとして適切な運動刺激があり、年齢やその人の体力、技能に応じプレーが可能のため、身体運動の習慣を身に付けることが期待でき、その楽しさを生涯味わうことができる。また、ゴルフはメンタルな要素を多く含んでおり、いかなる時でも冷静な判断で行動を行なうことで精神力や集中力を養い、人への思いやりや、気配等のエチケットやマナーを守り、周囲の人々の人間関係を大切にすることをスポーツである。以上の様にゴルフは非常に特徴のあるスポーツなので、技術の習得はもとより、ゴルフを通じて生活環境の変化や悪化等にも対応できる、精神力や体力を養い、永い人生での社会生活に貢献できることを期待したい。</p>	
使用教材	テキスト	適宜資料を配布する。
	参考文献	<ul style="list-style-type: none"> <li>・『はじめてのゴルフ』 谷口信弘、新星出版社</li> <li>・『ゴルフスウィング、レッスン』 伊能一郎、新星出版社</li> <li>・『ゴルフ基本』 学研</li> <li>・『ゴルフ上達の科学』 田中誠一、プレジデント社</li> <li>・『ティーチング・ゴルフ』 市村操一、ベースボールマガジン社</li> <li>・『ザ・アスレチックスウィング』 デビット・レッドベター、ゴルフダイジェスト社</li> </ul>
評価方法	出席を重視するが、履修態度や運動服装等もチェックする。また、簡単なテストを行なう。	
受講者に対する要望など	<p>降雨や降雨後グラウンドが使用不可能の場合は、教室にてビデオまたは、講義を行なう。</p> <p>年間講義予定は授業の進行状況により、変更の場合もある。</p>	

## 年 間 講 義 予 定

### 前 期

週	主 要 テ ー マ
1	1年間の履修概要の説明。
2	基礎知識＝エチケット、マナー、服装、クラブ構造と用途について。
3	前期は基礎技術を中心に行なう＝クラブの握り方、左手、右手の握り方、グリップとクラブフェスの関係について。
4	スタンス（身体の構え）＝両足と上体の構え、左腕、右腕の構え方、両足とボールの位置関係を中心に行なう。
5	正しいアドレスの入り方＝ボールの後方から球筋を見る、右手で目標ラインに合わせる、飛球線と平行に構える等を中心に行なう。
6	正しいスイングの基本＝スイングのスタート、バックスイングのトップ、ワンピーススイング等について行なう。
7	正しいスイングの基本＝ダウンスイングの開始、インパクト、フォロースルー等について行なう。
8	スイングの弧とショットの関係＝スイングの弧とボール位置、円軌道のタイプと飛球方向等について行なう。
9	タイミングの実際＝ダウンスイングの開始とタイミング、タイミングとリズムの関係を中心に行なう。
10	ミドルアイアの練習＝前回までの学習を踏まえて、ゴルフ練習場にて練習球を使用した練習。
11	ミドルアイアの練習＝確実にヒットすることを目標に。
12	ミドルアイアの練習＝ダウブローを中心とした打ち込み。
備考	

### 後 期

週	主 要 テ ー マ
1	前期授業で行なった練習の復習。
2	ショートアイアの練習＝目標に対して正確に打つ練習。
3	アプローチショット＝ピッチエンドラン、ランニングアプローチ、ピッチショット等コントロールを必要とする練習を中心に行なう。
4	ロングアイアンの練習＝苦手意識を捨てる事の練習を行なう。
5	ドライバー＝構えとボールの位置、アッパーブローに打つ、力まず力を抜いて打つ練習を中心に行なう。
6	フェアウェイウッド＝ドライバと同様の練習。
7	5、6週目と同じ練習。
8	応用スイング＝基本スイングを変化させ、応用スイングの知識を知る練習を行なう。
9	8週目と同じ練習。
10	各クラブの基本スイングを変化させ、応用スイングにて実戦的な練習を行なう。
11	10週目と同じ練習。
12	10週目と同じ練習。
備考	

科目名	体育Ⅰ・体育Ⅱ ゴルフ	担当者名	山中邦夫
-----	----------------	------	------

講義の目標	ゴルフの基礎技術を実習し、あわせて基礎戦術およびルール、マナーについても理解することによって、本コースでのプレーが楽しめるレベル獲得をめざす。	
講義概要	ゴルフの理論と実際の技能とのギャップを最小化できるよう、毎時の内容を工夫しながら展開する。まず、全体の動きづくりをめざし、リズムカルなスイング、さらには力強いスイングが出るよう、グループ練習、VTRを用いた分析等を用いた授業となる。	
使用教材	テキスト	特になし。
	参考文献	
評価方法	授業の出席状況、技能と理論のテストを総合して評価する。	
受講者に対する要望など	欠席をしないこと。初心者または初級者の受講を望む。登録時に、練習場のボール代(10,000円)を払込むこと。ゴルフクラブは各自で、靴はスニーカーまたはゴルフシューズを持参のこと。	



## 年 間 講 義 予 定

### 前 期

週	主 要 テ ー マ
1	オリエンテーション
2	ゴルフ競技の概要 (VTRと講義)
3	スイング、グリップ、スタンスについて (学内グラウンドで実習)
4	スイング、グリップ、スタンスについて (学内グラウンドで実習)
5	スイング (各種のクラブを用いて) の基本練習 ターゲットボードゴルフも行なう。
6	スイング (各種のクラブを用いて) の基本練習 ターゲットボードゴルフも行なう。
7	スイング (各種のクラブを用いて) の基本練習 ターゲットボードゴルフも行なう。
8	(学外の練習場で) VTRと練習器を用いての個人指導と各種クラブでの打撃練習。
9	(学外の練習場で) VTRと練習器を用いての個人指導と各種クラブでの打撃練習。
10	(学外の練習場で) VTRと練習器を用いての個人指導と各種クラブでの打撃練習。
11	(学外の練習場で) VTRと練習器を用いての個人指導と各種クラブでの打撃練習。
12	(学外の練習場で) VTRと練習器を用いての個人指導と各種クラブでの打撃練習。
備考	

### 後 期

週	主 要 テ ー マ
1	(学外の練習場で) VTRと練習器を用いての個人指導と各種クラブでの打撃練習 パットニングの練習も行なう。
2	(学外の練習場で) VTRと練習器を用いての個人指導と各種クラブでの打撃練習 パットニングの練習も行なう。
3	(学外の練習場で) VTRと練習器を用いての個人指導と各種クラブでの打撃練習 パットニングの練習も行なう。
4	(学外の練習場で) VTRと練習器を用いての個人指導と各種クラブでの打撃練習 パットニングの練習も行なう。
5	(学外の練習場で) VTRと練習器を用いての個人指導と各種クラブでの打撃練習 パットニングの練習も行なう。
6	(学外の練習場で) VTRと練習器を用いての個人指導と各種クラブでの打撃練習 パットニングの練習も行なう。
7	(学外の練習場で) VTRと練習器を用いての個人指導と各種クラブでの打撃練習 パットニングの練習も行なう。
8	(学外の練習場で) VTRと練習器を用いての個人指導と各種クラブでの打撃練習 パットニングの練習も行なう。
9	実技テスト：ショートアイアン (約80m先のグリーンをねらい、まっすぐ安定したボールが打てれば合格) ：ロングアイアンまたはドライバー (まっすぐ安定したボールが打てれば合格)
10	実技テスト：ショートアイアン (約80m先のグリーンをねらい、まっすぐ安定したボールが打てれば合格) ：ロングアイアンまたはドライバー (まっすぐ安定したボールが打てれば合格)
11	実技テスト：ショートアイアン (約80m先のグリーンをねらい、まっすぐ安定したボールが打てれば合格) ：ロングアイアンまたはドライバー (まっすぐ安定したボールが打てれば合格)
12	実技テスト：ショートアイアン (約80m先のグリーンをねらい、まっすぐ安定したボールが打てれば合格) ：ロングアイアンまたはドライバー (まっすぐ安定したボールが打てれば合格)
備考	

科目名	体育Ⅰ・体育Ⅱ ゴルフ	担当者名	吉田卓司
-----	----------------	------	------

講義の目標	<p>ゴルフは、老若男女を問わず容易にできる楽しいスポーツである。基本的な正しい知識や技術が上達の近道であると考えている。ゴルフプレーを通して、社会性やルールを遵守する態度を学び、正しい余暇活動の利用について習得して欲しい。</p>	
講義概要	<p>ゴルフ競技をするにあたり、ゴルフの歴史、ゴルフ用具や服装、エチケットについて講義する。次に、基本的技術をVTRビデオにより学習する。前期は主として、クラブの握り方、グリップとスタンスの方法を習得すると同時に正しいアドレス、正しいスイングの方法を反復練習により、フォームを作る。第7週までは、学内でプラスチック、ボールを使用して、打球する。第8週からゴルフ練習場にて、実習する。</p> <p>後期は、はじめから、ゴルフ練習場にて、実習する。雨天にかかわらず実習可能なので、直屬ゴルフ場に集合すること。ショートアイアン、ミドルアイアンの打法と1番・3番ウッドの打法を習得する。TVビデオを使用して、個人個人のスイングをチェック指導の予定である。</p>	
使用教材	テキスト	なし
	参考文献	なし
評価方法	<p>出席を重視し、普段の履習態度や運動服装等も評価の対象とする。テストは、アイアンとウッドの2回実施する。</p>	
受講者に対する要望など	<p>運動のできる服装で出席すること。手袋を必ず購入すること（汗でグリップがすべり、クラブが飛んでしまう危険性があるため）</p>	

年 間 講 義 予 定

前 期

週	主 要 テ ー マ
1	オリエンテーション
2	ゴルフの歴史と正しいマナーについて
3	基本的技術の TV ビデオ鑑賞
4	ショートアイアン (8, 9, PW, SW) のスウィング (グリップ、スタンス、アドレス、スウィングの方法をを習得する)
5	(学内でプラスチック・ボールを使用して実習)
6	(各人の個別指導) (正しいグリップ、スタンスの巾、正しいアドレスの入り方、スウィングの方法)
7	
8	ゴルフ練習場にて実習 ショートアイアン ミドルアイアン 基本的なスウィングと打球
9	(反復練習)
10	(個別指導: グリップ、スタンス、アドレス、スウィングのフォームなどのチェック)
11	
12	
備考	

後 期

週	主 要 テ ー マ
1	ゴルフ練習場にて、実習
2	アイアンショット (3, 5, 7, 9, PW, SW) 練習 (個別指導とフォームのチェック)
3	1番ウッド (ドライバー) 3番ウッド (スプーン) の打法と練習
4	(ロングアイアン3, 4) ショット練習
5	
6	TV ビデオを使用して、個人個人のスウィングをチェック指導
7	
8	
9	
10	テスト (アイアン、及びウッド) 及び実習
11	
12	
備考	

科目名	体育Ⅰ・体育Ⅱ サッカー	担当者名	田代力也
-----	-----------------	------	------

講義の目標	技術の習得、体力の向上をめざす。チームゲームの中で協調性を高める。正しいルールと、フェアで安全なプレイを学ぶ。	
講義概要	さまざまな基本練習から、攻撃、守備の展開、ゲームへと移行する。ゲーム毎にポイントを与え、確認する。 グラウンド不良時には、ビデオ等により、さまざまな角度からサッカーを学習する。	
使用教材	テキスト	
	参考文献	
評価方法	出席状況、遅刻、見学、参加態度に加えて、技術、技術を高めることへの努力、チームの中での協調性を評価する。	
受講者に対する要望など		

# 年 間 講 義 予 定

## 前 期

週	主 要 テ ー マ
1	年間講義予定については、第1週の授業で指示する。
2	
3	
4	
5	
6	
7	
8	
9	
10	
11	
12	
備考	

## 後 期

週	主 要 テ ー マ
1	
2	
3	
4	
5	
6	
7	
8	
9	
10	
11	
12	
備考	

科目名	体育Ⅰ・体育Ⅱ サッカー	担当者名	田中茂宏
-----	-----------------	------	------

講義の目標	<p>ゲーム形式中心の内容を通してゲームの進め方・ルールを学ぶ。          更にグループ別の練習を取り入れて基礎的な技能の向上を養う。          各グループの力が均等になる様に分けてリーグ戦を行う。          ゲームでは、主審、ラインズマンを各自、一度は経験してもらう。          準備体操各種を各自で行える様にする。</p>	
講義概要	<p>基本的にゲーム中心で行うが、ゲームの中でボールを扱える様に各自または、各チームでキック等の練習を取り入れる。          ビデオ等で審判のやり方を学び、ゲームで実際に経験する。          出欠点呼を毎回実施し、やむを得ない場合を除き遅刻を認めない。          雨天時には3棟1階の体育掲示板で集合場所等を指示する。          着替えを忘れた者は授業への出席を認めない。          見学者は着替えた後に出席すること。          授業はサッカー場で実施する。</p>	
使用教材	テキスト	なし
	参考文献	なし
評価方法	<p>出欠状況、授業態度を中心として、技能の向上・リーグ戦の成績を加味して評価する。</p>	
受講者に対する要望など	<p>出欠状況は各自で覚えておくこと。</p>	

## 年 間 講 義 予 定

### 前 期

週	主 要 テ ー マ
1	授業登録の確認と授業内容の説明、個人の資料の作成。
2	準備体操各種と実施上の注意。用具の準備の仕方と片付け方。 キック・トラップ等の練習を行い、ゲームでしめくくる。
3	準備体操を毎回実施する。基礎的な練習時間を取り、ゲーム的要素を持つ練習の後、ゲームを行う。
4	準備体操を毎回実施する。基礎的な練習時間を取り、ゲーム的要素を持つ練習の後、ゲームを行う。
5	準備体操を毎回実施する。基礎的な練習時間を取り、ゲーム的要素を持つ練習の後、ゲームを行う。
6	チームが均等になる様に分けて、リーグ戦を行い、記録する。審判、ラインズマン等をつける。
7	チームが均等になる様に分けて、リーグ戦を行い、記録する。審判、ラインズマン等をつける。
8	チームが均等になる様に分けて、リーグ戦を行い、記録する。審判、ラインズマン等をつける。
9	チームが均等になる様に分けて、リーグ戦を行い、記録する。審判、ラインズマン等をつける。
10	チームが均等になる様に分けて、リーグ戦を行い、記録する。審判、ラインズマン等をつける。
11	チームが均等になる様に分けて、リーグ戦を行い、記録する。審判、ラインズマン等をつける。
12	チームの成績を発表する。オールコートでゲームを実施する。
備考	

### 後 期

週	主 要 テ ー マ
1	夏季休業明け為、ストレッチ体操等の準備体操、ボールを使用してのゲーム要素を持つ練習に時間を多くとる。
2	夏季休業明け為、ストレッチ体操等の準備体操、ボールを使用してのゲーム要素を持つ練習に時間を多くとる。
3	夏季休業明け為、ストレッチ体操等の準備体操、ボールを使用してのゲーム要素を持つ練習に時間を多くとる。
4	後期・リーグ治を行う。審判、ラインズマン等をつけて、記録する。
5	後期・リーグ治を行う。審判、ラインズマン等をつけて、記録する。
6	後期・リーグ治を行う。審判、ラインズマン等をつけて、記録する。
7	後期・リーグ治を行う。審判、ラインズマン等をつけて、記録する。
8	後期・リーグ治を行う。審判、ラインズマン等をつけて、記録する。
9	後期・リーグ治を行う。審判、ラインズマン等をつけて、記録する。
10	チーム成績発表する。 オールコートでゲームを行う。
11	オールコートでゲームを行う。
12	オールコートでゲームを行う。
備考	

科目名	体育Ⅰ・体育Ⅱ サッカー	担当者名	福井真司
-----	-----------------	------	------

講義の目標	サッカーの楽しさを理解し基礎的技術を身につけて、生涯を通じてサッカーを親しめるようになる。また、ルール、審判法、作戦、健康、安全に対する態度などを習得する。		
講義概要	各週の授業は、主要テーマ以外に簡易ゲームも行う。		
使用教材	テキスト	ナシ	
	参考文献	ナシ	
評価方法	出席、態度、技術等から評価する。技術評価として簡単なテストを行う。		
受講者に対する要望など	<ul style="list-style-type: none"> <li>・授業実施場所：サッカー場（雨天などによる実施場所の変更連絡は、3棟体育掲示板で指示する）</li> <li>・授業の進行状況により、変更の場合もある。</li> <li>・1週目の授業には筆記用具を準備すること。</li> </ul>		



## 年 間 講 義 予 定

### 前 期

週	主 要 テ ー マ
1	オリエンテーション (学習上の注意、服装、用具等について) サッカーとケガ、準備体操について
2	ボールに慣れる (ボールリフティング、ボールタッチ)
3	サッカーに必要な基本的な走力を身につける
4	パスとシュート (キック、ヘディング)
5	ドリブルとフェイント
6	1対1の攻防 (マーク、タックル練習)
7	トラッピングからシュート
8	2対1 (パスとドリブルからシュートまで)
9	浮いたボールの処理、せり合い
10	パス連続ゲーム
11	ミニゲーム、簡単なルールと審判法
12	ミニゲーム
備考	

### 後 期

週	主 要 テ ー マ
1	前期の復習
2	前期の復習
3	壁パス、スルーパス、センタリングからシュート (ゴールキーブ)
4	フリーキック、コーナーキック、スローインからの攻防
5	ゴールを使用しての守備と攻撃 (システムの決定)
6	正規のゲーム (練習ゲーム、ルールと審判法)
7	正規のゲーム (練習ゲーム、ルールと審判法)
8	正規のゲーム (リーグ戦)
9	正規のゲーム (リーグ戦)
10	正規のゲーム (リーグ戦)
11	正規のゲーム (リーグ戦)
12	正規のゲーム (リーグ戦)
備考	

科目名	体育Ⅰ・体育Ⅱ サッカー	担当者名	松本光弘
-----	-----------------	------	------

講義の目標	サッカーの技術、戦術を中心に学習し、ゲームを通して体力の向上も合わせて目標とする。内容的には高度なレベルを追求したく、サッカーが特に得意又は好きという学生の参加を希望する。		
講義概要	サッカーの技術と戦術と各時間学習し、そのまとめとして毎時間ゲームを行う。雨天時も体育館で実技を行うか、教室にて講義等を行う。		
使用教材	テキスト	特になし	
	参考文献	特になし	
評価方法	出席状況を重視し、平常の授業態度及び技能程度を総合して評価する。		
受講者に対する要望など	ゴム底のスパイクシューズ、ストッキング、ショートパンツが用意できればさらに良い。		

## 年 間 講 義 予 定

### 前 期

週	主 要 テ ー マ
1	オリエンテーション、種目分け
2	体力測定、12分間走 簡単なゲーム
3	技術練習とハーフゲーム
4	技術練習とハーフゲーム
5	技術練習とハーフゲーム
6	ルールの解説（講義）
7	個人戦術とハーフゲーム
8	個人戦術とハーフゲーム
9	個人戦術とハーフゲーム
10	グループ戦術とハーフゲーム
11	グループ戦術とハーフゲーム
12	サッカーの歴史（講義）
備考	

### 後 期

週	主 要 テ ー マ
1	チーム戦術とミニゲーム
2	チーム戦術とミニゲーム
3	チーム戦術とミニゲーム
4	攻撃におけるグループ戦術とミニゲーム
5	守備におけるグループ戦術とミニゲーム
6	グループ戦術、チーム戦術とフルゲーム
7	グループ戦術、チーム戦術とフルゲーム
8	フルゲーム
9	フルゲーム
10	フルゲーム
11	フルゲーム
12	フルゲーム 評価
備考	

科目名	体育Ⅰ・体育Ⅱ サッカー	担当者名	松原 裕
-----	-----------------	------	------

講義の目標	<p>「大学は学問を通じて人間形成の場である」という建学の理念に基づき、サッカーを通じてフェアプレーを多角的に理解し習得する事を目標とする。</p>	
講義概要	<p>選択の際には男女・技術レベルは問わないが、4-4-3の試合ができるようになることを目標とする。一チーム12人×3チーム=36名を定員とし、40名以上は抽選となる。</p> <p>基本練習は、VTRを見て共通のイメージを作ってから行なう。前期は、分習法が主体となる。後期はゲーム中心の全習法が主体となる。</p> <p>グラウンドが使用できない場合には他の場所を使用して練習するか、基本的な理論を講義する。</p>	
使用教材	テキスト	VTR「サッカー・コーチング・バイブル」 田嶋幸三 監修
	参考文献	<ul style="list-style-type: none"> <li>・VTR「ヒストリー・オブ・ザ・ワールドカップ VOL1」</li> <li>・VTR「ヒストリー・オブ・ザ・ワールドカップ VOL2」</li> </ul>
評価方法	<p>毎時間の出欠席、受講態度、技術の進歩、テストなどを総合して評価する。服装も評価の対象となる。遅刻は認めないのでその時間の実技を受講できない場合がある。</p>	
受講者に対する要望など	<p>出来るだけサッカーシューズを各自で用意する事。受講生の能力によって授業内容が決定されることなく、常に工夫してレベル向上を目指す態度を持ち続ける事。</p>	

## 年 間 講 義 予 定

### 前 期

週	主 要 テ ー マ
1	オリエンテーション ○個人票の作成(写真添付) ○授業実施上の諸注意
2	基本トレーニング① ○ボール遊びと幼児のトレーニング
3	基本トレーニング② ○基本技術とウォーミングアップ
4	パス・コントロール
5	シュート
6	1vs1の攻防
7	グループの戦術①・攻撃
8	グループの戦術②・守備
9	ゴールキーパー
10	1-4-4-3スタイルのゲーム
11	1-4-4-3スタイルのゲーム
12	テスト ○審判法 ○ルール ○プレイヤーのマナー
備考	

### 後 期

週	主 要 テ ー マ
1	前期授業のダイジェスト
2	チーム分けとゲーム
3	1-4-4-3スタイルでのリーグ戦①
4	1-4-4-3スタイルでのリーグ戦②
5	1-4-4-3スタイルでのリーグ戦③
6	1-4-4-3スタイルでのリーグ戦④
7	1-4-4-3スタイルでのリーグ戦⑤
8	1-4-4-3スタイルでのリーグ戦⑥
9	1-4-4-3スタイルでのリーグ戦⑦
10	1-4-4-3スタイルでのリーグ戦⑧
11	1-4-4-3スタイルでのリーグ戦⑨
12	総合テストまたはレポート
備考	

科目名	体育Ⅰ・体育Ⅱ スキー検定トレーニング スキー検定（集中授業）	担当者名	松原 裕
-----	---------------------------------------	------	------

講義の目標	「大学は学問を通じての人間形成の場である」という建学の理念に基づき、SAJ 基礎スキー検定を通じてフェアプレーを多角的に理解し習得する事を目標とする。		
講義概要	<p>選択の際には男女は問わないが、技術レベルとしてはリフトに乗って中斜面を滑った程度以上を目安とする。</p> <p>SAJ 基礎スキー検定の基本を理解し、身に付けることを目標とし、学内の授業では、ローラスキー・ローラブレード等のバランス感覚、ストックワーク・基本姿勢などを学ぶ。40名以上は抽選となる。</p> <p>スキー実習は12月下旬長野県斑尾高原サンパティックスキー場を予定している。</p>		
使用教材	テキスト	『日本スキー教程』 全日本スキー連盟編	
	参考文献	<ul style="list-style-type: none"> <li>・VTR「基礎スキー検定」</li> <li>・VTR「スキー王国の上達マニュアル1」</li> <li>・VTR「スキー王国の上達マニュアル2」</li> </ul>	
評価方法	毎時間の出欠席、受講態度、技術の進歩、テストなどを総合して評価する。服装も評価の対象となる。遅刻は認めないのでその時間の実技を受講できない場合がある。		
受講者に対する要望など	学内、集中ともに適合した用具を各自で用意する事。受講生の能力によって授業内容が決定されることなく、常に工夫してレベル向上を目指す態度を持ち続ける事。集中授業で団体生活ができる事。		

## 年 間 講 義 予 定

### 前 期

週	主 要 テ ー マ
1	オリエンテーション ○個人票の作成(写真添付) ○授業実施上の諸注意 *第2週より前期は授業がありません。
2	
3	
4	
5	
6	
7	
8	
9	
10	
11	
12	
備考	

### 後 期

週	主 要 テ ー マ
1	ローラーブレード① ○サイズ合せ ○基本滑走
2	ローラーブレード② ○デモビデオでのイメージトレーニング ○基本滑走
3	ストックワーク① ○直滑降姿勢・曲げブルーク・伸びブルーク ○ストックワーク
4	ストックワーク② ○ターンイメージの中でのストックワーク
5	ローラーブレード・ローラースキー① ○滑走しながらのストックワーク
6	ローラーブレード・ローラースキー② ○スラローム滑走しながらのストックワーク
7	ローラーブレード・ローラースキー③ ○ペア滑走でのシンクロ・逆シンクロ
8	ストックワーク③ ○正しい姿勢の反復練習
9	総合練習
10	総合練習
11	スキー実習のオリエンテーション
12	スキー実習の反省
備考	

科目名	体育Ⅰ・体育Ⅱ スキートレーニング スキー（集中授業）	担当者名	松原 裕
-----	-----------------------------------	------	------

講義の目標	「大学は学問を通じての人間形成の場である」という建学の理念に基づき、アルペンスキーを通じてフェアプレーを多角的に理解し習得する事を目標とする。		
講義概要	<p>選択の際には男女・技術レベルは問わないが、アルペンスキーの基本を理解し、身に付けることを目標とする。学内の授業では、ローラースキー・ローラーブレード等のバランス感覚とストックワーク・基本姿勢などを学ぶ。40名以上は抽選となる。</p> <p>スキー実習は2月下旬秋田県田沢湖スキー場を予定している。</p>		
使用教材	テキスト	『ベーシック・スキー・テキスト』 板垣和男／佐々木明男著	
	参考文献	<ul style="list-style-type: none"> <li>・VTR「THIS IS THE オーストリアスキー」</li> <li>・VTR「スキー王国の上達マニュアル1」</li> <li>・VTR「スキー王国の上達マニュアル2」</li> </ul>	
評価方法	毎時間の出欠席、受講態度、技術の進歩、テストなどを総合して評価する。服装も評価の対象となる。遅刻は認めないのでその時間の実技を受講できない場合がある。		
受講者に対する要望など	学内、集中ともに適合した用具を各自で用意する事。受講生の能力によって授業内容が決定されることなく、常に工夫してレベル向上を目指す態度を持ち続ける事。集中授業で団体生活ができる事。		



年 間 講 義 予 定

前 期

週	主 要 テ ー マ
1	オリエンテーション ○個人票の作成（写真添付） ○授業実施上の諸注意 *第2週より前期は授業がありません。
2	
3	
4	
5	
6	
7	
8	
9	
10	
11	
12	
備考	

後 期

週	主 要 テ ー マ
1	ローラーブレード① ○サイズ合せ ○基本滑走
2	ローラーブレード② ○デモビデオでのイメージトレーニング ○基本滑走
3	ストックワーク① ○直滑降姿勢・曲げプルーク・伸しプルーク ○ストックワーク
4	ストックワーク② ○ターンイメージの中でのストックワーク
5	ローラーブレード・ローラースキー① ○滑走しながらのストックワーク
6	ローラーブレード・ローラースキー② ○スラローム滑走しながらのストックワーク
7	ローラーブレード・ローラースキー③ ○ペア滑走でのシンクロ・逆シンクロ
8	ストックワーク③ ○正しい姿勢の反復練習
9	総合練習
10	スキー実習のオリエンテーション① ○テキスト配布 ○スキー指導法 ○スキーの基本理論
11	スキー実習のオリエンテーション② ○スキーの基本理論・応用 ○スキー実習実施上の注意
12	スキー実習のオリエンテーション③ ○スキーの基本理論・応用 ○スキー実習実施上の注意
備考	

科目名	体育Ⅰ・体育Ⅱ ソーシャルダンス	担当者名	青柳多恵子
-----	---------------------	------	-------

講義の目標	日本人は日常の生活が西洋化されているにも関わらず、所作やダンスに対する考え方は日本的な領域から脱皮していない。国際的な挨拶の型である“握手”と同様、今ではコミュニケーションの大きな分野としての“踊る”意味を考えると合わせて、組んで踊るための基本的な動き方と音楽との関連を踊りながら知ることをめざしたものです。	
講義概要	ソーシャル・ダンスの初歩の歩行から、ワルツ・タンゴ・ルンバ・チャチャなどの技術的なことと同時に、踊るための体力の養成をし、踊ることの楽しさと、音楽によって自由に動けるテクニックを訓練する。しかし、特殊な難しいことでなく、歩ける人と音楽を楽しめる人であれば誰でも出来る、また楽しい生涯体育の一つです。	
使用教材	テキスト	ソーシャルダンス基礎編（配布）
	参考文献	
評価方法	出席を重視する。ただし、ワルツ・ルンバをマスターする事。	
受講者に対する要望など	ダンスは男女同教しか受けません。	

## 年 間 講 義 予 定

### 前 期

週	主 要 テ ー マ
1	授業概要の説明
2	ダンスの歩行・ステップの説明 ブルース・マンボのリズムにのって
3	ワルツ・ブルース・マンボ
4	ワルツ (チェンジステップ・ナチュラルターン) ブルース・マンボ
5	ワルツ (チェンジステップ・ナチュラルターン) ブルース・マンボ
6	ルンバ (スクエア) ブルース (クォーターターン)
7	ルンバ (スクエア) ブルース (クォーターターン)
8	VTR タンゴ・ワルツ・ブルース・ルンバ
9	タンゴ (リンク・) ワルツ・ブルース・ルンバ
10	チャチャ・ジャイブ
11	チャチャ・ジャイブ
12	VTR 撮影 総まとめ
備考	

### 後 期

週	主 要 テ ー マ
1	前期の復習 ステップの解説
2	前期の VTR の解説 ワルツ・ジャイブ・ルンバ
3	ワルツ (スピントーン・フィスク) キュウバンルンバ
4	ワルツ (スピントーン・フィスク) キュウバンルンバ
5	チャチャ・キュウバンルンバ
6	チャチャ・キュウバンルンバ
7	VTR ジャイブ・
8	VTR ワルツ
9	VTR ルンバ
10	VTR ブルース
11	VTR 総まとめ
12	VTR 映写 解説
備考	

科目名	体育Ⅰ・体育Ⅱ ソフトボール	担当者名	池 垣 功 一
-----	-------------------	------	---------

講義の目標	正しいソフトボールの理解と、技術を体得するとともに、チームプレーを通して人間性を養う機会とし、さらに、生涯体育の一環として、楽しく実践していく態度を身につける。		
講義概要	前期の前半は個人技術中心の練習内容とし、後半からチームを編成して、チームごとの練習ならびに試合に移る。後期は試合を主とした展開となるが、適宜、チームごとにテーマを決めたチーム練習を加える。		
使用教材	テキスト		
	参考文献		
評価方法	評価は体育実技評価規準により、出席点に技能点、総合点（態度・努力・服装等）を加味して行なう。		
受講者に対する要望など	前・後期とも、雨天時およびグラウンド・コンディションの悪い時には、教室内でのビデオによる学習または空いている体育施設での実施に切り替えることがある。		

## 年 間 講 義 予 定

### 前 期

週	主 要 テ ー マ
1	年間スケジュールおよび履修上の諸注意と、ソフトボールの特質、ルール等について説明
2	キャッチボール（ソフトボールに適したボールの握り方、フォーム） ピッチング（スリングショット投法）
3	ピッチング（スリングショット投法の復習およびウインドミル投法） トスバッティング
4	ピッチング（各種投法の復習） ハーフバッティング
5	守備練習（基本的なゴロと飛球の捕り方） フリーバッティング
6	守備練習（各ポジションの守備方法） シートノック
7	ベースランニングおよびスライディングの練習 バント練習（内野手の連けいプレー）
8	シートノックによる守備練習（ダブルプレーの練習） ゲーム形式のバッティング練習
9	審判の方法についての説明 チームの編成(1)（ポジション・打順を決める） 練習試合
10	チーム練習（試合前の、シートノック） 試合 A～B、C～D
11	チーム練習（トスバッティング） 試合 A～C、B～D
12	チーム練習（バント） 試合 A～D、B～C
備考	

### 後 期

週	主 要 テ ー マ
1	前期に学習した内容の総合的練習(1) 審判方法の復習
2	前期に学習した内容の総合的練習(2) スコアブックのつけ方についての説明
3	チーム編成(2)（以下、各々試合3回ごとに編成をかえる） 練習試合
4	チーム練習（毎週、チームごとにテーマを決めて実施する。以下同じ） 試合 E～F、G～H
5	チーム練習 試合 E～G、F～H
6	チーム練習 試合 E～H、F～G
7	チーム編成(3) チーム練習 試合 I～J、K～L
8	チーム練習 試合 I～K、J～L
9	チーム練習 試合 I～L、J～K
10	チーム編成(4) チーム練習 試合 M～N、O～P
11	チーム練習 試合 M～O、N～P
12	チーム練習 試合 M～P、N～O
備考	

科目名	体育Ⅰ・体育Ⅱ ソフトボール	担当者名	太田朝博
-----	-------------------	------	------

講義の目標	ソフトボールは、走る、投げる、打つ等の運動の基本的要素を持ち、スピード、正確さ、力、機敏さ、注意力、判断力、勇気等を基礎としたスポーツである。その基本技術を身につけ、互いに協力し合い、安全にスポーツを楽しみながら、体力の維持、増進の一助とすることを目標に行なう。		
講義概要	個人的技能と集団的技能を交互に繰り返し、正しいスローイング、バッティング、キャッチングを身につけ、チームプレーに於ける連携プレーの習得を目指し授業を展開し、ゲームを通し攻守のプレーを個々に確認していく。		
使用教材	テキスト		
	参考文献		
評価方法	<p>出席点を中心にして評価し授業態度、技能の進歩などを加味する。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 個人的技能 捕球——送球 遠投</li> <li>・ ゲーム結果（集団、個人技能）等を総合的に見て評価する。</li> </ul> <p>欠席時数7回以上の者に対しては、評価の対象としない。</p>		
受講者に対する要望など			

# 年間講義予定

## 前期

週		主 要 テ ー マ
1	個人的技能	基本技能 キャッチング
2		スローイング 1対1での正確な技能の習得 バッティング ノックとトスバッティング、
3		フリーバッティング 正確なキャッチングとスローイング、バッティングをしっかり身につける
4		ピッチング
5	集団的技能	連携プレー 攻撃=バント及びヒットエンドラン
6		タッチアッププレー 守備=フォースプレー
7		ダブルプレー バントの処理と各野手の動き
8		カバーリング あらゆるプレーに対するフォーメーション
9		ルールの解説とスコアのつけ方 (ワンプレーに対する判定法)
10		簡易ゲーム 簡易なゲームを通し事前に練習したプレーの確認とルールの習得。
11		
12		
備考		

## 後期

週		主 要 テ ー マ
1	個人技能 集団技能	ゲーム ・個々の技量を考えチーム間の力量の差が大きくなるようにチーム編成し、リーグ戦を行なう。
2		・簡単なスコアをつけ個々の成績 (打率、盗塁、打点など)を集計し成績を出し、技能を競い合う。
3		
4		
5		
6		
7		
8		
9		
10		
11		
12		
備考		

科目名	体育Ⅰ・体育Ⅱ ソフトボール	担当者名	小川 又八朗
-----	-------------------	------	--------

講義の目標	ソフトボールの特性や技術構造を理解し、それらを構成する基礎的な体力や技術、戦術などの習得を中心にして、ゲーム展開の方法を高める。		
講義概要	<p>ソフトボールは野球にいた球技が、1932年から統一される努力がなされ、今日「ソフトボール」という1つの球技になったものである。</p> <p>「投げる」「捕える」「打つ」「走る」といった運動の基本動作を複雑に組み合わせて行われる球技であり、「いつでも」「どこでも」「だれでも」手軽に行える球技で老若男女がその技術水準に応じて、競技的にも、レクリエーション的にも行える球技でスポーツマンらしいプレーが出来るようにする。</p>		
使用教材	テキスト	なし	
	参考文献		
評価方法	出席点呼を毎回実施し、出席点を中心に評価し授業態度（服装）技能の進歩などを加味する。欠課時数が多い者については評価の対象としない。交通機関及び体調等やむを得ない事由以外の遅刻は認めない。		
受講者に対する要望など	<p>授業実施場所、野球場 AB。</p> <p>雨天の場合教室に於てルール及びゲームをビデオで見て技術、戦術の学習をする。</p>		



## 年 間 講 義 予 定

### 前 期

週	主 要 テ ー マ
1	オリエンテーション（体育館）、登録の確認と授業内容の説明 個人の資料作成等。
2	ソフトボールの歴史や特性をはじめとしてゲーム構造や基本ルールなどを講義する、球の握り方やキャッチボールなど防御の個人技能を実習する。
3	バッティングやセーフティーバントなど攻撃の個人技能を実習する、ヒットエンドランなどの集団技能を実習する、簡易ルールでゲームの攻防を実習する。
4	上記と同じ。
5	上記と同じ。
6	投手のピッチングを中心にした防御技能を実習する、ゴロや飛球に対するフィールディングを中心にした防御の個人技能を実習する、簡易ルールでゲームの攻防実習する。
7	上記と同じ。
8	併殺や長打のカットオフとリレーなどの攻防の集団技能を実習する、球審や塁審の個人技能を実習する、正式なルールでゲームの攻防を実習する。
9	上記と同じ。
10	4チームによるリーグ戦 ①。
11	リーグ戦 ②。
12	リーグ戦 ③、前期まとめテスト。
備考	

### 後 期

週	主 要 テ ー マ
1	前期の復習、簡易ルールでゲームの攻防を実習する。
2	上記と同じ。
3	盗塁阻止やランダウンなど攻防の集団技能を実習する、正式なルールでゲームの攻防を実習する。
4	上記と同じ。
5	上記と同じ。
6	得点圏に走者を置いた攻防の集団技能を実習する、正式なルールでゲームの攻防を実習する。
7	上記と同じ。
8	上記と同じ。
9	4チームによるリーグ戦 ①。
10	リーグ戦 ②。
11	リーグ戦 ③。
12	ゲームの攻防を通して攻撃貢献度をテストする、ルールやセオリー、審判法など知的理解度をテストする。
備考	

科目名	体育Ⅰ・体育Ⅱ ソフトボール	担当者名	萩野元祐
-----	-------------------	------	------

講義の目標	<p>基本的練習により、個人的技能、集団的技能を高め、より高いゲーム展開ができることを目指す。またそのなかで、ソフトボールを楽しむということも目標のひとつである。</p>	
講義概要	<p>初心者から中級者に合わせる内容であり、個人的技能、集団的技能練習の内容は、基本練習中心で展開される。また、ゲームを通して、ソフトボールの特性や、技術、戦術を高める。</p>	
使用教材	テキスト	
	参考文献	
評価方法	<p>出席点を基本として評価。授業態度、技術の向上などを加味する。欠席時数7回以上の者については評価の対象としない。</p> <p>交通機関及び体調などやむえない理由以外の遅刻は認めない。</p>	
受講者に対する要望など		

## 年 間 講 義 予 定

### 前 期

週	主 要 テ ー マ
1	オリエンテーション (体育館)。 登録の確認と授業内容の説明、個人資料の作成など。
2	ソフトボールの歴史、特性、競技場、基本ルールなどの説明。 個人技能練習、ボールの握り方、キャッチボールの送球、捕球の基本練習。
3	前回の復習。 独自ルールでのゲーム実施。
4	バットイング、バットの握り方、スタンス、位置、構え方、スイングなどの練習。 独自ルールでゲームの実習。
5	前回の復習。 独自ルールでのゲーム実施。
6	前回までの復習。 バンドのグリップ、スタンス、セフティバンドなどの練習。 独自ルールでのゲーム実施。
7	守備における送球、捕球 (ゴロ、フライ) 練習。 独自ルールでゲームの実習。
8	前回の復習。 独自ルールでのゲーム実施。
9	投手のボールの握り方と投法練習。 独自ルールでゲームの実習。
10	前回の復習。 4チームによるリーグ戦。(A対B、C対D)
11	前期の復習。 リーグ戦、(A対C、B対D)
12	ゲームの攻防を通してテスト。 リーグ戦、(A対D、B対C)
備考	

### 後 期

週	主 要 テ ー マ
1	前期の復習。 独自ルールでゲームを実施。
2	上記と同じ。
3	集団技能 (守備)、ベースカバーを練習。 4チームによるリーグ戦。(A対B、C対D)
4	前回の復習。 リーグ戦、(A対C、B対D)
5	集団技能 (守備)、リレープレイを練習。 リーグ戦、(A対D、B対C)
6	前回の復習。 リーグ戦2巡目、(A対B、C対D)
7	集団技能を復習。 リーグ戦、(A対C、B対D)
8	スクイズプレイの練習。 リーグ戦、(A対D、B対C)
9	ダブルプレイの練習。 リーグ戦3巡目、(A対B、C対D)
10	前回の復習。 リーグ戦、(A対C、B対D)
11	リーグ戦、(A対D、B対C)
12	ゲームの攻防を通してテスト。
備考	

科目名	体育Ⅰ・体育Ⅱ ソフトボール	担当者名	田代力也
-----	-------------------	------	------

講義の目標	<p>打つ、走る、投げる、捕える等の基本的運動能力を高める。 チームゲームを通じて協調性を高める。</p>	
講義概要	<p>打撃、守備の基本練習からゲームに移行する。時限毎にゲームのポイントを指摘し確認する。</p>	
使用教材	テキスト	
	参考文献	
評価方法	<p>出席状況、遅刻、見学、参加態度に加えて、技術、技術を高めることへの努力、チームの中での協調性について評価する。</p>	
受講者に対する要望など		

# 年 間 講 義 予 定

## 前 期

週	主 要 テ ー マ
1	年間講義予定については第1週の授業で指示する。
2	
3	
4	
5	
6	
7	
8	
9	
10	
11	
12	
備考	

## 後 期

週	主 要 テ ー マ
1	
2	
3	
4	
5	
6	
7	
8	
9	
10	
11	
12	
備考	

科目名	体育Ⅰ・体育Ⅱ ソフトボール	担当者名	檜山 康
-----	-------------------	------	------

講義の目標	<p>①ソフトボールの特性を知り、自分たちの技能に応じた攻め方、守り方とルールを工夫してゲームを楽しむ。</p> <p>②マナーや安全の大切さを知って、楽しく学習が進められるようにする。</p>	
講義概要	<p>①やさしいルールで、ストレートヒッティングを中心にした攻め方とそれに対応した守り方によるゲームを楽しむ。</p> <p>②ヒットエンドランやスクイズを使った作戦的な攻め方とそれに対応した守り方を工夫してゲームを楽しむ。</p>	
使用教材	テキスト	
	参考文献	
評価方法	<p>評価は、授業への参加度、態度、技能点などによって決定する。場合によって簡単なレポートを課すこともある。</p>	
受講者に対する要望など	<p>雨天時は、室内において他種目、または教室にて講義を行う。</p>	

## 年 間 講 義 予 定

### 前 期

週	主 要 テ ー マ
1	オリエンテーション
2	簡略化したルールで試しのゲームを行う。安全上の注意も行う。
3	ボールに慣れる。 キャッチボールとトスバッティング
4	守備の練習① ゴロの捕球とスローイング、フライの捕球とスローイング
5	守備の練習② 内野守備と外野守備における連系プレー
6	守備の練習③ バントとその守備。盗塁とその守備。
7	攻撃の練習。 フリーバッティング、バッティングの基礎。
8	攻撃 練習。 ヒットエンドランの攻撃方法について
9	チーム別の練習ゲーム ルール、審判法について学ぶ
10	チーム別のリーグ戦①
11	チーム別のリーグ戦②
12	チーム別のリーグ戦③
備考	

### 後 期

週	主 要 テ ー マ
1	チーム編成を変え、試しのゲームを行う。
2	守備の練習① ポジション別の具体的な役割を知る。実践に応じた動き。
3	守備の練習② 2週目の課題について様々な状況を設定して更に学ぶ。
4	攻撃の練習① ベースランニングの方法、実践に応じたランニング、スライディング。
5	攻撃の練習② 4週目の課題について、バッティングと組み合わせて学ぶ
6	チーム別のリーグ戦① 毎回のゲームの反省を生かしてチーム別に練習ができるようにする。
7	チーム別のリーグ戦②
8	チーム別のリーグ戦③
9	チーム別のリーグ戦④
10	チーム別のリーグ戦⑤
11	チーム別のトーナメント戦①
12	チーム別のトーナメント戦②
備考	

科目名	体育Ⅰ・体育Ⅱ ソフトボール スキー（集中授業）	担当者名	田代力也
-----	--------------------------------	------	------

講義の目標	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ソフトボール</li> <li>打つ、走る、捕える、投げる等の基本運動能力を高める。</li> <li>チームゲームを通じて協調性を高める。</li> <li>・スキー</li> <li>生涯スポーツとしてのスキーを認識する。</li> <li>理論と実技の中で、技術の習得、安全なスキーを学ぶ。</li> </ul>	
講義概要	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ソフトボール</li> <li>打撃、守備の基本練習からゲームに移行する。時限毎にゲームのポイントを指摘し確認する。</li> <li>・スキー</li> <li>体力、技術程度により班別講習を行なう。“スキーはリズム”をテーマとする。ビデオによって各自のすべりの分析を行ない、技術向上への資料とする。ソフトボールと並行してスキーのトレーニングを行なう。</li> </ul>	
使用教材	テキスト	ベーシックスキーテキスト
	参考文献	
評価方法	出席状況、遅刻、見学、参加態度に加えて、技術、技術を高めることへの努力、またソフトボールについては、チームの中での協調性について評価する。	
受講者に対する要望など		



# 年 間 講 義 予 定

前 期

週	主 要 テ ー マ
1	年間講義予定については第1週の授業で指示する。
2	
3	
4	
5	
6	
7	
8	
9	
10	
11	
12	
備考	

後 期

週	主 要 テ ー マ
1	
2	
3	
4	
5	
6	
7	
8	
9	
10	
11	
12	
備考	

科目名	体育Ⅰ・体育Ⅱ 卓球	担当者名	天野和彦
-----	---------------	------	------

講義の目標	卓球の基本的知識を学習するとともに、技能の向上をはかる。		
講義概要	ゲームを中心に行い、その中で、ルール、打法、ゲームのすすめ方を紹介する。		
使用教材	テキスト		
	参考文献		
評価方法	出欠、授業態度、さらに多少の技能の進歩などを考慮して決定する。		
受講者に対する要望など			

## 年 間 講 義 予 定

### 前 期

週	主 要 テ ー マ
1	オリエンテーション
2	ラリーの連続を行うために①——コントロール
3	ラリーの連続を行うために②——サービスとレシーブ
4	シングルの簡易ゲームを行い、グループ編成をする。
5	シングルの簡易ゲームを行い、グループ編成をする。
6	グループ別でのシングルスゲーム
7	グループ別でのシングルスゲーム
8	グループ別でのシングルスゲーム
9	上級者と初級者のペアで、ダブルスの練習
10	ダブルスゲームのリーグ戦
11	ダブルスゲームのリーグ戦
12	ダブルスゲームのリーグ戦
備考	

### 後 期

週	主 要 テ ー マ
1	ラリーの連続を行うために③——いろいろな打法
2	全員によるシングルストーナメント
3	全員によるシングルストーナメント
4	能力別でのダブルスゲーム
5	能力別でのダブルスゲーム
6	能力別でのダブルスゲーム
7	グループを編成し、グループ対抗のリーグ戦を行う
8	グループを編成し、グループ対抗のリーグ戦を行う
9	グループを編成し、グループ対抗のリーグ戦を行う
10	全員によるダブルストーナメント
11	全員によるダブルストーナメント
12	
備考	

科目名	体育Ⅰ・体育Ⅱ 卓球	担当者名	奥野忠枝
-----	---------------	------	------

講義の目標	<p>卓球という球技をとおして、技術の向上はもとより、ゲームをたのしみながら、ルール、試合方法、審判法を学ぶ。</p> <p>ダブルス競技においては、チームワークを体験することによって、協力の態度を養う。</p>	
講義概要		
使用教材	テキスト	
	参考文献	
評価方法	<p>評価は出席点を重視し、平素の授業態度、技能の進歩を加味し実施する。欠席はできるだけ届け出ること。</p>	
受講者に対する要望など		

## 年 間 講 義 予 定

### 前 期

週	主 要 テ ー マ
1	授業登録の確認 授業内容の説明と諸注意 個人資料の作成
2	競技場と用具について（準備と片付け方） ラケットの種類、持ち方
3	ボールの打ち方 ラリーの連続を行う。 ミニ試合
4	サービス、レシーブの練習 ミニ試合
5	バックハンド フォアハンドの練習 シングルの試合方法と試合
6	サービスについて ボールの回転とラケットの動きを練習 シングルス試合
7	審判法について学ぶ
8	ダブルス競技のルールを学ぶ ダブルスミニ試合
9	グループでリーグ戦形式のダブルス試合
10	上記に同じ
11	シングルス試合
12	前期のまとめ シングルス試合
備考	

### 後 期

週	主 要 テ ー マ
1	前期の復習 基本の動き シングルス試合
2	カットについて学ぶ シングルス試合
3	マナーについて 悪いマナー 良いマナー
4	ダブルの作戦おパートナーとの動きについて
5	グループでダブルの試合
6	上に同じ
7	上に同じ
8	上に同じ
9	シングルのトーナメント試合
10	シングルス ダブルスにわかれて試合
11	総復習
12	総復習と反省
備考	

科目名	体育Ⅰ・体育Ⅱ 卓球	担当者名	中川 昭
-----	---------------	------	------

講義の目標	卓球の技能を習得し、ゲームをエンジョイする。併せて、体力の向上を図る。		
講義概要	毎時間、基本となる技術練習を行い、ゲーム（シングルス・ダブルス）を行う。また、体力の向上を狙いとしたトレーニングを毎時間、授業の初めに行う。		
使用教材	テキスト		
	参考文献		
評価方法	出席を重視し、技能の伸びや授業中の態度等を加味する。		
受講者に対する要望など	必ず、運動ができる服装に着がえて授業に出てくること。		

## 年 間 講 義 予 定

### 前 期

週	主 要 テ ー マ
1	オリエンテーション
2	体力トレーニング、基本練習、ためしのゲーム（シングルス）
3	体力トレーニング、基本練習、ためしのゲーム（シングルス）
4	体力トレーニング、基本練習、ためしのゲーム（シングルス）
5	体力トレーニング、基本練習、ためしのゲーム（ダブルス）
6	体力トレーニング、基本練習、ためしのゲーム（ダブルス）
7	体力トレーニング、基本練習、ためしのゲーム（ダブルス）
8	体力トレーニング、基本練習、リーグ戦のゲーム（シングルス）
9	体力トレーニング、基本練習、リーグ戦のゲーム（シングルス）
10	体力トレーニング、基本練習、リーグ戦のゲーム（シングルス）
11	体力トレーニング、基本練習、リーグ戦のゲーム（シングルス）
12	体力トレーニング、基本練習、リーグ戦のゲーム（シングルス）
備考	

### 後 期

週	主 要 テ ー マ
1	体力トレーニング、基本練習、リーグ戦のゲーム（ダブルス）
2	体力トレーニング、基本練習、リーグ戦のゲーム（ダブルス）
3	体力トレーニング、基本練習、リーグ戦のゲーム（ダブルス）
4	体力トレーニング、基本練習、リーグ戦のゲーム（ダブルス）
5	体力トレーニング、基本練習、リーグ戦のゲーム（ダブルス）
6	体力トレーニング、基本練習、リーグ戦のゲーム（ダブルス）
7	体力トレーニング、班対抗のゲーム
8	体力トレーニング、班対抗のゲーム
9	体力トレーニング、班対抗のゲーム
10	体力トレーニング、班対抗のゲーム
11	体力トレーニング、班対抗のゲーム
12	体力トレーニング、班対抗のゲーム
備考	

科目名	体育Ⅰ・体育Ⅱ 卓球	担当者名	本田稔祐
-----	---------------	------	------

講義の目標	卓球を通じて、運動をする習慣を身につけ、生涯体育として健康の維持増進をはかるとともに、卓球の基本動作、ルールなどについても勉強し、技能の向上を計るとともに、社会生活の中でもそれらを活用できるようにすることをめざす。		
講義概要	卓球についてのビデオを見て、基本練習を通じてラリーを続けられるようにし、集中力を養う。また、サービスとレシーブの重要性を理解させ簡単なゲームができること。審判ができるようにルールについても勉強していく。ゲームは、簡単なものから、個人ゲーム、ダブルスゲーム、団体対抗ゲームと進めていく。		
使用教材	テキスト	なし	
	参考文献	特になし	
評価方法	評価は出席点を中心とし、技能の進歩の度合、平素の授業態度、特に服装の適否なども加味して行なう。尚欠席が7回以上の者は、評価はFとする。やむを得ず欠席した場合はできるだけ早く口頭で届け出ること。		
受講者に対する要望など	欠席、遅刻はしないこと。服装は体育に適したもの。Gパンは認めない。靴も、ゴム底の運動靴を使用すること。用具については、大学で用意するが、ラケットはできるだけ各人で用意すること。		



## 年 間 講 義 予 定

### 前 期

週	主 要 テ ー マ
1	授業登録の確認と、個人の資料作成、授業内容の説明。
2	教室でビデオを見て、基本的知識を修得する。
3	準備運動の実施方法 簡単な能力テストをし、能力別のグループ作成。 ルールについて説明。
4	シングルのゲーム（リーグ戦） 初心者は、基本練習。
5	シングルのゲーム（リーグ戦） 初心者は、基本練習。
6	シングルのゲーム（リーグ戦） 初心者は、基本練習。
7	シングルのゲーム（リーグ戦） 初心者は、基本練習。
8	ダブルスのゲーム（リーグ戦）
9	ダブルスのゲーム（リーグ戦）
10	ダブルスのゲーム（リーグ戦）
11	ダブルスのゲーム（リーグ戦）
12	全員を抽選により、トーナメント試合
備考	

### 後 期

週	主 要 テ ー マ
1	トーナメント試合
2	トーナメント試合
3	トーナメント試合
4	グループを作り、対抗のリーグ戦を実施。
5	グループを作り、対抗のリーグ戦を実施。
6	グループを作り、対抗のリーグ戦を実施。
7	グループを作り、対抗のリーグ戦を実施。
8	シングルス及び、ダブルスゲーム
9	シングルス及び、ダブルスゲーム
10	シングルス及び、ダブルスゲーム
11	シングルス及び、ダブルスゲーム
12	技能テスト
備考	

科目名	体育Ⅰ・体育Ⅱ 軟式野球	担当者名	太田朝博
-----	-----------------	------	------

講義の目標	<p>野球は、守備と攻撃を規則的に交代しあってゲームを展開し、一定回数内の得点を競い合うスポーツである。投球、捕球、打撃、走塁などの基本的な個人技能を習熟するとともに、スクイズ、バントエンドラン、ヒットエンドランなどの攻撃法やバントソフト、ピックオフプレー、カットプレーなどの防御法を通して集団的技能を身につける。これらのことを基礎にして、ゲームでは、個人的、集団的技能を生かした作戦をたてて組織的なゲーム展開が出来るようにする。</p>		
講義概要	<p>個人的技能と集団的技能を交互に繰り返し、スピード感のある高度なゲーム展開が出来ることを目指し授業を進める。</p> <p>雨天等で実技が出来ない時はルールの解説、スコアのつけ方、ビデオなどを見て学習。</p>		
使用教材	テキスト		
	参考文献		
評価方法	<p>出席点を中心にして評価し、授業態度、技能の進歩などを加味する。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・個人的技能——捕球——送球 遠球</li> <li>・ゲーム結果——（集団、個人技能）等を総合的に見て評価する。</li> </ul> <p>欠席時数7回以上の者に対しては、評価の対象としない。</p>		
受講者に対する要望など			

## 年 間 講 義 予 定

### 前 期

週	主 要 テ ー マ
1	オリエンテーション 登録確認と授業内容の説明、個人資料の作成
2	<b>個人的技能</b> 基本技能 キャッチング
3	スローイング 1対1での正確な技能の習得 バッティング ノックとトスバッティング、フリーバッティング、バント
4	正確なキャッチングとスローイング、バッティングをしっかりと身につける ピッチング
5	
6	<b>集団的技能</b> 連携プレー 攻撃=バント及びヒットエンドラン
7	タッチアッププレー 守備=フォースプレー
8	ダブルプレー バント処理と野手の動き
9	カバーリング あらゆるプレーに対するフォーメーション
10	ルールの解説とスコアのつけ方 (ワンプレーに対する判定法)
11	<b>簡易ゲーム</b> 簡易なゲームを通し事前に練習したプレーの確認とルールの習得。
12	
備考	

### 後 期

週	主 要 テ ー マ
1	個人技能 } の反復練習 集団技能 }
2	キャッチング } <b>ゲーム</b> 個々の技量を考えチーム間の力量の差が大きくなる トス、フリーバッティング } ようにチーム編成し、リーグ戦を行なう。
3	シフト打撃 } スコアをつけ個人の打撃成績 (打率・盗塁・打点など) ピッチング } を集計し技能を競い合う。
4	
5	
6	
7	
8	
9	
10	
11	
12	
備考	

科目名	体育Ⅰ・体育Ⅱ 軟式野球	担当者名	萩野元祐
-----	-----------------	------	------

講義の目標	<p>基本的練習により、個人的技能、集団的技能を高め、より高いゲーム展開ができることを目指す。またそのなかで、軟式野球を楽しむということも目標のひとつである。</p>		
講義概要	<p>初心者から中級者に合わせる内容であり、個人的技能、集団的技能練習の内容は、基本練習中心で展開される。また、ゲームを通して、軟式野球の特性や、技術、戦術を高める。</p>		
使用教材	テキスト		
	参考文献		
評価方法	<p>出席点を基本として評価。授業態度、技術の向上などを加味する。欠席時数7回以上の者については評価の対象としない。</p> <p>交通機関及び体調などやむえない理由以外の遅刻は認めない。</p>		
受講者に対する要望など			

## 年 間 講 義 予 定

### 前 期

週	主 要 テ ー マ
1	オリエンテーション（体育館）。 登録の確認と授業内容の説明、個人資料の作成など。
2	軟式野球の歴史、特性、競技場、基本ルールなどの説明。 個人技能練習、ボールの握り方、キャッチボールの送球、捕球の基本練習。
3	前回の復習。 バッティング、バットの握り方、スタンス、位置、構え方、スイングなどの練習。
4	前回の復習。 ゲーム形式で練習。
5	バンドのグリップ、スタンス、セフティバンド ゲーム形式で練習。
6	前回の復習。 ゲーム形式で練習。
7	投手のボールの握り方と投法練習。 4チームによるリーグ戦。（A対B、C対D）
8	守備における送球、補球（ゴロ、フライ）練習。 リーグ戦、（A対C、B対D）
9	前回の復習。 リーグ戦、（A対D、B対C）
10	集団技能（守備）、ベースカバーを練習。盗塁、盗塁阻止練習。 リーグ戦2巡目、（A対B、C対D）
11	前回の復習。 リーグ戦、（A対C、B対D）
12	ゲームの攻防を通してテスト。 リーグ戦、（A対D、B対C）
備考	

### 後 期

週	主 要 テ ー マ
1	前期の復習。 練習形式のゲーム。
2	上記と同じ。
3	集団技能（守備）、バックアップを練習。 チームによるリーグ戦。（A対B、C対D）
4	前回の復習。 リーグ戦、（A対C、B対D）
5	集団技能（守備）、リレープレイを練習。 リーグ戦、（A対D、B対C）
6	前回の復習。 リーグ戦2巡目、（A対B、C対D）
7	集団技能を復習。 リーグ戦、（A対C、B対D）
8	スクイズプレイの練習。 リーグ戦、（A対D、B対C）
9	ダブルプレイの練習。 リーグ戦3巡目、（A対B、C対D）
10	前回の復習。 リーグ戦、（A対C、B対D）
11	リーグ戦、（A対D、B対C）
12	ゲームの攻防を通してテスト。
備考	

科目名	体育Ⅰ・体育Ⅱ バスケットボール	担当者名	小川 又八朗
-----	---------------------	------	--------

講義の目標	バスケットボールのルールを理解し、個人的及び集団的技能を習得するとともにそれらをもとにした戦術を習得し、ゲームの展開方法を学習する。	
講義概要	個人技能に習熟し、自分の能力が集団の中でよく発揮できるようにするためにはいつも集中して練習ができるように習慣づける。スピードあるいろいろな動きの中でも、相手との攻防でタイミングを合わせ、からだやボールをコントロールができるようにする。チームがよくまとまり、個人の特徴を生かした作戦が考えられ、それぞれの役割を果たすことができるようにする。技術や練習法を学び、ルールを理解し、授業などでも審判の判定を公正にでき、プレーヤーとしてもすなおに判定に従う態度がとれるようにする。	
使用教材	テキスト	なし
	参考文献	
評価方法	出席点呼を毎回実施し出席点を中心に評価し授業態度（服装）技能の進歩などを加味する。欠課時数が多い者については評価の対象としない、交通機関及び体調等なむを得ない事由以外の遅刻は認めない。	
受講者に対する要望など	授業実施場所、体育館 ABコート。 体育館シューズを用意すること。	

## 年 間 講 義 予 定

### 前 期

週	主 要 テ ー マ
1	オリエンテーション（体育館）、登録の確認と授業内容の説明、個人資料の作成等。
2	授業に関するオリエンテーション、個人技能（ボディーコントロール、ボールハンドリング、パス、ドリブルシュート）。
3	個人技能（ボディーコントロール、ボールハンドリング、パス、ドリブルシュート）、個人技能（パス、ドリブルシュート、リバウディング）。
4	個人技能（パス、ドリブルシュート、リバウディング）、1対1の攻防、ハーフコート於てゲーム。
5	上記と同じ。
6	2対2の攻防、ハーフコート於てゲーム、3対3の攻防、ハーフコート於てゲーム。
7	対人防御と地域防御に対する攻撃法、(1) ゲーム、対人防御と対人防御に対する攻撃法、(2) ゲーム。
8	地域防御と地域防御に対する攻撃法、(1) ゲーム、地域防御と地域防御に対する攻撃法、(2) ゲーム。
9	リーグ戦形式によるゲーム。
10	リーグ戦形式によるゲーム。
11	リーグ戦形式によるゲーム。
12	リーグ戦形式によるゲーム、ゲームの攻防を通して攻撃貢献度をテストする。
備考	

### 後 期

週	主 要 テ ー マ
1	前期の復習、チーム再編成、個人技能（ボディーコントロール、ボールハンドリング、パス）。
2	個人技能、（ボールハンドリング、パス、ドリブルシュート）。
3	速攻攻撃法、(1) ゲーム、速攻攻撃法、(2) ゲーム。
4	上記と同じ。
5	対人防御と対人防御に対する攻撃法、(1) リーグ戦形式によるゲーム。
6	対人防御と対人防御に対する攻撃法、(2) リーグ戦形式によるゲーム。
7	対人防御と対人防御に対する攻撃法、(3) リーグ戦形式によるゲーム。
8	対人防御と対人防御に対する攻撃法、(4)。
9	地域防御と地域防御に対する攻撃法、(1) リーグ戦形式によるゲーム。
10	地域防御と地域防御に対する攻撃法、(2) リーグ戦形式によるゲーム。
11	地域防御と地域防御に対する攻撃法、(3)。
12	リーグ戦形式によるゲーム、まとめのテスト。
備考	

科目名	体育Ⅰ・体育Ⅱ バスケットボール	担当者名	勝 瀬 武
-----	---------------------	------	-------

講義の目標	<p>体育実技は実習であるから積極的に参加し、自ら活動する意欲をもって、体力の維持増進に努めてもらいたい。また、バスケットボールの授業を通して、社会性、協調性、公正な判断やルールを遵守する態度を学んでほしい。</p>	
講義概要	<p>バスケットボールのルールを正確に把握し、基本技術を習得することによって、楽しくゲームが出来るようにする。また、ゲームの時には、各チームから審判、得点係等を出し、試合の進行を助け合う。</p> <p>個人のレベルアップとともに試合運び等を研究し、チーム全体の技術の向上を目標に努力する。</p>	
使用教材	テキスト	なし
	参考文献	なし
評価方法	<p>出席、受講態度を重視し、欠席回数が授業時数の1/3を超した者は不合格とする。</p>	
受講者に対する要望など		



## 年 間 講 義 予 定

### 前 期

週	主 要 テ ー マ
1	オリエンテーション
2	基本練習（パス、ドリブル、ドリブルシュート、ランニングシュート、セットシュート）
3	基本練習（パス、ドリブル、ドリブルシュート、ランニングシュート、セットシュート）
4	セットオフフェンス（ハーフコートにおける 3対2）
5	セットディフェンス（ハーフコートにおける 5対5）
6	オールコートにおける試合（班分けをする）
7	オールコートにおける試合（班分けをする）
8	リーグ戦開始（前期）（試合に際して、各チームより審判、オフィシャルの勉強をしてもらう）
9	リーグ戦開始（前期）（試合に際して、各チームより審判、オフィシャルの勉強をしてもらう）
10	リーグ戦開始（前期）（試合に際して、各チームより審判、オフィシャルの勉強をしてもらう）
11	リーグ戦開始（前期）（試合に際して、各チームより審判、オフィシャルの勉強をしてもらう）
12	リーグ戦開始（前期）（試合に際して、各チームより審判、オフィシャルの勉強をしてもらう）
備考	

### 後 期

週	主 要 テ ー マ
1	後期リーグ戦前の予備試合（後期リーグのためにチームの再編成）
2	後期リーグ戦前の予備試合（後期リーグのためにチームの再編成）
3	後期リーグ戦開始（試合に際して、各チームより審判、得点係を出し、試合進行に努める）
4	後期リーグ戦開始（試合に際して、各チームより審判、得点係を出し、試合進行に努める）
5	後期リーグ戦開始（試合に際して、各チームより審判、得点係を出し、試合進行に努める）
6	後期リーグ戦開始（試合に際して、各チームより審判、得点係を出し、試合進行に努める）
7	後期リーグ戦開始（試合に際して、各チームより審判、得点係を出し、試合進行に努める）
8	後期リーグ戦開始（試合に際して、各チームより審判、得点係を出し、試合進行に努める）
9	後期リーグ戦開始（試合に際して、各チームより審判、得点係を出し、試合進行に努める）
10	後期リーグの成績により、順位決定戦を行う。
11	後期リーグの成績により、順位決定戦を行う。
12	後期リーグの成績により、順位決定戦を行う。
備考	

科目名	体育Ⅰ・体育Ⅱ バスケットボール	担当者名	檜山 康
-----	---------------------	------	------

講義の目標	<p>①バスケットボールの特性を知り、自分たちの技能に応じた攻め方、守り方とルールを工夫してゲームを楽しむ。</p> <p>②マナーや安全の大切さを知って、楽しく学習が進められるようにする。</p>		
講義概要	<p>①やさしいルールで、速攻や、守備のあいているスペースをつく攻撃と、マンツーマン防御によるゲームを楽しむ。</p> <p>②工夫したルールで、ギブアンドゴープレイやスクリーンプレイなどを用いた攻撃と、互いに協力し合うマンツーマン防御やゾーン防御でゲームを楽しむ。</p>		
使用教材	テキスト		
	参考文献		
評価方法	<p>評価は、授業への参加度、態度、技能点などによって決定する。場合によっては簡単なレポートを課すこともある。</p>		
受講者に対する要望など	<p>室内シューズを必ず着用のこと。</p>		

## 年 間 講 義 予 定

### 前 期

週	主 要 テ ー マ
1	オリエンテーション
2	1年間の授業内容の説明と基本技術の練習。試しのゲーム。
3	パスの方法と速攻の練習。速攻を生かしたゲーム。
4	パスの方法と速攻の練習。速攻を生かしたゲーム。チームは固定せず、編成を変えながらゲームを行う。
5	ショットの方法について① レイアップショットとランニングショット。ショットの方法に注意してゲームを行う。
6	ショットの方法について② ジャンプショットとターンショットなど。ショットの方法に注意してゲームを行う。
7	ディフェンスの方法について① マンツーマン・ディフェンスについて。
8	ディフェンスの方法について② ゾーン・ディフェンスについて。
9	ディフェンスの方法について③ マンツーマンとゾーンを使い分ける。
10	リーグ戦① (チーム固定) 班別、チーム別練習
11	リーグ戦② 班別、チーム別練習
12	リーグ戦③ 班別、チーム別練習
備考	

### 後 期

週	主 要 テ ー マ
1	チーム分け。試しのゲーム
2	オフENSEの方法① カットインプレイ
3	オフENSEの方法② スクリーンプレイ (インサイド、アウトサイド)
4	オフENSEの方法③ 3人で行うスクリーンプレイ
5	オフENSEの方法④ ハイポストからの攻撃
6	3対2の攻防 今までのオフENSEの方法を組み合わせる。
7	練習ゲーム① スクリーンプレイ、ゾーンディフェンス、3点シュート制などを取り入れて、力が同じ程度のチームにくり返し挑戦する。
8	練習ゲーム②
9	リーグ戦①
10	リーグ戦②
11	リーグ戦③
12	リーグ戦④
備考	

科目名	体育Ⅰ・体育Ⅱ バドミントン	担当者名	梶野克之
-----	-------------------	------	------

講義の目標	ラケットとシャトルを使用してプレーするバドミントン競技を種目として取り上げ、バドミントンの基本的なプレーの練習を通して、身体活動の必要性を理解するとともに、体力の維持向上をはかる。シングルス、ダブルスの試合方法を理解して実践できるようにするとともに、審判法についても十分に理解し、進んで審判ができるようにする。バドミントンの全般的な理解とともに、体力の維持向上をはかり、今後の生活の中に生かせるようにすることを目標としたい。		
講義概要	バドミントンに関する基本的なルールや技術について理解する。手の延長としてのラケットを使用した各種のストロークを身につける。シングルス・ダブルスの試合を実施し、ルールの理解とともに、ゲームの進行方法の理解を深める。ゲームの中で練習したプレーが生かせるようにするとともに、課題を克服してよりレベルの高いゲームを求めていく。審判法についても理解して、進んで審判をつとめるとともに、ゲームの進行にも関心を持ち、授業が円滑に進行するように努力する。		
使用教材	テキスト	使用しない。	
	参考文献	<ul style="list-style-type: none"> <li>・『やさしいバドミントンレッスン』、相沢マチ子、1983、ベースボールマガジン社</li> <li>・『基本レッスンバドミントン』、阿部一佳、渡辺雅弘、1985、大修館書店</li> </ul>	
評価方法	評価は、出席回数、授業への参加態度、実技の達成度等によって決定する。		
受講者に対する要望など	毎回出席を原則とし、毎週新しい技術の習得を目指したい。より効果をあげるために出席して、努力してほしい。		

## 年 間 講 義 予 定

### 前 期

週	主 要 テ ー マ
1	年間授業計画の説明と、受講上の注意、次回から開始する実技実施上の諸注意ならびに連絡事項の確認をする。
2	バドミントン競技の全般的な説明を行う。コート・ラケット・シャトル等についての解説をする。基本的なグリップの説明を行い、素振りによりストロークの基本を学ぶ。ネットをはさんでクリアーに近づく。
3	前回に練習した基本的なストロークを、相手コート深くにシャトルを送るハイクリアーに発展させる。ハイクリアーの構えから、シャトルをコントロールしてネット際に落とすドロップを学ぶ。
4	前回までのクリアー・ドロップの復習をする。ネット近くで小さくコントロールするヘアピンの練習をする。最初はネット近くに構えて行うが、慣れてきたら、中央近くに位置し前方へのフットワークを学ぶ。
5	前回までの各種のストロークを復習する。アンダーハンドからシャトルを打つ、サーブの基本となる動作を学ぶ。コートを縦半分を使い、これまで練習した各種ストロークを自由に打ちあってみる。
6	前回までの各種ストロークを課題をきめて練習する。前週の半面シングルスのカウントをとって実施する。縦半分の広さであるので、前後の動きを課題として試合形式で行う。
7	前回までのストロークを課題をきめて練習する。前回に続いて半面シングルスを行い、審判法について理解し進んで審判を行うようにする。試合結果について記録し、上速度の参考とする。
8	前回までのストロークを復習する。ドライブの基本を学び、相手コートに素早くシャトルを送り込めるようにする。全面を使用した正規のシングルスのゲームを実施する。
9	前回までの各種ストロークを復習する。スマッシュの基本を学び、これまでよりもスピードのあるシャトルに慣れる。前回に続いて正規のシングルスのゲームを実施する。
10	前回までのストロークを課題をきめて練習する。相手にハイクリアーを打ってもらい、ホームポジションから後方へのフットワークを学ぶ。ダブルスの基本を理解し、試合形式のダブルスを実施する。
11	前回までのストロークを復習する。ダブルスの基本的なフォーメーションを学び、練習する。ダブルスのルールについて理解し、試合を実施すると同時に、審判法の理解も深める。
12	前回までのストロークを復習する。全体をいくつかのグループに分け、総あたりのリーグ戦を実施する。進行係を決めて、試合及び審判が円滑に進行するようにする。
備考	

### 後 期

週	主 要 テ ー マ
1	前期に練習した基本的なストロークを復習する。ダブルスの試合進行方法と、審判法を確認し、ダブルスの試合を実施する。バドミントンを久しぶりに行う者が多いので、前期の感覚を思い出させる。
2	ハイクリアーから開始し、各種ストロークを練習する。ダブルスのパートナーを決め、いくつかのグループによりリーグ戦を再開する。セッティングについて説明を行い、理解を深める。
3	ハイクリアーから開始し、各種ストロークを練習する。ダブルスの基本的なフォーメーションについてパートナーと確認し、ゲームの中で実施できるように心がける。
4	パートナーとクリアーから開始し、各種ストロークを練習する。前回のゲーム結果を分析し問題点を整理する。前回に引き続き、ダブルスゲームを実施する。
5	クリアーから開始し、各種ストロークを練習する。前回のゲーム結果を分析し、問題点を整理する。ゲームの進行状態を確認し、組み合わせを変えてリーグ戦を進める。
6	ハイクリアーから開始し、自分達の課題とするストロークの練習をする。ダブルスゲームを進行し、練習した課題がゲームの中で実際に使えるように努力し、ゲームの質を高める。
7	ハイクリアーから開始し、自分達の課題とするストロークの練習をする。引き続き、ダブルスゲームを進行し、ゲームのおもしろさを理解し、進んでゲーム・審判を行う。
8	クリアーから開始し、自分達の課題とするストロークの練習をする。引き続きゲームを進行し、試合の中で課題の克服に努める。パートナーと相談しながらより高いレベルのゲームを心掛ける。
9	クリアーから開始し、各種ストロークの練習をする。パートナーと相談し、ゲームの中での問題点を集中して練習する。リーグ戦の進行状況により、パートナー・組み合わせを考える。
10	クリアーから開始し、課題となるストロークの練習をする。パートナーと相談し、ゲームの中で相手プレイヤーの動きに合わせたプレーの練習をする。引き続きゲームを進める。
11	クリアーから開始し、ストロークの練習をする。パートナーとゲームの中での問題点を整理し練習する。ゲーム・審判ともに全員が進んで実行するようにする。
12	ゲームの進行を確認し、勝負、順位などについて整理する。この授業のまとめと、これ以後のバドミントンとの関わりや、体育・身体運動との関わりについて考える。
備考	

科目名	体育Ⅰ・体育Ⅱ バドミントンⅡ	担当者名	梶野克之
-----	--------------------	------	------

講義の目標	バドミントンの授業を受講した者や経験者を対象とした授業としたい。バドミントンの各種のプレーの練習を通して、身体活動の必要性を理解するとともに、体力の維持向上をはかる。シングルス、ダブルスの試合を実践することを通して技術の向上とともに、審判法についても理解を深める。バドミントンをより深く理解するとともに、体力の維持向上をはかり、今後の生活の中に生かせることを目標としたい。		
講義概要	バドミントンに関するルールや技術についてより深い理解をする。各種のストロークの正確性をより向上させる。シングルス・ダブルスの試合を実施し、ゲーム中でのプレーについて反省し課題の克服を目指す。より高いレベルのゲームを求めて練習に取り組む。審判を進んで実施するとともに、全体の進行状況にも関心をもち、ゲーム・授業が円滑に進行するように心掛ける。		
使用教材	テキスト	使用しない。	
	参考文献	<ul style="list-style-type: none"> <li>・『基本レッスンバドミントン』、阿部一佳渡辺雅弘、1985、大修館書店</li> <li>・『ウィニングバドミントン [シングルス]』</li> <li>・『ウィニングバドミントン [ダブルス]』、阿部一佳他訳、Jake Downey、1990、大修館書店</li> </ul>	
評価方法	評価は、出席回数、授業への参加態度、実技の達成度等によって決定する。		
受講者に対する要望など	より効果的な授業とするために、毎回の出席を原則とする。		

## 年 間 講 義 予 定

### 前 期

週	主 要 テ ー マ
1	年間授業計画の説明と、受講上の注意、次回から開始する実技実施上の諸注意ならびに連絡事項の確認をする。
2	バドミントン競技の全般的な説明を行う。コート・ラケット・シャトル等についての解説をする。基本的なグリップの説明を行い、素振りによりストロークの基本を学ぶ。ネットをはさんでクリアーに近づく。
3	前回に練習した基本的なストロークを、相手コート深くにシャトルを送るハイクリアーに発展させる。ハイクリアーの構えから、シャトルをコントロールしてネット際に落とすドロップを学ぶ。
4	前回までのクリアー・ドロップの復習をする。ネット近くで小さくコントロールするヘアピンの練習をする。最初はネット近くに構えて行うが、慣れてきたら、中央近くに位置し前方へのフットワークを学ぶ。
5	前回までの各種のストロークを復習する。アンダーハンドからシャトルを打つ、サーブの基本となる動作を学ぶ。コートを縦半分を使い、これまで練習した各種ストロークを自由に打ちあってみる。
6	前回までの各種ストロークを課題をきめて練習する。前週の半面シングルスのカウントをとって実施する。縦半分の広さであるので、前後の動きを課題として試合形式で行う。
7	前回までのストロークを課題をきめて練習する。前回に続いて半面シングルスを行い、審判法について理解し進んで審判を行うようにする。試合結果について記録し、上速度の参考とする。
8	前回までのストロークを復習する。ドライブの基本を学び、相手コートに素早くシャトルを送り込めるようにする。全面を使用した正規のシングルスのゲームを実施する。
9	前回までの各種ストロークを復習する。スマッシュの基本を学び、これまでよりもスピードのあるシャトルに慣れる。前回に続いて正規のシングルスのゲームを実施する。
10	前回までのストロークを課題をきめて練習する。相手にハイクリアーを打ってもらい、ホームポジションから後方へのフットワークを学ぶ。ダブルスの基本を理解し、試合形式のダブルスを実施する。
11	前回までのストロークを復習する。ダブルスの基本的なフォーメーションを学び、練習する。ダブルスのルールについて理解し、試合を実施すると同時に、審判法の理解も深める。
12	前回までのストロークを復習する。全体をいくつかのグループに分け、総あたりのリーグ戦を実施する。進行係を決めて、試合及び審判が円滑に進行するようにする。
備考	

### 後 期

週	主 要 テ ー マ
1	前期に練習した基本的なストロークを復習する。ダブルスの試合進行方法と、審判法を確認し、ダブルスの試合を実施する。バドミントンを久しぶりに行う者が多いので、前期の感覚を思い出させる。
2	ハイクリアーから開始し、各種ストロークを練習する。ダブルスのパートナーを決め、いくつかのグループによりリーグ戦を再開する。セッティングについて説明を行い、理解を深める。
3	ハイクリアーから開始し、各種ストロークを練習する。ダブルスの基本的なフォーメーションについてパートナーと確認し、ゲームの中で実施できるように心がける。
4	パートナーとクリアーから開始し、各種ストロークを練習する。前回のゲーム結果を分析し問題点を整理する。前回に引き続き、ダブルスゲームを実施する。
5	クリアーから開始し、各種ストロークを練習する。前回のゲーム結果を分析し、問題点を整理する。ゲームの進行状態を確認し、組み合わせを変えてリーグ戦を進める。
6	ハイクリアーから開始し、自分達の課題とするストロークの練習をする。ダブルスゲームを進行し、練習した課題がゲームの中で実際に使えるように努力し、ゲームの質を高める。
7	ハイクリアーから開始し、自分達の課題とするストロークの練習をする。引き続き、ダブルスゲームを進行し、ゲームのおもしろさを理解し、進んでゲーム・審判を行う。
8	クリアーから開始し、自分達の課題とするストロークの練習をする。引き続きゲームを進行し、試合の中で課題の克服に努める。パートナーと相談しながらより高いレベルのゲームを心掛ける。
9	クリアーから開始し、各種ストロークの練習をする。パートナーと相談し、ゲームの中での問題点を集中して練習する。リーグ戦の進行状況により、パートナー・組み合わせを考える。
10	クリアーから開始し、課題となるストロークの練習をする。パートナーと相談し、ゲームの中で相手プレイヤーの動きに合わせたプレーの練習をする。引き続きゲームを進める。
11	クリアーから開始し、ストロークの練習をする。パートナーとゲームの中での問題点を整理し練習する。ゲーム・審判ともに全員が進んで実行するようにする。
12	ゲームの進行を確認し、勝負、順位などについて整理する。この授業のまとめと、これ以後のバドミントンとの関わりや、体育・身体運動との関わりについて考える。
備考	

科目名	体育Ⅰ・体育Ⅱ バレーボール	担当者名	小 俣 充
-----	-------------------	------	-------

講義の目標	バレーボールの面白さの経験とそれによる運動欲求の充足を目指す。また自らの努力と、他の努力を促すことによりチームの仲間意識（存在意識）を育む。	
講義概要	ゲームに向けた基礎とその動作を確かなものにする意識の働きについて学ぶ。また基礎を簡潔にまとめ、その動作を繰り返し練習する。続いてリーグ戦を行い、勝つことを目指して力を合わせ気持ちを集中し、その楽しさと充足感を体験する。	
使用教材	テキスト	
	参考文献	1 スポーツとルールの社会学 守能信次著、名古屋大学出版会 2 スポーツ・人間・社会 ライナー・マートンズ、ベースボール・マガジン社 3 人と人との間 木村 敏、弘文堂
評価方法	出席回数をベースにし、どれほど自ら努力しまた他の努力を促したかにより評価。	
受講者に対する要望など	バレーボールを面白くするためにバレーボール経験者（運動部）の受講を多少優遇することがある。	



## 年 間 講 義 予 定

### 前 期

週	主 要 テ ー マ
1	授業の目的を説明。基本技術と動きの反復練習。教師と受講生および受講生相互のコミュニケーションを図る。
2	基本技術と動きの反復練習。運動量と脈搏・呼吸の関係の理解。プレーしながらの発声の徹底。
3	チーム分け。ゲームでのポジション確定へのプロセスに導入。 : 固定ポジションとローテーション。
4	固定ポジションでの連係プレーの反復練習。
5	固定ポジションでのゲームプレーの反復練習。
6	ポジション確定。ゲームプレーの反復練習。
7	リーグ戦その1
8	リーグ戦その2
9	リーグ戦その3
10	リーグ戦その4
11	リーグ戦その5
12	順位決定戦と前期のまとめ。
備考	

### 後 期

週	主 要 テ ー マ
1	夏季休業中のスポーツ・レクリエーション活動実態調査。授業の目的を説明。基本技術と動きの反復練習。
2	固定ポジションでの連係プレーの反復練習。
3	固定ポジションでのゲームプレーの反復練習。
4	ローテーションでの連係プレーの反復練習。
5	ローテーションでの連係プレーの反復練習。
6	ローテーションでのゲームプレーの反復練習。
7	リーグ戦その1 (固定およびローテーション)
8	リーグ戦その2 (上に同じ)
9	リーグ戦その3 (上に同じ)
10	リーグ戦その4 (上に同じ)
11	リーグ戦その5 (上に同じ)
12	順位決定戦と後期のまとめ。
備考	

科目名	体育Ⅰ・体育Ⅱ バレーボール	担当者名	中 沢 克 江
-----	-------------------	------	---------

講義の目標	<p>バレーボールのゲームを楽しむために必要な基本的技術、ルール等を学びながら、体を動かし、チームワークを養う。</p> <p>チームプレーの中で自分の役割を考え、受講生同士の親睦を図る。</p>	
講義概要	<p>基本的技術の習得。</p> <p>ルールの理解。</p> <p>ゲームを楽しむ。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・前期のゲーム：受講生の親睦を深めるため、チームの編成は毎週変更する。 技術レベル別、男女混合などのゲームも行う。</li> <li>・後期のゲーム：4週目までは前期と同じ。 5週目からは、メンバー編成固定でリーグ戦を行う。</li> </ul>	
使用教材	テキスト	
	参考文献	
評価方法	<p>出席状況、受講態度、課題の理解度、技術を評価する。</p> <p>受講態度の中には、服装も対象とする。</p>	
受講者に対する要望など	<p>体育実技に適した服装で受講すること。</p> <p>体育館専用シューズを用意すること。</p>	

## 年 間 講 義 予 定

### 前 期

週	主 要 テ ー マ
1	オリエンテーション：授業に関する説明及び諸注意。個人資料の作成。
2	基本技術：オーバーハンドパス アンダーハンドパス
3	基本技術：オーバーハンドパス アンダーハンドパス トス 簡易ゲーム
4	基本技術：パス トス レシーブ サーブ スパイク 簡易ゲーム
5	基本応用技術：サーブレシーブ等 簡易ゲーム
6	チーム練習：各ポジションでの動き ・チームの構成メンバーは毎週変更する。 ゲーム
7	ゲーム
8	ゲーム
9	ゲーム
10	ゲーム
11	ゲーム
12	評価を行う。 ゲーム
備考	

### 後 期

週	主 要 テ ー マ
1	基本技術：パス トス レシーブ サーブ スパイク 基本応用技術：サーブレシーブ等
2	チーム練習：各ポジションでの動き ・チームの構成メンバーは4週目まで毎週変更。 ゲーム
3	ゲーム
4	ゲーム
5	ゲーム：メンバー固定チームリーグ戦 ・チームの構成メンバーを固定し、リーグ戦を行う。
6	ゲーム：メンバー固定チームリーグ戦
7	ゲーム：メンバー固定チームリーグ戦
8	ゲーム：メンバー固定チームリーグ戦
9	ゲーム：メンバー固定チームリーグ戦
10	ゲーム：メンバー固定チームリーグ戦
11	ゲーム
12	評価を行う。 ゲーム
備考	

科目名	体育Ⅰ・体育Ⅱ フリースポーツ	担当者名	土井浩信
-----	--------------------	------	------

講義の目標	<p>様々なレクリエーションスポーツ、軽スポーツ、ニュースポーツに挑戦し、自分にとっての生涯スポーツの目的を考える。スポーツの楽しさについても掘り下げて考えていきたい。</p>		
講義概要	<p>屋外で出来る軽スポーツやニュースポーツの方法について実践的な学習をする。若者的な運動負荷の高い種目からハンディーキャップスポーツ、シルバースポーツ種目まで、各々の特性に応じた楽しみ方を学ぶことになる。</p> <p>これまでに体験したことのないスポーツ種目が多いから、その方法や技術についての学習が中心にならざるを得ないが、出来るなら、自分達でレクリエーションゲームやニュースポーツの創作に挑戦したい。</p>		
使用教材	テキスト	なし。指導VTR等の視聴覚教材を使用する場合もある。	
	参考文献	なし。	
評価方法	授業への出席度とレポートによる評価。		
受講者に対する要望など	かなりハードな種目にも挑戦するので、それなりの服装に留意すること。		

## 年 間 講 義 予 定

### 前 期

週	主 要 テ ー マ
1	授業説明と受講にあたっての諸注意。個人カード作成
2	フライングディスク (フリスビー)。 基本練習 (スローイング、キャッチング)。コントロール投の練習。
3	フライングディスク (フリスビー) アルテミット (※フリスビーゲーム) のルール、競技方法の説明。グループ分け。
4	フライングディスク (フリスビー) アルテミット、チーム対抗ゲーム
5	フライングディスク (フリスビー) アルテミット、チーム対抗ゲーム。ガッツ (※フリスビーゲーム) 説明。
6	一輪車 一輪車の扱い方。一輪車乗りこえ練習。一輪車乗車姿勢、半回転前進とリカバリー連続動作の練習。
7	一輪車 一輪車の補助の仕方。三人一組のグループ分け。補助者付き前進練習。 経験者には別途指示。
8	一輪車 一輪車の有効な失敗体験。補助なし前進 5 m に挑戦。 経験者は補助なし乗車練習。
9	一輪車 補助なし10 m に挑戦。補助者付き連続乗車400 m。
10	一輪車 補助なし全員10 m 前進乗車達成。
11	一輪車 補助なし乗車 (乗り方) の基本練習。横乗り乗車、ケリ上げ乗車への挑戦。
12	前期のまとめ。
備考	

### 後 期

週	主 要 テ ー マ
1	ベタンク ベタンクのルール、競技方法の学習。チーム分け練習。
2	ベタンク チーム対抗ゲーム。安全指導。
3	ベタンク チーム対抗ゲーム。
4	ゲートボール ゲートボールのルール、競技方法の学習。打球の基本練習。
5	ゲートボール コートの作り方、競技の運営方法。作戦のたて方。
6	ゲートボール チーム対抗ゲーム
7	ターゲットバードゴルフ 基本のスウィング練習。安全の為のルールとマナー。
8	ターゲットバードゴルフ 基本練習。コース作りの方法。簡単なゲーム。
9	ターゲットバードゴルフ コース作りとゲーム。
10	フットバッグ VTR 指導。フットバッグ的な世界のスポーツについて。
11	フットバッグ 連続リフティング5回以上に挑戦。グループリフティング。
12	一年のまとめと評価。レポート提出。
備考	

科目名	体育Ⅰ・体育Ⅱ フリースポーツ	担当者名	檜山 康
-----	--------------------	------	------

講義の目標	様々なスポーツ活動を通して、スポーツの楽しさを知り、スポーツ文化に触れることを目標とする。	
講義概要	主に球技を主体とした種目を中心に授業を行っていく。具体的には、バスケットボール、ハンドボール、サロンフットボール、バレーボールを考えている。それぞれの種目を5～6回の授業で交代していき、半期で2種目行えるように考えている。種目は異なるが、球技共通の特性について解説していくつもりである。内容的にはゲーム中心で行うが、ゲームの中から特性について学べればと思っている。楽しめる授業にしたい。	
使用教材	テキスト	
	参考文献	
評価方法	評価は、授業への参加度、態度、技能点などによって決定する。場合によって簡単なレポートを課すこともある。	
受講者に対する要望など	室内で行う時は、必ず室内シューズ着用のこと。	

## 年 間 講 義 予 定

### 前 期

週	主 要 テ ー マ
1	オリエンテーション
2	バスケットボール ルールの説明と基本技術の練習。試しのゲーム。
3	パスの方法とショットの方法。 速攻を生かしたゲームを行う。
4	ショットの方法について レイアップショットとランニングショット ショットの方法に注意してゲームを行う。
5	リーグ戦① (チーム固定)
6	リーグ戦②
7	リーグ戦③
8	ハンドボール ルールの説明と基本技術の練習。試しのゲーム
9	パスとショットの方法。 速攻を生かしたゲームを行う。
10	リーグ戦① ゲームを行いながらルールを確認していく。
11	リーグ戦②
12	リーグ戦③
備考	

### 後 期

週	主 要 テ ー マ
1	サロフットボール ルールの説明と基本技術の練習。試しのゲーム。
2	基本戦術の説明 パスアンドゴー、まわりを見る、ボールに寄るなど
3	チーム戦術の説明。 トライアングル、コーチングなど
4	リーグ戦① ゲームを行いながらルール、戦術の確認をしていく。
5	リーグ戦②
6	リーグ戦③
7	バレーボール ルールの説明と基本技術の練習。試しのゲーム。
8	パスの方法とレシーブの方法 アンダーハンドパス、オーバーハンドパス、レシーブを確実にやり、ラリーの続くゲームを行う。
9	スパイクの方法 トスをオープンにあげて、スパイクを行う。簡単なオープンからの攻撃を行い、ゲームができるようにする。
10	リーグ戦① ゲームを行いながらルール、戦術の確認をしていく。
11	リーグ戦②
12	リーグ戦③
備考	

科 目 名	体育Ⅰ・体育Ⅱ フリスビー ウインドサーフィン（集中授業）	担当者名	和 田 智
-------	-------------------------------------	------	-------

講 義 の 目 標	<p>前期フリスビーでは、基本的なスローイング技術の習得とアルテミットというゲームを楽しむためのルール・チームの動きを学習してもらう。</p> <p>集中授業ウインドサーフィンでは、ウインドサーフィンに関する知識・技術の習得を通して、海という自然環境と関わる楽しみを追求していく。</p>		
講 義 概 要	<ul style="list-style-type: none"> <li>・用具の都合から、募集人数は男子20名、女子20名までとする。</li> <li>・フリスビー、ウインドサーフィン未経験者でも受講可能。ただし、海での活動に支障のある疾患を持つものは受講できない。</li> <li>・用具類はすべて大学で用意している。</li> <li>・ウインドサーフィンは、必要経費（宿泊費・食費・保険料等）として28000円を第1週目のオリエンテーション時に獨協大学証紙にかえて持ってくること。</li> <li>・ウインドサーフィンの技術進歩は、天候に大きく左右される。</li> </ul> <p>集中授業は、期間：平成7年9月12日（火）～17日（土）4泊5日 場所：千葉県館山市獨協学園館山海の家の予定 現地集合・現地解散とする。</p>		
使 用 教 材	テキスト	霜山厚、『ボードセイリングマスター』、マリン企画	
	参 考 文 献		
評 価 方 法	出席状況（60%）、受講態度（20%）、技術の向上度（20%）で評価する。		
受 講 者 に 対 す る 要 望 な ど			



年 間 講 義 予 定

前 期

週	主 要 テ ー マ
1	オリエンテーション
2	フリスビー・ディスクの基本的スローとキャッチ
3	バックハンドスローの練習 その1
4	バックハンドスローの練習 その2
5	サイドアームスローの練習 その1
6	サイドアームスローの練習 その2
7	アルテミットのルールとミニゲーム
8	アルテミットリーグ戦
9	アルテミットリーグ戦
10	アルテミットリーグ戦
11	アルテミットリーグ戦
12	ウインドサーフィンのオリエンテーション
備考	

後 期

週	主 要 テ ー マ
1	後期授業なし
2	
3	
4	
5	
6	
7	
8	
9	
10	
11	
12	
備考	

科目名	体育Ⅰ・体育Ⅱ ラグビー	担当者名	天野和彦
-----	-----------------	------	------

講義の目標	ラグビーの技術、戦術の基礎を習得する。また、ルールの理解とゲームの展開方法を学習する。	
講義概要	安全に留意しながら、最終的には、15人制のゲームができるようにする。	
使用教材	テキスト	
	参考文献	
評価方法	出欠、授業態度、さらに多少の技能の進歩などを考慮して決定する。	
受講者に対する要望など	できる限りスパイクを用意すること。	

## 年 間 講 義 予 定

### 前 期

週	主 要 テ ー マ
1	オリエンテーション
2	ラグビーの個人技術を学ぶ①
3	ラグビーの個人技術を学ぶ②
4	ラグビーの個人技術を学ぶ③
5	ラグビーの個人技術を学ぶ④
6	ラグビーの集団技術を学ぶ①
7	ラグビーの集団技術を学ぶ②
8	ラグビーの集団技術を学ぶ③
9	ラグビーの集団技術を学ぶ④
10	フォワードの戦術①
11	バックスの戦術①
12	ゲーム
備考	

### 後 期

週	主 要 テ ー マ
1	フォワードの戦術② スクラムからの攻撃と防御
2	フォワードの戦術③ ラインアウト、モール・ラックからの攻撃と防御
3	バックスの戦術② パスによる攻撃と防御
4	バックスの戦術③ キックによる攻撃と防御
5	フォワード、バックスが一体となった動き①
6	フォワード、バックスが一体となった動き②
7	フォワード、バックスが一体となった動き③
8	いろいろな状況からの攻撃と防御①
9	いろいろな状況からの攻撃と防御②
10	ゲーム
11	ゲーム
12	ゲーム
備考	

科 目 名	体育Ⅰ・体育Ⅱ ラグビー	担当者名	中 川 昭
-------	-----------------	------	-------

講 義 の 目 標	ラグビーの技能を習得し、ゲームをエンジョイする。併せて、体力の向上を図る。		
講 義 概 要	前期は身体接触のないタッチラグビーを行う。後期から徐々にコンタクト技術の練習を行い、最終的には15人制の正規の試合を行う。		
使 用 教 材	テ キ ス ト		
	参 考 文 献		
評 価 方 法	出席を重視し、技能の伸びや授業中の態度等を加味する。		
受 講 者 に 対 す る 要 望 な ど	スパイク（サッカー・ラグビー用）をできるだけ用意すること。		

## 年 間 講 義 予 定

### 前 期

週	主 要 テ ー マ
1	オリエンテーション
2	体力トレーニング、基本練習、小ゲーム
3	体力トレーニング、基本練習、小ゲーム
4	体力トレーニング、基本練習、小ゲーム
5	基本練習、簡易ルールでのタッチラグビー
6	基本練習、簡易ルールでのタッチラグビー
7	基本練習、簡易ルールでのタッチラグビー
8	基本練習、タッチラグビーのリーグ戦
9	基本練習、タッチラグビーのリーグ戦
10	基本練習、タッチラグビーのリーグ戦
11	基本練習、タッチラグビーのリーグ戦
12	基本練習、タッチラグビーのリーグ戦
備考	

### 後 期

週	主 要 テ ー マ
1	体力トレーニング、基本練習、ホールドラグビーの小ゲーム
2	体力トレーニング、基本練習、ホールドラグビーの小ゲーム
3	体力トレーニング、基本練習、ホールドラグビーの小ゲーム
4	基本練習、ホールドラグビーのリーグ戦
5	基本練習、ホールドラグビーのリーグ戦
6	基本練習、ホールドラグビーのリーグ戦
7	班別練習、15人制ラグビーのリーグ戦
8	班別練習、15人制ラグビーのリーグ戦
9	班別練習、15人制ラグビーのリーグ戦
10	班別練習、15人制ラグビーのリーグ戦
11	班別練習、15人制ラグビーのリーグ戦
12	班別練習、15人制ラグビーのリーグ戦
備考	

科目名	外国法文献研究(新) 外国法政研究1(旧)	担当者名	市川 須美子
-----	--------------------------	------	--------

講義の目標	ドイツ教育法を素材に、法令、判例、論文など様々な法文献の読解を通じて、ドイツ法の法学専門文献の読解力をつける。	
講義概要	文献は多岐にわたるので、初めに各文献ごとの位置づけ、注意すべき点などを講義した上で、出席学生の分担・報告で読んでゆく。	
使用教材	テキスト	その都度配布する。
	参考文献	
評価方法	日常的な出席および報告で評価する。	
受講者に対する要望など	専門文献の講読なので、一定レベル以上のドイツ語力のある受講者を予定している。	

## 年 間 講 義 予 定

### 前 期

週	主 要 テ ー マ
1	ドイツの教育制度——日本の教育制度と比較して
2	ドイツの教育法制の基本的枠組み——基本法の教育条項と各ラントの学校法制
3	教育法の基礎概念 Staupe “Schulrecht von A—Z”
4	教育法の基礎概念 Staupe “Schulrecht von A—Z”
5	教育法の基礎概念 Staupe “Schulrecht von A—Z”
6	教育法判例と判例評釈——ドイツ憲法裁判所判決——
7	教育法判例と判例評釈——ドイツ憲法裁判所判決——
8	教育法判例と判例評釈——ドイツ憲法裁判所判決——
9	教育法判例と判例評釈——ドイツ憲法裁判所判決——
10	教育法判例と判例評釈——ドイツ憲法裁判所判決——
11	子どもの権利条約と子どものオンブズマン——教育問題パンフレット
12	子どもの権利条約と子どものオンブズマン——教育問題パンフレット
備考	

### 後 期

週	主 要 テ ー マ
1	ドイツ学校制度における父母参加・生徒参加
2	ドイツ法曹会議学校草案
3	ドイツ法曹会議学校草案
4	ドイツ法曹会議学校草案
5	新しいラント憲法と教育 Mangolt “Die Verfassungen der neuen Bundesländer”
6	新しいラント憲法と教育 Mangolt “Die Verfassungen der neuen Bundesländer”
7	新しいラント憲法と教育 Mangolt “Die Verfassungen der neuen Bundesländer”
8	新しいラント憲法と教育 Mangolt “Die Verfassungen der neuen Bundesländer”
9	親の教育権関係文献
10	親の教育権関係文献
11	親の教育権関係文献
12	親の教育権関係文献
備考	

科目名	憲法 I	担当者名	古関 彰一
-----	------	------	-------

講義の目標	日本国憲法の人権条項を中心に憲法の基本的理解を身につけることを目標とする。		
講義概要	日本国憲法の基本原理、平和主義、人権、天皇についての基本的解説。		
使用教材	テキスト	・山内敏弘・古川純著『憲法の現況と展望』北樹出版	
	参考文献	・芦部信喜・高橋和之編『憲法判例百選』第三版、I・II（別冊ジュリスト）有斐閣 ・樋口陽一編『憲法の基本判例』（別冊法学教室）有斐閣	
評価方法	前期・後期2回の試験による		
受講者に対する要望など			



## 年 間 講 義 予 定

### 前 期

週	主 要 テ ー マ
1	開講にあたって（近代憲法と日本国憲法の特色）
2	日本国憲法の制定過程
3	平和主義と9条の解釈
4	日米安保条約と自衛隊
5	基本的人権・総論（人権の歴史）
6	基本的人権と私法関係
7	外国人の人権
8	平等権の概念
9	平等権をめぐる判例
10	信教の自由と政教分離原則
11	政教分離をめぐる判例の動向
12	前期のまとめ（平和と人権）
備考	

### 後 期

週	主 要 テ ー マ
1	表現の自由・総論
2	表現の自由と名誉・プライバシー
3	表現の自由と政治活動
4	知る権利と報道の自由
5	学問の自由と教育権
6	教育権をめぐる判例の動向
7	生存権の意義と判例
8	環境権の法的性格と判例の動向
9	労働基本権の内容と判例
10	刑事人権の保障
11	天皇の地位の法的性格
12	閉講にあたって（日本国憲法の理念と現在）
備考	

科目名	憲法 I	担当者名	山内敏弘
-----	------	------	------

講義の目標	日本国憲法の基本原理、平和主義、基本的人権について、具体的な判例や現実の政治問題などを素材にしながら講義することによって、学生諸君が憲法についての認識を深めることを目標にしたい。		
講義概要	日本国憲法は、大きく総論、基本的人権、政治機構に分けられるが、この憲法 I では、総論と基本的人権について講義する。講義の具体的な内容は、「年間講義予定」を参照されたい。		
使用教材	テキスト	・山内敏弘・古川純著『憲法の現況と展望』北樹出版	
	参考文献	・樋口陽一編『憲法の基本判例』有斐閣	
評価方法	評価は、学年末の試験で行う。		
受講者に対する要望など	授業に際しては、六法をもってくること。		

## 年 間 講 義 予 定

### 前 期

週	主 要 テ ー マ
1	日本国憲法の基本原理——明治憲法との対比において——
2	日本国憲法の基本原理——制定過程に関連して——
3	象徴天皇制の成立と規範構造
4	象徴天皇制の運用と現況
5	平和主義の成立背景
6	平和主義の規範内容
7	憲法9条関連裁判
8	国際社会の中での平和憲法の役割
9	基本的人権の歴史と類型
10	基本的人権と私法関係
11	基本的人権の享有主体
12	法の下の平等
備考	

### 後 期

週	主 要 テ ー マ
1	信教の自由と政教分離
2	表現の自由と名誉・プライバシー
3	表現の自由と政治活動の自由
4	表現の自由と知る権利・情報公開
5	表現の自由と司法審査基準
6	学問の自由と大学の自治
7	教育を受ける権利
8	生存権と環境権
9	労働基本権
10	財産権と経済的自由
11	適法手続主義
12	刑事人権をめぐる諸問題
備考	

科目名	憲法Ⅱ	担当者名	右崎正博
-----	-----	------	------

講義の目標	<p>憲法の統治機構に関する諸規定について基礎理論と基礎知識を学び、基本的理解を得ることをめざす。その際、憲法の歴史をふまえ、統治の諸制度の構造と意味について理解を深めるとともに、現実の憲法運用にも焦点をあて、憲法政治の現実を批判的に検討することも課題としたい。また、国家と社会が、世界的に大変動期を経つつあるなかで、伝統的憲法理論も変容を迫られつつあり、現代の変動要因の考察も行いながら、「生きた憲法」の把握をめざしたい。</p>	
講義概要	<p>統治機構の構造とその意味を学ぶことになるので、権力分立・国会・内閣・裁判所・財政・地方自治・憲法保障などがカバーすべき問題領域となる。後掲のテキストは、憲法学の教科書としてすでに定評ある著作であり、著者は、最高裁判事までつとめた人である。この新版は、著書が最高裁判事を退いた後に改訂されたもので、最高裁での経験も加味されている。著者の憲法学の体系を学ぶとともに、それを批判的に読むことをめざしたい。</p>	
使用教材	テキスト	伊藤正己『憲法新版』弘文堂
	参考文献	<ul style="list-style-type: none"> <li>・杉原泰雄『憲法——立憲主義の創造のために』岩波書店</li> <li>・戸波江二ほか『憲法(1)——統治機構』有斐閣</li> <li>・清宮四郎『憲法Ⅰ〈第三版〉』有斐閣</li> <li>・杉原泰雄編『資料で読む日本国憲法(下)』岩波書店ほか。</li> </ul>
評価方法	<p>評価は前後期各1回の試験による。試験は、選択解答の論述形式をとる。</p>	
受講者に対する要望など	<p>テキストの該当箇所をあらかじめ読んでおくことを希望する。</p>	

## 年 間 講 義 予 定

### 前 期

週	主 要 テ ー マ
1	1年間の講義概要、憲法学習の視点と方法について説明するとともに、憲法とはなにか（憲法の意味）、近代憲法の成立から現代憲法への展開の歴史を概観し、1年間の課題を明確にする。（第1章：pp. 1-35）
2	統治機構に関する憲法の基本原理としての権力分立論の意義、その成立と発展、世界と日本におけるその現われ方を歴史的・比較法的に考察する。（第2章：pp. 14-16, 24-25, 40-45, 57-60）
3	国会の地位に関連して、代表制論、選挙制度論、政党制度について考察する。（第6章：pp. 403-414）
4	国会の構成について、両院制、参議院の意義、衆議院と参議院の権限関係を、また、国会議員の地位、身分、諸特権について、考察する。（第6章：pp. 415-426, 426-437）
5	国会の活動に関し、会期制、議事手続、衆議院の解散、参議院の緊急集会をめぐる諸論点を考察する（第6章：pp. 438-462）
6	国会と財政に関し、租税法律主義、財政民主主義、予算の法的性格、予算修正権の可否、公費支出の制限などの論点を考察する。（第6章：pp. 462-484、第11章：pp. 653-660）
7	議院の権能に関し、国政調査権の意義と限界を論ずる。議院証言法などの考察も含む。（第6章：pp. 484-493）
8	議院の権能に関し、自律権の意義と限界を論ずる。政治倫理制度などの考察も含む。（第6章：pp. 493-600）
9	行政権の意義、行政国家、官僚制などの論点を扱う。（第7章：pp. 501-505, 536-541）
10	内閣の地位に関し、独立行政委員会の意義、議院内閣制の特質などを論ずる。（第7章：pp. 505-520）
11	内閣の組織とその構成、文民条項、その諸権能について考察する。（第7章：pp. 521-536, 541-548）
12	前期の講義のまとめと後期のガイダンス。
備考	

### 後 期

週	主 要 テ ー マ
1	司法権の意義とその帰属、国民の司法参加に関する諸問題を考察する。（第8章：pp. 549-565）
2	司法の独立と裁判官の身分保障、最高裁裁判官の国民審査に関する諸問題を扱う。（第8章：pp. 566-574）
3	裁判所の組織、機構と審級制に関する問題を扱う。（第8章：pp. 575-581）
4	地方自治の意義、歴史的展開、地方自治の本旨、地方自治権の法的性格をめぐる議論を考察する。（第9章：pp. 583-592）
5	地方公共団体とその権能、地方自治における直接民主制的諸制度、条例制定権の意義・範囲と限界などについて考察する。（第9章：592-602、第11章：pp. 668-647）
6	憲法保障の意義とその諸制度を概観する。抵抗権、国家緊急権についての考察も含む。（第10章：603-613）
7	憲法保障の仕組みとしての違憲審査制につき、その性格、主体と対象、憲法訴訟と裁判所の役割について考察する。（第10章：pp. 613-618, 639-640）
8	憲法訴訟の特質と要件、違憲審査の対象について考察する。統治行為、立法・行政の自律と裁量、立法不作為の違憲審査に関する問題を含む。（第10章：pp. 618-628）
9	憲法判断の方法、違憲審査基準、違憲判決の効力について考察する。（第10章：pp. 628-639）
10	憲法改正の意味とその手続、憲法改正の限界、戦後改憲論の動向について考える。（第11章：pp. 641-648、第2章：pp. 72-75）
11	国法の諸形式とその体系について考察する。法律、予算、命令、規制、条例、条約の成立手続きとその効力関係をみる。（第11章：pp. 649-678）
12	1年間の講義の総括と今後の課題の提示。
備考	

科目名	憲法Ⅱ	担当者名	古関彰一
-----	-----	------	------

講義の目標	日本国憲法の統治機構を中心に憲法の基本的理解を身につけることを目標とする。		
講義概要	日本国憲法の国会、内閣、司法、地方自治を中心に統治機構についての基本的解説		
使用教材	テキスト	・山内敏弘・古川純著『憲法の現況と展望』北樹出版	
	参考文献	<ul style="list-style-type: none"> <li>・芦部信喜・高橋和之編『憲法判例百選』第三版、Ⅱ（別冊ジュリスト）有斐閣</li> <li>・樋口陽一編『憲法の基本判例』（別冊法学教室）有斐閣</li> </ul>	
評価方法	前期・後期2回の試験による		
受講者に対する要望など			

## 年 間 講 義 予 定

### 前 期

週	主 要 テ ー マ
1	開講にあたって（現代国家と主権者）
2	国民主権と人民主権
3	日本国憲法における国民主権
4	権力分立制
5	選挙権の法的性格
6	選挙権と選挙制度
7	選挙区定数と判例の動向
8	立法機関の法的性格
9	国政調査権
10	行政権と議院内閣制
11	租税法律主義と財政
12	前期のまとめ
備考	

### 後 期

週	主 要 テ ー マ
1	司法権の意義と範囲
2	司法権の独立
3	裁判所の構成
4	裁判への国民の参加
5	違憲法令審査制
6	違憲審査の対象
7	憲法訴訟における統治行為論
8	憲法判断の方法と効力
9	地方自治総論（その性格）
10	住民自治
11	団体自治
12	閉講にあたって
備考	

科目名	行政法 I	担当者名	荒 秀
-----	-------	------	-----

講義の目標	行政目的実現の要請と、これに対する国民の権利・利益の保護を、憲法原理にしたがいでどのように調整するかの法理を探究する。		
講義概要	行政法の基礎理念としての「法律による行政」の原理の内容と、現代行政においてそれがどのように変容しているかと、依然重要な行為形式である行政行為をめぐる法的諸問題を中心に講義する。		
使用教材	テキスト	・原田尚彦著 『行政法要論』 学陽書房	
	参考文献	<ul style="list-style-type: none"> <li>・『行政判例百選』 I・II 有斐閣</li> <li>・『行政法判例』 有斐閣</li> <li>・塩野宏著『行政法』 I・II 有斐閣</li> </ul>	
評価方法	試験による 特に後期の試験は前期の分も含めて行ない重視する。		
受講者に対する要望など	私語をする者は退場させる。隣の人から話かけられても応えないこと。遅刻者は特別事情ある者を除き入場させない。授業を真剣に聞く態度を望む。テキストを何度も読むこと。読むたびに新しい発見をする。		



年 間 講 義 予 定

前 期

週	主 要 テ ー マ
1	1) 行政法規と日常生活 2) 行政の意義 3) 行政内容の変遷 4) 行政法の意義と範囲
2	行政法と公法概念
3	1) 行政法としてとらえられる法にはどのようなものがあるか——法源——。 2) 行政法の効力——いつ効力が発生し消滅するか——。
4	行政機関、行政庁、行政権限の委任・代理を中心とした行政組織についての法原理
5	地方行政のしくみ——地方自治法概要——
6	法律による行政の原理の内容
7	現代行政の特色としての法律によらざる行政 (1) 行政立法 (2) 行政計画
8	(3) 通達
9	(4) 行政指導
10	(5) 行政契約——特に公害防止協定を中心として——
11	行政における私人の地位
12	補論とまとめ
備考	

後 期

週	主 要 テ ー マ
1	行政活動の中心——行政行為—— 1) 意義 2) 概念要素 3) 効力——主として公定力——
2	4) 分類 (i) 法律行政概念による区別と批判 (ii) 法規裁量と便宜裁量——裁量統制のための方法——
3	5) 附款 6) 瑕疵論
4	7) 取消しと撤回
5	行政活動の手続的統制——行政手続法
6	行政目的の実効性確保のための手段
7	1) 行政上の強制執行
8	2) 即時強制
9	行政罰
10	補論
11	基本判例 I
12	基本判例 II
備考	まとめ

科目名	民法 I	担当者名	後藤 卷 則
-----	------	------	--------

講義の目標	民法の基本をしっかりと身につける。		
講義概要	民法総則に関する解釈的な諸問題を講義する。民法総則の講義は、民法入門的な講義も兼ねているので、身近な事例や社会問題などを挙げながら、民法の他の領域との関連に注意しつつ講義を進めたい。		
使用教材	テキスト	・近江幸治『民法総則』成文堂	
	参考文献	・『民法判例百選 I 総則・物権（第三版）』	
評価方法	年2回試験を行う。レポートの評価も参考とする。		
受講者に対する要望など	授業中に小報告を課したり、年数回レポートの提出を課する。意欲的に参加してほしい。		

## 年 間 講 義 予 定

### 前 期

週	主 要 テ ー マ
1	ガイダンス（講義内容の概要、注意事項の指摘、参考書の紹介）
2	民法全体についての基本的な説明（民法の編成、歴史、基本用語など）
3	民法の基本原則とその修正
4	権利能力、行為能力論Ⅰ
5	行為能力論Ⅱ、住所、不在所の財産管理と失踪宣告
6	法人論Ⅰ（序論、法人の能力など）
7	法人論Ⅱ（法人の不法行為など）
8	法人論Ⅲ（権利能力なき社団など）
9	権利の容体
10	法律行為総説
11	意思表示Ⅰ（心裡留保、虚偽表示(1)）
12	意思表示Ⅱ（虚偽表示(2)、錯誤）
備考	

### 後 期

週	主 要 テ ー マ
1	意思表示Ⅲ（詐欺、強迫）
2	意思表示Ⅳ（まとめ、全体にかかわる問題）
3	代理Ⅰ（序論、代理権）
4	代理Ⅱ（代理行為、無権代理）
5	代理Ⅲ（表見代理）
6	無効、取消、条件、期限、期間
7	時効Ⅰ（序論）
8	時効Ⅱ（取得時効と消滅時効）
9	時効Ⅲ（時効通則）
10	民法総則と他の民法領域とのかかわり
11	総復習——1年間の講義をふり返って——
12	予備日
備考	

科目名	民法 I	担当者名	花本広志
-----	------	------	------

講義の目標	民法の基本的な考え方や基礎概念を修得することを第一目標とし、そのうえで、第一編総則の解釈論上の諸問題について知識と理解を深めることを第二目標とする。		
講義概要	民法典第一編総則につき概説する。総則には抽象的な規定が多いので、できるだけ具体例を示しつつ解説する。総則は、民法全体の通則であるから、民法のその他の部分について十分な知識がなければ理解が困難である。したがって、講義内容を単に「記憶」するよりも、基本的な考え方を修得するよう努めてほしい。そこで、受講者には毎回簡単な質問に答えてもらう。もちろん覚えなければならない事項も多いので、年数回の小テストを実施する。		
使用教材	テキスト	<ul style="list-style-type: none"> <li>・遠藤浩ほか『要論民法総則』青林書院</li> <li>・我妻栄ほか編『民法基本判例集〔第五版〕』一粒社</li> </ul>	
	参考文献	四宮和夫『民法総則〔第四版〕』弘文堂	
評価方法	期末試験の成績と小テストの成績の合計に講義への参加度（質問に対する応答）を加味する。		
受講者に対する要望など	法律学の講義では六法全書は必携である。六法を携帯しない者の受講は認めない。		

# 年 間 講 義 予 定

## 前 期

週	主 要 テ ー マ
1	民法（法律学）の勉強の仕方 民法とは何か（法体系における位置づけ・民法の歴史・民法の体系）
2	民法の法源・基本原則（権利能力平等の原則・所有権絶対の原則・私的自治の原則）とその修正、民法の効力、民法の解釈。
3	私権・権利能力
4	意思能力と行為能力
5	住所・不在者・失踪宣告
6	法人……意義、法人の設立、法人の能力（権利能力）
7	法人の能力（行為能力・不法行為能力）、法人の組織 権利能力なき社団
8	権利の客体たる「物」とは？
9	法律行為とは？……法律行為総説（意義・法律行為の解釈・有効要件）
10	意思表示総説（法律行為の中核である意思表示について概説する）
11	法律上問題のある意思表示(1)……意思の欠缺(1)……心裡留保・虚偽表示
12	法律上問題のある意思表示(2)……意思の欠缺(2)……九四条二項の類推適用・錯誤
備考	

## 後 期

週	主 要 テ ー マ
1	法律上問題のある意思表示(3)……瑕疵ある意思表示（詐欺・強迫） 意思表示の効力の発生
2	代理(1)……代理の意義・要件・効果
3	代理(3)……表見代理(1)……表見代理の意義・効果
4	代理(3)……表見代理(2)……代理権授与表示の表見代理、代理権濫越の表見代理、代理権消滅後の表見代理
5	代理(4)……無権代理……無権代理の意義・効力、無権代理人の責任
6	無効・取消
7	条件・期限・期間
8	時効(1)……時効総説(1)……意義、効果、時効の援用
9	時効(2)……時効総説(2)……時効利益の放棄、時効の中断・停止
10	時効(3)……取得時効
11	時効(4)……消滅時効
12	全体の総括と民法答案の書き方
備考	

科目名	民法Ⅱ(新)	担当者名	平井一雄
-----	--------	------	------

講義の目標	<p>民法典の物権編について基礎的理解をえられるように講義する。もっとも、担保物権では、民法典に規定はないが、現実には担保機能を営む制度が多くある。これらについてもできるだけ触れてゆきたい。</p>	
講義概要	<p>概ね条文の順序に従って、各制度について説明してゆく。</p>	
使用教材	テキスト	
	参考文献	<p>通常の概説書では、物権法と担保物権法の二冊にわたることとなる。特定の書物をテキストとして指定しないが、講義の初めに参考文献を紹介するから、その中から自分で選んで使用すること。</p>
評価方法	<p>年二回の学期末試験による。</p>	
受講者に対する要望など	<p>講義ではノートを取り、参考書を用いての予習復習が大事である。</p>	

年 間 講 義 予 定

前 期

週	主 要 テ ー マ
1	勉強の仕方。参考書紹介。物権法案内（物権とはどのような権利か、物権法と適用領域）
2	占有権と占有訴権。物権的請求権。
3	物権変動(1) 物権行為。有因・無因。独自性。所有権移転時期。
4	二重譲渡についてどう考えるか。不動産物権の公示（登記の機能）
5	登記なくして対抗しえない物権変動。第三者の範囲（背信的悪意者排除）。
6	承前。（時効と登記、解除、取消と登記）
7	動産物権の公示。占有移転の態様。即時取得。
8	地上権、地役権
9	留置権（成立と効力）
10	先取特権（とくに物上代位性）
11	質権（動産・不動産・権利）
12	抵当権(1) 公示方法、登記の流用、被担保債権の効力の及ぶ範囲。
備考	

後 期

週	主 要 テ ー マ
1	抵当権(2) 共同抵当、根抵当。
2	抵当権(3) 法定地上権
3	抵当権(4) 短期賃借人との関係
4	抵当権(5) 抵当権法の問題点と非典型担保
5	債権法に規定される担保機能を営む制度。代物弁済予約（→仮登記担保法）、相殺、買戻。
6	仮登記担保法
7	譲渡担保(1) 権利移転型担保（→代物弁済予約、買戻）。判例の変遷。
8	譲渡担保(2) 法律構成。対外・対内的効力。
9	譲渡担保(3) その他の問題
10	所有権留保その他の非典型担保
11	担保法を振り返って。
12	（予備）
備考	

科目名	民法Ⅲ(新)	担当者名	辻 伸行
-----	--------	------	------

講義の目標	この講義は、債権総論の基本的理解を得ることを目的としている。単に一般的・抽象的に法律用語や法制度をおぼえるだけでは不十分であり、設例を通じて具体的に理解することが必要である。		
講義概要	講義の内容は、民法典第三編債権編（399条～520条）の全般であるが、取り扱う主な事項は、債権の目的・種類、履行の強制、債務不履行と損害賠償、受領遅滞、債権者代位権、債権者取消権、多数当事者の債権関係、債権譲渡、債務引受、弁済、相殺などである。		
使用教材	テキスト	野村豊弘・栗田哲男・池田真朗・永田真三郎著『民法Ⅲ——債権総論』有斐閣Sシリーズ（有斐閣）	
	参考文献	<ul style="list-style-type: none"> <li>・別冊ジュリスト『民法判例百選Ⅱ債権（第三版）』有斐閣</li> <li>・ジュリスト増刊『民法の争点Ⅱ（債権総論・債権各論）』有斐閣</li> </ul>	
評価方法	前期および後期の定期試験期間中に試験を実施する。この二回の試験の結果の総合評価によって、単位の認定を行う。したがって、単位を取得するためには、前期と後期の試験を受けることが必要である。		
受講者に対する要望など	受講者は、予習・復習をしてくること、また、受講に際しては、六法全書を携帯すること。また、言うまでもないことであるが、授業中は、私語はつつしむこと、そして、また、授業時間に遅れてこないこと。以上の点は必ず守ってほしい。		



# 年 間 講 義 予 定

## 前 期

週	主 要 テ ー マ
1	開講にあたっての一般的な注意、テキスト・参考書などの紹介 序論——債権の意義、債権編の内容の概観、物権と債権
2	債権の目的(1)——特定物債権と種類債権
3	債権の目的(2)——金銭債権・利息債権、選択債権
4	債権の効力(1)——序論、債権侵害
5	債権の効力(2)——履行の強制(1)
6	債権の効力(3)——履行の強制(2)
7	債務不履行(1)——序論、債務不履行の諸類型
8	債務不履行(2)——安全配慮義務、契約締結上の過失
9	債務不履行(3)——損害賠償の内容・範囲
10	受領遅滞
11	責任財産の保全(1)——債権者代位権(1)
12	責任財産の保全(2)——債権者代位権(2)
備考	

## 後 期

週	主 要 テ ー マ
1	責任財産の保全(3)——債権者取消権(1)
2	責任財産の保全(4)——債権者取消権(2)
3	多数当事者の債権関係(2)——序論、分割債権・分割債務 不可分債権・不可分債務
4	多数当事者の債権関係(2)——連帯債務
5	多数当事者の債権関係(3)——保証債務
6	債権譲渡(1)
7	債権譲渡(2)、債務引受
8	弁済(1)
9	弁済(2)
10	相殺
11	更改、免除、混同
12	一年間のまとめ
備考	

科目名	商法Ⅱ	担当者名	坂本延夫
-----	-----	------	------

講義の目標	最近の重要な判例・立法・理論を通しての株式会社法の平易な理解。		
講義概要	商法Ⅱの講義内容は会社法である。 講義は株式会社法を中心に行うが、受講生が会社法の理論と実務の双方について理解できるよう努める。平成5年および平成6年の改正商法にも及ぶ。		
使用教材	テキスト	・山村忠平・坂本延夫・中村建編著『要説会社法』〔二訂新版〕、嵯峨野書院	
	参考文献	追って指示する。	
評価方法	原則として、二度の筆記試験をもって評価する。		
受講者に対する要望など	意欲的な受講を期待する。		

## 年 間 講 義 予 定

### 前 期

週	主 要 テ ー マ
1	株式会社の経済的意義——法と経済との関連について——(I)
2	株式会社の経済的意義——法と経済との関連について——(II)
3	会社の法概念。 1.会社の社団性 2.会社の法人性 3.会社の営利性
4	会社の権利能力について。
5	会社の種類について。
6	株式会社の意義(I) 1.株式 2.有限責任 3.資本
7	株式会社の意義(II) 1.株式会社の弊害 2.社会的責任
8	株式会社の設立(I) 1.設立規制 2.発起人・発起人組合・設立中の会社 3.発起人の権限と責任
9	株式会社の設立(II) 1.定款 2.登記 3. 設立の無効
10	株式(I) 1.株式の意義 2.株主の権利・義務 3.自己株式 (平成六年改正商法を含む)
11	株式(II) 1.株券 2.株式の譲渡・担保化
12	補講
備考	

### 後 期

週	主 要 テ ー マ
1	株式会社の機関(I) 1.機関の分化と権限の分配 2.所有と経営・支配の分離
2	株式会社の機関(II) 1.株主総会の意義と権限 2.総会の運営と瑕疵
3	株式会社の機関(III) 1.取締役 2.取締役会
4	株式会社の機関(IV) 1.代表取締役 2.表見代表取締役など
5	株式会社の機関(V) 1.取締役の責任 2.取締役の義務
6	株主の代表訴訟と違法行為差止権
7	監査役制度(I)
8	監査役制度(II) 平成五年改正商法について。
9	株式会社の資金調達(I) 1.新株発行 2.有利発行 3.不公正発行 4.新株発行の無効
10	株式会社の資金調達(II) 1.社債 2.平成五年改正商法
11	補講(I)
12	補講(II)
備考	

科目名	刑法 I	担当者名	鈴木 彰 雄
-----	------	------	--------

講義の目標	<p>刑法 I (総論) は、犯罪と刑罰に関する一般理論を体系的に把握することを目的としますが、その概念や理論が抽象的で難解なため、基礎的な知識を習得するまでに相当の努力を必要とします。受講者は1年間の目標として、①刑法典の条文を正しく読むこと、②基本的な概念を正確に理解すること、③抽象的な理論を具体例をあげて説明できるようにすることを心がけて下さい。そのためには、六法を手もとに置いて音読する習慣をつけること、テキストをくり返し熟読すること、関連する判例を手がかりにして具体例をイメージできるようにすることが望まれます。</p>		
講義概要	<p>大学での刑法の講義は I (総論) と II (各論) に分かれますが、両者は密接な関係にあり、截然と区別できるものではありません。I の講義でもしばしば各則の条文を参照しますので、煩を厭わず六法で確認して下さい。</p> <p>また、犯罪論の体系は、各要素が相互に関連しつつ、全体として統一的な原理に基づいていることが特徴です。「木を見て森を見ぬ」ことにならないよう、全体を把握するよう心がけて下さい。</p> <p>以上2点に留意しつつ、犯罪論の重要問題を順次検討していく予定です。なお、大教室での講義は一方通行になりがちですから、できるだけ疑問点をあげて説明を求めて下さい。</p>		
使用教材	テキスト	<p>奈良俊夫『概説刑法総論』芦書房 (「六法」は毎回必携です)</p>	
	参考文献	<p>随時指示します。</p> <p>初学者向けの読みものとして、①植松正『刑法とは何か』(NHK出版)、②伊藤・河上古田『罰則のはなし』(大蔵省印刷局)、③古田佑紀『刑法という法律』(大蔵省印刷局)、独習用の参考図書として、④大谷実『刑事法入門』(有斐閣)、⑤中山研一『刑法入門』(成文堂)、⑤大塚仁『刑法入門』(有斐閣)が便利です。図書館等で参照して下さい。</p>	
評価方法	<p>前・後期の定期試験を総合して評価します。</p>		
受講者に対する要望など	<p>「学問に王道なし」といわれるように、毎週の講義を休まず聴講すること、疑問点があれば積極的に質問することが肝要です。時事的な法律問題も随時紹介しますので、知的好奇心をもって勉強を続けて下さい。</p>		

## 年 間 講 義 予 定

### 前 期

週	主 要 テ ー マ
1	刑法の意義と機能（第1編第1章） 刑法とは何か、その機能はどうかについて学ぶ。刑法の勉強のしかたについても解説する。
2	刑法の歴史（第1編第2章） わが国および諸外国における刑法の歴史的展開について学ぶ。近代刑法の成立とその諸原則にもふれる。
3	刑法理論の変遷（第1編第3章） わが国および諸外国における刑法理論の変遷について学ぶ。特に、古典学派と近代学派の「学派の争い」に注目し、刑法の目的について考える。
4	罪刑法定主義（第1編第4章1） 近代刑法の基本原則のうち、罪刑法定主義について学ぶ。その意義・沿革や派生原則を理解し、現代的意義について考える。
5	責任主義（第1編第4章2） もう1つの基本原則としての、責任主義について学ぶ。その意義と問題点について理解し、犯罪論の基本的問題への影響を考えてみる。
6	刑法の効力範囲（第1編第5章） 刑法の時間的・場所的・人的適用範囲について学ぶ。特に、限時法の理論について検討し、問題点を分析する。
7	犯罪論の構造（第2編第1章） 犯罪論の意義と構造を考える。行為・構成要件・違法・責任という体系について理解する。
8	行為論（第2編第2章1～4） 行為論の意義と機能を理解し、学説を整理・検討する。犯罪論の構造と関連して、各行為論の妥当性を考えてみる。
9	不作為（第2編第2章5） 不作為犯の意義と問題点について学ぶ。特に、作為義務の根拠については、判例を手がかりにして理解を深める。
10	因果関係（第2編第2章6） 因果関係の意義を学んだのち、諸説を整理・検討する。特に、条件説と相当因果関係説のちがいを、具体例をあげて分析してみる。
11	構成要件論（第2編第3章） 構成要件の意義と機能について学び、構成要件要素の分析へ進む。あわせて、構成要件の明確性について復習する。
12	違法性の本質（第2編第4章1） 違法とは何かという問題について、基本的な学説の対立があることを理解し、結果無価値と行為無価値をめぐる諸問題について理解を深める。
備考	

### 後 期

週	主 要 テ ー マ
1	違法性阻却事由（第2編第4章2） 違法性阻却事由の一般原理とその分類を学び、一般的正当行為について検討する。被害者の承諾や推定的承諾についても理解を深める。
2	違法性阻却事由（第2編第4章2） 違法性阻却事由のうち、緊急行為といわれる正当防衛・緊急避難および自救行為について学ぶ。特に正当防衛と緊急避難の異同に注意する。
3	責任能力（第2編第5章1・2） 責任の本質や構造を理解したのち、責任能力について学ぶ。責任無能力と限定責任能力の取り扱いについて正しく理解する。
4	故意（第2編第5章3） 責任形式のうち、故意について学ぶ。違法性の意識や違法性の錯誤の問題について、判例・学説を整理し検討する。
5	過失・期待可能性（第2編第5章3・4） 責任形式のうち、過失について学んだのち、期待可能性の問題を検討する。いずれも、代表的判例を参照して理解を深める。
6	未遂犯（第2編第6章1・2） 未遂犯の意義と要件について学ぶ。特に、実行の着手について学説・判例を整理し、特殊な犯罪形態における実行の着手にも注意する。
7	不能犯・中止犯（第2編第6章3・4） 不能犯をめぐる学説・判例を検討したのち、中止犯の意義を要件を学ぶ。不能犯については、具体的事例を考えながら理解を深める。
8	共犯の意義・間接正犯（第2編第7章1・2） 共犯の基礎理論と間接正犯をめぐる問題点を検討する。前者では正犯と共犯の区別について、後者では間接正犯の類型について正確に理解する。
9	共同正犯（第2編第7章3） 共謀共同正犯・片面的共同正犯・承継的共同正犯・過失の共同正犯等について学び、共犯学説との関連を考える。
10	教唆犯・従犯・共犯の特殊問題（第2編第7章4～6） 教唆犯と従犯について、意義と要件を学ぶ。共犯の特殊問題として、共犯と身分・共犯と錯誤の問題を考える。
11	罪数論（第2編第8章） 罪数決定の基準を学んだのち、単純一罪・併合罪・科刑上一罪について順次検討する。
12	刑罰論（第3編） 刑罰の本質と種類を理解し、その適用や執行・消滅について概説する。特に、死刑存廃論については受講者の意見を聞き、皆で考えてみたい。
備考	

科目名	刑法 I	担当者名	奈良俊夫
-----	------	------	------

講義の目標	<p>現代における「犯罪論の基本構造」を学習する。なお、法解釈の実践的指標である判例の検討も重視してゆきたい。</p> <p>時間の許す限り、法制史・法哲学の概観（刑事法との関連において）、および諸外国の理論と立法の動向の概説にも言及する予定である。</p>		
講義概要	<p>年間講義予定を参照。</p>		
使用教材	テキスト	<p>・奈良俊夫『新版 概説刑法総論』芦書房</p>	
	参考文献	<p>・『ジュリスト別冊、刑法判例百選(1)総論』（三版）有斐閣</p>	
評価方法	<p>前期・後期の定期試験（前期を40点満点、後期を60点満点に換算し、合計60点を合格点とする）。</p> <p>答案（採点後のコピー）の返却に応ずる（希望者の申出による）。</p>		
受講者に対する要望など	<p>予習の励行を強く希望する。</p>		

## 年 間 講 義 予 定

### 前 期

週	主 要 テ ー マ
1	犯罪論の概観——近代刑法理論の発展過程を概観
2	わが国における学説と判例の動向、刑法典の概要、刑罰法の歴史の概観
3	行為論(1)——犯罪論における「行為」の意義
4	行為論(2)——不作為犯、因果関係
5	構成要件論(1)——犯罪論における「構成要件」の意義
6	構成要件論(2)——構成要件理論の分析と応用
7	違法論(1)——犯罪論における「違法」の意義
8	違法論(2)——違法性阻却事由（正当行為、正当防衛）
9	違法論(3)——違法性阻却事由（緊急避難、被害者の承諾）
10	責任論(1)——犯罪論における「責任」の意義
11	責任論(2)——故意責任の分析（特に、未必の故意、錯誤）
12	責任論(3)——過失責任の分析（特に、業務上過失）
備考	

### 後 期

週	主 要 テ ー マ
1	前期の講義内容の総括
2	未遂論(1)——犯罪論における「未遂」の意義
3	未遂論(2)——予備・未遂・既遂の区別とその基準
4	共犯論(1)——犯罪論における「共犯」の意義
5	共犯論(2)——共同正犯（特に、共謀共同正犯）
6	共犯論(3)——狭義の共犯（教唆犯、従犯）、共犯の特殊問題(1)
7	共犯論(4)——共犯の特殊問題(2)（共犯と身分、共犯と錯誤）
8	罪数論(1)——犯罪論における「罪数」の意義
9	罪数論(2)——一罪と数罪の区別、科刑上一罪、併合罪
10	刑罰論(1)——刑罰の歴史、現代の刑罰論
11	刑罰論(2)——死刑、自由刑、罰金刑、没収
12	後期の講義内容の総括
備考	

科目名	刑法Ⅱ	担当者名	奈良俊夫
-----	-----	------	------

講義の目標	<p>刑法各則に規定されている諸犯罪の中から、代表的なものを選んで、各々の罪につき基本的な解釈論を学習する。刑法各論の解釈は、判例に指導される部分が大いなので、裁判例の検討に時間をさきたい。</p> <p>なお、現代においては、新しい犯罪類型が次々と登場してくるので（コンピュータ犯罪など）、諸外国の立法の動向にも目を向ける必要がある。</p>	
講義概要	<p>全体を、(1)個人的法益に対する罪、(2)社会的法益に対する罪、(3)国家的法益に対する罪、に三分類し、各々の類型の特性に注目しながら、各類型の代表的犯罪について検討する。</p>	
使用教材	テキスト	・福田・大塚編『刑法各論』（現代青林講義）青林書院
	参考文献	・『ジュリスト別冊、判例百選（Ⅱ） 各論』（三版）有斐閣
評価方法	<p>前期・後期の定期試験（前期40点満点、後期60点満点に換算し、合計60点以上を合格とする）。</p> <p>答案（採点後のコピー）の返却に応ずる（希望者の申出による）。</p>	
受講者に対する要望など	<p>予習の励行を強く希望する。</p>	



年 間 講 義 予 定

前 期

週	主 要 テ ー マ
1	刑法各則の概観、犯罪の法制史的・比較法的考察（序論）
2	生命・身体に対する罪(1)——殺人罪、傷害罪、人の「死」の意義
3	生命・身体に対する罪(2)——業務上過失致死傷罪ほか
4	自由に対する罪——脅迫罪、強制猥せつ罪、強姦罪
5	名誉に対する罪——名誉毀損罪、侮辱罪、表現の自由と個人の名誉
6	財産に対する罪(1)——財産罪の概観、財産罪の新しい類型（コンピューター利用詐欺罪など）
7	財産に対する罪(2)——窃盗罪、不動産侵奪罪
8	財産に対する罪(3)——強盗罪、強盗致死傷罪
9	財産に対する罪(4)——詐欺罪、恐喝罪
10	財産に対する罪(5)——横領罪、業務上横領罪
11	財産に対する罪(6)——背任罪、特別背任罪
12	財産に対する罪(7)——経済的取引と犯罪
備考	

後 期

週	主 要 テ ー マ
1	前期講義内容の総括——具体的事案解決の練習(1)
2	判例研究の方法(1)
3	国家の作用に対する罪(1)——公務執行妨害罪
4	国家の作用に対する罪(2)——取権濫用罪、賄賂罪
5	社会的秩序に対する罪——放火罪ほか
6	経済的秩序に対する罪——通貨・有価証券偽造罪
7	社会的信用に対する罪——文書偽造罪
8	道徳的秩序に対する罪——猥せつ物領布罪ほか
9	公共の安全と犯罪——交通事故と刑事責任
10	判例研究の方法(2)
11	具体的事案解決の練習(2)
12	後期講義内容の総括
備考	

科目名	刑法Ⅱ	担当者名	野村 稔
-----	-----	------	------

講義の目標	<p>刑法総論で得た知見を基礎として、個別的な犯罪類型の分析を行い、社会における犯罪現象に対する刑法の適用能力を身につけることを目標にする。その際、単に法律的知識を記憶するのではなく、縦糸に体系的思考を、横糸に分析的思考をそれぞれ置き、法律思考ができること、さらに法治国家の市民として国家刑罰権の行使の在り方につき法の適正手続きの精神を理解したうえで常に自律的・批判的に考えることができることが重要であるとする。</p>		
講義概要	<p>本講義においては、学説・判例の動向に注目しながら、刑法各本条について、個人的法益に対する罪から社会的法益に対する罪および国家的法益に対する罪の順で解説を行う。特に刑法各論においては主要な判例の見解を知ることが大事であるので、随時判例百選刑法Ⅱ各論を参照する。なお、質問を歓迎するので、質問のある者は、質問の内容を簡潔に用紙に書いて講義の始まる前に教卓の上に置くこと。可能な限り当日の講義の際に答える。講義の時間以外の機会に相談・質問などのある者は、自宅（☎043-486-0271）に連絡すること。</p>		
使用教材	テキスト	<p>とくに指定しない。標準的な体系書を用意すること。なお、第1回目の講義の際に刑法各論の体系書につき説明をする。</p>	
	参考文献	<p>『判例百選刑法Ⅱ各論』第3版・有斐閣</p>	
評価方法	<p>学年末試験の成績により評価する。</p>		
受講者に対する要望など	<p>刑法の勉強はとっつきやすいが、奥が極めて深い。出席は取らないが、ひたむきさ、真摯さのある学生諸君の聴講を望む。質問なども大いに歓迎する。</p>		

年 間 講 義 予 定

前 期

週	主 要 テ ー マ
1	開講の辞 刑法各論序説—刑法各論の意義、体系、方法 個人的法益に対する罪—総説
2	個人的法益に対する罪 各説(1)—殺人罪の概説；自殺関与罪の諸問題（実行の着手、錯誤の取り扱いなど）；傷害罪・暴行罪
3	個人的法益に対する罪 各説(2)—同時傷害罪；凶器準備集合罪（共同加害目的の実現、凶器の意義、結集罪）
4	個人的法益に対する罪 各説(3)—遺棄罪（ひき逃げの罪責を含む）；自由に対する罪 総説
5	個人的法益に対する罪 各説(4)—脅迫罪；強要罪；逮捕監禁罪；略取誘拐罪；強姦罪・強制猥褻罪
6	個人的法益に対する罪 各説(5)—名誉・信用に対する罪；真実性の証明に関する諸問題
7	個人的法益に対する罪 各説(6)—業務妨害罪；業務の意義（業務妨害罪、業務上過失致死傷罪、業務上失火罪）
8	個人的法益に対する罪 各説(7)財産罪総説(1)—財産罪の種類、客体（財物・財産上の利益）の意義
9	個人的法益に対する罪 各説(8)財産罪総説(2)—財産罪の保護法益；刑法上の占有の概念と機能
10	個人的法益に対する罪 各説(9)財産罪総説(3)—不法領得の意思の意義と機能 財産罪各説(1)—窃盗罪・不動産侵奪罪；親族相盗例
11	個人的法益に対する罪 各説(10)財産罪各説(1)—強盗罪の概説；強盗罪の種類；事後強盗罪
12	個人的法益に対する罪 各説(11)財産罪各説(2)—刑法240条、241条；詐欺罪・恐喝罪の概説
備考	

後 期

週	主 要 テ ー マ
1	個人的法益に対する罪 各説(12)財産罪各説(3)—詐欺罪の成否（訴訟詐欺、キセル乗車）；クレジット・カードの法律関係
2	個人的法益に対する罪 各説(13)財産罪各説(4)—詐欺罪の成否（クレジット・カードの不正使用）；コンピュータ詐欺罪
3	個人的法益に対する罪 各説(14)財産罪各説(5)—横領罪・背任罪の概説、二重売買の刑事責任
4	国家的法益に対する罪 総説；各説(1)—内乱罪・外患罪、内乱罪と騒擾の異同
5	国家的法益に対する罪 各説(2)—公務執行妨害罪概説；職務行為の適法性（要件、判断基準・時点、錯誤）
6	国家的法益に対する罪 各説(3)—逃走罪；犯人蔵匿罪・証憑隠滅罪・親族間の特例
7	国家的法益に対する罪 各説(4)—偽証罪；賄賂罪
8	社会的法益に対する罪 総説；各説(1)—放火罪
9	社会的法益に対する罪 各説(2)—偽造罪の概説；文書偽造罪（犯罪類型、文書の意義；コピー文書の偽造）、偽造の概念(1)
10	社会的法益に対する罪 各説(3)—偽造罪の概念(2)；電磁的記録物の偽造；通貨偽造罪
11	社会的法益に対する罪 各説(4)—有価証券偽造罪；印章偽造罪、閉講の辞
12	講義の進度などにより、講義のテーマが若干前後する場合がある。
備考	

科目名	国際法 I (新)	担当者名	松田幹夫
-----	-----------	------	------

講義の目標	国際法の基礎理論の修得に重点をおく。		
講義概要	テキスト前半が講義の範囲であり、目次を読めば、講義概要は、おのずから分かる。		
使用教材	テキスト	・小田・石本・寺沢編『新版現代国際法』有斐閣	
	参考文献	テキストの章末をみよ。	
評価方法	主として、前期および後期試験（論述式）で評価を下す。		
受講者に対する要望など	教室の秩序維持については獨協で一番うるさいと心得るべし。		

# 年 間 講 義 予 定

## 前 期

週	主 要 テ ー マ
1	獨逸学協会学校初代校長・西周と国際法の関係などから国際法にアクセス
2	ベンサム——ユス・ゲンティウムとユス・インテル・ゲンテス——箕作麟祥——オースチン——ケルゼンのいう原始法
3	国際組織および個人の国際法主体性——古代国際法——ヨーロッパ国家系の成立——無差別戦争観——AAグループ——強行法（ユス・コーゲンス）
4	国家の分類——国家の構成要素——永世中立国——国家結合——イギリス帝国からコモンウェルスへ——ソ連邦から CIS へ
5	創設的效果説対宣言的效果説——尚早の承認——集合的承認——事実上の承認——承認は一方的行為
6	政府の非合法的変更——一般的事実上の政府——トバル主義とウイルソン政策——エストラーグ主義——近年の変化——交戦団体承認の問題点——国家承認
7	前期前半知識の整理
8	ジャン・ボードン——対内主権と対外主権——独立権——安保理における主権制限——国内問題不干涉
9	国家平等概念の整理——国際組織における大国の優越性——正戦論——自己保存権——オラン港事件——国連憲章51条
10	名誉権——交通権——トリーベル——ウィーン学派——フェアドロス——ケルゼン——イェリネック——自動執行条約
11	国家責任の成立——「国家」の行為とは——過失とは——無過失責任の導入
12	前期後半知識の整理
備考	

## 後 期

週	主 要 テ ー マ
1	国家責任の解除——民事責任と刑事責任——個人責任
2	条約と国際慣習法——条約法条約のポイント
3	国際慣習法のポイント——国際機関による立法
4	領域の構成——内水——領海——領土取得方法
5	日本に関する領土問題——とくに北方領土
6	後前半知識の整理
7	最後の信託統治地域パラオの独立（1994年10月1日）——非自治地域——租借地——南極条約のポイント
8	国際河川——スエズ運河とパナマ運河
9	海洋法（前半）
10	海洋法（後半）
11	領空の高さは？——シカゴ条約——東京条約——宇宙条約
12	後期後半知識の整理
備考	

科目名	国際政治学	担当者名	星野昭吉
-----	-------	------	------

講義の目標	<p>国際政治の現在は著しく日常化し、われわれの生存は国際政治のあり方に大きく依存している。人類がいま直面している「紛争（戦争）と平和」をめぐるさまざまな具体的問題、すなわち、核拡散問題はじめ、民族・宗教問題の激化、南北問題の深化、環境破壊の増大、人口・食糧問題、人権抑圧、世界経済の混迷、などの地球的規模の問題群を分析する。この巨大で、複雑で、流動的で、不確実な国際政治の危機構造の本質、その特徴、変容などを理解する。その上で、国際政治の見方、あり方、考え方を提示し、国際政治におけるわれわれの存在意義を明らかにする。</p>		
講義概要	<p>今日の国際政治が一体どのような段階にあり、どのような問題を抱えているのか、国際政治がわれわれの日常生活とどのような関連性をもっているのかを説明しながら、国際政治学の課題を提示する。国際政治の構造的変動としての冷戦崩壊過程とその意義を問いながら、国際政治の新しい枠組みの構築過程を具体的に見ていく。その中でとりわけ国際政治の基軸であり、最も矛盾した存在である、南北問題と第三世界の存在とを分析する。国際政治を構成する主体と国際社会のそれぞれの本質と特徴、それらの関連性を検討していく。また、紛争構造の形成・発展・変容の過程を考察し、紛争と平和の弁証法的形態を抽出する。それに必要な基本的概念や理論を提示していく。</p>		
使用教材	テキスト	『国際関係の理論と現実—世界政治社会システムにおける第三世界—』星野昭吉、アジア書房、1995年。	
	参考文献	<ul style="list-style-type: none"> <li>・『世界政治の変動と権力—アナキー・国家・システム・秩序・安全保障・戦争・平和—』星野昭吉、同文館、1994年。</li> <li>・『国際関係論』（第2版）衛藤藩吉他、東京大学出版会、1989年。</li> <li>・『国際政治学—理論の射程—』初瀬龍平、同文館、1993年。</li> </ul>	
評価方法	<p>前期にはレポートを提出してもらい、後期にはテストを受けてもらい、総合して評価する。</p>		
受講者に対する要望など	<p>すべてをテキスト通りにやるのではないので、必ずノートを使用してほしい。</p>		

## 年 間 講 義 予 定

### 前 期

週	主 要 テ ー マ
1	国際政治の現在、国際政治学の課題。
2	国際政治の構造的変動、冷戦構造崩壊の意義。
3	国際政治の新しい枠組み－1：冷戦崩壊後の基本的動向。
4	国際政治の新しい枠組み－2：湾岸危機・戦争と世界秩序。
5	国際政治の新しい枠組み－3：ソ連邦の解体と世界秩序。
6	国際政治の構造変動と第三世界。
7	国際政治とアナキー。
8	国家の機能変容と国際体系（国家体系）－1：相互依存関係と国家主権性の変容。
9	国家の機能変容と国際体系（国家体系）－2：脱国家主体の出現と脱国家間関係の形成。
10	国際政治の発展過程－1：第一次大戦と国際政治の学の成立、その後。
11	国際政治の発展過程－2：第二次大戦後から現代まで。
12	国際政治の変動と権力－権力政治の本質と構造、勢力均衡原理。
備考	

### 後 期

週	主 要 テ ー マ
1	国際政治における紛争（戦争）と平和。
2	国際紛争構造の形成。
3	国際紛争構造の展開。
4	国際紛争構造の変容。
5	国際紛争構造の現在。
6	紛争（戦争）と平和の弁証法。
7	国際秩序と軍事力の役割。
8	核時代における安全保障－1。
9	核時代における安全保障－2。
10	政策決定過程。
11	地球的規模の問題の存在と国際政治。
12	国際政治の中の日本。
備考	

科目名	日本外交史	担当者名	森山茂徳
-----	-------	------	------

講義の目標	<p>幕末の開国から現代に至る日本外交の歩みを、権力構造と国際環境に注目して、全体の流れを一貫する特性が理解できるよう講義する。日本の外交は国際環境の変化と権力状況の変化とが相互作用し合う過程としてとらえられるのであり、単なる外交的事実の羅列では理解しえず、構造的・段階的視角が必要である。国際環境の変化に対応して権力状況が変化し、それがまた国際環境に影響を及ぼすという相互関係に注目し、外交政策決定の主体と外交路線の競争的共存、近隣諸国との外交の相違、システムとしての国際環境の変化など政治学的観点も養う。</p>	
講義概要	<p>全体として時系列に沿って行う。まず第一に自由主義から自由貿易帝国主義への国際環境の変化と、これに対応すべく幕藩体制の改革＝明治維持という権力状況の変化を論ずる。第2に独立維持のための明治国家体制の確立へ向けての国内の動きと、これと表裏一体となった条約改正・東アジア問題との関連を論ずる。第3に日本の独立を確定すると共にその後の歩みを決定づけた2つの戦争（日清・日露戦争）を論ずる。第4に国家目標を喪失した日本の権力状況変化（世代交替）と第1次世界大戦を論ずる。第5に国際協調枠組としてのワシントン体制とその崩壊としての第2次大戦（満州事変、日中戦争）を論じ、最後に現代外交を論ずる（再出発から先進大国まで）。板書が多い。事前に年表を配布する。</p>	
使用教材	テキスト	特に用いない。
	参考文献	<ul style="list-style-type: none"> <li>・池井優『日本外交史概説』慶応通信社</li> <li>・入江昭『日本の外交』、『新・日本の外交』中公新書</li> <li>・北岡伸一『日本政治外交史』放送大学教材</li> <li>・坂野潤治『日本政治外交史』同上</li> <li>・三谷太一郎『日本政党政治の形成』東京大学出版会</li> </ul> <p>一など。授業時間中に逐次指摘する。最新の研究成果を用いるため論文も多量に指摘する。プリントも配布する（レポートを課す）。</p>
評価方法	<ul style="list-style-type: none"> <li>・前後期各1回の定期試験およびレポートによって決定する。</li> <li>・レポートは夏期休業直前に配布するプリントの中から、適宜1冊以上の参考文献を読み、要約及びコメントを書いてもらう。</li> <li>・前後期の定期試験時に講義についてのアンケート調査を行う。</li> </ul>	
受講者に対する要望など	<p>授業では一切の私語を厳禁する。授業は板書の量が多いが、その分、日本外交史の流れと外交のセンスについての思考様式も学べるので、熱心な学生の出席を求める。</p>	



年間講義予定

前期

週	主要テーマ
1	講義概要および参考文献の説明を、例年行っているアンケート調査に基づいて行う。次いで、「外交について(外交の世界)」を入門的に説明する。第1に外交の定義、第2に外交交渉・情報・国益などを解説する。
2	西欧の衝撃と幕藩体制の動揺(1)―「西欧国際システムと自由貿易帝国主義」 西欧国際体系の制度と実態とを国際政治学の基礎的知識習得を合せて解説し、19世紀後半の自由貿易帝国主義とその波及を論ずる。
3	西欧の衝撃と幕藩体制の動揺(2)―「幕藩体制の特質と中華秩序」 身分制や政治的コミュニケーションの断絶などの幕藩体制が内外政をリンクさせる形であり、それと不可分な関係の中華秩序(朝貢体制)を論ずる。
4	幕藩体制の崩壊。西欧的国際体系と伝統的中華秩序の衝突から始まった幕藩体制の変動が崩壊＝明治維新に至った過程を解説する。段階的把握を体制崩壊論により論じ、国家構想や欧米列強の介入などにも触れる。
5	明治外交の出発。維新政府の外交理念・目標とその特色、次いでそれを実現するための制度・機構の整備、外交を担う主体、初期外交としての領土画定など、山積する課題に対し明治の外交官がいかに取組んだかを示す。
6	明治憲法体制の成立。維新政府の課題と外交の関連を政府の危機的状況認識、諸党派の競争的共存、行政・財政・軍事の一元化(狭義の政府)から、政治的ゲームのルールの確立(広義の政府)までの過程を論ずる。
7	条約改正。幕末に結ばれた不平等条約を如何に改正して平等条約締結にまで至ったかを、権力状況の変化(明治憲法体制の成立)および国際環境の変容(自由貿易帝国主義から帝国主義へ)と関連づけて論ずる。
8	東アジア問題。条約改正と表裏一体の東アジア国際関係の新たな模索の過程を解説する。中国との平等条約締結という提携側面と台湾出兵・琉球処分という対立側面、朝鮮との圧搾、脱亜論、アジア主義を論ずる。
9	日清戦争。日本の国民的独立を達成する一契機となった日清戦争を、帝国主義の登場という国際環境の変容、および明治憲法体制の成立という権力状況の変化と関連づけ、様々なアプローチと戦争の実態を論ずる。
10	日清・日露戦間期の外交。三国干渉に始まる東アジア国際関係の流動化(多極化・競争と均衡・相互牽制メカニズム)に日本外交がどう対応したのかを、日清戦後経営論に止まらず実際の対中国・朝鮮外交を論ずる。
11	日露戦争。明治日本の最大の試練であった日露戦争の原因・過程・結果を解説する。相互牽制メカニズムの崩壊という東アジア国際関係の変動と日露対立の過程、および日露戦争の近代政治外交にもった意味を論ずる。
12	日露戦後の外交。明治維新時に設定した国家目標の喪失と世代交替という権力状況の変化(桂園体制)の中で、朝鮮植民地化＝日韓併合、中国進出と反発＝辛亥革命、条約改正の達成、軍部の台頭と調落を論ずる。
備考	

後期

週	主要テーマ
1	第1次世界大戦と日本。「大正の天佑」となった第1次大戦の原因・過程・意義および日本の対応を解説する。経済発展と大陸国家化という日本の路線と中国・朝鮮のナショナリズムの反発との関係に注目して論ずる。
2	第1次世界大戦後の外交。シベリア出兵という帝国主義外交の挫折と、大正デモクラシーを背景とする政党政治の台頭を、ナショナリズム、ボルシェヴィズム、デモクラシーの台頭という国際環境と関連づけて論ずる。
3	ワシントン体制の成立。初めての国際協調主義的枠組としてのワシントン体制の成立を、ベルサイユ体制との比較、四国借款団という経済的枠組の意義、日米緊張緩和の過程と関連させ、挑戦者についても論ずる。
4	ワシントン体制下の外交。「幣原外交」をもたらした日本の政党政治の成長とその問題点の発生・発展、ワシントン体制への挑戦者としてのソ連、中国そして日本軍部の動向と対応などに焦点を合せて論ずる。
5	満州事変と軍部の台頭。政党政治の崩壊をもたらした政党内部の変化、軍部の台頭と派閥対立(陸軍主流＝長州系から南・宇垣系、上原派＝皇道派、統制派と条約派・艦隊派)と北伐以来の満州経営の対立を論ずる。
6	帝国の崩壊(1)―日中戦争。満州事変により「田中外交」が失敗して日中戦争の泥沼へと至る過程を、大恐慌に始まる国際協調主義の挫折と軍事クーデタに始まる総動員体制準備との関連に注目して論ずる。
7	帝国の崩壊(2)―第2次世界大戦(太平洋戦争)。日中戦争を終結させるための様々な工作と日米交渉の挫折、大東亜共栄圏の性格、戦争の開始から終結までの日本外交の不在と挫折、戦争の意味などに注目して論ずる。
8	敗戦日本の再出発(1)―戦後改革と冷戦構造の定着。敗戦・占領から始まった戦後改革を55年体制の形成まで辿り、米ソの戦後世界戦略と中国革命、朝鮮戦争による冷戦構造の定着と関連させて論ずる。
9	敗戦日本の再出発(2)―講和と外交再編成。戦後日本の独立外交の開始となった講和と「吉田路線」、米極東政策の変化という外因をうけての周辺諸国との国交復活・賠償交渉などを、経済発展路線定着と関係づけ論ずる。
10	先進大国日本の外交(1)―高度経済成長路線により戦前の水準をこえた日本経済と政治・外交の関連、冷戦の緊張緩和とアジア・アフリカ諸国の独立、ヴェトナム戦争とアメリカの凋落などに注目して論ずる。
11	先進大国日本の外交(2)―経済成長という目標の達成、55年体制の崩壊、新たな国際貢献の模索という日本の状況と、脱冷戦、相互依存関係の進展という国際環境の変化とを関連づけて論ずる。
12	日本の外交と外交者像―日本の外交にあらわれた幾つかの路線とその継承あるいは新路線の模索の試みを、陸奥宗光、小林寿太郎、幣原喜重郎、吉田茂という外交者像に関連させ、外交のあり方を論じて終講とする。
備考	

科目名	国際関係文献研究(新) 外国法政研究2(旧)	担当者名	白井久和
-----	---------------------------	------	------

講義の目標	外国文献の講読を通じて、国際政治学と平和や安全保障の基本的な問題を研究する。		
講義概要	世紀末を迎え、冷戦終焉の世界は新たな胎動を示し、新しい秩序を模索している。国際政治理論から見ても、新たな理論構築が多くの研究者によって試行されている。その研究の一端を下記のテキストを読み、学習する。		
使用教材	テキスト	①Rosenau, J. N. (1994) "New Dimension of Security: The Interaction of Globalizing and Localizing Dynamics". <i>Security Dialogue</i> , Vol. 25, No. 3. ②Balázs, J. and H. Wiberg, eds. (1993) <i>Peace Research for the 1990s</i> , Akademiai Kiado. ③Kakönen, J., ed. (1994) <i>Green Security or Militarized Environment</i> , Dartmouth P. C.	
	参考文献	Boulding, E., ed.(1992) <i>New Agendas for Peace Research</i> , Lynne Rienner Publishers, Rosenau, J. N.(1992) <i>The United Nations in a Turbulent World</i> , Lynne Rienner Publishers.	
評価方法	前期レポート提出、後期試験。両者を総合して評価する予定。		
受講者に対する要望など	外国文献の講読であるから、かなりの事前の予習が必要である。		

年間講義予定

前期

週	主要テーマ
1	講義の概要と参考文献の説明。テキストの配布。
2	Rosenau, J. N., New Dimension of Security. (テキスト①)
3	Rosenau, J. N., New Dimension of Security. (テキスト①)
4	Rosenau, J. N., New Dimension of Security. (テキスト①)
5	Rosenau, J. N., New Dimension of Security. (テキスト①)
6	Rosenau, J. N., New Dimension of Security. (テキスト①)
7	Balázs, J., Introduction. Wiberg, H., European peace reseach in the 1990s. (テキスト②)
8	Galtung, J., Women : Man = Peace : War? Peace theory, feminist theory and epistemological adequacy. (テキスト②)
9	Galtung, J., Women : Man = Peace : War? Peace theory, feminist theory and epistemological adequacy. (テキスト②)
10	Galtung, J., Women : Man = Peace : War? Peace theory, feminist theory and epistemological adequacy. (テキスト②)
11	Jaap de Wilde, Peace research after the Cold War : An essay on the micro/ macro dimension of security issues. (テキスト②)
12	Jaap de Wilde, Peace research after the Cold War : An essay on the micro/ macro dimension of security issues. (テキスト②)
備考	

後期

週	主要テーマ
1	Sandole, D. J. D., Ethnic conflict resolution in the new Europe : A case for an integrated systems approach. (テキスト②)
2	Sandole, D. J. D., Ethnic conflict resolution in the new Europe : A case for an integrated systems approach. (テキスト②)
3	Sandole, D. J. D., Ethnic conflict resolution in the new Europe : A case for an integrated systems approach. (テキスト②)
4	Käkönen, J., Green security or militarized environment : An introduction. (テキスト③)
5	Conca, K., In the name of sustainability : Peace studies and environmental discourse. (テキスト③)
6	Conca, K., In the name of sustainability : Peace studies and environmental discourse. (テキスト③)
7	Conca, K., In the name of sustainability : Peace studies and environmental discourse. (テキスト③)
8	Environmental dimensions of national security : The end of the Cold War. (テキスト③)
9	Environmental dimensions of national security : The end of the Cold War. (テキスト③)
10	Environmental dimensions of national security : The end of the Cold War. (テキスト③)
11	受講生と相談のうえ、テキストの他の章を読む。
12	受講生と相談のうえ、テキストの他の章を読む。
備考	

科目名	政治学原論	担当者名	森山茂徳
-----	-------	------	------

講義の目標	<p>現代の政治体制において、先進国を問わず発展途上国を問わず、目指されるものはデモクラシー（民主主義的政治体制）である。講義では民主主義が歴史的にどのように実現されてきたか、そして民主主義には理論的にどのような問題があるのかを、政治学という学問の考え方に基づいて検討し、日本の民主主義のあり方を各国と比較して明らかにする。政治学の基礎的知識に基づいて歴史的・理論的に民主主義を理解し、民主主義の問題点を十分に認識しながら、民主主義の実現のための個人レベル、社会レベル、国家レベル、国際レベルの思考を養う。</p>		
講義概要	<p>まず第1に一般的・基礎的な政治学の知識の習得をめざす。2人以上いれば始まる政治というものを理解する視角にどのようなものがあるかを、理論的・体系的に学ぶ。第2に政治体制論という視角に基づいて、歴史的・理論的に政治体制について理解を深める。第3に政治体制・政治思想の歴史的理解という視角に基づいて、民主主義の歴史を学ぶ。第4に原理論・分類論・経験論・演繹論という理論的視角に基づいて、民主主義の諸問題点について検討する。第5に日本の民主主義とは何か、そのあり方を各国と比較して明らかとする。そして最後に民主主義実現のために個人・社会・国家・国際レベルで、思考様式を説く。なお授業は板書が大半で量も多い。プリントを配布することも考えている。</p>		
使用教材	テキスト	<p>・篠原一・永井陽之助編『現代政治学入門・新版』有斐閣</p>	
	参考文献	<p>・福田歓一『近代民主主義の歴史と展望』岩波新書          ・丸山眞男『現代政治の思想と行動』未来社          ・D・リンス『権威主義体制の崩壊』岩波現代叢書          ・B・ムーア Jr.『独裁と民主政治の社会的起源』同上          ・京極純一『日本の政治』東京大学出版会          ーなど。授業時間中に逐次指摘する。大量のものとなるが、プリントを配布する（夏期休業直前にレポートを課す）。</p>	
評価方法	<p>・前後期各1回の定期試験およびレポートによって決定する。          ・レポートは夏期休業直前に配布するプリントの中から、適宜1冊以上の参考文献を読み、要約及びコメントを書いてもらう。          ・前後期の定期試験時に講義についてのアンケート調査を行う。</p>		
受講者に対する要望など	<p>授業では一切の私語を厳禁する。授業は板書の量が多いが、その分、政治学のセンス・思考様式が身に付くので、熱心な学生の出席を求める。</p>		

# 年 間 講 義 予 定

## 前 期

週	主 要 テ ー マ
1	講義概要および参考文献の説明を、例年行っているアンケート調査に基づいて行う。次いで、「政治について（政治の世界）」を入門的に説明する。第1に大政治・小政治、第2に状況・制度・組織などを解説する。
2	政治学的思考と政治的思考との違いについて説明する。現実の事象に存在する独自性とそれを理解するための独自の思考様式の一端に触れる。第1に権力と支配、第2に政治理論の諸レベルなどを解説する。
3	政治学の対象および理論のそれぞれのレベルに合わせて、個人・社会・国家レベルの思考様式を解説する。第1に政治的人間と政治参加・政治意識、第2に政治過程論と参加者（政党・官僚制・マスコミなど）に触れる。
4	政治体制論を論ずる。民主主義的、全体主義的、権威主義的という3つの類型に触れるとともに、政治的権威（政府）論および政治的文化論という他のレベルの理論も解説する。
5	民主主義および政治体制の歴史(1)―「権力の生成と政治思想の始まり」 政治体制が歴史的にどのように形成・推移してきたかを、民主主義的政治体制を中心に据えて解説する。政治的共同体の概念を明らかにする。
6	民主主義および政治体制の歴史(2)―「ヨーロッパ政治の伝統(1)」 ヨーロッパ政治の伝統としての古代民主政治を解説する。民主主義の古典的理念とバリエーションとしての共和政のもつ意味を論ずる。
7	民主主義および政治体制の歴史(3)―「ヨーロッパ政治の伝統(2)」 ヨーロッパ政治の伝統としてのキリスト教世界と領邦国家体制について解説する。アジアと異なる思考様式と政治体制のあり方を考える。
8	民主主義および政治体制の歴史(4)―「中世の解体」 ルネサンス、宗教改革そして近代的政治思考の誕生を解説する。ルネサンスの人間主義、宗教改革の内面化、古典的政治思考の解体(1)を論ずる。
9	民主主義および政治体制の歴史(5)―「絶対主義の時代」 主権国家という国家様式とそれに伴って生じた思考様式を解説する。古典的政治思考の解体(2)と法理論の国際化、国際政治の開始を論ずる。
10	民主主義および政治体制の歴史(6)―「近代国家の成立」 近代国民国家および市民社会を生出したフランス、イギリス、アメリカの3つの革命を解説する。近代民主主義の構成論としての意味を論ずる。
11	民主主義および政治体制の歴史(7)―「19世紀の政治」 イデオロギーの時代とよばれる19世紀に民主主義が定着していった過程を解説する。自由主義、保守主義、社会主義のもった意味を論ずる。
12	民主主義および政治体制の歴史(8)―「20世紀の政治」 2つの世界大戦により全体主義的、権威主義的政治体制が出現した過程と現代の諸問題を解説する。脱冷戦、相互依存のもつ意味を論ずる。
備考	

## 後 期

週	主 要 テ ー マ
1	民主主義の理論(1)―「原理論(1)=価値原理」 原理論という視角から民主主義の諸問題を論ずる。価値原理としての自由と平等の補完的・対立的側面に触れ、現代の状況における問題を論ずる。
2	民主主義の理論(2)―「原理論(2)=機構原理」 本来、民主主義とは相容れない機構原理としての代表制と多数決の民主主義を実現する側面、阻害する側面の両面について論ずる。
3	民主主義の理論(3)―「原理論(3)=方法原理」 民主主義を機構・制度に形骸化しないための方法原理としての討論・説得と参加・抵抗の問題を論じ、参加民主主義とは何かを解説する。
4	民主主義の理論(4)―「分類論(4)=理念型論」 「諸少数者の統治」としてのポリアーキーを始めとして、アリストテレスやモンテスキューらの理念型を解説し、エリート理論との対比を論ずる。
5	民主主義の理論(5)―「経験論」 民主主義の維持条件、制度運営実態、圧力団体等についての歴史的小および数量的アプローチを解説し、社会・経済・文化的側面を論ずる。
6	民主主義の理論(6)―「演繹論」 民主主義の経済学的理論・公共選択理論を解説する。ダウンズやアローの決定理論の特性および公共選択の意義と課題などを論ずる。
7	日本の政治文化と民主主義(1)―「日本の政治文化」 日本という政治的共同体を規定する政治文化を論ずる。「古層」たる歴史意識と「無責任体制」、コスモス・ノモス・カオス論などに注目する。
8	日本の政治文化と民主主義(2)―「制度と実態としての民主主義」 制度として定着されたとされる日本の民主主義が原理をどのように実現しているかを論ずる。自由、平等、民主的思考の現代的状況を概観する。
9	日本の政治文化と民主主義(3)―「制度の運用」 政党制、議会制、選挙、官僚制などの諸制度がどのように運用されてきたか、されているかを解説し、他国と比較して日本の独自の問題を論ずる。
10	日本の政治文化と民主主義(4)―「岐路に立つ民主主義」 55年体制=自民党の一元優位体制の崩壊と80年代に登場してきた諸問題を論ずる。規制緩和や「新国家主義」と国際政治・経済の関連に注目する。
11	日本の政治文化と民主主義(5)―「権力構造と政治的行動様式」 日本の独特な権力構造と政治的行動様式の特性とを関連させて解説する。「制度の政治」と「正論の政治」の対比と官治主義などとの関連を論ずる。
12	政治を生きる―政治的リアリズムとは何か。 複雑な政治の世界を生きるために必要な政治的リアリズムを解説する。行動・変化する主体としての人間とその資質などを論じて終講とする。
備考	

科目名	政治学文献研究（新） 外国法政研究3（旧）	担当者名	深澤民司
-----	--------------------------	------	------

講義の目標	ナショナリズムについて考察した文献の講読を通して、政治学の基本的な概念や考え方を学ぶとともに、ナショナリズムという視点から現代政治の諸問題を考察する。	
講義概要	テキストの読み方は精読式で、ひとつひとつの文章や単語の意味内容を正確に読み取ることと力点をおく。授業は、報告者があらかじめ訳文を作成し、それを全員で検討するという形式をとるので、全員に毎時間の予習が要求される。なお、授業の進度は報告者によって異なるので、予定通りにはいかないと思われる。また、目標に照らしてより適切な本ないし論文があれば、テキストを変更することもありうる。	
使用教材	テキスト	・ Peter Alter, <i>Nationalism</i> , Edward Arnold, Second Edition 1994.
	参考文献	必要に応じて指示する。
評価方法	平常点（出席回数を含む）とレポート	
受講者に対する要望など	テキストはコピーして開講時に配布する。	

年間講義予定

前期

週	主 要 テ ー マ
1	テキスト配布。授業の進め方の説明。
2	1 What is Nationalism? 1. Problems of Definition
3	同上
4	同上
5	1 What is Nationalism? 2. The Nation as Central Value
6	同上
7	1 What is Nationalism? 3. Cultural Nations and Political Nations
8	同上
9	同上
10	1 What is Nationalism? 4. National Consciousness and Nation-Building
11	同上
12	同上
備考	

後期

週	主 要 テ ー マ
1	5 The Renaissance of Nationalism 1. Nationalism and the Nation in Western Europe
2	同上
3	同上
4	5 The Renaissance of Nationalism 2. Regionalism in Western Europe
5	同上
6	同上
7	5 The Renaissance of Nationalism 3. Nationalism after Communism in Eastern Europe
8	同上
9	同上
10	5 The Renaissance of Nationalism 4. Nationalism in the Third World
11	同上
12	5 The Renaissance of Nationalism 5. The Poverty of Nationalism
備考	

科目名	経済原論	担当者名	西村 允克
-----	------	------	-------

講義の目標	<p>市場経済を理解するための理論的枠組みを学習することによって、現実の経済問題を正しく理解する力を養うことが、この講義の目的である。経済現象は孤立してあるものではなく、他の経済現象と複雑な複合関係にあることをまず理解してもらいたい。講義では、経済現象を1つ1つ取り上げていくが、それは経済現象間の複雑な複合関係を解くための1つの方法であって、必ずそれは結合させて次の段階へ進むから、絶えず講義で学習した内容を復修しながら学習しなければならない。</p>		
講義概要	<p>現実経済は極めて複雑な組織である。複雑なシステムを理解するためには、システムをそれを構成する基本的要素（供給者と需要者、家計、企業、政府）と基本的要素間の経済関係によって、理論的分析が可能となるモデルに再構築しなければならない。前期では、経済学の最も基礎的なミクロモデルとマクロモデルを学習し、経済理論の基礎的な考え方を理解し、後期の学習の基礎をかためる。前期の前半は経済分析ために必要な基礎知識を学び、後半のモデル分析理解の土台となる学習であるから、常に先に進んでももどって再学習しなければならない。後期は前期のモデル分析をヨリ現実に近いものに拡張し、さまざまな現実経済問題の理解に進む。</p>		
使用教材	テキスト	中谷 巖 著 『入門マクロ経済学』日本評論社	
	参考文献	<ul style="list-style-type: none"> <li>・幸村千佳良著 『マクロ経済学事始』 多資出版</li> <li>・R. T. ギル著 久保、長谷川訳 『マクロ経済学入門』上下 東洋経済新報社</li> <li>・藤野正三郎 著 『価格理論』 東洋経済新報社</li> <li>・スティグララー著 『価格の理論』 有斐閣</li> </ul>	
評価方法	<p>前期と後期の定期試験の結果による。試験問題についての採点基準は講義において注意した点をよく理解して記述されているかである。</p>		
受講者に対する要望など	<p>日々の新聞の経済面の見出しに注意し、経済の動きについての常識的理解を深める努力をしてほしい。講義は常に現実の経済の動きに対応している。</p>		



## 年 間 講 義 予 定

### 前 期

週	主 要 テ ー マ
1	1 経済学を学ぶための基礎 (I) 基礎用語 経済主体、経済資源 経済活動 財とサービス 実物資産と金融資産 価格
2	2 経済学を学ぶための基礎 (II) 分析ツール 関数と曲線 図の読み方 限界と平均 関数の変化と曲線のシフト 変数 (独立変数と従属変数)
3	3 経済学を学ぶための基礎 (III) 市場モデルの作り方、市場均衡と市場不均衡 短期と長期 (経済与件)
4	4 国民経済計算 (I) 付加価値額 国内総生産 国内総支出 グロスとネット 国民1人当り国内総生産
5	5 国民経済計算 (II) 物価指数 (デフレーター) 名目値と実質値 経済成長率
6	6 生産関数と総費用関数 産出量と投入量 限界生産力 完全雇用と不完全雇用 等生産量曲線 総費用関数 固定費用と可変費用 限界費用と可変費用
7	7 消費関数 限界消費性向と限界貯蓄性向 平均消費性向と平均貯蓄性向
8	8 価格決定理論 (I) 需要関数と供給関数 市場均衡の安定分析
9	9 価格決定理論 (II) なぜ価格は変化するのか
10	10 国民所得決定理論 (I) 簡単なモデル 貿易のない場合の国民所得決定理論 財政政策の国民所得に及ぼす効果
11	11 国民所得決定理論 (II) 貿易を含む場合の国民所得決定理論
12	12 前期のまとめ
備考	

### 後 期

週	主 要 テ ー マ
1	13 貨幣市場の問題 マネーサプライとハイパワードマネー 金融政策 (公定割引歩合 公開市場操作、予金準備率) 貨幣数量説
2	14 貨幣需要について 取引動機による貨幣需要と投機的動機による貨幣需要
3	15 IS = LM 分析 (I) —— 国民所得と利子率の同時決定理論 IS 曲線と LM 曲線の導出とその意味
4	16 IS = LM 分析 (II) 財政政策は国民所得と利子率をどのように変化させるか 金融政策は国民所得と利子率をどのように変化させるか
5	17 IS = LM 分析 (III) 安定分析、現実経済への応用
6	18 景気変動 (I) キッチン波動 ジュグラー波動 コンドラチェフ波動 技術革新 独立投資と従属投資
7	19 景気変動 (II) 資本稼働率 バブルと平成不況
8	20 経済成長論 (I) (基本概念) 投資の生産力効果 潜在的成長率と現実成長率
9	21 経済成長論 (II) なぜ日本は戦後このような高度成長を実現したのか、基本概念を用いながら説明する。
10	22 国際収支 経常収支 (貿易収支 貿易外収支 移転収支) と資本収支、変動相場制 交易条件
11	23 インフレーション フィリップス曲線
12	24 まとめと平成7年の日本経済の諸問題
備考	

科目名	総合講座（新） 政治学特講 6（前期）・政治学特講 7（後期）（旧）	担当者名	柴田平三郎
-----	---------------------------------------	------	-------

講義の目標	<p>今日、私たちのかかえる課題には従来の学問分野を超えて総合的・学際的に講ずるのがふさわしい問題がいくつか存在している。そこで新カリキュラム実施の一環として、本学部においては、このような課題を毎年一つづつ取り上げて、本学部内外の各分野の専門家により総合講座として行うことになった。本年度の統一テーマは「平和を考える」である。</p>		
講義概要	<p>今日の世界において「平和」の問題ほど私たちの生活に切実なものはないであろう。そのことは冷戦構造が終焉したにもかかわらず、否むしろそれ故に、世界の各地にさまざまな紛争が惹起している現実から明らかである。紛争は一体、何故起るのか。そうした紛争を未然に回避し、あるいはそれを克服して真の平和を創出するためには、私たちはどうしたらよいのか。こうした基本問題をめぐって「平和」について多角的・多方面からアプローチしていきたいと考えている。</p>		
使用教材	テキスト	各授業内容を概要したレジュメ、各教員により指示された教科書による。	
	参考文献	各教員ごとに、指示がある。	
評価方法	<p>試験前期 1 回・後期 1 回 担当教員が各自出題し、その中から選択し、解答させる。</p>		
受講者に対する要望など	<p>旧カリキュラムの政治学特講 6（前期）と政治学特講 7（後期）は、必ず 2 科目併せて履修すること。</p>		

## 年 間 講 義 予 定

### 前 期

週	主 要 テ ー マ
1	はじめに
2	アジアと日本——歴史の教訓と平和
3	日本国憲法の平和主義
4	核と平和
5	軍縮と平和
6	地域主義と民族国家
7	社会主義と平和
8	日中の平和的共存
9	日本のODA
10	外国人労働者問題と人権
11	アラブとイスラエルの平和
12	クリントン外交と新秩序
備考	

### 後 期

週	主 要 テ ー マ
1	構造的暴力と平和
2	NGO と平和
3	第三世界と平和
4	南北問題と平和
5	国際連合と平和
6	国連の平和維持活動
7	日米安保体制と平和
8	日米摩擦のゆくえ
9	非核法の制定をめぐる
10	政治思想史における平和の諸問題
11	世界のなかの日本——日本外交の理念と展望
12	
備考	

科目名	法哲学	担当者名	堅田 剛
-----	-----	------	------

講義の目標	<p>法哲学的諸問題の概説をおこなう。「法哲学」は法の哲学であるのか哲学的な法学であるのかという議論があるが、基礎法学の分野に位置づけられている以上、当然ながら「法学」の範囲を踏み出さないように自戒したい。とはいっても、哲学的な話は避けられないので、この点はあらかじめお断りしておく。</p> <p>年間の授業時間を「法思想史」と「法理論」の二つの領域に分けて、歴史と論理の弁証法的統合をめざす。ただし、法思想史に6割方のウェイトを置くので、この点も了解願いたい。</p>	
講義概要	<p>具体的には、年間講義予定欄を参照していただきたい。</p> <p>テキストには従来冊子形式のレジュメ集を用いてきたが、改訂作業を講義と並行して進める都合上、あらためてレジュメを作成し直して、毎時間これを配布する。講義は新しいレジュメに即しておこなう。</p> <p>内容は上記のとおり「法思想史」と「法理論」に分けるが、前期と後期でうまく分割できないので、前期の全時間と後期の10月いっばいを法思想史に当て、法理論には後期の残り時間を当てる。これはもっぱら私の能力と問題関心によるものであるが、幸いなことに法哲学にはいまだ確立した講義形式がないので、私なりの方法で進めさせていただく。不安な向きは、下記の権威のある参考文献で自主的に補充すること。</p>	
使用教材	テキスト	いわゆるテキストは用いない。レジュメで代用する。
	参考文献	<p>①矢崎光圀『法哲学』筑摩書房、1975年</p> <p>②加藤新平『法哲学概論』有斐閣、1976年</p> <p>③恒藤武二『法思想史』筑摩書房、1977年</p> <p>④三島淑臣『法思想史』新版、青林書院、1993年</p> <p>⑤ホセ・ヨンパルト『法哲学案内』成文堂、1993年</p> <p>その他の文献については、テーマごとに紹介する。</p>
評価方法	<p>前期はレポートの提出を求める。あらかじめ細かい条件をつけるので、これに反するものは「レポート」とは認めない。後期は筆記試験をおこなう。年間の成績評価には、レポートと試験の点数に出席状況を加味する。平凡な見解よりは独自の見解のほうを評価する。</p>	
受講者に対する要望など	<p>哲学的な素養は要求しないが、哲学に関心のない学生は歓迎しない。とにかく法哲学に関わりそうな本をたくさん読むこと。本音をいえば、法学や哲学以前に、まず国語の読解力や表現力を身につけてほしい。</p>	

## 年 間 講 義 予 定

### 前 期

週	主 要 テ ー マ
1	法哲学とはなにか (ガイダンス、法哲学の学問的位置づけ、法哲学の課題)
2	古代ギリシアの法思想 (ソフィスト、ソクラテス)
3	古代ギリシアの法思想 (プラトン、アリストテレス)
4	古代ローマの法思想 (ストア派、エピクロス派)
5	古代ローマの法思想 (ローマ法制史、ローマ法の基本原理)
6	中世キリスト教の法思想 (キリスト教の成立、アウグスティヌス)
7	中世キリスト教の法思想 (トマス・アクィナス、スコラ哲学)
8	近代自然法学 (ホッブス、ロック)
9	近代自然法学 (モンテスキュー、ルソー)
10	ドイツ観念論の法思想 (カント、フィヒテ)
11	ドイツ観念論の法思想 (ヘーゲル)
12	まとめ
備考	

### 後 期

週	主 要 テ ー マ
1	歴史法学 (ドイツ歴史法学、サヴィニー)
2	歴史法学 (グリム、イギリス歴史法学)
3	新カント派の法思想 (シュタムラー、ラスク、ラートブルフ)
4	新カント派の法思想 (ケルゼン)
5	法の規範性 (法的ルールと法規範、社会規範としての法)
6	法の歴史性 (自然法の歴史性、法原則の歴史性)
7	法の実定性 (実定性の本質、法の実定性と正当性)
8	法と強制 (法的強制の意義、強制と合意)
9	法と道徳 (法と道徳の区別、法と道徳の交錯)
10	自然法論 (伝統的自然法論、自然法論と実質的正義)
11	法実証主義 (法実証主義の根本的主張、法実証主義の態様)
12	日本の法哲学 (穂積陳重、牧野英一、美濃部達吉)
備考	

科目名	西洋法制史	担当者名	竹本 健
-----	-------	------	------

講義の目標	ヨーロッパの法文化社会史に対する基本的な理解を得ることを目指します。		
講義概要	<p>本講義では、ヨーロッパの「近代法」が成立していくまでの過程を、大きく3部に分けて概観します。</p> <p>I ローマ法史 II ローマ法の継受史 III 近代法の成立史</p> <p>I部では、古典期の法律学者の紹介を中心に、ローマ法の世界を描写したいと思います。II部では、12世紀のイタリアにおける「ローマ法の継受」から始めて、主に註釈学派、註解学派、人文主義法律学へと話を進めていきます。II部では、ドイツのみならずヨーロッパ法史において重要な存在である「歴史法学派」から近代法（ドイツ民法典）が成立する歴史を概説し、同時に「近代法」に孕まれている諸問題を考えていく予定です。</p>		
使用教材	テキスト	なし	
	参考文献	<ul style="list-style-type: none"> <li>・河上倫逸『法の文化社会史』ミネルヴァ書房</li> <li>・上山安敏『近代ヨーロッパ法社会史』ミネルヴァ書房</li> <li>・H・コーイング『ヨーロッパ法文化の流れ』ミネルヴァ書房</li> <li>・E・エールリッヒ『法社会学の基礎理論』みすず書房</li> <li>・J・J・バッハオーフェン『母権論』みすず書房</li> <li>・堅田剛『歴史法学研究』日本評論社</li> </ul>	
評価方法	評価は、後期試験によって決定する。授業への出席も考慮に入れる。		
受講者に対する要望など			

## 年 間 講 義 予 定

### 前 期

週	主 要 テ ー マ
1	「西洋法史学」についての概説
2	I ローマ法史 ローマ法の歴史の概観
3	ローマ法の法源
4	古典期の法律学者たち
5	帝政後期のローマ法——ユスティニアヌス法典を中心に
6	II ローマ法の継受史 古代ローマ法の再発見
7	学識法の形成——ボローニア法科大学——ボローニア方式の普及（ヨーロッパ法科大学史）
8	註釈学派・註解学派
9	人文主義法律学・典雅法律学
10	近世ドイツにおける法律学——ツァシウス・コーンリングを中心に
11	III 近代法の成立史 「歴史法学派」と近代法——III部全体への序論
12	歴史法学派の先駆者たち
備考	

### 後 期

週	主 要 テ ー マ
1	フリードリッヒ・カール・フォン・サヴィニーの登場
2	「歴史法学派」の成立
3	「民族法」と「国家法」
4	法律家としてのヤーコブ・グリム——ゲルマン法学の確立
5	ドイツにおける「民法典論争」
6	パンデクテン法律学——概念法律学
7	「科学」としての法学
8	官僚の抬頭
9	ドイツ民法典の制定とその問題性
10	法社会学・自由法学——E・ユールリッヒと「生ける法」の探究
11	「法の本質」のあくなき探究——J・J・バッハオーフェン『母権論』の試み
12	まとめ——「法」からヨーロッパを見る
備考	

科目名	法社会学	担当者名	森 謙 二
-----	------	------	-------

講義の目標	法社会学的な思考を学ぶこと		
講義概要	<p>前期は、前期は、法社会学の形成、法の内容を中心として、法社会学がどのような性格をもった学問であるかを考え、また近代から現代への「市民法」の展開について考えていく。</p> <p>後期は、日本の伝統的な社会構造の類型論と国家法がこれにどのように影響を与えたか、について考えていく。この問題は、単に過去の問題としてではなく、現在にどのように影響を及しているかという観点からアプローチをしていきたい。</p> <p>前期はプリントを配る予定である。</p>		
使用教材	テキスト	平松紘・森謙二『家族・村落・法—教材』敬文堂——後期	
	参考文献	<ul style="list-style-type: none"> <li>・渡辺洋三『法とは何か?』岩波新書</li> <li>・J. ハーバーマス (訳) 細谷貞雄『公共性の構造転換』未来社</li> <li>・江守五夫『日本村落社会の構造』弘文堂</li> <li>・森謙二『墓と葬送の社会史』講談社新書</li> </ul>	
評価方法	試験は、自分で問題を設定し、どのような理由でそのテーマを設定したか、どのような観点からその問題にアプローチをするのか予備的なレポートを提出してもらった上で、実施する。		
受講者に対する要望など			



年間講義予定

前期

週	主要テーマ
1	法社会学とはどのような学問か？
2	法社会学の形成—エールリッヒとヴェバー
3	法社会学における「法」の概念(1)
4	法社会学における「法」の概念(2)
5	法社会学からみた法の解釈
6	市民社会と法(1) 近代市民法の構造
7	市民社会と法(2) 市民的公共性の形成
8	市民社会と法(3) 市民的自由
9	市民社会と法(4) 市民的自由の展開と社会法の形成
10	市民社会と法(5) 現代における権利の性格
11	前期のまとめ
12	前期のまとめ
備考	

後期

週	主要テーマ
1	日本社会と法—問題の視座
2	伝統的な社会構造—日本村落社会の類型論
3	村落類型論からみた家族・親族構造
4	イエ・「家」
5	明治国家のもとでの村落(1) 土地制度と地方制度
6	明治国家のもとでの村落(2) 戸籍と「家」
7	明治国家のもとでの村落(3) 村落の再編成
8	年齢階梯制秩序の再編成
9	戦後日本の家族
10	戦後日本社会のイエ秩序と年功序列原理
11	後期まとめ
12	後期まとめ
備考	

科目名	英米法Ⅰ	担当者名	早坂 禧子
-----	------	------	-------

講義の目標	<p>英米法は、日本のような大陸法とは異なる点が多いうえ、英米法のなかでも現代では、イギリス法とアメリカ法とは違っている。本講義では、先ず、英米法の形成の歴史を通観することで英米法の背景についての基礎知識を得たりえで、とりわけアメリカ法に重点をおき、法源制度、制定法と裁判（訴訟手続と救済制度等）の仕組みを理解することを目標とする。このような知識を基にして、異なる法文化を比較検討し相互理解を深める力を培って欲しい。</p>		
講義概要	<p>現代では、英米法でも大陸法でも判例が注目されているが、英米では判例のもつ法的意味が日本とは基本的に異なるし、法律も、英米では日本のような体系化された法典はないといえるから、法律の探し方にも戸惑うことがある。さらに連邦制をとるアメリカ合衆国では、連邦制定法と州制定法が混在し、他州の判決を別の州ではどう扱うかという問題も抱える。また、陪審や証拠収集という英米に固有の制度もある。講義は、このような問題毎に章に分けて口述する形で進める。随時法律、判例に当たることになるが簡便な六法は存在しないので関係条文、判例の抜粋をその都度配布する。</p>		
使用教材	テキスト	特に指定しない。	
	参考文献	『BASIC 英米法辞典』田中英夫編（1993）東京大学出版会（合衆国憲法典は本書末尾掲載のものを使用する。また、英米法の法律用語については本書を用いて説明することがある）	
評価方法	学年末の定期試験の成績で評価する。前期試験は実施しない。追試もしない。		
受講者に対する要望など	法学入門程度の日本法の基礎知識があることが望ましい。		

年 間 講 義 予 定

前 期

週	主 要 テ ー マ
1	本講義の進め方について 参考書等の紹介 アメリカの判例の読み方
2	I 英米法概観
3	II イギリス法の形成 1 コモンローの形成と特色
4	2 エクイティの形成と特色
5	3 コモンローとエクイティの融合
6	4 近代法の形成
7	III アメリカ法の形成 1 イギリス法の継受
8	2 アメリカ合衆国憲法典の制定
9	3 Civil Rights Act (基本的人権法)
10	IV 法源 1 判例法主義の特色 2 判例の読み方—裁判規範の特定
11	V 違憲審査制 1 違憲審査制の確立
12	2 訴訟要件と違憲審査
備考	

後 期

週	主 要 テ ー マ
1	VI アメリカ法の仕組み：制定法 1 連邦の立法権 2 州際通商規制権限
2	3 反トラスト法
3	4 州の立法権
4	5 連邦の専占と州制定法
5	6 連邦条約と連邦制定法と州制定法
6	VII アメリカ法の仕組み：裁判 1 連邦の裁判
7	2 州の裁判 jurisdiction—minimum contact—forum nonconvenience
8	3 州の裁判 full faith and credit
9	VIII アメリカ民事訴訟手続き 1 discovery 2 jury
10	IX アメリカ刑事訴訟手続き
11	X 救済制度 1 損害賠償 2 差止め 3 違法宣言 4 制度改革訴訟
12	X アメリカの判例を読む
備考	

科目名	ドイツ法I	担当者名	中山幸二
-----	-------	------	------

講義の目標	本講義は、ドイツ法との比較を通して、日本法の特殊性と問題点を逆照射し、ドイツ法の理解とともに、日本法の理解をより深めることを目的とする。	
講義概要	ドイツ法の歴史的沿革を概観したのち、各法分野および司法制度の基本的原則と特徴を日本法との対比のもとに検討する。	
使用教材	テキスト	・村上・マルチュケ著『ドイツ法入門』有斐閣
	参考文献	そのつど指示する。
評価方法	レポート提出による。	
受講者に対する要望など	講義は日本語で行うので、ドイツ語の知識を必ずしも要しない。	

# 年 間 講 義 予 定

## 前 期

週	主 要 テ ー マ
1	本講義の目標と予定を説明する。
2	ドイツ法の歴史概説（中世・近世・近代）。ローマ法の継受と普通法。
3	ナチス期のドイツ法と戦後のドイツ（国家の分裂と再統一）。
4	ヴェイマル憲法とボン基本法。基本権。
5	連邦主義と国家機関。連邦と州の役割分担。
6	裁判所制度
7	法曹養成制度
8	民法の特徴
9	債権法
10	物権法
11	家族法
12	商法の特徴
備考	

## 後 期

週	主 要 テ ー マ
1	前期の復習。
2	刑法(1)
3	刑法(2)
4	民事訴訟法(1)
5	民事訴訟法(2)
6	労働法(1)
7	労働法(2)
8	ドイツ法学が日本法に与えた影響(1)
9	ドイツ法学が日本法に与えた影響(2)
10	ドイツ法学が日本法に与えた影響(3)
11	EC (EU) 法の発展とドイツ法。
12	まとめ
備考	

科目名	比較憲法	担当者名	加藤一彦
-----	------	------	------

講義の目標	比較憲法は、日本国憲法をより深く理解するための研究分野である。したがってここでは、日本国憲法の基礎的知識を前提に、外国の憲法、特にドイツ基本法との比較の上で、ドイツと日本の憲法の一般性と特殊性を再確認したい。		
講義概要	ドイツ基本法の大きな特徴は、いわゆる「戦う民主制」を憲法原理としている点である。講義では、この憲法原理が具体的に憲法テキストと政治構造の中でどのように現れているかについて研究する。		
使用教材	テキスト	特に指示しない。但し、樋口・吉田編『解説世界憲法集』三省堂は必携。	
	参考文献	<ul style="list-style-type: none"> <li>・樋口陽一『比較憲法』青林書院</li> <li>・吉田善明『現代比較憲法論』敬文堂</li> <li>・阿部照哉編『比較憲法入門』有斐閣</li> </ul> その他、随時指示する。	
評価方法	前期、後期に小テストを行う。その結果は、ボーナス点として斟酌する。本試験は、後期の学年末試験一本である。		
受講者に対する要望など	憲法の単位を取得していないものは、受講しないこと。		

# 年 間 講 義 予 定

## 前 期

週	主 要 テ ー マ
1	ドイツ憲法史(1)ヴァイマル憲法
2	ドイツ憲法史(2)ボン基本法制定過程
3	ドイツ憲法史(3)統一憲法
4	大統領制論(1)
5	大統領制論(2)
6	議会制度と連邦議会の選挙制度(1)
7	議会制度と連邦議会の選挙制度(2)
8	議会制度と連邦議会の選挙制度(3)
9	政党法制(1)
10	政党法制(2)
11	政党法制(3)
12	予備日
備考	

## 後 期

週	主 要 テ ー マ
1	裁判制度と連邦憲法裁判所(1)
2	裁判制度と連邦憲法裁判所(2)
3	裁判制度と連邦憲法裁判所(3)
4	基本権論(1)
5	基本権論(2)
6	基本権論(3)
7	国家緊急権(1)
8	国家緊急権(2)
9	良心的兵役拒否
10	抵抗権論
11	予備日
12	予備日
備考	

科目名	行政法Ⅱ	担当者名	金子正史
-----	------	------	------

講義の目標	行政救済法、すなわち行政活動により国民が受けた損害についての法的救済手段について講義します。	
講義概要	国家補償（損失補償と国家賠償）と行政上の争訟（不服申立てと行政事件訴訟）について、判例・具体的事例を素材として講義を行います。	
使用教材	テキスト	原田尚彦『行政法要論（全訂第三版）』学陽書房
	参考文献	<ul style="list-style-type: none"> <li>・塩野宏『行政法Ⅱ（第二版）』有斐閣</li> <li>・『行政判例百選Ⅰ・Ⅱ（第三版）』有斐閣</li> </ul>
評価方法	前期と後期の合計2回のテストによります。	
受講者に対する要望など	すべての法律学に通ずることであろうが、最低限の要望として、私が学生に望むことは、新聞の社会・政治面を毎日読むことです。	



年 間 講 義 予 定

前 期

週	主 要 テ ー マ
1	行政救済の体系
2	損失補償 (1) その意義と根拠
3	損失補償 (2) 補償の要否
4	損失補償 (3) 補償の内容
5	損失補償 (4) 判例検討
6	損失補償 (5) 財産補償制度の限界
7	国家賠償 (1) 国家賠償の意義と国家賠償法 (i)
8	国家賠償 (2) 公権力の行使と国家賠償 (ii)
9	国家賠償 (3) 公権力の行使と国家賠償 (iii)
10	国家賠償 (4) 公権力の行使と国家賠償 (iv)
11	国家賠償 (5) 公の営造物の設置管理の瑕疵と国家賠償 (i)
12	国家賠償 (6) 公の営造物の設置管理の瑕疵と国家賠償 (ii)
備考	

後 期

週	主 要 テ ー マ
1	国家賠償 (7) 公の営造物の設置管理の瑕疵と国家賠償 (iii)
2	行政不服申立て(1) 意義と性格、不服申立ての対象、不服申立て事項
3	行政不服申立て(2) 不服申立ての種類、不服申立ての要件、教示制度、審理手続・範囲、執行停止、裁決・決定
4	行政事件訴訟 (1) 行政事件訴訟の意義とその特徴
5	行政事件訴訟 (2) 行政事件訴訟の類型
6	行政事件訴訟 (3) 取消訴訟の訴訟要件 (i)
7	行政事件訴訟 (4) 取消訴訟の訴訟要件 (ii)
8	行政事件訴訟 (5) 取消訴訟の訴訟要件 (iii)
9	行政事件訴訟 (6) 審理手続、訴訟の終了
10	行政事件訴訟 (7) 住民訴訟 (i)
11	行政事件訴訟 (8) 住民訴訟 (ii)
12	まとめ
備考	

科目名	税法	担当者名	北野弘久
-----	----	------	------

講義の目標	<p>現代税法全体の基礎理論を具体的諸問題を素材にして解明する。このことを通じて学生諸君が税法問題を自力で解決できるように、努力したいと思う。1年間の講義によって、税法学の最新の理論をわかりやすく会得させたい。税法学への的確な理解は、激動の現代社会生活にとって不可欠である。ふるって参加されたい。</p>		
講義概要	<p>現代税法をめぐる主要問題を具体的ケースを素材にして総合的に検討し、現代資本主義法としての現代税法の構造的特質を解明する。そしてこれをふまえて納税者（タックスペイヤー）の立場からどのような実践的税法理論を構築するのがもっとも望ましいか考えてみたい。17回の講義によって11のテーマの税法学の基礎理論を紹介する。つぎに6回の講義によって企業課税をめぐる諸問題を各論的に扱うこととしたい。</p>		
使用教材	テキスト	<ul style="list-style-type: none"> <li>・『税法学原論・3版』北野弘久著 青林書院</li> <li>・『現代企業税法論』北野弘久著 岩波書店</li> </ul>	
	参考文献	<ul style="list-style-type: none"> <li>・『納税者の権利』北野弘久著 岩波新書</li> <li>・『消費税はエスカレートする』北野弘久 岩波ブックレット</li> <li>・『納税者基本権論の展開』北野弘久著 三省堂</li> <li>・その他、随時指示する。</li> </ul>	
評価方法	<p>毎回の講義への出席を重視する。学年末に1回筆記試験を行う。1年間の学習の成果がテストできるような基本的テーマの試験を行う。</p>		
受講者に対する要望など	<p>毎回、読むべき文献を指示する。重要な論点は板書する。ノートをとることを希望する。復習をたんねんに積み重ねてほしい。</p>		

年 間 講 義 予 定

前 期

週	主 要 テ ー マ
1	税法学の方法と特質(1) —税法学的重要性—
2	税法学の方法と特質(2) —財政学との関係—
3	税法学の方法と特質(3) —会計学との関係—
4	税法学の方法と特質(4) —行政法学との関係・総括—
5	租税の法的概念
6	租税の法的分類
7	税法の体系と税法学
8	租税法律主義の原則・租税条例主義の原則(1) ——一般的検討——
9	租税法律主義の原則・租税条例主義の原則(2) ——その現代的展開・自治体財政権——
10	実質課税の原則(1) ——一般的検討——
11	実質課税の原則(2) ——借用概念、所得の帰属、仮装行為、租税回避行為 etc——
12	税法と信義誠実の原則
備考	

後 期

週	主 要 テ ー マ
1	税務行政機構論
2	税務調査権の法理(1) ——総論的検討——
3	税務調査権の法理(2) ——各論的検討——
4	税務争訟制度の特質
5	租税犯の構造
6	企業課税をめぐる諸問題(1) ——法人所得課税の構造・その1——
7	企業課税をめぐる諸問題(2) ——法人所得課税の構造・その2——
8	企業課税をめぐる諸問題(3) ——同族会社——
9	企業課税をめぐる諸問題(4) ——企業主権——
10	企業課税をめぐる諸問題(5) ——事業承継税制——
11	企業課税をめぐる諸問題(6) ——事業者とサラリーマン——
12	企業課税をめぐる諸問題(7) ——消費税——
備考	

科目名	教育法	担当者名	市川須美子
-----	-----	------	-------

講義の目標	<p>教育法学の基礎的概念の理解の上に、現代的問題である1980年代以降の「子どもの人権裁判」を素材に、教育法の体系的理解を目標とする。</p>		
講義概要	<p>前期は、教育法の基本概念である教育人権の概念と、教育における国家の役割を学ぶ。教育法形成に重要な影響を及ぼした基本判例を素材とする。</p> <p>後期は、現在の教育法の焦点となっている「子どもの人権裁判」を、体罰、いじめ裁判、校則裁判、学校教育措置訴訟に分類して、論点と課題を提出する。</p>		
使用教材	テキスト		
	参考文献	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 神田修編『教育法と教育行政の理論』三省堂、1993年</li> <li>・ 兼子仁『入門教育法』エイデル研究所</li> </ul>	
評価方法	<p>前期はレポート。</p> <p>後期は試験</p>		
受講者に対する要望など			

年 間 講 義 予 定

前 期

週	主 要 テ ー マ
1	教育法とは何か？（教育法の機能的三種別）
2	戦後教育法制の基本的特徴
3	教育法における一般人権と教育人権
4	教師の教育権（法的性質と教育裁判におけるその形成）
5	教師の教育権（勤評・学テ裁判）
6	教師の教育権（学習指導要領の法的性質）
7	親の教育権（法的性質）
8	親の教育権（親の宗教教育権と公教育）
9	子どもの学習権と一般人権保障
10	障害児の学習権
11	国家の教育権と国民の教育の自由
12	子どもの権利条約と教育法
備考	

後 期

週	主 要 テ ー マ
1	子どもの人権裁判概説
2	学校事故裁判と体罰・いじめ裁判
3	体罰裁判（水戸五中事件）
4	体罰裁判（風の子学園事件）
5	いじめ裁判（いわきいじめ自殺事件）
6	いじめ裁判（中野富士見中事件）
7	校則裁判（丸刈り訴訟）
8	校則裁判（バイク三ない校則裁判）
9	校則裁判（パーマ退学事件・喫煙退学事件）
10	学校教育措置訴訟（原級留置訴訟）
11	学校教育措置訴訟（エホバの証人退学事件）
12	まとめ
備考	

科目名	公法特講1（後期）	担当者名	加藤一彦
-----	-----------	------	------

講義の目標	日本の議会制度、政治改革の現状について集中的に講義する。憲法の講義ではふれられることのすくない、政治資金規制、政党法制などにつき研究する。		
講義概要	政治改革が遂行された現在、この改革が真に改革の名に値するものなのかという視点から、各政治改革関連法を批判的に分析する。		
使用教材	テキスト	テキストは特に指定しない。	
	参考文献	吉田善明『政治改革の憲法問題』岩波書店 その他、随時指示する。	
評価方法	学年末試験で評価する。出席などについては、受講者の意見を聞いた上で決定する。		
受講者に対する要望など			

# 年 間 講 義 予 定

## 前 期

週	主 要 テ ー マ
1	
2	
3	
4	
5	
6	
7	
8	
9	
10	
11	
12	
備考	前期授業なし 後期完結

## 後 期

週	主 要 テ ー マ
1	講義の説明
2	選挙権は「権利」なのか
3	被選挙権は「権利」なのか
4	衆議院選挙制度の憲法問題(1)議員定数不均衡訴訟と憲法訴訟
5	衆議院選挙制度の憲法問題(2)選挙制度改革
6	衆議院選挙制度の憲法問題(3)選挙制度改革
7	政治資金と憲法問題(1)法人の政治献金
8	政治資金と憲法問題(2)政治資金規正法の問題性
9	政党助成法と憲法問題(1)
10	政党助成法と憲法問題(2)
11	政治改革と憲法「改正」論
12	予備日
備考	

科目名	民法Ⅱ(旧)	担当者名	花本広志
-----	--------	------	------

講義の目標	現代社会においてますます重要性を増してきている債権とそれを担保する手段について、原則的なあり方を定める民法の諸制度を学ぶ。		
講義概要	<p>民法典第二編第八～十章（担保物権法）と第三編第一章（債権総論）の解釈論上の諸問題について概説する。両者は講学上は別個に扱われるが、債権総論のうち多数当事者の債権債務関係や相殺に関する諸規定は実質的に債権担保に関する規律を含んでいる。したがって、この講義では上記の講学上の区分にとらわれず、いわば「債権担保法」について民法が定める規律およびその解釈論を俯瞰する。「担保」という以上は、債権の存在が大前提であるから、債権法についての知識（債権総論にとどまらない）も不可欠である。必要な範囲で債権各論に含まれる事項についても解説するが、受講者も各自独習してほしい。毎回数名に簡単な質問に答えてもらうので、そのつもりで予習・復習しておくよう望む。</p>		
使用教材	テキスト	<ul style="list-style-type: none"> <li>・遠藤浩ほか『要論物権法』青林書院</li> <li>・同『要論債権総論』青林書院</li> <li>・我妻栄ほか編『民法基本判例集〔第五版〕』一粒社</li> </ul>	
	参考文献	<ul style="list-style-type: none"> <li>・我妻栄『民法講義Ⅳ（債権総論）』岩波書店</li> <li>・奥田昌道『債権総論〔増補版〕』悠々社</li> </ul>	
評価方法	期末試験の成績と小テストの成績の合計に講義への参加度（質問に対する応答）を加味する。		
受講者に対する要望など	法律学の講義では六法全書は必携である。六法を携帯しない者の受講は認めない。		



## 年 間 講 義 予 定

### 前 期

週	主 要 テ ー マ
1	一年間の講義概要の説明。債権担保法総論。
2	担保物権法総論 法定担保物権(1)……留置権
3	法定担保物権(2)……先取特権
4	約定担保物権(1)……質権(1)……意義、動産質
5	約定担保物権(2)……質権(2)……不動産質、権利質
6	約定担保物権(3)……抵当権(1)……意義、抵当権の設定、抵当権の効力の及ぶ範囲、抵当権侵害と抵当権の効力
7	約定担保物権(4)……抵当権(2)……抵当権と用益権との利害調整、抵当権の実行、抵当権の処分
8	約定担保物権(5)……抵当権(3)……共同抵当、根抵当
9	約定担保物権(6)……抵当権(4)……抵当権の消滅、特別法上の抵当制度
10	非典型担保(1)……意義と種類、仮登記担保
11	非典型担保(2)……譲渡担保、所有権留保
12	前期の総括と債権総論への導入。
備考	

### 後 期

週	主 要 テ ー マ
1	債権の意義および性質
2	債権の目的(1)……総説、特定物債権、種類債権、選択債権
3	債権の目的(2)……金銭債権、利息債権、任意債権
4	債権の効力(1)……総説（債権の対内的効力・対外的効力）、債権とその強制力、強制履行
5	債権の効力(2)……債務不履行、債務不履行による損害賠償、債権者遅滞
6	多数当事者の債権債務関係(1)……総説、分割債権、不可分債権
7	多数当事者の債権債務関係(2)……連帯債務、保証債務
8	債権譲渡
9	債務引受
10	債権の消滅(1)……弁済、代物弁済
11	債権の消滅(2)……供託、相殺、更改、免除、混同
12	全体の総括と民法答案の書き方。
備考	

科目名	民法Ⅲ(旧)	担当者名	椿 久美子
-----	--------	------	-------

講義の目標	<p>各種の契約および不法行為を中心として、法解釈論の立場から主要判例を含む基礎知識の理解を目指す。</p> <p>本講義では、契約、事務管理、不当利得、不法行為の順に講義するが、特別法（借地借家法・自動車損害賠償保障法・製造物責任法）にもできる限り言及する。</p>	
講義概要	<p>現在においては、取引の量的ならびに質的な膨張により、契約法は民法の規定する典型契約だけでなく、契約自由の原則のもとに多くの民法に規定のない非典型契約を生み出すに至っている。また、現代社会では、民法典の成立期に予想もできなかった多くの現代型といえる不法行為現象が増加してきている。さらに、最近では、現代社会に適応すべく借地借家法ならびに製造物責任法など民法の特別法が制定されている。このように民法Ⅲの対象となる債権各論（契約・不当利得・不法行為）は、新しい法律問題を含んでおり、授業でもできる限りそれらの問題にも言及していきたい。他方、基礎的問題ももちろん説明していく予定である。</p>	
使用教材	テキスト	三和一博・平井一雄編『債権各論要説』青林書院
	参考文献	講義の際に指示する。
評価方法	前期試験（またはレポート提出）および後期試験により評価する。	
受講者に対する要望など	授業の理解を深めるためにも、必ず予習をしてきてほしい。授業時には六法および教科書を持参すること。	

# 年 間 講 義 予 定

## 前 期

週	主 要 テ ー マ
1	契約総説（契約の意義と機能、契約自由の原則とその制限、契約の種類、3種類の典型契約、契約の類型）
2	契約の成立（申込・懸賞広告）、契約の効力（同時履行の抗弁権、危険負担、第三者のためにする契約）
3	契約の解除（契約の解除の意義と性質、債務不履行に基づく解除権の発生、解除権の行使および効果、解除権の消滅）
4	贈与、売買（売買の意義、売買の成立、予約、手付）
5	売買の効力（売主の義務、買主の義務）
6	特殊の売買（割賦販売、継続的供給契約、訪問販売、通信販売）、消費者保護、割賦販売法
7	消費貸借、使用貸借、賃貸借序説
8	賃貸借の成立・存続・終了、賃貸人・賃借人の権利義務
9	賃借権の譲渡・転貸、賃借権の対抗力
10	賃貸借に関する特別法（借地借家法その他）
11	請負（序説、請負の成立、請負の効力、請負の終了）
12	寄託、組合（権利能力なき社団・法人との違い）、終身定期金、和解
備考	

## 後 期

週	主 要 テ ー マ
1	非典型契約の総説、混合契約（製作物供給契約）
2	提携ローン、クレジットカード、信販
3	リース
4	委任および事務管理とその対比、不当利得総説
5	不当利得の成立要件、不当利得の効果、不法原因給付
6	不法行為総説（不法行為の制度、不法行為と他の制度との比較、不法行為制度の現代的課題）
7	不法行為の一般的成立要件
8	不法行為の効果
9	特殊の不法行為（責任無能力者の監督者責任、使用者責任）
10	特殊の不法行為（使用者責任、工作物責任、動物占有者責任）
11	共同不法行為
12	特殊の類型としての不法行為（国家賠償法、交通事故に適用される自動車損害賠償保障法、製造物責任法の各特別法の説明、公害・医療過誤）
備考	

科目名	民法Ⅳ	担当者名	松嶋由紀子
-----	-----	------	-------

講義の目標	<p>①夫婦、親子その他の親族間の法律間の法律関係を理解し、現代社会における家族並びに家族法のあり方について考察すること。</p> <p>②国際的な家族法の動向についても理解を深めること。</p>	
講義概要	<p>親族法・相続法（民法第四編・第五編）とする。</p> <p>年間講義予定参照のこと。</p>	
使用教材	テキスト	<p>①『民法(8)親族』第3版増訂版 有斐閣双書</p> <p>②『民法(9)相続』第3版 有斐閣双書</p>
	参考文献	<p>『家族法判例百選』第四版、有斐閣。その他についてはその都度指示する。</p>
評価方法	<p>筆記試験を行う。</p>	
受講者に対する要望など		

## 年 間 講 義 予 定

### 前 期

週	主 要 テ ー マ
1	親族法総論 (総論、氏名と戸籍、親族関係、国際条約と家族法)
2	紛争処理機構 (家庭裁判所、その他)
3	婚姻 (婚姻の成立、効力)
4	婚姻 (夫婦財産制、婚姻の解消、効力)
5	離婚 (離婚法の流れ、離婚原因)
6	離婚 (財産分与、離婚の効果)
7	親子 (嫡出子・人工精殖)
8	親子 (嫡出でない子)
9	親子 (養子、養子縁組の要件と効力、離縁)
10	親権 (意義、親権者、内容、喪失)
11	後見・保佐、扶養 (開始原因、機関、事務の内容、高齢者扶養の立法政策)
12	国際条約と家族法 (条約の国内適用可能性、その他)
備考	

### 後 期

週	主 要 テ ー マ
1	相続法総論 (相続の意義、相続の開始)
2	相続人 (順位、代襲相続、相続欠格、相続人の廃除)
3	相続の効力 (相続財産の承継)
4	相続の効力 (相続分の意義、決定、指定、相対相続分序説)
5	相続の効力 (法定相続分)
6	相続の効力 (特別受益者、寄与分、相続債務、相続分の譲渡)
7	相続の効力 (遺産の共有、遺産分割、相続回復請求権)
8	財産分離、相続の承認と放棄 (財産分離、単純承認、限定承認、放棄)
9	相続人の不存在 (相続財産法人と相続財産の処理、特別縁故者への財産の分与)
10	遺言 (意義、方式、効力)
11	遺言及び遺留分 (遺贈、遺言の執行、遺留分序説)
12	遺留分 (遺留分の減殺請求)
備考	時間数の関係で適宜変更することがある。

科目名	商法Ⅲ	担当者名	明田川 昌 幸
-----	-----	------	---------

講義の目標	手形法・小切手法の基礎的な制度・理論を理解する。		
講義概要	手形法・小切手法の基本的な制度を判例や学説をまじえながら解説する。		
使用教材	テキスト	・『手形・小切手の法律入門（新版）』田村諒之輔・前田重行・大塚龍児・倉沢康一郎 著 有斐閣新書	
	参考文献	・別冊ジュリスト No.108『手形小切手判例百選（第四版）』鴻常夫・竹内昭夫・江頭憲治郎編 有斐閣	
評価方法	前期及び後期に試験を行ない、その結果により評価する。		
受講者に対する要望など	六法持参		

## 年 間 講 義 予 定

### 前 期

週	主 要 テ ー マ
1	手形・小切手の経済的機能
2	手形・小切手と銀行取引
3	手形行為とは
4	手形行為の成立要件
5	手形関係と原因関係
6	約束手形の記載事項
7	手形の署名
8	白地手形
9	他人による手形の振出
10	自己取引
11	約束手形の振出の効果
12	予備またはまとめ
備考	

### 後 期

週	主 要 テ ー マ
1	約束手形の裏書
2	裏書の連続
3	善意者の保護
4	特殊の裏書
5	支払呈示
6	支払免責
7	遡求
8	為替手形
9	小切手
10	線引小切手
11	手形・小切手に共通する制度
12	予備またはまとめ
備考	

科目名	商法 I	担当者名	青木英夫
-----	------	------	------

講義の目標	<p>企業法としての商法の特異性及びその基本的制度を修得させるとともに、典型的な企業活動に関する法的規制を学ばせることを目標とする。</p>	
講義概要	<p>前期においては、商法総則を中心に、後期においては、商行為法にウェイトをおいて講義する。なお、講義の進行によっては、数回分を一度に行うこともありうるし、一つのテーマに関して、数回にわたって講義することもありうる。</p>	
使用教材	テキスト	・青木英夫著『商法総則・商行為法』税務経理協会刊
	参考文献	講義の進行に応じて指示する。
評価方法	<p>前期及び後期の定期試験を行うが、3年生については、後期試験によって主として評価する。</p>	
受講者に対する要望など	<p>板書が多いのでノートを必ず持って来ること。六法は言うまでもない。</p>	



## 年 間 講 義 予 定

### 前 期

週	主 要 テ ー マ
1	商法の意義及び特色・傾向
2	同 上
3	商法の法源及び効力
4	同 上
5	商人の意義及び商人資格と営業能力
6	同 上
7	同 上
8	営業の意義及び営業の場所的中心
9	同 上
10	営業の個性化——商号
11	同 上
12	同 上
備考	

### 後 期

週	主 要 テ ー マ
1	商業帳簿及び商業使用人
2	商業使用人（続）及び代理商
3	同 上
4	商業登記
5	商行為の通則
6	商事売買
7	交互計算及び匿名組合
8	仲立営業及び問屋営業
9	運送取扱営業及び運送営業
10	同 上
11	運送営業（続）及び寄託
12	同 上
備考	

科目名	商法Ⅳ	担当者名	青木英夫
-----	-----	------	------

講義の目標	<p>保険法を中心に講義を進め、現代人にとって不可欠な保険についての知識を修得させることを目標とする。</p>		
講義概要	<p>講義の対象は、保険法および海商法であるが、受講生にとって、将来、海商法の知識が役立つことはほとんどないと思われる。これに対して、保険法の知識は、現代社会を安全に過す上において、極めて重要である。そこで、講義は、保険法を中心に行い、海商法については、海上保険との関連において、取り扱うにとどめることにしたい。なお、講義の進行によっては、数回分を一度に行うこともありうるし、一つのテーマに関して、数回にわたって講義することもありうる。</p>		
使用教材	テキスト	<p>ノートを中心にし、テキストは使用しない。</p>	
	参考文献	<p>講義の進行に応じて、指示する。</p>	
評価方法	<p>前期及び後期の定期試験を行うが、3年生については、後期試験の結果によって、主として評価する。</p>		
受講者に対する要望など	<p>ノートを持参すること。六法は言うまでもないこと。</p>		

年 間 講 義 予 定

前 期

週	主 要 テ ー マ
1	保険制度及び保険法
2	同 上
3	保険契約の意義及び特色
4	同 上
5	保険契約の当事者と関係者
6	同 上
7	損害保険契約の意義、要素及び種類
8	同 上
9	同 上
10	他人のためにする損害保険契約
11	被保険利益及び保険価額
12	同 上
備考	

後 期

週	主 要 テ ー マ
1	告知義務及び保険証券
2	損害保険契約の効果
3	同 上
4	損害保険債権の移転及び保険者の代位
5	危険の変更及び損害保険契約の終了
6	各種の損害保険契約
7	同 上
8	生命保険契約の意義、要素及び種類
9	同 上
10	他人の生命及び他人のための生命保険契約
11	告知義務及び保険証券
12	危険の変更及び生命保険契約の終了
備考	

科目名	民事訴訟法Ⅰ	担当者名	森 勇
-----	--------	------	-----

講義の目標	判決手続きの基本的論点の包括的理解		
講義概要	民事訴訟は、実体法の実現に奉仕する制度であり、民事訴訟法はこれを規律する法です。本講義では、判決手続の基本原則を解説します。民事訴訟のダイナミックを理解していただけるようにしたいと考えています。		
使用教材	テキスト	・中野貞一郎・松浦馨・鈴木正裕編『民事訴訟法講義』（補訂2版）有斐閣大学双書	
	参考文献	<p>上記は司試をめざす諸君を念頭においたものである。各自その他のものを選択することもかまわない。その他の教科書・参考図書については、第一回目にリストを配布する。なお、以下のものの内いずれか一冊は、ゴールデン・ウィーク明けまでに最低三回は通読すること。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・小島武司『プレップシリー 民事訴訟法』弘文堂</li> <li>・兼子一・竹下守夫『訴訟のはなし』有信堂</li> <li>・林屋礼二・吉村徳重『民事訴訟法』有斐閣新書</li> </ul>	
評価方法	簡易な問題を多数出題し、簡略であれ、すべてに正答した者のみを合格とする。		
受講者に対する要望など	民事訴訟法は、予習をしないともったく理解できない。この用意のない者が受講することは、意味がない。なお、途中で数回小テストを実施する（評価の対象とはならない）。		

## 年 間 講 義 予 定

### 前 期

週	主 要 テ ー マ
1	民事訴訟とその目的
2	訴えの提起
3	手続のながれ
4	裁判所
5	訴訟の当事者そのⅠ
6	訴訟の当事者そのⅡ
7	訴訟上の代理
8	訴えの利益そのⅠ
9	訴えの利益そのⅡ
10	主体についての正当な利益
11	訴え提起の効果
12	訴訟の審理そのⅠ
備考	

### 後 期

週	主 要 テ ー マ
1	訴訟の審理そのⅡ
2	口頭弁論そのⅠ
3	口頭弁論そのⅡ
4	口頭弁論そのⅢ
5	口頭弁論に当事者が欠席したらどうなるのか
6	証拠そのⅠ
7	証拠そのⅡ
8	証拠そのⅢ——自由心証主義
9	証拠そのⅣ——証明責任
10	当事者の行為による訴訟の終了
11	終局判決による終了
12	まとめ民事法特講への招待
備考	

科目名	民事訴訟法Ⅱ	担当者名	中山幸二
-----	--------	------	------

講義の目標	<p>私法上の請求権の具体的実現をはかる手続過程を概説し、債権者の権利実現の要請と債務者の保護・第三者の利益、社会の利益との調整がどのようになされているかを探る。</p> <p>学生諸君にとって裁判所の手続や債権回収の実務は経験が少なく、実際の場面を想像しがたい者が多いと思われるので、講義では社会現象と結びつけて、できるだけ具体的なイメージを描けるよう努めたい。</p>		
講義概要	<p>民事執行とは、民法や商法等の私法上の請求権および担保権を国家機関の手を借りて実現していく手続過程をいう。これを規律する民事執行法は、判決や公正証書などの請求権の内容を確定した文書（これを債務名義という）に基づいてその強制的実現をはかる強制執行と、抵当権や質権等の担保権を実行する手続である担保執行の、二つの柱を中心としている。執行手続では、債権者が迅速かつ確実に権利の実現を享受しうる条件を整えることが第一に要請されるが、それと同時に、執行を受ける者が不当な権利主張を排除できる手段を備えなければならないし、また債務者の人格および生活の保障も考慮しなければならない。さらに、執行に巻き込まれる第三者や他の債権者との利害調整も課題となる。</p>		
使用教材	テキスト	・内田武吉編『民事執行法・民事保全法』（1995）成文堂	
	参考文献	・青木雄二監修『ナニワ金融道・カネと非情の法律講座』（1994）講談社	
評価方法	筆記試験		
受講者に対する要望など			

## 年 間 講 義 予 定

### 前 期

週	主 要 テ ー マ
1	民事執行とは何か。実体法と手続法。判決手続と執行手続。執行と破産。
2	債権の種類とその実現方法。金銭執行と非金銭執行。
3	強制執行概説。債務名義の意義と機能。
4	債務名義(1)〔判決〕。判決手続の構造と判決の確定。仮執行宣言の意義。
5	債務名義(2)〔仮執行宣言付支払命令〕。督促手続の構造。現状と問題点——改革案の評価。
6	債務名義(3)〔執行証書〕。公正証書の作成手続。現状と問題点。
7	請求異議の訴え。債務名義と反対名義。起訴責任の重み。再審の訴え。既判力と異議事由の制限。
8	執行文。単純執行文。債務名義の点検。
9	承継執行文と条件成就執行文。債務名義の補充・流用。
10	担保執行概説。民事訴訟法と競売法の歴史。債務名義と執行名義。
11	不動産執行（差押え）。
12	不動産執行（換価）。
備考	

### 後 期

週	主 要 テ ー マ
1	前期講義復習。不動産執行（満足）。
2	抵当権の実行。抵当権の意義と機能。抵当権の設定と登記。実行手続。てき除と増価競売。短期貸借。優先弁済的効力と配当。
3	動産執行。間接強制的機能と利用の実態。差押禁止動産。
4	債権執行。債権差押命令と相殺。転付命令。
5	債権取立訴訟。債権者代位訴訟との比較。参加命令と判決効。
6	引渡執行・明渡執行。作為債権・不作為債権の執行。
7	仮差押え。
8	仮処分。
9	第三者異議の訴え。
10	執行力の本質。
11	外国判決の承認と執行。
12	まとめ。
備考	

科目名	破産法	担当者名	櫻井孝一
-----	-----	------	------

講義の目標	<p>目標：破産法全体の仕組みを十分に把握してもらうとともに、それと同時に、民法などの実体法の理解および民事訴訟法・民事執行法などの手続法の理解をより深めてもらうことである。</p>		
講義概要	<p>本講義では、わが国の現行破産法を体系的に講述し、現在の破産制度を支える法理を十分に把握してもらうよう講義を進めてゆくとともに、できる限り、現時の問題およびその他の倒産処理の手続（会社更生、和議、会社整理、会社の特別清算など）にもふれてゆきたいと考えている。加えて、破産法では、債務者の経済的破綻における法律関係の処理として、民法・商法などの実体的法律関係の修正が大幅に行われ、また、それに裁判上の手続的処理がからみ合う。その点で、破産法の学習を通じて、諸君が今までに学んできた、民法・商法などの実体性の知識をより深めるとともに、民事訴訟法などの手続法理の理解にも役立つよう、できるだけ立体的に破産法の諸問題につき論議してゆきたいと考えている。</p>		
使用教材	テキスト	未定	
	参考文献	『新倒産判例百選』（ジュリスト別冊No.106）、その他の文献については、その都度指示する。	
評価方法	<p>現在のところでは、学年末（後期）において、講義全体に関して筆記試験を行うこととしているが、さらに講義の進行状況からみて、適時に小テストなどを行うことも考えている。</p>		
受講者に対する要望など	<p>以下の授業計画は一応の予定にすぎず、破産法全体の有機的理解を諸君に十全ならしめるため、前後相関連して問題を取り上げて行くことになるので、その点を十分に承知して受講されたい。</p>		



年 間 講 義 予 定

前 期

週	主 要 テ ー マ
1	破産手続序説 —— 破産制度の目的——破産手続の概要・特徴——他の倒産処理手続との比較
2	破産開始の要件(1) —— 実体的要件——破産原因・破産能力など
3	破産開始の要件(2) —— 破産の申立とそれをめぐる諸問題
4	破産宣告とその効果 —— とくに会社の破産を中心として
5	破産宣告前の保全処分 —— 破産宣告前の財産保全処置の方法
6	破産財団(1) —— その意義と範囲——自由財産の処理
7	破産財団(2) —— その管理・換価と破産管財人
8	破産財団の維持(1) —— 破産者の宣告後の処分行為など
9	破産財団の維持(2) —— 宣告前の契約関係とその処理 (その1) —— 契約の処理一般——賃貸借契約の処理
10	破産財団の維持(3) —— 宣告前の契約関係とその処理 (その2) —— 請負契約関係その他の契約関係の処理
11	破産財団の維持(4) —— 係属中の訴訟関係の処理
12	破産財団の維持(5) —— 係属中の執行関係などの処理
備考	

後 期

週	主 要 テ ー マ
1	破産財団に対する権利の行使(1) —— 破産債権 (その1) —— その意義と要件および順位など
2	破産財団に対する権利の行使(2) —— 破産債権 (その2) —— 破産債権者の個別的地位と共同的地位など
3	破産財団に対する権利の行使(3) —— 取戻権と別除権 (その1) —— 取戻権を中心として
4	破産財団に対する権利の行使(4) —— 取戻権と別除権 (その2) —— 別除権を中心として
5	破産財団に対する権利の行使(5) —— 相殺権
6	破産財団に対する権利の行使(6) —— 財団債権
7	破産財団の増殖——否認権(1) —— 否認権の意義とその基本体系——その一般的要件
8	破産財団の増殖——否認権(2) —— 個別問題の分析
9	破産財団の増殖——否認権(3) —— その行使と効果
10	破産手続の終了(1) —— 手続の終了一般——とくに破産廃止を中心として
11	破産手続の終了(2) —— 免責と復権——とくに免責に関する諸問題
12	破産と渉外関係 —— 相互主義と属地主義
備考	

科目名	国際私法	担当者名	横山 潤
-----	------	------	------

講義の目標	<p>私人間の法律関係が国際的広がりをもつ場合の処理を講義する。</p>		
講義概要	<p>国際私法の扱う領域は、民法や商法さらに民事訴訟法といった法領域と異なりません。しかし、私人と私人との法律関係に外国的もしくは国際的要素があると、特別の処理が必要となります。まさしく国際私法は、そういった特別の処理を与える法と言えます。例えば、国際結婚とか国際契約の規律です。</p> <p>夏休みまでに総論を終え、10月から国際契約、国際不法行為、国際家族法そして国際手続法を講義します。</p>		
使用教材	テキスト	特にありません。	
	参考文献	櫻田嘉章『国際私法』有斐閣	
評価方法	試験		
受講者に対する要望など	毎回の出席が必要です。		

# 年 間 講 義 予 定

## 前 期

週	主 要 テ ー マ
1	国際私法とは何か。
2	抵触規定の構造とその特徴
3	法律関係の性質決定
4	連結素の確定（重国籍者、無国籍者の本国法の決定等）
5	反致(1)
6	反致(2)
7	外国法の適用と裁判所
8	公序
9	先決問題と適応問題
10	自然人（年齢による行為能力の制限）
11	自然人（禁治産、準禁治産）
12	法人
備考	

## 後 期

週	主 要 テ ー マ
1	物権
2	契約(1)（当事者自治の原則）
3	契約(2)（当事者自治の公法的規制）
4	契約(3)（法令の解釈）
5	不法行為(1)
6	不法行為と製造物責任
7	婚姻(1)（成立と効力）
8	婚姻(2)（離婚）
9	親子関係（嫡出子、非嫡出子、養子）
10	相続
11	国際手続法(1)（管轄権）
12	国際手続法(2)（外国判決の承認と執行）
備考	

科目名	借地・借家法（後期）	担当者名	平井一雄
-----	------------	------	------

講義の目標	平成4年から「借地借家法」が施行された。借地借家法は民法の使用貸借・賃貸借の特別法の分野を形成する。債権各論の講義では充分触れる時間がないのが通常であるので、とくに半期で別途講義する。	
講義概要	前記のように、平成4年から新法の施行をみたとはいえ、原則として、それ以前の契約にかかるものについては、「建物保護法」「借地法」「借家法」が適用になる。したがって、講義では、これら旧法を中心に説明することになる。	
使用教材	テキスト	開講時に指示する。
	参考文献	
評価方法	学年末試験による。	
受講者に対する要望など		

# 年 間 講 義 予 定

## 前 期

週	主 要 テ ー マ
1	
2	
3	
4	
5	
6	
7	
8	
9	
10	
11	
12	
備考	前期授業なし 後期完結

## 後 期

週	主 要 テ ー マ
1	借地借家法の制定まで。
2	借地借家法の適用領域（旧法との関係——付則） 借地権の存続期間
3	借地契約の更新
4	借地権の対抗力（最大判昭41、4、27 民法20巻4号870項）
5	建物買取請求権 譲渡・転賃の効力
6	借地契約の解除——正当事由
7	解除の第三者効
8	定期借地権
9	建物賃貸借（存続期間・更新）
10	借家権の対抗力 造作買取請求権
11	地代家賃の増減額
12	敷金・権利金、借地借家権の相続
備考	

科目名	銀行取引法（後期）	担当者名	川村正幸
-----	-----------	------	------

講義の目標	<p>本講義は銀行取引に関して実際に生じるさまざまな問題に関して、基本的な法的考え方や対応の仕方を理解してもらうことをめざす。その際に、実際に問題となり裁判上で争われた事例を素材として取り上げて、これらの点を具体的に理解できるよう配慮したい。</p>	
講義概要	<p>銀行取引に関する問題は多方面にわたり、それらすべてを取り上げることは時間的にも無理である。本講義では、そのうち、預金取引、貸付取引と為替取引を中心として、それらに加えて、今日、銀行業務の拡大がみられるので、この面についても触れることとする。預金取引については、総合口座取引、当座勘定取引などの各種の取引に関して生じる問題について、貸付取引については、貸付取引の基本理論、取引の前提となる銀行取引約定書の問題や各種の貸付類型の法的性質といった論点を取り上げる。さらに、為替取引に関しては、近時のEFTに関する理論と振込に当たっての銀行側のミスとその免責の問題を取り上げる。拡大された銀行業務の面では、銀行の証券業務、金融の証券化（セキュリタイゼーション）、および、金融先物取引を取り上げて論じることとする。</p>	
使用教材	テキスト	<ul style="list-style-type: none"> <li>・田中誠二『銀行取引法（四全訂版）』（1990）経済法令研究会</li> </ul>
	参考文献	<ul style="list-style-type: none"> <li>・加藤一郎監修・吉原省三編『現代銀行取引法』（1987）金融財政事情研究会</li> <li>・大西武士『現代金融取引法』（1993）ビジネス教育出版社</li> </ul>
評価方法	<p>成績の評価は、学期末の教場試験による。即題である。試験場への持ち込みは六法全書（但し判例・解説付きのものは除く）のみ可。</p>	
受講者に対する要望など		

# 年 間 講 義 予 定

## 前 期

週	主 要 テ ー マ
1	
2	
3	
4	
5	
6	
7	
8	
9	
10	
11	
12	
備考	前期授業なし 後期完結

## 後 期

週	主 要 テ ー マ
1	銀行取引法の序論として、現代社会における銀行の役割に関して論じる。
2	銀行取引法の基礎理論に関して、とくに預金取引を中心として論じる。取引上で銀行が顧客に対して負う義務、および、銀行取引に広く用いられる約款の問題にふれる。
3	預金取引の種別と預金契約の成立に関して論じる。とくに手形小切手の受入れと預金契約の成立および白地手形の受入れと銀行の白地補充義務の問題を取り上げる。
4	預金者の認定の問題およびキャッシュカードの不正使用と銀行の免責、預金担保貸付の問題を取り上げる。
5	総合口座取引および当座預金取引と手形交換の問題を取り上げる。
6	貸付取引の種類と性質について、貸付の意義、貸付の種類、貸付の利息、銀行取引約定書などの問題を中心に論じる。
7	貸付の法的性質の問題を、証書貸付、当座貸越、コール・ローンその他の貸付類型に応じて論じる。
8	貸付の基本原則および手形割引の法的性質と手形買戻請求権に関して論じる。
9	為替取引に関して、振込取引に際しての銀行のミスとその責任および現代的な電子資金送金 (Electronic Fund Transfers, EFT) の問題を取り上げて論じる。
10	付随的な問題として銀行の行う証券取引とその規制、金融の証券化 (セキュリタイゼーション)、コマーシャル・ペーパーの問題を取り上げて論じる。
11	金融先物取引にかかわる法と取引の実際、および、信託銀行の業務に関して論じる。
12	講義の終わりに当たって、金融自由化の進展と銀行の将来という問題を考えてみる。
備考	

科目名	民法特講1 (前期)	担当者名	森 勇
-----	------------	------	-----

講義の目標	司法試験程度の問題の論点をつかみ、一応の解答を示せる程度の理解をめざす。		
講義概要	この授業は、民事訴訟法Ⅰでやり残したところを補完しつつ、すでにⅠで論じた問題の理解を深めていくものである。判例を多く取り上げる予定である。		
使用教材	テキスト	中野貞一郎・松浦馨・鈴木正裕編『民事訴訟法講義』〔補訂2版〕有斐閣大学双書 各自その他のものを選択することもかまわない。	
	参考文献	第一回講義のときにリストを配布する。	
評価方法	授業中における理解度のチェックならびに各自が興味をもったテーマについて提出してもらったレポート（200×50程度）による。		
受講者に対する要望など	民事訴訟法Ⅰを受講し、あるいはそれと同等のレベルにある者以外は受講しても徒勞に終わるので注意されたい。		



## 年 間 講 義 予 定

### 前 期

週	主 要 テ ー マ
1	複雑訴訟形態概説
2	裁判の種類・判決の種類
3	判決の成立・判決書・上訴と判決の確定
4	裁判の自己拘束力とその例外・判決の瑕疵
5	終局判決と中間判決
6	訴訟判決と本案判決
7	申立て事項と判決事項
8	判決の本来的諸効果
9	既判力その1——既判力本質論・その作用局面と作用の仕方
10	既判力その2——その基準時と客観的範囲
11	既判力その3——その主観的範囲
12	判決の付随的諸効果
備考	

### 後 期

週	主 要 テ ー マ
1	
2	
3	
4	
5	
6	
7	
8	
9	
10	
11	
12	
備考	後期授業なし 前期完結

科目名	民事法特講2（後期）	担当者名	森 勇
-----	------------	------	-----

講義の目標	紛争処理の観点から、国際取引に際しての留意点を理解する。		
講義概要	君がアメリカで買い、日本に持ち帰った品物が爆発し、君がケガをした。製造者はパリに本店をおくフランス企業である。このような場合、君はこのフランス企業を被告として、日本の裁判所に救済を求めることができるのだろうか。渉外民事紛争に際して生じる手続法上の諸問題に答えるのが、国際民事訴訟法である。国際性豊かな諸君への特別メニューである。堪能されたい。		
使用教材	テキスト	とくに指定しない。資料をその都度指示・配布する。	
	参考文献	第一回目にリストを配布する。	
評価方法	授業中における理解度のチェックならびに各自が関心をもったテーマについて提出してもらったレポート（200×50枚程度）による。		
受講者に対する要望など	民事訴訟の基本的理解と国際私法への関心のない者は受講しても意味がない。ただし、他学部学生の冷やかかしは許す。		

## 年 間 講 義 予 定

### 前 期

週	主 要 テ ー マ
1	
2	
3	
4	
5	
6	
7	
8	
9	
10	
11	
12	
備考	前期授業なし 後期完結

### 後 期

週	主 要 テ ー マ
1	国際民事紛争と国際民事訴訟法
2	国際民事訴訟法の基礎的諸原則
3	裁判権
4	国際裁判管轄——その概念と発現形態ならびに実践的意義
5	国際裁判管轄各論
6	外国在住当事者との法交渉——送達
7	内国手続における外国人の地位
8	外国法の探知と適用
9	国際証拠法・証拠手続法
10	外国判決の承認と執行その1——基本概念・承認の対象とその効力
11	外国判決の承認と執行その2——承認の要件
12	国際的司法共助——国際司法摩擦
備考	

科目名	民法特講3（前期）	担当者名	小柳 春一郎
-----	-----------	------	--------

講義の目標	近代不動産法について、歴史的なパースペクティブから理解することを目指す。その際、土地基本法の基本理念である、計画的な土地の利用、土地の適切な評価と負担、投機的取引の抑制等や所有権と利用権の適切な調整が近代不動産法ではどのように制度として形成されてきたかに注目する。		
講義概要	全体を四つの部分に分ける。「Ⅰ 自由な私的土地所有権の形成」では、江戸時代の伝統的所有秩序の解体と新たに創出された自由な私的土地所有権の特徴を明らかにする。「Ⅱ 土地私法の成立」では、土地所有権と利用権の調整のための法として、民法、借地法、借家法等に注目し、その意義を明らかにする。「Ⅲ 計画的土地利用の成立」では、土地利用規制のための法的手法の成立とその意義を考える。「Ⅳ 土地の適切な評価と負担」では、地租改正時の法定地価の矛盾とその後の土地賃貸価格調査について検討する。		
使用教材	テキスト	国土庁土地局編『日本の土地——歴史と現状（仮題）』95年4月刊行予定、ぎょうせい	
	参考文献	必要のある度に講義中に指示する。	
評価方法	期末に試験を行う。試験は、客観式（穴うめ、正誤）問題と記述式問題（何々について以下の語句を使用して論ぜよ等）の二種類の問題を出題し、総合点により評価を行う。		
受講者に対する要望など			

## 年 間 講 義 予 定

### 前 期

週	主 要 テ ー マ
1	I「自由な私的財産の形成」①伝統的所有秩序の解体と地券 伝統的所有秩序について、町地と農地に分け、利用、処分、課税のあり方を概観し、明治政府の土地政策たる自由な私的財産の形成を考察する。
2	I「自由な私的財産の形成」②地租改正 町地と農地に分け、地租改正の具体的な方式を紹介し、地価と地租負担のあり方を概観する。
3	I「自由な私的財産の形成」③公示制度の形成 土地、建物の売買、担保権設定の方式を概観し、明治19年登記法の意義を明らかにする。
4	II「土地私法の成立」①民法典の成立 民法典の編纂経過を概観し、法典論争に言及した後、明治31年民法現行民法)の不動産法としての特徴を論ずる。
5	II「土地私法の成立」②借地制度(その1) 他人の土地を借りて自己所有の建物を建てるための「借地」という制度につき、建物保護法、大正10年借地法を概観する。
6	II「土地私法の成立」②借地制度(その2) 昭和16年の借地法改正の意義を検討するとともに、近代日本において何故借地が盛んであったか、何故衰退したかを考察する。
7	II「土地私法の成立」③農地賃貸借 民法が農地賃貸借(小作)に及ぼした影響を考察し、戦前の小作立法の試みを概観する。
8	II「土地私法の成立」④借家 借家の具体的あり方を考察した後、借家法について概観する。
9	III「計画的土地利用の成立」①明治・大正期 伝統的な土地利用規制について述べた後、明治の建築規制、大正時代の都市計画法について概観する。
10	III「計画的土地利用の成立」②昭和期 大正期以後の郊外地開発や市街地の再開発について概観する。
11	IV「土地の適切な評価と負担」①明治・大正期 地租改正における土地評価の問題性について述べ、明治43年の宅地地価修正とその意義を検討する。
12	IV「土地の適切な評価と負担」②昭和期 大正15年から行われた土地賃貸価格調査について概観し、これに基いた昭和6年の地租法について考察する。
備考	

### 後 期

週	主 要 テ ー マ
1	
2	
3	
4	
5	
6	
7	
8	
9	
10	
11	
12	
備考	後期授業なし 前期完結

科目名	民事法特講4（後期）	担当者名	小柳 春一郎
-----	------------	------	--------

講義の目標	<p>近代家族法について歴史的なパースペクティブから理解することを目指す。現在の家族法のあり方と対比しながら、戸籍、氏と名、婚姻、離婚、親子、相続等のあり方が、どのように歴史的に形成されてきたか、それが現在どのような問題を残しているかを検討する。</p>		
講義概要	<p>近代家族の前提として、中世、近世の家族のあり方について、まず明らかにする。このために、講義時間の3分の1をあてる。ここでは、歴史的に家が社会の単位であったことを明らかにする。その後の近代の家族法では、法典編纂による明治31年民法の家族法規定を中心に、その特質を明らかにする。</p>		
使用教材	テキスト	<p>特になし。レジメを配布する予定である。</p>	
	参考文献	<p>講義中に指示する。</p>	
評価方法	<p>期末に試験を行う。試験問題は、客観式（穴うめ、正誤等）と記述式（何々について以下の語句を使用して論ぜよ）の二種類から成る。評価は総合点による。</p>		
受講者に対する要望など			

## 年 間 講 義 予 定

### 前 期

週	主 要 テ ー マ
1	
2	
3	
4	
5	
6	
7	
8	
9	
10	
11	
12	
備考	前期授業なし 後期完結

### 後 期

週	主 要 テ ー マ
1	「はじめに」で講義予定について概観した後、Ⅰ「中世のイエと家族法」①中世の家族法 鎌倉時代の親族法、相統法について概観する。
2	Ⅰ「中世のイエと家族法」②中世のイエ 中世のイエは夫婦と親子から成る小家族集団ではなく、社会の単位としての支配集団（小国家）であったことを述べる。
3	Ⅱ「近世のイエと家族法」①江戸時代の親族法 江戸時代の親族法、相統法について概観する。
4	Ⅱ「近世のイエと家族法」②江戸時代のイエ 江戸時代のイエは、中世のイエといかに異なるのかを検討する。
5	Ⅲ「近代の家族法」①氏と名 戸籍制度の前提として、氏と名の固定が行われた。氏、姓、苗字（名字）等日常的には同一視される言葉が、歴史的には別個であったことを検討する。
6	Ⅲ「近代の家族法」②戸籍制度（その一） 戸籍制度のもととなる壬申戸籍を中心に、その方式、機能、現在に残した問題について検討する。
7	Ⅲ「近代の家族法」②戸籍制度（その二） 戸籍制度の問題点として、特にその公開とその制限について検討する。
8	Ⅲ「近代の家族法」③法典論争 旧民法とそれに関する法典論争について検討する。
9	Ⅲ「近代の家族法」④明治31年民法（その一） 明治31年民法の家族法の内容につき、現行法と対比しつつ検討する。戸主権をとりあげる。
10	Ⅲ「近代の家族法」④明治31年民法（その二） 婚姻、離婚をとりあげる。
11	Ⅲ「近代の家族法」④明治31年民法（その三） 親子法をとりあげる。
12	Ⅲ「近代の家族法」④明治31年民法（その四） 相統法をとりあげる。
備考	

科目名	刑事訴訟法	担当者名	牧田有信
-----	-------	------	------

講義の目標	講義では、判例や法（立法趣旨）の立場をできるだけ正確に把握できるよう心がけながら、種々の角度から各問題を検討してゆくこととする。		
講義概要	現行刑訴法は、訴因制度を導入し公判段階での実質的論争を通して事実の認定が行なわれるとの公判構造を採ると共に、捜査から公判に亘る手続は、自由な社会に於ける法としての基本的性格を有し、適正手続の保障を担保する制度として位置づけられねばならないとの要請がある。法とりわけ刑事訴訟法は、個人の権利、自由を保障する機能を営むものであり、「自由保障の歴史は、手続の歴史」との意義を、各テーマを通して考察してゆきたい。		
使用教材	テキスト	渥美東洋、『刑事訴訟法』有斐閣	
	参考文献	『基本判例解説 刑事訴訟法』三嶺書房	
評価方法	前、後期の試験等を総合評価する。		
受講者に対する要望など	次回のテーマを各講義時に告知するので、テキスト等で予習をしてほしい。		



## 年 間 講 義 予 定

### 前 期

週	主 要 テ ー マ
1	刑事手続の基本理念
2	捜査一般
3	逮捕・勾留
4	取調べの諸問題
5	令状による捜索・押収
6	令状によらない捜索・押収
7	職務質問、所持品検査
8	弁護権の保障
9	捜査終結の諸問題
10	違法排除法理
11	訴追裁量
12	捜査と公判
備考	

### 後 期

週	主 要 テ ー マ
1	訴因制度と公判構造
2	訴因変更制度
3	被告人取調
4	証拠開示
5	無罪仮定と推定、挙証責任
6	証拠裁判主義
7	自白法則
8	自白の補強法則
9	共犯者の供述、自白
10	伝聞法則 I
11	伝聞法則 II
12	再訴遮断効
備考	

科目名	刑事政策	担当者名	大芝靖郎
-----	------	------	------

講義の目標	<p>犯罪原因及び犯罪現象の解明に関する諸研究を概観し、犯罪の予防統制及び犯罪者の処遇について、主要な理論及び施策を考察する。その歴史的な発展変遷並びに今後の国際的な動向を検討し、我が国における状況と問題点を明らかにしたい。</p>		
講義概要	<p>はじめに、刑事政策の意義と研究対象を確認する。次いで、犯罪及び犯罪者に関する観念の変遷に伴う刑事政策思想の発展を概観し、犯罪原因及び犯罪現象に関する主要な研究を検討し、我が国における重要な犯罪の動向について考察する。更に、犯罪の予防統制及び犯罪者の処遇に関する諸施策、すなわち、各種の刑罰、保安処分、犯罪者の社会復帰を図る措置について、理論的かつ実証的見地から検討を行い、特に、刑事政策上最も困難な課題とされる行刑処遇の在り方を展望する。</p>		
使用教材	テキスト	特に指定しない。	
	参考文献	<ul style="list-style-type: none"> <li>・藤本哲也『刑事政策概論』青林書院</li> <li>・加藤久雄『刑事政策学入門』立花書房</li> <li>・柳本正春『刑事政策読本』成文堂</li> <li>・大谷 実『刑事政策講義』弘文堂</li> <li>・森下 忠『刑事政策大綱』成文堂</li> </ul>	
評価方法	<p>後期に、一括して、筆記試験を行う。年に数回出席状況を確認し、成績評価の参考とする。</p>		
受講者に対する要望など	<p>講義の前に、上掲参考書のいずれかによって、あらかじめ、関係事項につき一応の理解を得ておくことを要望する。</p>		

年 間 講 義 予 定

前 期

週	主 要 テ ー マ
1	刑事政策の意義、刑事政策の対象（犯罪、犯罪者、犯罪の予防制圧、犯罪者の処遇）、隣接領域との関係、刑事政策の国際性
2	古代及び中世における刑事思想（タブー、宗教規範、鬼神論） 近代啓蒙主義における刑事思想（功利主義的犯罪観、刑法古典学派） 実証主義刑事思想の抬頭（イタリア学派等）
3	社会防衛論の展開（目的刑論—刑法近代学派） 新社会防衛論の思想 我が国における刑事思想の発展
4	犯罪原因の研究(1)個体的原因論（体質生物学的研究、遺伝学的研究、精神医学的・心理学的研究）
5	犯罪原因の研究(2)社会的要因論（文化伝播理論、分化的同一化理論、文化葛藤理論、アノミー論、非行副次文化理論、非行中和理論その他）
6	犯罪原因の研究(3)統合的原因論（事例研究法、犯罪生物学） (4)新しい立場（ラベリング理論、新クリミノロジー）
7	犯罪現象の考察(1)社会現象としての犯罪、犯罪統計と暗数、暗数調査
8	犯罪現象の考察(2)犯罪現象に関係する諸条件（生物的基礎条件—性差、年齢、自然的条件—季節、時間、社会的条件—経済的条件、文化的条件、都市化その他）
9	犯罪現象の考察(3)我が国における犯罪現象の推移（第二次大戦時まで、第二次大戦後、近時における主要犯罪の動向）
10	犯罪現象の考察(4)我が国における特異な犯罪現象（交通犯罪、薬物犯罪、暴力団犯罪）
11	刑罰(1)刑罰の特質と機能（社会的非難の具体化、法益の剝奪、応報、威嚇ないし抑制、無害化、社会復帰）
12	刑罰(2)死刑（死刑の歴史的推移、死刑廃止論と存置論、死刑の執行方法）
備考	

後 期

週	主 要 テ ー マ
1	刑罰(2)死刑（死刑の存廃に関する国際的状況、国際連合における廃止への活動、死刑に代わる刑罰）
2	刑罰(3)自由刑（自由刑の歴史的展開、刑事政策的機能、自由刑の単一化、短期自由刑の問題、不定期刑、非犯罪化、非刑罰化、非施設化）
3	刑罰(4)財産刑（特質と機能、日数罰金制、不完納に対する措置）
4	保安処分(1)保安処分の意義と特質（社会的非難ないし行為の規範的評価と無関係、行為者の将来的危険性に対する特別予防、不特定性）
5	保安処分(2)保安処分の種類（社会的隔離を主目標とする処分、行動制限を主目標とする処分、自由剝奪による改善処分、行動制限及び指導による改善処分）
6	保安処分(3)刑罰と保安処分との関係（二元主義の問題点、特に、いわゆるレッテル詐欺、一般予防の否定、執行の同質性） (4)刑罰と保安処分の一元化
7	刑事制裁の適用(1)捜査（微罪処分、起訴猶予—ダイヴァージョン） (2)刑の量定 (3)執行猶予と宣告猶予
8	刑事制裁の適用(4)判決前調査制度 (5)仮釈放 (6)社会内処遇
9	行刑処遇(1)行刑処遇の原理（法的地位の保障、規範的意識の涵養、処遇の社会化及び開放化、処遇の個別化）
10	行刑処遇(2)処遇理念の動揺（改善モデルの発展と衰退、公正モデルの抬頭、新しい理念）
11	行刑処遇(3)我が国における行刑の問題点（行刑の歴史的展開、現行監獄法の性格と混乱、形式的法律化、受刑者の法的地位の否定、処遇目標の不徹底、処遇活動の停滞と不統一）
12	行刑処遇(4)今後の行刑処遇（監獄法改正の必要性、施設管理法から受刑者処遇法への転換、受刑者の法的地位の保障、処遇の実質的法律化、処遇の個別化・社会化・開放化、受刑者の自主性の促進）
備考	

科目名	犯罪心理学（後期）	担当者名	小田 晋
-----	-----------	------	------

講義の目標	<p>①刑法、刑事政策の関連科目としての犯罪心理学及び司法精神医学を学び、刑事責任能力の概念およびその鑑定についての基礎を学習する。②社会病理現象とその中核である犯罪に対する科学的アプローチの方法を学ぶ。犯罪とは何か、人間はなぜ犯罪をおかすのかという問題について考える。③犯罪・非行の防止、犯罪者、とりわけ精神障害犯罪者の処置について学び考える。④被害者学および犯罪被害者の救援及びカウンセリングについて学習する。⑤以上を通じて必須知識である精神分析学、行動科学の基礎を学ぶ。</p>	
講義概要	<p>社会病理とは何かから説きおこし、犯罪とはいかなるものであるか、刑法と精神医学との関係、何が人を犯罪に駆り立てるのかを論じる。犯罪学に関する学説の紹介、犯罪生物学、犯罪社会学、犯罪人類学、犯罪行動科学について述べる。今年度はとりわけ異常性犯罪者についてのプロファイリングについて説明する。その後①犯罪者の素因、発達、②犯因性人格環境、③犯因性行為環境について述べる。更に精神分析的犯罪観、精神障害と犯罪の関係、刑事責任能力、精神鑑定に関連しては民事行為能力について学ぶ。更に女性・老人・少年犯罪の特徴、犯罪者の矯正及び被害者の特徴、犯罪者のカウンセリングについて論じる。司法試験（刑事政策）家裁調査官試験のために役立ちたい。</p>	
使用教材	テキスト	<p>・小田晋『人はなぜ、犯罪をおかすのか、現代版・犯罪学入門』はまの出版、1994</p>
	参考文献	<p>・山機清道編『犯罪心理学』新曜社          ・吉益脩夫『犯罪学入門』有斐閣（これは絶版）          ・中田修『犯罪と精神医学』創元社          ・福島章『精神鑑定』有斐閣          ・小田晋『現代人の精神病理—私の臨床ノートから』青土社          ・小田晋『精神変容のドラマ—鑑定例と狂気誌』青土社          ・中田修編『司法精神医学、現代精神医学大系 24 巻』中山書店</p>
評価方法	<p>筆答試験を試験期間中に行う。資料の持ちこみは不可。</p>	
受講者に対する要望など	<p>今回はテキストを用いて講義する。テキスト、及び前回に配布されたプリントによる講義資料の持参を忘れないこと。</p>	

年 間 講 義 予 定

前 期

週	主 要 テ ー マ
1	
2	
3	
4	
5	
6	
7	
8	
9	
10	
11	
12	
備考	前期授業なし 後期完結

後 期

週	主 要 テ ー マ
1	人間と社会にとって犯罪とは何か——現代人の心性と犯罪、とりわけ、直近の犯罪を題材に、犯罪についての社会精神医学的見方を紹介する。
2	何が人を犯罪に駆り立てるのか——人間における攻撃性とはなにか、刑法の人間学的基礎、欲動とその抑制。欲動のための犯罪と自己実現のための犯罪など犯罪の人間学を考える。
3	原因に関する諸学説——メッガーの動力的犯罪観、犯罪生物学、犯罪社会学、犯罪人類学、行動科学の諸学説を紹介する。
4	犯罪行動の原因(1)——犯罪者の素質、発達。遺伝子が他因に及ぼす影響、脳機能と犯罪、乳幼児期の親子関係と地因性人格形成の問題について考える。
5	犯罪行動の原因(2)——犯因性人格とは何か。犯罪者の類型とその人格との関係。精神病質、反社会的人格障害について述べ、更に、家庭、地域、学校、薬物副次文化等他因性人格環境について述べる。
6	犯罪行動の原因(3)——犯因性行為環境とは何か：犯罪場面における人間心理の実際とはどういうものなのか。犯罪を直接ひきおこす、人間関係、風土、地域、経済環境、戦争、酩酊の影響について述べる。
7	心の病気と犯罪はどう結びつくか——司法精神医学と精神鑑定、刑事責任能力の概念と心身喪失、心経衰弱の理論と実際、刑事責任能力判定の大綱について述べる。
8	心の病気と犯罪はどう結びつくか——司法精神医学と精神鑑定、精神障害者による犯罪の統計的、実際の考察。薬物乱用と犯罪、非行の関係、刑法、少年法と精神保健法の関係と精神障害犯罪の防止。
9	異常性愛と犯罪——プロファイリングとは何か。性犯罪の概念と類型、異常性愛（性倒錯）と犯罪の関係、異常犯罪者同定のための、プロファイリングの発想と技法について述べる。
10	精神分析学的犯罪——フロイトによる精神分析学の理論を概説し、イド、自我、超自我の機能と、精神一性的発達、コンプレックスの形成について述べ、自我、超自我の機能不全、固着、コンプレックスと犯罪の関係を学ぶ。
11	女性、少年、老高令者の犯罪——女性犯罪の特質とその変遷を歴史的に概説し、その現代的特徴について述べる。更に高令者犯罪の「弱さの犯罪」としての特徴、少年非行・犯罪の動向とその対策について言及する。
12	犯罪の防止と被害者対策——今後の犯罪学、刑法学は、「加害者優先」の旧套を脱して、「被害者優先」のそれに転換しなければならない。犯罪精神医学の立場から犯罪防止、被害者の救助とカウンセリングを考える。
備考	

科目名	法医学(前期)	担当者名	齋藤一之
-----	---------	------	------

講義の目標	死体を科学的に視るとはどのようなことか、法医学的思考過程とはどのようなものか、具体的な症例の検討を通して理解できるようにしたい。		
講義概要	法医学は、雑学的実践医学である。死体を解剖する作業は、一見ワンパターンのようにみえるかもしれないが、同一の事例というものは二度と経験することはなく、いわば一期一会の勝負といえる。人体に関するあらゆる知識はもちろんのこと、広く自然科学的手法を駆使して、死因や凶器や病気やその他もろもろの死体情報をもれなく抽出する作業が検死であり解剖である。講義ではこのような法医学の実際的姿を、具体的な症例を検討することによりわかりやすく紹介し、同時に法医学的思考法の一端を理解できるようにしたい。専門的でわかりにくい面も少なくないと思うので、受講者にも相当な意欲が必要であろう。		
使用教材	テキスト	・渡辺博司『死体の視かた』令文社	
	参考文献	<ul style="list-style-type: none"> <li>・勾坂馨編『テキスト法医学』南山堂</li> <li>・石山昱夫『法医学ノート』サイエンス社</li> <li>・高橋長雄編『からだの地図帳』講談社</li> <li>・山口和克編『病気の地図帳』講談社</li> </ul>	
評価方法	筆記試験(論述問題中心)		
受講者に対する要望など	法医学の分野では、死体を自然科学的分析の対象とする。そのことと、死者の尊厳を重んじ故人に哀悼の念を捧げることとは全く次元の異なる問題である。受講者は、このことを十分に認識して講義に臨んで貰いたい。		

## 年 間 講 義 予 定

### 前 期

週	主 要 テ ー マ
1	ヒトの死と生活反応
2	自然現象としての死後変化
3	創傷に関する基礎知識
4	交通事故と頭部外傷
5	窒息——とくに頸部圧迫について
6	水中死体に関する問題点
7	高温・低温による傷害
8	急性中毒およびアルコールをめぐる問題
9	突然死——予期されない急死
10	医療事故の背景にあるもの
11	白骨死体から得られる情報について
12	血液型の基礎知識およびDNA鑑定の問題点
備考	

### 後 期

週	主 要 テ ー マ
1	
2	
3	
4	
5	
6	
7	
8	
9	
10	
11	
12	
備考	後期授業なし 前期完結

科目名	労働法	担当者名	土田道夫
-----	-----	------	------

講義の目標	<p>具体的事例や資料を駆使し、外国法との比較も交えながら、変革期にある労働法の全体像を解明する。</p>		
講義概要	<p>労働法は、人が働く上で発生する様々な問題の法的解決を図ることを目的とする法領域である。近年、残業による長時間労働、単身赴任や出向、過労死、雇用における男女差別、外国人労働者問題等々、雇用労働をめぐる様々な問題が生じている。それらは日本の社会の現状や今後のあり方に直結しており、法的にも速やかな解決を要請するものが多い。現状を直視し、今後のあり方を探りながら、こうした問題を法的に解決するシステムとしての労働法について講義する。テキストは大変わかりやすいもので、これをベースに進めるが、そのつど具体的事例や資料を配布して一歩進んだ内容にしたい。</p>		
使用教材	テキスト	<p>中窪裕也＝野田進＝和田肇『労働法の世界』有斐閣</p>	
	参考文献	<p>開講時に紹介するが、特に、</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・菅野和夫『労働法（第三版）』弘文堂</li> <li>・別冊ジュリスト『労働判例百選（第五版）』有斐閣</li> <li>・別冊ジュリスト『労働法の争点（新版）』有斐閣</li> <li>・安枝英紳『労働の法と政策』有斐閣</li> </ul>	
評価方法	<p>前期・後期共に試験を行う（六法参照可）。</p>		
受講者に対する要望など	<p>知的好奇心にあふれた学生諸君の受講を期待する。</p>		



## 年 間 講 義 予 定

### 前 期

週	主 要 テ ー マ
1	労働法の概要説明；憲法27条・28条、民法623条以下、労働基準法、労働組合法、男女雇用機会均等法 etc.
2	日本の雇用制度・企業社会と法；外国と比較しながら、法と社会の現実との交錯を探る。
3	労働条件決定の法的システム(1)；概要
4	賃金；賃金額の決定・支払方法等に関する法規制を概観する。
5	労働時間・休日・休暇(1)；改正労基法の解説や外国法の紹介を通して、「時短」の現状と法の課題を考える。
6	労働時間・休日・休暇(2)；時間外・休日労働。
7	労働時間・休日・休暇(3)；フレックスタイム制・年次有給休暇法。
8	労働時間・休日・休暇(4)；年次有給休暇の取得促進に向けた解釈・立法の課題を探る。
9	労働契約の締結；採用内定・試用期間など。
10	男女の雇用平等(1)；雇用機会均等法を中心に、「平等」と「保護」のあり方を考える。
11	男女の雇用平等(2)；同上。
12	男女の雇用平等(3)；引き続き雇用平等法の課題を探ると共に、セクシュアル・ハラスメント問題などを考える。
備考	

### 後 期

週	主 要 テ ー マ
1	配転・転勤；単身赴任問題を法的側面から考える。
2	出向；特に企業グループ内の出向について説明する。
3	労働条件決定の法的システム(2)；就業規則と労働条件—就業規則の法的性質、拘束力の根拠。
4	労働条件決定の法的システム(2)；就業規則と労働条件—就業規則の不利益変更。
5	労働条件決定の法的システム(4)；就業規則と労働条件—規範的効力（労組法16条）の限界。
6	労働災害(1)；過労死問題と法—労災保険法の解釈を中心に、過労死を生み出す社会のあり方にも目を向ける。
7	労働災害(2)；過労死問題と法—労災保険法の解釈を中心に、過労死を生み出す社会のあり方にも目を向ける。
8	労働災害(3)；使用者の安全配慮義務について概説する。
9	外国人労働者問題(1)；いわゆる不法就労者問題について、今後の法制度のあり方を考える。
10	外国人労働者問題(2)；いわゆる不法就労者問題について、今後の法制度のあり方を考える。
11	労働契約の終了；解雇の法規制、高齢化社会における定年延長問題など。
12	労働組合法の概要；団体交渉、不当労働行為などを簡潔に解説する。
備考	

科目名	工業所有権法	担当者名	古沢 博
-----	--------	------	------

講義の目標	知的財産権法（従来は、無体財産権法ともいわれた）のうち、工業所有権法全般の理解を深めることを目標とする。		
講義概要	<p>1.人間の精神活動により創作または考案される著作物、発明、考案、意匠、商標などの無形の価値または利益は、有体財産を主として扱う民法等によっては十分な保護が与えられない。これらの無形の価値または利益に対し排他的な支配権（独占権）を与えて保護することにより、かかる創作活動を盛んにし、文化の発展を促進しようとするのが、無体財産法であり、工業所有権法（特許法、実用新案法、意匠法、商標法、不正競争法その法）と著作権法とがこれに含まれる。</p> <p>2.本講は、上記の無体財産法のうち、工業所有権法について勉強するものである。</p>		
使用教材	テキスト	・紋谷暢男『無体財産権法概論』（第5版）有斐閣	
	参考文献	別途、指示する。	
評価方法	試験（前期・後期ともに行う）		
受講者に対する要望など	原則として毎回、出席をとる。		

## 年 間 講 義 予 定

### 前 期

週	主 要 テ ー マ
1	イントロダクション、工業所有権の概念、種類について。
2	特許権、実用新案権、意匠権、商標権その他の工業所有権の説明。
3	工業所有権の法的性格について。
4	工業所有権の発生の要件について。 「特許等を受ける権利」について。
5	職務発明について。
6	特許の要件——産業上利用可能性、新規性、進歩性、準公知に該当しないこと、について。
7	同上、実用新案登録、意匠登録の要件について。
8	商標登録の要件について。
9	特許権の消極的要件——その変遷——産業政策との関連。 実用新案権・意匠権の消極的要件について。
10	商標権の消極的要件について。
11	同上。商標及び商品・役務の類似について。
12	権利発生の手続について。
備考	

### 後 期

週	主 要 テ ー マ
1	特許庁の手続能力、代理人、出願書類の作成、出願対象の単一性、多項性、先願主義について。
2	審査（方式・実体）、出願公開、出願審査請求について。
3	手続補正、出願の分割、出願の変更について。
4	出願公告について。 査定（特許・登録査定または拒絶査定）について。
5	拒絶査定に対する救済手段——拒絶査定不服審判請求、審決取消訴訟等。
6	特許権、実用新案権、意匠権、商標権の積極的効力の範囲——特許発明の技術的範囲等について。
7	同 上
8	工業所有権の制限、とくに先使用権について。
9	工業所有権の変動——譲渡、実施（使用）許諾等について。
10	工業所有権の侵害——権利の消極的効力の範囲について。
11	権利侵害に対する救済について。
12	工業所権の国際的保護、とくに工業所有権の保護に関する1883年のパリ条約及び特許協力条約について。
備考	

科目名	社会保障法	担当者名	矢島里絵
-----	-------	------	------

講義の目標	<p>社会保障法の対象とする人々の生活実態とかれらの抱える問題を把握することを通して、社会保障法とは何なのか、なぜ社会保障法が必要なのかを考えます。</p>		
講義概要	<p>現在社会において、ますますその重要性が指摘される社会保障について、法的な側面から検討します。</p> <p>その際には、われわれ国民の生活にとって身近な問題からアプローチすることを心がけます。</p>		
使用教材	テキスト	<p>随時、資料を配布します。</p>	
	参考文献		
評価方法	<p>学年末に試験を実施します。ただし、3分の1以上、授業を欠席した学生についてはすべて不合格とします。</p>		
受講者に対する要望など	<p>受講者のみなさんの意見を反映した授業をすすめていきたいと思っておりますので、受け身ではなく積極的に授業に参加する学生を希望します。</p>		

## 年 間 講 義 予 定

### 前 期

週	主 要 テ ー マ
1	社会保障法とはなにか（社会保障法の意義、制定根拠、法体系等）
2	世界における社会保障立法のあゆみ①
3	世界における社会保障立法のあゆみ②
4	世界における社会保障立法のあゆみ③
5	わが国における社会保障立法のあゆみ①
6	わが国における社会保障立法のあゆみ②
7	わが国における社会保障立法のあゆみ③
8	生活困窮者と社会保障法①
9	生活困窮者と社会保障法②
10	生活困窮者と社会保障法③
11	朝日訴訟、藤木訴訟、加藤訴訟等の検討①
12	朝日訴訟、藤木訴訟、加藤訴訟等の検討②
備考	

### 後 期

週	主 要 テ ー マ
1	前期のまとめと後期の授業のすすめ方について。
2	医療保障関連法のしくみと運用の実態①
3	医療保障関連法のしくみと運用の実態②
4	年金関連法のしくみと運用の実態①
5	年金関連法のしくみと運用の実態②
6	障害者福祉法のしくみと運用の実態①
7	障害者福祉法のしくみと運用の実態②
8	堀木訴訟等の検討
9	高齢者福祉法のしくみと運用の実態①
10	高齢者福祉法のしくみと運用の実態②
11	社会保障法の国際比較
12	一年間のまとめ
備考	ただし、受講者との話し合いにより、内容を変更することがあります。

科目名	経済法	担当者名	古沢 博
-----	-----	------	------

講義の目標	<p>経済法の総論と各論の主要な部分（独占禁止法、中小企業保護法制、需給・価格安定法制、対外経済法、不況対策法制）の理解を目標とする。各論では、とくに独占禁止法に重点を置く。</p>		
講義概要	<p>1. 経済法は、経済に関する法一般ではなく、資本主義社会における経済に対する国家の干渉に関する特殊な法である。近代の自由主義経済の社会では、自由放任が経済の基本原理とされ、このような自由主義的経済秩序を確保するため、民法、商法等の近代市民法が存在する。しかし、資本主義経済の発展、高度化に伴い、多くの矛盾ないし困難が発生し、その解決のため、経済に対する国家の干渉が必要となってきた。その法的手段が経済法である。</p> <p>2. 経済法の内容は極めて多岐にわたるが、本講では、経済法の本質等に関する総論と独占禁止法を中心として講義する。</p>		
使用教材	テキスト	<p>・松下満雄『経済法概説』東京大学出版会</p>	
	参考文献	<p>・金沢良雄『経済法〔新版〕』有斐閣 その他、テキストに記載のもの。</p>	
評価方法	<p>試験（前期・後期ともに行う）</p>		
受講者に対する要望など	<p>基本的に毎回、出席をとる。</p>		

## 年 間 講 義 予 定

### 前 期

週	主 要 テ ー マ
1	全体のイントロダクション。「序章」——経済法及び経済法学の発生の事情について。
2	「序章」——経済法と市民法との関係、資本主義経済の発展・高度化と経済法との関係について。
3	同上——まとめ。我が国の経済法の沿革。
4	我が国の経済法の沿革。
5	「第一章」——独占禁止法の沿革。
6	「第二章」——独占禁止法の基礎概念。——「目的」、「事業者」、「事業者団体」について。
7	同上——「一定の取引分野」、「競争の実質的制限」について。
8	同上——同上。「公共の利益」について。
9	「第三章」——私的独占の禁止、とくに「排除」による私的独占について。
10	同上——とくに「支配」による私的独占について。
11	同上——集中規則、会社合併の規制、独占的状态の規制について。
12	「第四章」——不当な取引制限（カルテル）の禁止、とくに「縦の協定」と「横の協定」、「相互拘束性」、「立証」について。
備考	

### 後 期

週	主 要 テ ー マ
1	「第四章」——不当な取引制限の禁止、とくに行政指導とカルテルについて。
2	同上——事業者団体の規制、価格の同調的引上げについて。
3	「第五章」——不公正な取引方法の禁止についての概説。
4	同上——不公正な取引方法の一般指定と特殊指定について。
5	同上——一般指定の説明。
6	同上——同上。
7	「第六章」——国際取引の規制について。
8	「第七章」——独占禁止法違反に対する排除措置について。 「第八章」——適用除外について。
9	「第十章」——中小企業保護法制について。
10	「第十一章」——需給・価格安定法制について。
11	「第十二章」——対外経済法について。
12	「第十三章」——不況対策法制について。
備考	

科目名	著作権法（前期）	担当者名	古沢 博
-----	----------	------	------

講義の目標	人間の知的活動により創作された著作物の保護（著作権、著作者人格権）ならびに実演家、レコード製作者及び放送事業者の保護（著作隣接権）について、全般的な理解を目標とする。		
講義概要	<p>1.著作権は、人間の知的創作活動により創作された著作物（思想又は感情を創作的に表現したものであって、文芸・学術・美術又は音楽の範囲に属するもの）の保護及びこれと関連を有する実演家、レコード製作者、放送事業者の権利（著作隣接権）の保護について規定している。</p> <p>2.著作権の対象である著作物の範囲は非常に広く、小説、脚本、講演等の言語の著作物のほか、音楽の著作物、舞踊又は無言劇の著作物、絵画等の美術の著作物、建築の著作物、地図等の図形の著作物、映画の著作物、写真の著作物、プログラムの著作物などがこれに含まれている。これらの研究は受講者にとって極めて興味深いものではないかと考える。</p>		
使用教材	テキスト	・半田正夫『著作権法概説〔第7版〕』一粒社	
	参考文献	テキストに記載のもののほか、別途指示する。	
評価方法	試験		
受講者に対する要望など	原則として毎回、出席をとる。		



## 年 間 講 義 予 定

### 前 期

週	主 要 テ ー マ
1	全体のイントロダクション。とくに著作権の概念及び制度の沿革について。
2	著作権の国際的保護について。
3	著作権法の目的について。 著作権の主体、とくに著作者・共同著作者について。
4	職務著作・映画著作物の著作者について。
5	著作権の客体、とくに著作物の定義・本質・著作物の各類型及び著作権法の保護を受けない著作物について。
6	著作物の各類型についての説明。
7	二次的著作物・編集著作物・データベースの著作物・プログラムの著作物について。
8	著作者の権利、とくに著作者人格権について。
9	著作権（財産権）及びこれに含まれる権利（支分権）について。
10	著作権の制限について。
11	著作物の保護期間及び著作物の利用について。
12	著作隣接権——実演家、レコード製作者及び放送事業者の保護について。
備考	

### 後 期

週	主 要 テ ー マ
1	
2	
3	
4	
5	
6	
7	
8	
9	
10	
11	
12	
備考	後期授業なし 前期完結

科目名	国際法 I (旧)	担当者名	寺澤 一
-----	-----------	------	------

講義の目標	国際法の理論と実際を示すとともに、随時、現代の国際関係の実体を究明する。	
講義概要	生起する幾多の今日的な国際法的現象が具体的に理解できるよう説明するとともに、国際社会の法構造把握が可能になるよう努める。	
使用教材	テキスト	『新版現代国際法』
	参考文献	『国際条約集』『標準国際法』
評価方法	試験（中間はやらない）。	
受講者に対する要望など		

## 年 間 講 義 予 定

### 前 期

週	主 要 テ ー マ
1	講義のやり方、参考書の紹介など。
2	国際法の構造と機能——国際法の定義、その特徴、法的性質など。
3	国際法の構造と機能——国際法学の在り方、国際法の成立。
4	国際法の構造と機能——国際法の展開、平和共存と国際法。
5	国際社会における国家の地位——国家の種類、その徴表、特殊な国家。
6	国際社会における国家の地位——国家結合（CIS、コモンウェルスなど）、永世中立国。
7	国際社会における国家の地位——中立と国際連合の関係。
8	国家承認——理論、要件、方式。国際組織への加入と承認。
9	政府承認——理論、要件、方式。国際組織への加入と承認。
10	国家の消滅。国家の基本権と義務。
11	国家の基本権と義務。
12	国際法と国内法の関係。日本国憲法と条約との関係。
備考	

### 後 期

週	主 要 テ ー マ
1	国家責任。
2	国家責任。
3	国際法の法源——条約と慣習、条約法条約。
4	慣習法の成立、慣習の法典化。
5	国際機関による立法行為。
6	領域——領土、内水。領土の取得。
7	日本の領土問題。
8	日本の領土問題。
9	特殊な地域。
10	国際河水と国際運河。
11	海の国際法。
12	空の国際法、人的管轄権。
備考	

科目名	国際法Ⅱ	担当者名	松田幹夫
-----	------	------	------

講義の目標	国際問題に対する法的思考力の養成	
講義概要	テキスト後半が講義の範囲であり、目次を読めば、講義概要は、おのずから分かる。	
使用教材	テキスト	・小田・石本・寺沢編『新版現代国際法』有斐閣
	参考文献	テキストの章末をみよ。
評価方法	主として、前期および後期試験（論述式）が運命を分ける。	
受講者に対する要望など	手ぶらで教室へ来ないこと。手ぶらは、私語や居眠りに通じる。	

年 間 講 義 予 定

前 期

週	主 要 テ ー マ
1	イントロダクション
2	国際組織概説——国際組織の歴史——国際連盟——国連が成立して半世紀
3	国連の目的・原則——国連のメンバー——国連代表権（とくに中国の場合）——国連機関
4	安保理事会——経社理事会——信託統治理事会——事務局——国連の法人格
5	国連以外の国際組織——国際協力のための国際組織——EC（法）からEUへ
6	前期前半知識の整理
7	紛争の平和的解決義務——紛争解決の諸手段——外交交渉——周旋・仲介——審査・調停——ドッガー・バンク事件
8	国際裁判の種類——仲裁裁判——司法裁判——PCIJの日本人裁判官
9	国際司法裁判所の地位——ICJの日本人裁判官——裁判廷——当事者——手続——裁判基準——判決
10	裁判義務——選択条項——ILA東京大会——自動的留保（コナリー修正）
11	国連による紛争解決——安保理事会の場合——総会の場合——国連憲章の条文解釈
12	前期後半知識の整理
備考	

後 期

週	主 要 テ ー マ
1	正戦論と無差別戦争観——戦争の革命——連盟規約は史上初の集団安保条約——不戦条約——国連憲章2条4項
2	国連憲章上の国連軍——「牙」が「幻」に——朝鮮国連軍と国連の関係——PKOの生成
3	地域的安保——地域的取極——集団的自衛権——ケルゲンの批判——ジュサップ説対ウォルドック説
4	旧敵国条項——NATO成立——ワルシャワ条約機構解体
5	中立概説——非交戦状態——中立国の権利・義務——国連と中立——横田説対田岡説——スイスと国連
6	後期前半知識の整理
7	軍縮に対する連盟と国連の姿勢の差——核規制——部分的核停条約——NPT——SALT——南極条約
8	外国人の地位概説——外国人の権利・義務——国有化——亡命者——難民
9	人権保護概説——世界人権宣言——国際人権規約——ヨーロッパ人権条約——ジュノサイド条約
10	ウィーン外交関係条約——外交使節の種類・階級——外交使節団の任務——特権・免除
11	ウィーン領事関係条約——領事の任務——特権・免除——外国軍隊の地位
12	後期後半知識の整理
備考	

科目名	比較政治	担当者名	萩原宜之
-----	------	------	------

講義の目標	<p>国連加盟国が184カ国となったが、これらの国は、民族、言語、宗教が異なるのみでなく、人口、資源、領土、経済、政治など極めて多様である。本講義では、世界の国々の多様性から出発して、各国の政治体制の比較を通じて、政治についての理解を深めることを目的とする。その場合、タテ軸としての歴史的考察と、ヨコ軸としての比較研究の双方から考えることとする。</p>		
講義概要	<p>世界の国々の政治を (1)政治史 (2)政治体制 (3)政治過程 (4)政治文化 (5)対外関係などの諸側面から比較し、それぞれの政治の特徴を明らかにする。そのため、20世紀における2つのシステムとしての資本主義と社会主義の対立と共存から出発し、民主主義、権威主義、全体主義という3つのレジーム、君主制、共和制(大統領制、議院内閣制)、立憲君主制という政治体制、政党、官僚、軍部といった政治アクターなどの比較を通じて、各国の政治を分析する。とくに、アジア諸国については、民族、言語、宗教、歴史を含めて詳細に分析する。最後に、日本の政治について考える。</p>		
使用教材	テキスト	砂川一郎ほか編『比較政治学の理論』東海大学出版会 1990年	
	参考文献	<ul style="list-style-type: none"> <li>・内山秀夫『比較政治考』三嶺書房 1990年</li> <li>・田口富久治ほか『現代世界の政治体制』青木書店 1984年</li> <li>・西川知一編『比較政治の分析枠組』ミネルヴァ書店 1992年</li> </ul> <p>(各講義ごとの参考文献はその都度紹介する)</p>	
評価方法	前期・後期の筆記試験で評価する。		
受講者に対する要望など			

## 年 間 講 義 予 定

### 前 期

週	主 要 テ ー マ
1	現代世界の政治について概観する。
2	比較政治分析の方法について考える。
3	政治体制の比較について考える。
4	政治機能について考える。
5	政治発展と政治変動について考える。
6	政治文化と政治的社会化について考える。
7	西欧先進国の政治について考える。
8	社会主義国の政治について考える。
9	第三世界の政治について考える。
10	民族、言語、宗教と政治について考える。
11	政党、官僚、軍部と政治について考える。
12	日本の政治について考える。
備考	

### 後 期

週	主 要 テ ー マ
1	アジア諸国の政治について比較する。
2	中国、台湾、香港の政治について考える。
3	南北朝鮮の政治について考える。
4	東南アジアの民族、言語、宗教を比較する。
5	東南アジアの政治を比較する。
6	タイの政治について考える。
7	フィリピンの政治について考える。
8	インドネシアの政治について考える。
9	マレーシア・シンガポール・ブルネイの政治について考える。
10	インドシナ3国の政治を考える。
11	ビルマの政治について考える。
12	再び、日本の政治について考える。
備考	

科目名	国際取引法	担当者名	山本孝夫
-----	-------	------	------

講義の目標	<p>国際取引の分野は、貿易取引に加えて、知的財産取引・合併事業・サービス取引・投資など、国際化が進展しています。国内での経済活動もコンピュータソフト、情報通信、フランチャイズ、食品、金融はじめ先端・成長分野でとくに国際化が進んでいます。将来、国際的舞台で活躍することをめざしている方に、海外との取引に不可欠な国際取引法・契約・貿易・訴訟・知的財産取引などに係る法的な知識と実務的な対応の実際と英文国際契約の基本を紹介します。国際的舞台で活躍をめざす若き人々は「英語」を「標準語」と考えてみてはどうでしょうか。</p>		
講義概要	<p>ミシガン大学Law Schoolやロンドン、サンフランシスコ、東京等で、国際取引・プロジェクト契約、知的財産法務に携って来た経験をもとにケースメッドや英文教材（プリント）も使用したいと思います。一昨年、昨年のクラスは寺沢ゼミ、平井ゼミ、奈良ゼミ、外国学部の学生中心に真摯で意欲的なメンバーが多く感激しました。そのため、前後期とも課題自由のレポートとしました。「国際売買条件」「国際知的財産問題」「国際取引の特色とリスク」「国際取引紛争と解決方法」「合併」等から自由に選ぶか、クラスで配布する「英文プリント」の試訳・研究ほか自由です。サブテキストとして、ミシガン大キャンパスを中心に「国際取引・知的財産法の学び方～Seminar at Michigan Law School～」を連載中。</p>		
使用教材	テキスト	<p>1.プリント 2.山本孝夫「英文契約書の書き方」（日本経済新聞社、日経文庫） 3.「国際取引法」（山田・佐野、有斐閣）</p>	
	参考文献	<p>1. Folsom, Gordon, Spanogle「International Business Transactions」（West Publishing; Course Book版とNutshell版） 2.山本孝夫「国際取引・知的財産法の学び方」（「国際商事法務」に'94.1月号より毎月連載中） 3.新堀聡「貿易取引入門」（日本経済新聞社） 4.沢田寿夫「新国際取引ハンドブック」 5.山本孝夫「知的財産契約の常識」（「CIPICジャーナル」1994年3月号より連載） 6.山本孝夫「ベンチャー企業の法務と対応」（日本経済新聞社、「ベンチャー企業の経営と支援」に所収）</p>	
評価方法	<p>前後期2回のレポートとふだんのクラスへの参加を重視します。1993年、1994年の2期は受講生が熱心だったので、前後期ともいずれもレポートとしました。新年度も前期のレポートの期限を9月末（課題自由、2千字以上）とします。これまで2年は熱心な受講生が多くA・B中心の評価でした。</p>		
受講者に対する要望など	<p>私は授業は学生〔受講生〕と教師側が各1対1で意見交換し、協力して作り上げるものだと考えています。一昨年は学生のアドバイザー起用、昨年は出席票代りに毎回、「質問・意見・メッセージ」をB5版メモで提出ねがい、授業方法・テーマに反映させました。質問・意見には（内容により、クラス又は本人に）必ずお答えします。希望・意見をお聞かせ下さい。</p>		



## 年 間 講 義 予 定

### 前 期

週	主 要 テ ー マ
1	(質問) あなたが初めて海外客先に商品の売り込みに成功、大筋商談がまとまりました。契約書の交渉に移ろうとすると相手が言います。「今約束した通り納入して下さい。契約書は不要。」どうしますか。〔「英文契約書の書き方」 pp. 16-20〕
2	第1週の Business writing の役割の議論に続き、具体的なケースを中心に「国際取引の国内取引と異なるリスク・特色」とりあげます。〔「国際取引法」 pp. 6-8; International Business Transactions ("Nutshell") pp. 1-11〕
3	具体的なケース (1994年はエアバス事故) をとりあげ、「国際取引の種類 (各種取引)」を学びます。例えば売買、リース、サービス、ライセンス契約。〔「英文契約書の書き方」 pp. 20-22; 「国際取引法」 pp. 4-6〕
4	Athens の Alpha Company が New York の Santa Claus に Toy を注文します。Alpha 社からの Letter (照会)、Purchase Order を読み、船積・支払条件 (Bill of Lading, 信用状) を学びます。〔「貿易取引入門」 pp. 182-318〕
5	第4週 Santa Claus ケースは「International Business Transactions (Course Book) の4章 (pp. 33-59) です。「国際売買の仕組み」 FOB, CIF 条件」を学びます。〔「国際取引法」 pp. 69-113; 「貿易取引入門」 pp. 121-167〕
6	Georgia 州の Sam Silver が英国 Bath の Bill Bones から「Desire Under the Thornbush」を FOB Savannah (Georgia) 条件で、Hunt から CIF Bath 条件で100冊宛注文を受け、契約します。一緒に送ることができますか。
7	前週 Silver ケースは「International Business Transactions」(「コースブック」) の pp. 85-87 です。前週に続き、貿易条件 [CIF, FOB 等] を学びます。〔「コースブック」 pp. 85-101; 「貿易取引入門」 pp. 98-173〕
8	国際取引の舞台に登場する「Actors」について考えます。Corporation だけではありません。Government はどうでしょう。「M. N. E.», "Delaware Enterprise" とは何でしょう。〔「コースブック」 pp. 10-15, 「国際取引法」 pp. 35-60〕
9	国際的な売買契約に適用される世界共通の法律はあるのでしょうか。国連のウィーン売買契約というものは何でしょうか。日本の Aurora Borealis 社とサンフランシスコの Karen View 社が契約したとします。UCC とは何でしょうか。
10	第9週に続き、Aurora 社と Karen View 社の契約をめぐる、そのレター形式の確認のし方、フォーマルな契約書のドラフティングを学びます。UCC (米国統一商法典) の基本を学びます。〔「英文契約書の書き方」 pp. 43-112; 「国際取引・知的財産法の学び方」 [1994年5-11号]〕
11	4-5週、6-7週、9-10週は同じテーマを2週とりあげます。末尾の参考テキスト・文献も共通です。今週はこれ迄をふり返り、あなた方一人一人の質問・意見にお答えします。毎回いたよくメモにも返事します。
12	前期のレポート (期限: 9月末) のテーマは国際取引に関する限り、自由課題ですが、翻訳にチャレンジする方への材料としてプリント (数種類) を用意します。レポートテーマも選択の参考として20ほど紹介します。
備考	

### 後 期

週	主 要 テ ー マ
1	レポート提出を受けます。後期のテーマと学び方・指針について紹介します。あなた方の夏休み中の成果・感想を聞いたり、私の過ごし方などをお話します。〔昨年北大での集中講義、コペンハーゲン知的財産執行委員会議印象記 (AIPPI 9月号) を紹介しました。〕
2	夏休み中のレポートを中心に講評と助言を行います。契約英語、ビジネス英語について紹介します。〔「英文契約書の書き方」 (V. 契約英語のポイント、pp. 191-209) の基礎的表現 (May, Shall, Will, 時制、数字、期間等) も説明します。〕
3	「国際技術移転・知的財産取引(1)」の基本を紹介します。Intellectual Property Rights とは何でしょうか。Copyright, Patent, Trademark, Trade Secret とは何でしょうか。〔「コースブック」 pp. 612-621; 「国際取引法」 pp. 189-209〕
4	「国際技術移転・知的財産取引(2)」として、具体的なライセンス契約やその契約条件を学びます。〔「コースブック」 Problem 9.4 Patent and Knowhow Licensing, pp. 706-725; 「英文契約書の書き方」 N. 1 知的財産権契約, pp. 146-171〕
5	「国際知的財産契約」を仮想の主人公 (Karen View と日高氏) で紹介します。〔「知的財産契約の常識」 Vol. 27~Vol. 32 (1994年3-8月号), Vol. 34-Vol. 35 (10~11月号)。商標とフランチャイズ中心です。〔「コースブック」 pp. 675-691〕
6	映画・ミュージカル・音楽などいわゆる国際的なエンターテイメント・ビジネスをその制作、輸入、上演の実際や契約書・条件に重点を置いて説明します。映像・音楽・原作者・複製等 Copyright の大切な世界です。
7	「海外への進出と事業形態・合併事業(1)」の基礎を紹介します。販売代理店と、支店と現地法人、合併会社 (ジョイント・ベンチャー・カンパニー) はどう違うのでしょうか。〔「国際取引法」 pp. 211-220, 「新国際取引ハンドブック」 pp. 104-164〕
8	「海外への進出と事業形態・合併事業(2)」のテーマで、関連契約を紹介します。販売代理店は Distributor と Agent に分けます。〔「英文契約書の書き方」 pp. 181-190〕 合併契約のポイントは何でしょうか。M&A はどのように実行しますか。
9	国際取引に伴う契約から発生する紛争の原因となる重要問題を取り上げます。①製造物責任 (Product Liability)、②Anti-trust 法 (独占禁止法) を米国のケースで紹介しします。〔「国際取引法」 pp. 168-176; 「コースブック」 pp. 1107-1122〕
10	WTO (世界貿易機構); 国際税法 (租税条約、移転価格税制、タックスヘイブン); 国際倒産; 反ダンピング法; 環境; 知的財産権侵害問題等国際取引紛争を事例によって学びます。あなたの意見も聞かせて下さい。
11	国際取引紛争とその解決方法について取り上げます。具体的なケース (日米間の訴訟、仮想例) により、問題と解決方法、予防策を議論したいと思います。〔山本孝夫「国際取引紛争と外国弁護士起用上の注意点」(「国際商事法務」1993年11月、12月号)〕
12	まとめとレポートの説明、これまでの質問、意見にお答えします。「国際取引法」という学問はあなたと共に成長し続けます。あなたが国際的舞台で若い鷹のようにはばたく翼 [力] となるよう祈ります。
備考	

科目名	西洋外交史	担当者名	滝田賢治
-----	-------	------	------

講義の目標	<p>「国際社会」と「世界経済」（世界資本主義システム）の成立を前提とした、「産業革命期」（18世紀末～19世紀初。地域によって異なるのは言うまでもない。今日においても工業化を経験していない地域が広汎に存在している）から「冷戦」の終結に至るまでの「国際政治」現象の構造変容の中でのヨーロッパ外交をマクロ的にフォローしてゆくことを主目的としている。従って細部よりも全体的流れを把握することに留意してもらいたい。細部や特殊テーマについては参考文献によって各自学習してもらいたい。</p>		
講義概要	<p>欧米において先行した産業革命による運輸・通信技術と産業資本主義の飛躍的發展は、世界を時間的・心理的に縮小化させてきた。それによって自立的・自給的であった世界各国・各地域は欧米先進資本主義国の補完的経済圏として固定化されたばかりでなく政治的にも従属を余儀なくされた。この過程で、欧米列強間の闘争の結果や妥協の産物として人工的に国境線が引かれ、同一民族・同一部族が分断され、その後に複雑な「民族問題」を残すことになった。政治的従属を免れた国家も欧米的法体系・政治システム・外交儀礼・国際決済システムなどを受け入れざるをえなかった。これは民族の宗教をも含めた伝統的価値観をいたく刺激し、欧米に対する複雑な感情を醸成していった。第2次大戦後、米ソは激しい冷戦を展開する過程で人工的国境線を引いて同一エスニックを分断したり、異なったエスニックを合体させたりした。同時に、米ソはそれぞれがシステムの「創造者」「維持者」であった資本主義システム、社会主義システムの防衛・発展のために国家資源の多くを長期間にわたって軍拡（通常兵器・核兵器）に投入し続けたために次第に相対的国力を衰退させ、それぞれのシステム内での影響力を低下させた。それが最終的には社会主義システムの崩壊を引き起こすとともに、資本主義システムの「維持者」たるアメリカの財政・貿易・在外資産の巨大なトリプル赤字を生み出した。二つのシステム間の緊張が解消したことにより、人工的に分断されたり合体させられてきた民族やエスニック間の紛争や、この紛争による難民の増大とこれへの排斥運動が激化してきている。以上を踏まえ冷戦後の国際政治とヨーロッパ国際関係を展望し、一年間の講義を締め括る。</p>		
使用教材	テキスト	使用せず。講義ノートによる。	
	参考文献	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. I. ウォーラースティン『近代世界システムⅠ、Ⅱ』岩波書店（1981年）</li> <li>2. E. W. サイド『オリエンタリズム』平凡社（1986年）</li> <li>3. 柴田三千雄『近代世界と民衆運動』岩波書店（1983年）</li> <li>4. 毛利健三『自由貿易帝国主義』東京大学出版会（1978年）</li> <li>5. D. R. ヘッドリック『帝国の手先』日本経済評論社（1989年）</li> <li>6. A. ギャンブル『イギリス衰退100年史』みすず書房（1987年）</li> <li>7. 大江一道『世界近現代全史』山川出版社（1991年）</li> <li>8. 松井透『世界市場の形成』岩波書店（1991年）</li> <li>9. L. ハレー『歴史としての冷戦』サイマル出版会（1970年）</li> <li>10. R. スチーブンスン（滝田訳）『デタントの成立と変容』中大出版部（1989年）</li> </ol>	
評価方法	<p>年間24回授業があるが、夏休み直前（第12回目）に中間試験（90分）を、最終回（第24回目）に期末試験（90分）を行なうので実質的には22回の授業となる。評価は中間試験が30点、期末試験が50点、前期・後期に2回ずつ不定期に行なう小テスト（15分）が20点（5点×4回）である。前期試験が地方公務員等の試験と重なる場合には7月初旬段階でその旨の届出を提出させ（書式あり）、届出を提出した者に対してのみ中間試験以降に追試を行なう。この際、地方公務員等の試験を受験したことを証明する書類・受験票を提示すること。後期の期末試験に関しては教務課の規定に従って制度化されている追試のみとし、レポートの類は一切受付けない。</p>		
受講者に対する要望など	<p>①1人置きに座ること、②私語を厳禁する。注意に従わない場合は退室を命ずる。この場合は単位は認定しない。</p>		

## 年 間 講 義 予 定

### 前 期

週	主 要 テ ー マ
1	西欧外交史のマクロ的流れ。西欧国家体系の成立。
2	産業革命期のヨーロッパと世界
3	自由主義と近代ナショナリズム
4	新興民族国家の成立
5	帝国主義の時代（Ⅰ）
6	帝国主義の時代（Ⅱ）
7	第一次世界大戦と西欧国家体系の動揺
8	戦間期の世界（Ⅰ）
9	戦間期の世界（Ⅱ）
10	第二次世界大戦と大戦の構図
11	第二次世界大戦の展開と終結期の条件
12	前期テスト
備考	

### 後 期

週	主 要 テ ー マ
1	冷戦概念と時期区分
2	冷戦の起源（Ⅰ）
3	冷戦の起源（Ⅱ）
4	米ソ対立と西ヨーロッパ
5	冷戦の展開と西ヨーロッパ（Ⅰ）
6	冷戦の展開と西ヨーロッパ（Ⅱ）
7	冷戦の緩和と西ヨーロッパ（Ⅰ）
8	冷戦の緩和と西ヨーロッパ（Ⅱ）
9	冷戦の緩和と西ヨーロッパ（Ⅲ）
10	新冷戦状況と西ヨーロッパの対応
11	冷戦終結のプロセス
12	学年末テスト
備考	

科目名	国際経済論	担当者名	益山光央
-----	-------	------	------

講義の目標	国際経済を分析する際に必要な最低限必要と思われる諸概念の修得を目標とする。		
講義概要	国際経済学の基礎的な理論を中心に講義する。前期は貿易理論、後期は開放経済下の所得決定メカニズムを中心テーマとする。今日、世界で問題となっている具体的事項については直接は取り扱わない。		
使用教材	テキスト	教科書 ・仙頭佳樹ほか、『あなたにもわかる国際経済学』多願出版、1991	
	参考文献	・渡辺太郎『国際経済（第四版）』春秋社、1990 ・Peter B. Kenen; <i>The International Economy (Third Edition)</i> , Cambridge University Press, 1994	
評価方法			
受講者に対する要望など	まじめに勉強してほしい。		

## 年 間 講 義 予 定

### 前 期

週	主 要 テ ー マ
1	講義のアウトライン
2	リカード的奉易理論Ⅰ
3	リカード的貿易理論Ⅱ
4	ヘクシャー-オリーソン定理Ⅰ
5	ヘクシャー-オリーソン定理Ⅱ
6	リプチンスキー定理
7	ストルパー-サミュエルソン定理
8	関税Ⅰ
9	関税Ⅱ
10	国際生産要素移動Ⅰ
11	国際生産要素移動Ⅱ
12	まとめ
備考	

### 後 期

週	主 要 テ ー マ
1	GNP と GDP
2	固定収支表
3	固定相場制下の所得決定Ⅰ
4	固定相場制下の所得決定Ⅱ
5	変動相場制下の所得決定Ⅰ
6	固定相場制下の所得決定Ⅱ
7	開放経済上の金融政策Ⅰ
8	開放経済上の金融政策Ⅱ
9	開放経済上の財政政策Ⅰ
10	開放経済上の財政政策Ⅱ
11	ポリシーミックス
12	まとめ
備考	

科目名	国際関係特講1(前期)	担当者名	今井圭子
-----	-------------	------	------

講義の目標	<p>ラテンアメリカはアジア、アフリカとともに発展途上地域に加えられ、政治経済社会に及ぶ諸側面において様々な低開発の問題を抱えている。この地域は19世紀前半に独立期を迎えたが、それに先立つ3世紀余りの長期にわたって植民地支配を受け、その間に形成された政治経済社会構造の遺制が、今日この地域の発展を阻害する重大な要因の一つになっている。本講義ではラテンアメリカの政治経済を中心に、まずその歴史的変遷過程を辿り、同地域をめぐる国際関係を考察する。そして現在ラテンアメリカが抱える主要な政治経済問題とその対応策について考える。</p>		
講義概要	<p>ラテンアメリカの政治経済社会的低開発性とその特質をアジア、アフリカとの比較において理解し、次いでラテンアメリカ地域の自然、住民、文化を概観する。さらに同地域の政治経済社会の歴史的変遷過程を辿り、まず植民地前の先住民社会について説明する。それを踏まえて植民地期における植民地政策の特質とその下でのラテンアメリカ政治経済社会の変容過程をおさえ、さらに独立後の国家建設、経済開発の実施過程を考察する。そして現在ラテンアメリカが抱えている主要な政治経済問題の現状を明らかにし、かつその根源を探る。次いでラテンアメリカをめぐる国際関係を分析し、日本の同地域との歴史的関係を辿りながら、今後の両者の関係のあり方について考える。</p>		
使用教材	テキスト	特に指定せず、授業の初めに主要参考文献リストを配る。	
	参考文献	<ul style="list-style-type: none"> <li>・国本伊代著『概説ラテンアメリカ史』新評論 1992年。</li> <li>・細野昭雄・恒川恵市共著『ラテンアメリカ危機の構図』有斐閣 1986年。</li> <li>・水野一編『日本とラテンアメリカの関係』上智大学イベロアメリカ研究所、1990年。</li> <li>・今井圭子著『アルゼンチン鉄道史研究——鉄道と農牧産品輸出経済』アジア経済研究所、1985年。</li> </ul>	
評価方法	<p>授業中に何回かミニテストを行なう。</p> <p>最後の授業までに、ラテンアメリカに関する本1冊を選び、書評を書いて提出する。</p> <p>学期末に筆記試験、以上を合わせて評価する。</p>		
受講者に対する要望など	<p>授業では内容の濃いものをわかり易く講義することをめざすので、受講者は授業に出席し、不明な点、納得できない点はどしどし質問すること。</p>		

## 年 間 講 義 予 定

### 前 期

週	主 要 テ ー マ
1	序 ラテンアメリカ概観——ラテンアメリカとアジア、アフリカとの比較の視点について要約した後、ラテンアメリカの自然、住民、文化、宗教について概観する。
2	第1章 ラテンアメリカ政治経済史 第1節 時期区分。世界経済史と対比しながら、ラテンアメリカ政治経済史の時期区分について述べる。
3	第2節 植民地以前の時期（～15世紀末） コロンブス一行到来前の先住民社会について概観し、アステカ、マヤ、チブケャ、インカの各先住民社会、文明について考察する。
4	第3節 植民地期（15世紀末～19世紀初め） ラテンアメリカの植民地化の過程、植民地政策、植民地支配の下での先住民社会の変容について説明する。
5	第4節 独立期（19世紀初め～19世紀半ば） 独立運動高揚の国際的および国内的要因をおさえ、独立運動の思想、担い手、独立闘争の進展過程について説明する。
6	第5節 第一次産品輸出経済確立期（19世紀半ば～1929年） 独立後の国家建設と経済開発をめぐる政策について、論争を含めながら解説し、第一次産品輸出経済が確立されていく過程を明らかにする。
7	第6節 工業化から地域協力に至る時期（1929年～現在） 1929年大不況がラテンアメリカ経済に与えた影響について考察し、ラテンアメリカ諸国の対応策を論じ、第2次世界大戦後の工業化に言及する。
8	第2章 ラテンアメリカ政治経済の現状と問題点 ラテンアメリカ諸国が抱える主要な政治経済問題をまとめて解説し、その対策について考える。
9	第2章 ラテンアメリカ政治経済の現状と問題点 ラテンアメリカ諸国が抱える主要な政治経済問題をまとめて解説し、その対策について考える。
10	第3章 ラテンアメリカの開発をめぐる諸理論 ラテンアメリカの開発をめぐる主要な理論をとりあげて説明し、コメントを加え、その有効性について討論する。
11	第3章 ラテンアメリカの開発をめぐる諸理論 ラテンアメリカの開発をめぐる主要な理論をとりあげて説明し、コメントを加え、その有効性について討論する。
12	第4章 日本とラテンアメリカの関係 日本とラテンアメリカの関係について、移民、貿易、投資、援助、外交関係について考察し、今後のあり方について論じる。
備考	

### 後 期

週	主 要 テ ー マ
1	
2	
3	
4	
5	
6	
7	
8	
9	
10	
11	
12	
備考	後期授業なし 前期完結

科目名	国際関係特講2（前期）	担当者名	志摩園子
-----	-------------	------	------

講義の目標	多様化する国際関係の中で、小国がいかなる政策をもって存続しているかを、バルト3国を例にとって考察する。	
講義概要	1991年に約50年にわたるソ連邦内の構成共和国から、独立の回復をバルト3国は果たした。なぜ、バルト3国がひとまとまりに呼ばれるようになったのかを考えつつ、このような小単位が存続しようとする努力を、歴史的な相違を踏まえながら解説する。	
使用教材	テキスト	
	参考文献	その都度指示する。
評価方法	レポート提出	
受講者に対する要望など		



## 年 間 講 義 予 定

### 前 期

週	主 要 テ ー マ
1	「バルト」とは
2	ドイツ人の進出
3	中世の大国リトアニア
4	スウェーデンの支配
5	ロシアの支配
6	バルト諸民族のナショナリズム
7	ロシア帝国沿バルト諸県の経済と社会
8	第1次世界大戦・ロシア革命とバルト3国の独立
9	戦間期のバルト3国
10	第2次世界大戦期のバルト3国
11	ソ連の構成共和国としてのバルト3国
12	独立を回復したバルト3国
備考	

### 後 期

週	主 要 テ ー マ
1	
2	
3	
4	
5	
6	
7	
8	
9	
10	
11	
12	
備考	後期授業なし 前期完結

科目名	国際関係特講3（後期）	担当者名	志摩園子
-----	-------------	------	------

講義の目標	東欧の現状を理解するための背景をつかむ。	
講義概要	現在の東欧が置かれている状況と特色を、その歴史的背景から理解できるようにしたい。その中で「民族」とは何かといったテーマも考察の対象にしてみたい。	
使用教材	テキスト	・森安達也、南塚信吾『東ヨーロッパ』朝日新聞社 ・地域からの世界史-12
	参考文献	必要に応じて指示する。
評価方法	レポート提出	
受講者に対する要望など		

# 年 間 講 義 予 定

## 前 期

週	主 要 テ ー マ
1	
2	
3	
4	
5	
6	
7	
8	
9	
10	
11	
12	
備考	前期授業なし 後期完結

## 後 期

週	主 要 テ ー マ
1	東欧の位置づけ
2	中世までの東欧
3	東中欧世界の転換期
4	衰退と停滞の時代
5	農民と民族
6	民族覚醒の時代
7	民族国家への道
8	帝国主義下の東欧
9	独裁と人民
10	社会主義の試練
11	東欧革命への道
12	東欧の現状
備考	

科目名	国際関係特講4（前期）	担当者名	堀江浩一郎
-----	-------------	------	-------

講義の目標	日本にとりアフリカは“遠い”存在である。物理的かつ歴史的に遠いだけではない。アフリカに対する事実認識において露骨な偏見がまかり通っているとの意味でも遠いのである。このように日本から遠いアフリカを少しでも身近かな存在に変えることが本講義の基本的目標である。	
講義概要	<p>国際社会の中におけるアフリカの位置を概説する。</p> <p>(1)西欧との関わり： 1) 奴隷貿易 2) 植民地統治 3) 南北関係</p> <p>(2)第三世界との関わり： 1) 国家建設 2) 地域紛争/協力 3) 民主化</p> <p>(3)国際社会との関わり： 1) 金融・技術援助（国際機関）2) 人道・開発支援（NGO）3) 国連PKO</p> <p>(4)日本との関わり： 1) 宗主国経由（植民地統治、通商）2) 日本独自（ODA, 民主化支援）</p>	
使用教材	テキスト	なし。
	参考文献	その都度プリントを配布する。
評価方法	日常の小テストおよび期末試験。	
受講者に対する要望など		

## 年 間 講 義 予 定

### 前 期

週	主 要 テ ー マ
1	アフリカ（サハラ砂漠以南）の基礎的顔：民族、信仰、地理、伝統共同体。
2	アフリカの近・現代史：奴隷貿易、植民地統治、独立運動。
3	アフリカの国家建設Ⅰ：イデオロギー（ナショナリズム、パン・アフリカニズム、社会主義、トライバリズム）。
4	アフリカの国家建設Ⅱ：政治機構（政党、軍部、カリスマ指導者）と政治過程（一党独裁、クーデター、民主化など）
5	アフリカの国家建設Ⅲ：経済運営（植民地構造、西欧・国際機関との新規事業、地域経済・社会協力など）。
6	アフリカと国際社会Ⅰ：国連を中心としたアフリカ開発への支援（アフリカの10年計画、構造調整計画、2国間経済協力など）。
7	アフリカと国際社会Ⅱ：内紛の舞台（分離運動、民族間抗争、冷戦の代理戦争、人権間抗争、圧政への民衆の抵抗など）。
8	アフリカと国際社会Ⅲ：国際社会各界によるアフリカに対する人道・民主化支援（国連などのPKO、西欧NGOなどの人道・社会開発援助）。
9	アフリカと日本Ⅰ：明治維新—アフリカの政治独立初期
10	アフリカと日本Ⅱ：オイル・ショック統一“民主化”期。
11	アフリカの展望Ⅰ：大陸の課題（人口爆発、砂漠化、社会的基礎開発、国民的和解）。
12	アフリカの展望Ⅱ：生存と発展の模策。
備考	

### 後 期

週	主 要 テ ー マ
1	
2	
3	
4	
5	
6	
7	
8	
9	
10	
11	
12	
備考	後期授業なし 前期完結

科目名	行政学	担当者名	中村陽一
-----	-----	------	------

講義の目標	行政に関する初歩的な知識を教授するために、行政学の歴史、行政組織、公務員制度、予算制度、行政に対する統制を講義する。	
講義概要		
使用教材	テキスト	
	参考文献	加藤他『行政学入門』有斐閣
評価方法	年に1回（学年末）に試験を行う。	
受講者に対する要望など		

年 間 講 義 予 定

前 期

週	主 要 テ ー マ
1	行政活動
2	行政活動
3	行政学の歴史
4	行政学の歴史
5	行政学の歴史
6	行政学の歴史
7	行政学の歴史
8	行政学の歴史
9	行政組織
10	行政組織
11	行政組織
12	行政組織
備考	

後 期

週	主 要 テ ー マ
1	公務員制度
2	公務員制度
3	公務員制度
4	公務員制度
5	予算制度
6	予算制度
7	予算制度
8	予算制度
9	統制
10	統制
11	統制
12	統制
備考	

科目名	政治思想史	担当者名	柴田平三郎
-----	-------	------	-------

講義の目標	<p>思想や哲学が疎じられているのが、現在の私たちを取りまいている一般的雰囲気だといったら、いいすぎになるかもしれない。しかし、少なくとも時代の表層的部分ではそういうと思う。いつごろから、そうなってきたのか。皆でじっくり考えてみたい。そして、その問題意識をさらに延ばして行って、歴史に確実な刻印を残してきた思想を振り返り、私たちの現在と未来を知る手掛りにしたいと思っている。</p>	
講義概要	<p>具体的には、ここでは思想は〈政治思想〉をさすが、一口に政治思想といっても、そこにはさまざまなタイプやニュアンスの差がある。そうした政治思想の歴史的な展開を時代と社会の変化のなかで捉えながら、私たち自身の想像力と感性を養っていききたい。したがって、講義では古代—中世—近代—現代という時系列で進むことになるが、もちろんこうした時代区分はさしあたりの区分でしかない。そのことも講義のなかで明らかにするつもりである。</p>	
使用教材	テキスト	・柴田平三郎『政治思想史講義ノート』而立書房
	参考文献	参考文献は無数にある。講義のなかで指摘していくつもりである。
評価方法	<p>前期・後期の二回のテストを基本に評価を決定する。レポートの提出をしてもらう場合もある。</p>	
受講者に対する要望など	<p>できる限り、古典に親しんでもらいたい。</p>	



## 年 間 講 義 予 定

### 前 期

週	主 要 テ ー マ
1	〔以下に掲げるのは、あくまでも当初の予定である。講義の進み具合で、変化が生じる可能性のあることを断っておく。〕 政治思想史を始めるにあたって。
2	政治思想史の課題と方法について。
3	古典古代あるいは地中海世界の問題性について。
4	プラトンの政治思想(1)
5	プラトンの政治思想(2)
6	アリストテレスの政治思想
7	ヘレニズム時代の政治思想
8	古代ローマの政治思想——キケロとセネカ
9	キリスト教と政治思想
10	アウグスティヌスの政治思想(1)
11	アウグスティヌスの政治思想(2)
12	前期のまとめ
備考	

### 後 期

週	主 要 テ ー マ
1	中世政治思想の問題性
2	中世政治思想(1)——ソールズベリのジョン
3	中世政治思想(2)——トマス・アキナス
4	ルネサンスの政治思想——マキアヴェリ
5	宗教改革の政治思想——ルターとカルヴァン
6	近代の政治思想(1)ホッブズ
7	近代の政治思想(2)ジョン・ロック
8	近代の政治思想(3)ルソー
9	保守主義の政治思想——パークを中心に
10	自由主義の政治思想——ベンサム、ミル、トックヴィル
11	社会主義の政治思想——マルクス
12	まとめ
備考	

科目名	政治史	担当者名	井上スズ
-----	-----	------	------

講義の目標	ヨーロッパ諸国の政治発展について、英・独・仏等の大国のみに片寄らず、ヨーロッパ全体の発展を見通す方法を示し、ヨーロッパ政治への理解を深める。		
講義概要	<p>テキストは、政治学的概念を分析道具として、ヨーロッパの近・現代史を再編成しようとするものである。この方法の利点は次の点にある。まず、中央統治機構の形成、国民国家の成立、参加（普通選挙等）、滲透（国家の非宗教性等）、分配（土地改革、社会改革）等の指標により、一国の政治発展の進度を簡潔に把握しうること、次に、このようにして諸国の発展をみれば、ある時代のヨーロッパの政治発展の理解が容易となり、ヨーロッパの政治地図を俯瞰しうるということになる。</p> <p>テキストは、かなり詳細にわたるので、講義の重点は、第一次大戦後とし、受講者になじみのうすい部分については特に重点的にそれ以前に溯る。</p>		
使用教材	テキスト	篠原一『ヨーロッパの政治』東京大学出版会	
	参考文献	授業中適宜指示する。	
評価方法	前期・後期それぞれ試験を行い、それらの結果による。		
受講者に対する要望など			

## 年 間 講 義 予 定

### 前 期

週	主 要 テ ー マ
1	理論的枠組：政治発展の理論
2	理論的枠組：政治発展の理論
3	政治的近代化の展開：イギリス
4	政治的近代化の展開：フランス
5	ドイツ帝国の政治構造
6	中小国デモクラシー：北欧デモクラシー
7	多極共存型デモクラシー：オランダ、ベルギー、スイス
8	オーストリアーハンガリー二重帝国
9	バルカン半島のナショナリズム
10	ロシア革命
11	ドイツ革命・ワイマール共和国の成立
12	ドイツ革命・ワイマール共和国の成立
備考	

### 後 期

週	主 要 テ ー マ
1	第一次大戦後のヨーロッパ：英独仏伊
2	中小国デモクラシー：オランダ、ベルギー、スイス、チェコスロヴァキア
3	中小国デモクラシー：オランダ、ベルギー、スイス、チェコスロヴァキア
4	中小国デモクラシー：オランダ、ベルギー、スイス、チェコスロヴァキア
5	デモクラシーの崩壊：ワイマール共和国の崩壊
6	デモクラシーの崩壊：オーストリアにおける民主主義の崩壊
7	危機克服のための選択：イギリス
8	危機克服のための選択：スウェーデン
9	人民戦線：フランス
10	人民戦線：スペイン
11	東欧の政治体制
12	東欧の政治体制
備考	

科目名	政治学特講 1 (前期)	担当者名	宮里政玄
-----	--------------	------	------

講義の目標	<p>本特講は、次年度から開講される「アメリカ政治外交」を先取りするものである。ⅠとⅡで一つのまとまった講義の目的は、アメリカ外交の作成過程(国内政治)、とくに第二次世界大戦後の外交政策を分析することによってアメリカ政治・外交の理論と実際を学ぶことである。</p>		
講義概要	<p>第1部ではアメリカの外交政策の作成過程について大統領、講会、圧力団体の相互作用を講義する。とくに日米関係に関する対外経済政策の作成、94年の中間選挙で共和党が40年ぶりに議会の上下両院で多数派を占めたためにますます重要になった議会の役割を強調する。</p>		
使用教材	テキスト	<p>・有賀貞、宮里政玄編『概説アメリカ外交史』有斐閣、1993年</p>	
	参考文献	<p>阿部齊編『アメリカの政治』弘文堂、1991年。宮里政玄編『日米構造摩擦の研究』、1990年。その他適宜に指定する。</p>	
評価方法	<p>期末に筆記試験を行う。追試は原則として行わない。</p>		
受講者に対する要望など	<p>1と2の両方で一つの講義をなすので、両方とも受講してもらいたい。</p>		

年 間 講 義 予 定

前 期

週	主 要 テ ー マ
1	前期の講義内容と参考書などについての説明。
2	憲法上の大統領の権限、三権分立の原理、「伝統的大統領」。
3	「現代の大統領」と「国民投票による大統領」の相違、特徴。F.D. ルーズベルト以後の大統領のマネジメント・スタイルを類型化。
4	大統領府 (NSC, NEC, USTR など) の役割、大統領との関係の重要性。
5	アメリカの内閣と閣僚の特徴について。
6	議会分析のレベルを説明する (議員、委員会のレベル) ことによって議会に対する見方、議員の立場からの分析。
7	委員会の分析。下院の歳入委員会の例。
8	同 上
9	議会と大統領
10	対外経済政策決定過程の全般的な特徴についての説明。
11	議会の役割についての説明。
12	総まとめ。
備考	

後 期

週	主 要 テ ー マ
1	
2	
3	
4	
5	
6	
7	
8	
9	
10	
11	
12	
備考	後期授業なし 前期完結

科目名	政治学特講2（後期）	担当者名	宮里政玄
-----	------------	------	------

講義の目標	1に同じ。		
講義概要	1の対外政治作成過程の講義を踏まえて、第二次世界大戦後のアメリカ外交政策を年代順に講義する。その過程で冷戦の開始、発展、そして終結、冷戦後の混乱期における政策を取り上げる。日米関係も重点的に扱う。		
使用教材	テキスト	前期に同じ。	
	参考文献	前期に同じ。適宜に追加する。	
評価方法	期末に筆記試験を行う。原則として追試は行わない。		
受講者に対する要望など	1と2の両方で一つの講義をなすので、両方とも受講してもらいたい。		

## 年 間 講 義 予 定

### 前 期

週	主 要 テ ー マ
1	
2	
3	
4	
5	
6	
7	
8	
9	
10	
11	
12	
備考	前期授業なし 後期完結

### 後 期

週	主 要 テ ー マ
1	1の要約と後期の講義の紹介
2	冷戦の開始について。第二次大戦中のルーズベルト外交と冷戦の関連性。
3	冷戦の開始について。トルーマン外交
4	中国の「喪失」、NSC 68、朝鮮戦争など。
5	冷戦の展開—アイゼンハワー・ダレス外交
6	ケネディ・ジョンソン外交
7	米ソのデタント—ニクソン・キッシンジャー外交
8	カーター—人権外交とアフガニスタン
9	レーガンと米ソ関係
10	冷戦終結とブッシュ外交
11	クリントン外交
12	総まとめ
備考	

科目名	政治学特講 3 (前期)	担当者名	小林 正 弥
-----	--------------	------	--------

講義の目標	今日の日本の政治構造を理論的に把握するために、戦後日本の政治学の歩みを再検討すること。	
講義概要	丸山真男に代表される戦後近代政治学の流れを説明した後に、それと対峙している実証主義的政治学の主張を概説し、これらを総括することによって今後の日本政治学の進むべき方向を展望する。	
使用教材	テキスト	なし
	参考文献	丸山真男『現代日本の思想と行動』未来社 大嶽秀男『戦後政治と政治学』東京大学出版会
評価方法	試験による。	
受講者に対する要望など	内容的に政治学特講 4 に接続するので、特講 4 も受講する方が学習効果は高まるであろう。	



## 年 間 講 義 予 定

### 前 期

週	主 要 テ ー マ
1	①序——本講の問題意識と概観
2	②前史——戦前の日本政治学
3	③戦後政治学の出発 (1)科学としての政治学
4	③戦後政治学の出発 (2)日本ファシズム分析
5	③戦後政治学の出発 (3)丸山政治学の総体
6	③戦後政治学の出発 (3)丸山政治学の総体
7	④戦後政治学の展開 (1)第1世代
8	④戦後政治学の展開 (2)第2世代
9	⑤実証主義的政治学
10	⑤実証主義的政治学
11	⑥今日の日本政治学
12	⑥今日の日本政治学
備考	

### 後 期

週	主 要 テ ー マ
1	
2	
3	
4	
5	
6	
7	
8	
9	
10	
11	
12	
備考	後期授業なし 前期完結

科目名	政治学特講 4 (前期)	担当者名	小林正弥
-----	--------------	------	------

講義の目標	<p>恩顧主義（クライエンテリズム）の概念を検討することによって、戦後日本政治の構造を把握すると共に、今後の政治学の方法をも考えること。</p>	
講義概要	<p>恩顧主義論の学説史を説明した後で、講師自身の新しい恩顧主義論を説明し、上記の目標を実現する。</p>	
使用教材	テキスト	なし
	参考文献	河田潤一編著『現代政治学入門』ミネルヴァ書店
評価方法	<p>試験による。</p>	
受講者に対する要望など	<p>内容的に政治学特講 3 に接続するので、特講 3 も受講する方が学習効果は高まるであろう。</p>	

## 年 間 講 義 予 定

### 前 期

週	主 要 テ ー マ
1	①序——本講の問題意識と概観
2	②日本文化論再考
3	②日本文化論再考
4	③恩顧主義論の展開 (1)概念
5	③恩顧主義論の展開 (2)対関係理論
6	③恩顧主義論の展開 (3)批判・再検討
7	③恩顧主義論の展開 (4)アイゼンシュタット＝ロニガーの理論
8	④新しい恩顧主義論
9	④新しい恩顧主義論
10	⑤新構造主義的「政治」論
11	⑥戦後日本政治の構造
12	⑥戦後日本政治の構造
備考	

### 後 期

週	主 要 テ ー マ
1	
2	
3	
4	
5	
6	
7	
8	
9	
10	
11	
12	
備考	後期授業なし 前期完結

科目名	政治学特講5（後期）	担当者名	堀江 浩一郎
-----	------------	------	--------

講義の目標	<p>南アフリカの白人社会が国連によって『人類に対する犯罪』を犯したと宣告されてから20数年が経過した。その間、南ローデシアは79年に消滅し、南アフリカでも94年に初めて全人権・民主選挙が挙行された。では今日、人類は人権差別を放棄しえたのだろうか。あるいはまた人類にとり人種差別はもはや取り組むべき政治課題ではなくなったのだろうか。本講義は、南アフリカなどの事例を挙げながら、上記の問いに答えることを目標とする。</p>	
講義概要	<p>『人種差別の政治』を巡り、様々な視点から議論したい。</p> <p>(1)人種差別が形成される歴史的背景 1)社会の慣習、2)政治体制</p> <p>(2)政治体制の鍵としての人種差別を保護する手段 1)イデオロギー 2)戦略 3)行動</p> <p>(3)人種差別体制に対する抵抗運動 1)イデオロギー 2)戦略 3)行動</p> <p>(3)人種差別体制の崩壊 1)政治独立 2)政治民主化 3)社会階層化 4)社会多様化</p>	
使用教材	テキスト	堀江浩一郎、南アフリカ。『現代政治史の鳥瞰図』国際書院
	参考文献	その都度プリントを配布する。
評価方法	日常の小テストと期末試験。	
受講者に対する要望など		

## 年 間 講 義 予 定

### 前 期

週	主 要 テ ー マ
1	
2	
3	
4	
5	
6	
7	
8	
9	
10	
11	
12	
備考	前期授業なし 後期完結

### 後 期

週	主 要 テ ー マ
1	国際社会における人種差別：歴史と類型1)植民地統治時代と国際連合の誕生、2)白人/黒人（アフリカ人など）と社会階層間、3)社会秩序と政治体制。
2	人種差別の政治（以下南アフリカを事例）：今日の社会的特徴（民族、信仰、文化、経済構造）。
3	人種差別の歴史の変容：社会的慣習から政治体制へ。
4	人種差別体制の防衛Ⅰ：共産主義の脅威と不安定化工作。
5	人種差別体制の防衛Ⅱ：対南ア制裁破りと“PARIAH 同盟”の結成。
6	人種差別体制に対する挑戦Ⅰ：大衆動員と民主戦線の強化。
7	人種差別体制に対する挑戦Ⅱ：国際社会による対南ア制裁とアパルトヘイト犠牲者に対する支援。
8	日本との関わり：2国間関係（白人経済界との通商）と国際関係（アパルトヘイト犠牲者との連帯）への垂離。
9	民主化の波Ⅰ：「人種」の政治価値の低落と社会階層化の表面化。
10	民主化の波Ⅱ：政治暴力の激化と「民族主義」の台頭。
11	差別政治の変容Ⅰ：アフリカ人政党主導の政治運営（ジンバブエ〔旧南ローデシア〕、ナミビア、南アフリカ）
12	差別政治の変容Ⅱ：民族、信仰、階級などを軸とした国内、国家間紛争の展望。
備考	

科目名	会計学	担当者名	宮澤 清
-----	-----	------	------

講義の目標			
講義概要	<p>会計情報の利用者にとって自らの経済的意思決定に役立つ情報とは、どのようなものであるかについては、常に経験的実在の認識の観点に立って考察しなければならないが、その場合、財務情報の利用者が切実に希求するのは、その意思決定に役立つ情報なのである。それをみとすには、経験的実在としてのどのような経済資源、債務および出資者持分ならびにそれらの変動の認識・測定をいかに決定すべきであるかという目的に対する手段を合理的に選択するという事、つまり合理的行動の基礎が必要となってくる。結局、そこに要請されるのは幾つかの情報の属性である。この合理的行動の基礎としての情報の属性を確認することによってのみ会計情報の有用性が高められ、保持されるのである。</p>		
使用教材	テキスト	拙著『財務会計基礎理論』または『財務会計論』いずれも白桃書房	
	参考文献		
評価方法	期末テストによる。		
受講者に対する要望など			

年 間 講 義 予 定

前 期

週	主 要 テ ー マ
1	会計：会計はその時代を支配する理念によって規定されるが、その会計の世界において、基本的に異なった二つの考え方がある。その一つは経験的・事実的な考え方であり、もう一つは当為的・規範的な考え方である。
2	測定：会計測定とは、経済主体が会計理論にもとづいた一定のルールに従い、自己の営む経済活動という対象に数をあてがうことによって、外部の情報利用者に役立つ財務情報に加工を施して仕上げる作業のことである。
3	伝達：伝達とは、言語を用いてある事柄を表現し、これを第三者に伝える行為である。言語が社会的行為の手段であるといわれるのは、人間がひとたび社会関係のなかにはいるとそれが必要となってくるからである。
4	会計主体：会計主体の公準は、会計行為の究極的な帰属点、つまり、価値判断の究極の担い手として会計の対象としての客体を規定するものであるが、その主体によって規定されるところの客体が会計単位といわれる。
5	継続企業：会計において、一つの期間を人為的に区切って資本計算を行なうには、その前提として企業活動が継続して営まれていなければならない。継続企業の公準は、このような趣旨のもとに定立されたものである。
6	貨幣価値安定：企業の経済活動を記録し計算するには、すべて貨幣額が用いられるが、物価の騰落や貨幣価値の変動があっても、それが軽微であれば、一応、安定しているものと仮定して会計処理がなされるのである。
7	真実性：企業会計の一般原則のうち、企業の財政状態および経営成績について真実な報告をするという会計の最高規範が真実性の原則と呼ばれる。この原則は他のすべての一般原則を規定するところの根本原則である。
8	剰余金原則：資本取引と損益取引とを峻別するという原則が、資本と利益の区別に関する原則と呼ばれる。特に資本剰余金と利益剰余金の区別は重要である。それらが立脚する法の理念による利益が相反するからである。
9	明瞭性：財務諸表のうえで利害関係者に必要な会計事実をはっきりと表示することによって、企業の状況についての判断を誤らせないようにするという表示における形式の側面を重視するのが明瞭性の原則と呼ばれる。
10	継続性：継続性とは、選択した測定方法を首尾一貫して適用することをいう。首尾一貫という言葉は、もともと「相互に矛盾がないこと」を意味する。この趣旨を生かしたのが一般原則第五の継続性の原則である。
11	保守主義：保守主義の原則は、「いかなる利益も見積もりによるものは計上しないが、損失はできうるかぎり計上する」というイギリスにおける企業会計の実践において用いられてきた格言によって端的に示される。
12	単一性：「単一」という言葉のなかに形式と内容の関係がある。この関係において重要なことは、「概念（形式）のない直観（内容）は盲目であり、直観（内容）のない概念（形式）は空虚である」ということである。
備考	

後 期

週	主 要 テ ー マ
1	財務報告：財務報告は、報告すること自体が目的ではなく、経済的意思決定を行なうのに有用な情報を提供することが目的なのである。その目的は、情報の受け手と目される人びとのニーズから生まれるものである。
2	情報の利用者：財務情報を利用する者のなかで、最も重要で注目される利用者は投資者と債権者である。しかしながら、彼らには、自己の欲する財務情報を企業に要求するいかなる権限も与えられてはいないのである。
3	情報の質：目的適合性と信頼性という属性を備えているか否かによって「より優れている情報」と「より劣っている情報」とに分かれる。この二つを生かすことが、情報の利用者に対する真の保証となるのである。
4	比較可能性：目的適合性と信頼性は、単独で語ることができるが、比較的可能性は単独では語ることができない性質のものである。なぜなら、比較可能性は、常に複数のあいだにおいてのみ成り立つものだからである。
5	コストとベネフィット：情報によってもたらされるベネフィットが、それを入手するのに要したコストを上回っていれば、その情報は有用であり、提供するに値する。要するに、この二つは常に比較される言葉である。
6	資産：時間の相の下にたえず変動するところのすべての資産および経済資源に共通に認められる特徴は、それらを利用する企業に用役または効益をもたらす用役潜在力あるいは経済的効益をもっているという点にある。
7	負債：負債の本質は、義務を発生させることによって現金が受け取られるか否かにあるというよりは、むしろ将来において経済的効益を犠牲にするところの法的債務、衡平法上の債務または推定上の債務のなかにある。
8	持分：資産も負債も、発生の可能性が高い将来の経済的効益またはその犠牲として定義されるが、持分は両者の差額として示され、必然的に蓋然性の強い性格のものとなり、単独で存立しえない宿命をもつのである。
9	包括利益：包括利益は、出資者による投資および出資者への分配から生ずるものを除いた源泉にかかわる取引や、その他の事象または環境要因によって生み出される一会計期間における企業の持分の変動のことである。
10	認識基準：認識基準は資産、負債または持分に与える影響の観点から、ある項目を財務諸表に計上すべきかどうか、もし計上するとすれば、いかなる金額で、いつ正式に計上するのかということを示す判定基準である。
11	真理：われわれは真理というものについて、完全に到達することができるものとは考えていない。その意味で、われわれは真理への探求者となりうるが、真理の保有者となることは永遠にできないのである。
12	認識：企業の経済活動という経験的・個性的な実在に関する認識は、単なる事実の集合によって得られるのではなく、研究者の抱く認識関心（関心方向）つまり研究者の目的観を前提とすることによってのみ可能となる。
備考	

科目名	簿記	担当者名	中村泰將
-----	----	------	------

講義の目標	<p>コンピュータの発達により、計算技術的に迅速かつ正確な計算が可能になったが、経済活動を記録・計算する原理は簿記システムを学ばなければ理解できない。企業の利益の計算、課税所得の計算を始め、すべての経済活動の結果は、簿記によって計算される。この計算構造の原理を学ぶことが本講座の目的である。</p>	
講義概要	<p>前期：企業の目的と企業のシステムを学び、そこで行われる経済活動を理解し、簿記がなぜ、そこに登場しなければならないかを考える。経済の活動の結果は、富のフローとストックで表すことが出来るから、その報告書が作成できるようにしたい。</p> <div style="text-align: center;"> <pre> graph LR     A["(1) 経済活動"] --&gt; B["(2) 簿記上の取引"]     B --&gt; C["(3) 分類・記録・計算"]     C --&gt; D["(4) 試算表"]     D --&gt; E["(5) 損益計算書"]     D --&gt; F["(6) 貸借対照表"] </pre> </div> <p>上の一連の行為を簿記の処理として学ぶ。(ワンサイクルの学習と呼ぶ。)</p> <p>後期：前期で学んだ一連の処理を前提として、前期よりも複雑な取引を対象としてその簿記処理を学ぶ。従って、(2)と(3)の基本的原理は同じだが、(4)から(5)と(6)を作成する過程が複雑になる。どのように複雑になるかは、授業で説明する。</p>	
使用教材	テキスト	<p>・会田・中村・百瀬共著『現代簿記精説』中央経済社 問題のプリントも併せて使用する。</p>
	参考文献	<p>簿記検定を受験する希望者は、つぎの問題集をすすめる。</p> <p>・『検定簿記ワークブック』3級、2級の商業簿記、中央経済社</p>
評価方法	<p>前期テスト、後期テストによって成績評価を判定する。</p>	
受講者に対する要望など	<p>出欠は自由であるが、授業に出席することが簿記を習得するための要である。</p>	



## 年 間 講 義 予 定

### 前 期

週	主 要 テ ー マ
1	簿記とは何かを理解する
2	(1) 複式簿記の基本等式 (2) 複式簿記の基礎概念 (3) 複式簿記の5つの基本要素
3	(1) 簿記上の取引の意味と種類 (2) 取引の8要素 (3) 資産・負債・資本の増減変化表の作成
4	(1) 「勘定」とは何か (2) 勘定でどのように計算するか
5	(1) 「仕訳」とは何か (2) 仕訳の仕方 (3) 「仕訳」から「勘定」へ転記する
6	第5回までの一連のプロセス □取引□→□仕訳帳□→□元帳□→？
7	試算表の作成 (1) 試算表とは何か (2) どういう目的で試算表を作成するか
8	精算表の作成 (1) 精算表とは何か (2) 精算表から損益計算書と貸借対照表を作成する
9	決算の仕方を理解する (1) 決算とは何か
10	(2) 決算の手続—予備手続と本手続 (3) 元帳の締切
11	決算の仕方を理解する (1) 費用・収益勘定を締め切る (2) 利益を資本金勘定に振り替える
12	(3) 資産、負債、資本の勘定を締め切る
備考	前期を以て簿記のワンサイクルが終了し、後期より個別の項目についてより詳しい簿記の処理（仕訳）と補助簿の作成を勉強する。

### 後 期

週	主 要 テ ー マ
1	現金と預金の処理
2	商品の購入・管理・販売の処理 (1) 商品の売買利益の算定の仕方 (2) 商品の3分割
3	(3) 商品有高帳の作成
4	(4) 仕入帳と売上帳の作成
5	有価証券の購入・保有・売却の処理
6	固定資産の購入・利用・修繕・処分の処理
7	債権・債務の処理(1)
8	その他の債権・債務(2)
9	資本金の処理
10	決算の修正手続(1) (1) 収益と費用の繰延 (2) 前払費用の前受収益
11	決算の修正手続(2) (1) 収益と費用の見越 (2) 未収収益と未払費用
12	決算の修正手続(3) (1) 8桁精算表の作成 (2) 損益計算書と貸借対照表の作成
備考	

科目名	簿記	担当者名	細田 哲
-----	----	------	------

講義の目標	<p>「複式簿記」の基本的仕組み、簿記一巡の手続きについて理解すること。また企業における基本的な取引について記帳し、決算手続きを遂行し、損益計算書、貸借対照表作成ができることを目標とする。</p>															
講義概要	<p>前期講義は、学生諸君が簡単な精算表の作成、決算本手続きを遂行できるようにすることを目的とする。          講義の個々のテーマを列挙すると、次の通りである。</p> <table border="0"> <tr> <td>○ 複式簿記とは</td> <td>○ 試算表と精算表</td> </tr> <tr> <td>○ 取引と勘定</td> <td>○ 決算(1)</td> </tr> <tr> <td>○ 仕訳帳と総勘定元帳</td> <td></td> </tr> </table> <p>後期講義は、学生諸君が、次の事項を容易に遂行できるようにすることを目的とする。          個々の取引に対する記帳、8桁精算表の作成、決算本手続の遂行、貸借対照表、損益計算書の作成である。          講義の個々のテーマを列挙すると、次の通りである。</p> <table border="0"> <tr> <td>○ 現金・預金の記帳</td> <td>○ 資金調達・返済取引の記帳</td> </tr> <tr> <td>○ 掛取引の記帳</td> <td>○ 損益整理</td> </tr> <tr> <td>○ 商品売買の記帳</td> <td>○ 決算(2)</td> </tr> <tr> <td>○ 手形取引の記帳</td> <td>○ 貸借対照表、損益計算書の作成</td> </tr> </table>		○ 複式簿記とは	○ 試算表と精算表	○ 取引と勘定	○ 決算(1)	○ 仕訳帳と総勘定元帳		○ 現金・預金の記帳	○ 資金調達・返済取引の記帳	○ 掛取引の記帳	○ 損益整理	○ 商品売買の記帳	○ 決算(2)	○ 手形取引の記帳	○ 貸借対照表、損益計算書の作成
○ 複式簿記とは	○ 試算表と精算表															
○ 取引と勘定	○ 決算(1)															
○ 仕訳帳と総勘定元帳																
○ 現金・預金の記帳	○ 資金調達・返済取引の記帳															
○ 掛取引の記帳	○ 損益整理															
○ 商品売買の記帳	○ 決算(2)															
○ 手形取引の記帳	○ 貸借対照表、損益計算書の作成															
使用教材	テキスト															
	参考文献															
評価方法	年2回以上の試験の結果による。															
受講者に対する要望など																

# 年 間 講 義 予 定

## 前 期

週	主 要 テ ー マ
1	授業時に指示する
2	
3	
4	
5	
6	
7	
8	
9	
10	
11	
12	
備考	

## 後 期

週	主 要 テ ー マ
1	
2	
3	
4	
5	
6	
7	
8	
9	
10	
11	
12	
備考	

科目名	簿記	担当者名	福島 寿
-----	----	------	------

講義の目標	簿記の初級すなわち、基礎から中級までを段階的に講義することによって、簿記の全仕組を平易に解説することを目的とする。		
講義概要	シラバスに記したように、まず、テキストⅠで説明的講義を行い、次にそれを応用するために、テキストⅡで演習を行うという方式で講義をすすめる予定である。		
使用教材	テキスト	<ul style="list-style-type: none"> <li>・Ⅰ 會田義雄著『簿記講義（改訂版）』国元書房</li> <li>・Ⅱ 井上達雄・新井清光編『検定簿記ワークブック・3級商業簿記』中央経済社</li> </ul>	
	参考文献		
評価方法	評価はテスト及び授業への参加度（レポートを含む）により決定する。		
受講者に対する要望など			

## 年 間 講 義 予 定

### 前 期

週	主 要 テ ー マ
1	1年間の講義概要の説明。テキストⅠの第1講及び第2講。テキストⅡの第1回
2	テキストⅡの第2回から第5回まで。
3	現金・預金・有価証券の諸勘定。テキストⅠの第3講。
4	テキストⅡの第11回及び第12回
5	仕訳帳と元帳。テキストⅠの第4講。
6	テキストⅡの第7回。
7	商品勘定とその分割。テキストⅠの第5講及び第6講。
8	テキストⅡの第13回及び第14回。
9	債権・債務の勘定、手形の勘定。テキストⅠの第7講
10	テキストⅡの第15回、第16回、第25回、及び第26回。
11	試算表と精算表。テキストⅠの第8講。
12	テキストⅡの第8回、第9回及び第10回。
備考	

### 後 期

週	主 要 テ ー マ
1	決算。テキストⅠの第9講。
2	テキストⅡの第20回及び第21回。
3	基本財務諸表の作成。テキストⅠの第10講。
4	テキストⅡの第19回、第29回及び第30回。
5	テキストⅠの第11講。伝票仕訳制。テキストⅡの第6回。
6	特殊商品取引（その一）。テキストⅠの第13講。
7	特殊商品取引（その二）。テキストⅡの第14講。
8	有形無形固定資産の諸勘定。テキストⅠ第16講。テキストⅡ第17回。
9	投資その他の資産・繰延資産の諸勘定。テキストⅠ第17講。
10	資本金の諸勘定。テキストⅠ第18講。テキストⅡ第18回。
11	本支店会計。テキストⅠ第19講。
12	年度末テスト。
備考	

科目名	簿記	担当者名	百瀬房徳
-----	----	------	------

講義の目標	<p>本講では、特に複式構造を内包した商業簿記を取り上げる。複式構造は仕訳に基づき勘定システムを通じて事業の資産、負債および資本の増・減を測定する。この勘定システムと事業体の組織との関係で、各勘定の意義および機能と具体的な処理について理解を深めることにする。</p>		
講義概要	<p>複式簿記とは、貸方および借方の複式構造をもち、取引を仕訳帳、元帳および補助簿へ記入する簿記をいう。まず、複式簿記の基本的な勘定システムを前期に修得し、つぎに、基本的な勘定について仕訳帳の記入、元帳における勘定への転記および補助簿への記入について取引を記録する過程を具体的に修得する。</p>		
使用教材	テキスト	<p>・中村・曾田・百瀬著『現代簿記精説』中央経済社</p>	
	参考文献	<p>無し</p>	
評価方法	<p>前期および後期において講義した範囲について試験する。</p>		
受講者に対する要望など	<p>講義のあった日に必ず復習すること。</p>		

## 年 間 講 義 予 定

### 前 期

週	主 要 テ ー マ
1	1年間における講義内容の説明。
2	複式簿記の体系の説明およびこの簿記における取引とは何か。
3	仕訳の基本原理および取引勘定への転記。
4	補助簿への記入、および試算表の作成原理。
5	精算表の作成原理損益勘定および残高勘定への転記。
6	取り引きパターン別仕訳例の説明。
7	パターン別に仕訳された例の勘定への転記。
8	例題による取引の仕訳、勘定への転記、および試算表の作成。
9	例題による精算表の作成、および帳簿締切による損益勘定および残高勘定への完成。
10	練習問題——取引の仕訳記入および仕訳帳から元帳への転記。
11	練習問題——試算表の作成および精算表の作成。
12	練習問題——元帳締切による損益勘定および残高勘定の完成。
備考	

### 後 期

週	主 要 テ ー マ
1	現金勘定と現金出納帳。
2	当座預金と当座預金出納帳、および小口現金と小口現金出納帳。
3	商品勘定の記入方法…単純な商品勘定、混合商品勘定および商品勘定の分割。
4	仕訳勘定と売上勘定…返品と値引きおよび商品の仕入価額。
5	仕入勘定と仕訳勘定および売上勘定と売上帳。
6	繰越商品勘定と商品有高帳、および棚卸減耗費および商品評価損。
7	売掛金勘定と得意先元帳、および買掛金勘定と仕入先元帳。
8	受取手形勘定と受取手形記入帳、および支払手形勘定と支払手形記入帳。
9	その他の債券・債務の諸勘定、および有価証券勘定。
10	固定資産の諸勘定…特に減価償却に関する処理。
11	決算前の諸勘定の整理について。
12	決算…勘定の締切、損益勘定および残高勘定の完成、および8桁精算表の作成。
備考	

科目名	簿記	担当者名	湯田雅夫
-----	----	------	------

講義の目標	<p>簿記は、企業の管理運営を合理的に推進するにあたって、また企業の財政状態や経営成績を外部の利害関係者に正しく報告するうえで、欠くことのできない計算技術である。</p> <p>本講は、受講生全員が日本商工会議所検定3級の実力を修得するよう、初級簿記の原理と技法を懇切丁寧に解説する。</p>		
講義概要	<p>複式簿記の基礎的な原理と技法を完全に修得させることを主眼として、講義と記帳・計算練習を平行して行なう。簿記は、技術がかなりのウェートを占めている学問であるので、単に書物を読んで学習するだけでは修得できない。各自、授業の進捗度に応じて教科書の「練習問題A」および「練習問題B」に取り組み、記帳練習を重ねる必要がある。</p>		
使用教材	テキスト	<ul style="list-style-type: none"> <li>・上田・小川・渋谷・湯田『演習 商業簿記入門』中央経済社</li> </ul>	
	参考文献	<ul style="list-style-type: none"> <li>・渋谷武夫『日商簿記検定3級 初級簿記演習』税務研究会出版局</li> <li>・渋谷武夫『日商簿記検定2級 中級簿記演習』税務研究会出版局</li> <li>・小川・渋谷『現代工業簿記』税務経理協会、1984</li> </ul>	
評価方法	<p>当該講義科目は、前期・後期の2回実施する試験によって行う。なお、出席状況を素点に加点するために、年間数回の出席をとる。出席記録のまったくない者の成績評価は、試験の成績だけで評価する。</p>		
受講者に対する要望など	<p>私語を一切しないこと。</p>		



## 年 間 講 義 予 定

### 前 期

週	主 要 テ ー マ
1	イントロダクション；講義概要ならびに授業の進め方
2	簿記の歴史
3	第1章 簿記の意義と目的；第2章 資産・資本と貸借対照表
4	第2章 東京商会の事例解説；第3章 収益・費用と損益計算書
5	第4章 取引；第5章 勘定
6	第6章 仕訳と転記
7	第7章 帳簿
8	第8章 簿記一巡の手続き
9	第9章 現金預金
10	第10章 商品売買
11	第10章 商品売買
12	第11章 有価証券；第12章 売掛金と買掛金
備考	

### 後 期

週	主 要 テ ー マ
1	第13章 その他の債権・債務
2	第14章 手形
3	第15章 貸倒れと貸倒引当金
4	第16章 固定資産；第17章 資本金と引出金
5	第18章 収益・費用の繰延と見越
6	第19章 決算予備手続
7	第19章 問題
8	第20章 決算本手続
9	第20章 決算本手続
10	第20章 問題
11	総合問題
12	本講義の結びとして、「簿記学習の継続」の必要性を指摘する。
備考	